

一般国道9号（鳥取西道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書XIV

鳥取県鳥取市

# 良田平田遺跡

第1分冊【本文編】

2014

鳥取県教育委員会

一般国道9号（鳥取西道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書XIV

鳥取県鳥取市

# 良田平田遺跡

第1分冊【本文編】

2014

鳥取県教育委員会



1 良田平田遺跡近景（2～4区、南西から）



2 3区掘立柱建物1～3（南西から）



出土文字資料（木簡・墨書土器、一部）

## 序

山陰自動車道は鳥取市を起点とし、山口県美祢市を終点とする、延長 380 キロメートルの自動車専用道路であり、国土交通省により整備が進められているところです。

鳥取県内の事業区間である「鳥取西道路」は、鳥取市本高から同市青谷町青谷を結ぶ延長 19.3 キロメートルの区間であり、その改築事業に伴う事前の発掘調査を平成 20 年度から当教育委員会が実施しています。平成 21 年度からは、財団法人鳥取県教育文化財団（平成 25 年度から公益財団法人に移行）に現地での発掘調査や出土遺物等の整理作業、報告書作成を委託して調査を進めているところです。

良田平田遺跡では、平成 23 年度と平成 24 年度の 2 箇年にわたり調査を行い、奈良時代から平安時代にかけての掘立柱建物や水路、水田などの遺構、木簡や墨書土器、木製祭祀具、銅製帯金具といった古代の役所に関連する多彩な遺物が出土し、この地域の歴史を解明するための重要な資料を確認することができました。

なお、これまで鳥取西道路の改築に係る発掘調査の成果については、現地説明会、地元公民館などでの展示会や調査報告会を開催することで、地元の皆様をはじめとして多くの方々に御紹介してきました。このような取り組みは、先人が残した素晴らしい遺産を後世に伝承することとして、現在に生きる私たちの重要な責務と考えています。

本書をまとめるにあたり、国土交通省中国地方整備局鳥取河川国道事務所並びに地元関係者の皆様をはじめ、多くの方々に多大なる御助言、御協力をいただきました。心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

平成 26 年 12 月

鳥取県教育委員会  
教育長 山本 仁志

# 例 言

- 1 本書は、一般国道9号（鳥取西道路）改築工事に伴い、国土交通省中国地方整備局鳥取河川国道事務所から委託を受け、平成23・24年度に実施した良田平田遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 良田平田遺跡は、鳥取市良田字稲場371（以上、1区）、同字口宮ノ谷810～812（以上、2区）、同字平田806、807（以上、3区）、同字平田803～805（以上、4区）に所在する。平成23年度の調査面積は4,790 m<sup>2</sup>（1区～3区）、平成24年度の調査面積は1,500 m<sup>2</sup>（4区）である。現地調査は、平成23年4月21日から11月28日、平成24年4月23日から10月31日まで行い、調査記録と出土遺物の整理作業、報告書の作成は、平成26年8月まで行った。
- 3 本調査の名称は、平成23年度調査は「良田平田遺跡11」、平成24年度調査は「良田平田遺跡12」である。出土品などの注記には「ヨシ平11」、「ヨシ平12」の略号を用いた。
- 4 発掘調査の監理については、公益財団法人鳥取県教育文化財団（平成24年度まで財団法人鳥取県教育文化財団、以下財団）に委託した。
- 5 発掘調査に際し、平成23年度は埋蔵文化財発掘調査支援業務委託（良田平田遺跡（1区・2区・3区））国際文化財株式会社・サンイン技術コンサルタント株式会社共同企業体、平成24年度は埋蔵文化財発掘調査支援業務委託（良田平田遺跡、良田中道遺跡）安西工業株式会社・株式会社ジーアイシー共同企業体の支援を受けた。各年度における遺跡での掘削作業、記録作成と測量作業は、財団の指示のもと、それぞれの企業体が実施した。
- 6 調査で作成した図面の再編集、出土遺物の整理作業や記録作成は財団に委託し、同財団の文化財主事と整理作業員が行った。
- 7 遺物の写真撮影は、木簡と墨書土器（墨書のカラー・赤外線写真）を除き、財団文化財主事の高尾が行った。
- 8 本書の第I章第2節及び第III章の一部、第IV章、第V章を財団副主幹の後藤信義が執筆し、第VII章を除くそのほかを高尾が執筆した。編集は高尾が行った。
- 9 現地調査については、鳥根大学法文学部の大橋泰夫教授に御指導、御助言いただいた。
- 10 出土した木簡の釈読と樹種観察、保存処理、墨書土器の釈読は、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所の受託調査研究により行った。

木簡と墨書土器の釈読にあたっては渡邊晃宏、馬場基、山本崇、桑田訓也、山本祥隆、吉岡直人の諸氏に御指導、御助言いただいた。木簡の樹種観察は藤井裕之氏、木簡と墨書土器の写真撮影は中村一郎氏によるものである。

また、同研究所で鉄滓の非破壊分析（蛍光X線分析、X線透過撮影）を行い、降幡順子氏に御指導、御助言いただいた。
- 11 層相解析及び層相解析用土壌を利用した放射性炭素年代測定、珪藻分析、花粉分析、植物珪酸体分析、大型植物化石分析、掘立柱建物跡出土柱の樹種同定及び放射性炭素年代測定をパリノサーヴェイ株式会社に、自然木（根株）の樹種同定及び放射性炭素年代測定を株式会社パレオ・ラボに、鉄滓の金属学的分析を日鉄住金テクノロジー株式会社八幡事業所・TACセンターに委託した。なお、第VII章第1節から第5節までの執筆は自然科学分析の各委託先によるものであるが、第1

節については整理作業過程で新たに分かった所見等に基づき財団で加筆修正している。

- 12 第Ⅶ章第6節で報告を行う編組製品の素材に関する調査成果は、小林和貴（東北大学植物園）、能代修一（森林総合研究所）、佐々木由香（株式会社パレオ・ラボ）、鈴木光男（東北大学植物園）の各氏の協力を得て実施したもので、日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（A）課題番号21240071「東アジアの新石器時代遺跡出土編組製品等素材の考古植物学的研究拠点の形成と展開」（代表 鈴木三男）および基盤研究（A）課題番号24252022「日本の縄文・弥生時代遺跡出土編組製品・繊維製品等素材の考古植物学的研究」（代表 鈴木三男）の成果である。
- 13 出土木製品の観察と樹種同定を鳥取大学地域学部地域環境学科の中原 計 准教授に御指導いただき、第Ⅶ章第7節に同定結果を報告いただいた。
- 14 出土した動物骨に関しては、鳥取大学農学部共同獣医学科の保坂善真教授に鑑定、御指導いただいた。
- 15 本調査に係る図面・写真等の記録及び出土遺物は、全て台帳等に登録して収納しており、今後活用できるように、随時検索できる状態で鳥取県埋蔵文化財センターに移管した。
- 16 現地調査、報告書の作成にあたって、下記の方々、機関から、様々な御指導、御助言、御支援を賜った。記して感謝申し上げます（敬称略、五十音順）。

市 大樹、加藤友康、眞田廣幸、武井紀子、錦織 勤、平石 充、平川 南、吉村武彦、公益財団法人大阪府文化財センター、公益財団法人鳥取市文化財団 鳥取市埋蔵文化財センター、国土交通省中国地方整備局鳥取河川国道事務所、湖山池情報プラザ、鳥根県立古代出雲歴史博物館、鳥取県東部総合事務所生活環境局、鳥取県立生涯学習センター県民ふれあい会館、鳥取市教育委員会、農事組合法人良田生産組合、松保地区公民館、木簡学会、良田地区自治会

## 凡 例

- 1 本書に記載された測量成果については、世界測地系に基づいている。図中の X・Y 座標は国土座標第 V 系によるものであり、m 単位で表記している。また、平面図の方位は座標北を示している。
- 2 標高は海拔標高で示した。
- 3 本報告書に使用した地図は、国土地理院発行（1/25,000、1/200,000 地形図）、鳥取市作成の都市計画図（1/2,500）を縮小、加筆して使用したものである。
- 4 本遺跡の土層に示した土色は、小山正忠、竹原秀雄編著『新版標準土色帖』に基づき、土の色相、明度及び彩度を判定したものである。地層観察用畦の観察面はシートで被覆するなどして、湿った状態を保つように留意した。また、地層の粒度の記載に関しては、地質学で標準的に用いられる Wentworth の区分を使用した。同一地層内に粒度が幅をもって認められるときには、より主体を占める粒径を先にして、「シルト～粗砂」、「極粗砂～細砂」のように記載した。
- 5 発掘調査時に付した遺構番号、遺構名は第三章第 2 節で詳述し、遺構名等が変更となったものも併せて記している。
- 6 遺構平面図や断面図の縮尺は統一していないが、挿図ごとにスケールバーと縮尺を示している。
- 7 遺物実測図の縮尺については、土器・陶磁器を 1/4、土製品を 1/1、1/2、1/4、1/8、石器を 1/1、2/3、1/3、木製品を 1/2、1/4、1/8、金属製品を 1/1、1/2 で示した。
- 8 遺物実測図に用いたアミ掛けは、特に説明がない限り以下のとおりである。  
■：赤色塗彩、■：漆塗（付着）・漆記号、■：墨付着（墨痕）、■：磨り範囲
- 9 遺物実測図の断面は須恵器を黒塗り、それ以外のは白抜きで示した。
- 10 遺物観察表の法量記載における※は推定復元値、△は残存値を示す。
- 11 本書における遺構、遺物の時期決定は以下の文献を主な参考としている。  
岡田裕之・土器検討グループ 2010「出雲地域における古代須恵器の編年」鳥谷芳雄編『出雲国の形成と国府成立の研究－古代山陰地域の土器様相と領域性－』鳥根県古代文化センター  
岡田裕之・八峠 興 2014「鳥取における古代から中世前期の土器編年－須恵器と回転台土師器を基に－」『調査研究紀 5』鳥取県埋蔵文化財センター  
中世土器研究会編 1995『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社  
鳥取市教育委員会・鳥取市遺跡調査団 1991『岩吉遺跡Ⅲ』  
中森 祥 2010「因幡・伯耆における古代土器の編年とその様相」鳥谷芳雄編『出雲国の形成と国府成立の研究－古代山陰地域の土器様相と領域性－』鳥根県古代文化センター  
松井 潔 1997「東の土器、南の土器」『古代吉備』第 19 集、古代吉備研究会
- 12 木製品の分類群・器種名は基本的に以下の文献に従っている。  
伊東隆夫・山田昌久編 2012『木の考古学 出土木製品用材データベース』



# 目次

## 第1分冊【本文編】

序・例言・凡例・巻頭写真図版

<b>第I章 調査の経緯</b>	(高尾・後藤)
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	2
第3節 調査体制	8
<b>第II章 良田平田遺跡の位置と環境</b>	(高尾)
第1節 遺跡の位置と地理的環境	10
第2節 歴史的環境	11
<b>第III章 調査の方法</b>	(高尾・後藤)
第1節 調査地の地区割	17
第2節 発掘調査と記録の対象	17
<b>第IV章 1区の調査成果</b>	(後藤)
第1節 立地と基本層序	21
第2節 遺構と遺物	21
第3節 小結	29
<b>第V章 2区の調査成果</b>	(後藤)
第1節 立地と基本層序	30
第2節 遺構と遺物	30
第3節 小結	45
<b>第VI章 3区・4区の調査成果</b>	(高尾)
第1節 立地と基本層序	46
第2節 検出した遺構	
(1) 第1層下面の遺構	65
(2) 第2層下面の遺構	65
(3) 第3層下面の遺構	107
(4) 第4層下面の遺構	120
(5) 第5層下面の遺構	179
第3節 出土遺物	
(1) 土器・土製品	190
(2) 石器	264
(3) 木器	276
(4) 金属器、鉄関連遺物	318

第4節	出土遺物－文字資料－	
(1)	木簡	322
(2)	墨書土器	332
※	遺物観察表（土器・石器・木器・金属器）	351

## 第Ⅶ章 自然科学分析

第1節	良田平田遺跡の古環境解析	398
第2節	良田平田遺跡出土柱材の樹種同定、 放射性炭素年代測定	431
第3節	良田平田遺跡出土自然木の樹種同定	438
第4節	良田平田遺跡出土自然木の放射性炭素年代測定	441
第5節	良田平田遺跡出土鉄滓の分析調査	445
第6節	良田平田遺跡出土編組製品の素材の植物種	453
第7節	鳥取市良田平田遺跡出土木質遺物の樹種	457

## 第Ⅷ章 総括

(高尾)

第1節	良田平田遺跡の変遷	468
第2節	古代における良田平田遺跡の性格と機能	469

## 報告書抄録

## 挿図一覧

- 第1図 鳥取西道路予定地と調査地の位置  
第2図 調査地位置図  
第3図 『鳥取西道路を掘る!』第35号抜粋  
第4図 遺跡の所在地  
第5図 遺跡周辺の地形  
第6図 周辺の遺跡  
第7図 地区割(グリッド)概念図  
第8図 調査地地区割図  
第9図 1区北壁 断面図  
第10図 1区東壁 断面図  
第11図 1区第1層下面 全体図  
第12図 1区第2層下面 全体図  
第13図 1010ピット 平・断面図  
第14図 1区第3層下面 全体図  
第15図 1001～1005ピット 平・断面図  
第16図 1006～1009ピット 平・断面図  
第17図 1011溝・1012溝 平・断面図  
第18図 1区出土遺物  
第19図 2区北壁 断面図  
第20図 2区Y=-16,370ライン 断面図(1)  
第21図 2区Y=-16,370ライン 断面図(2)  
第22図 攪乱・第1層出土遺物  
第23図 第1層下面出土遺物  
第24図 2区第1層下面 全体図  
第25図 2001溝・2015溝・2016段 平面図  
第26図 第2層出土遺物  
第27図 2区第2層下面 全体図  
第28図 2002～2007溝 平面図  
第29図 2002～2007溝 断面図  
第30図 第3層出土遺物  
第31図 2区第3層下面 全体図  
第32図 2012溝 断面図  
第33図 2008溝・2010溝 断面図  
第34図 2011土坑 平・断面図  
第35図 2013落込・2014溝 平・断面図  
第36図 3層下面遺構・3層下面直上出土遺物  
第37図 3区・4区土層断面記録位置  
第38図 3区・4区基本層序模式図  
第39図 3区X=-56,160ライン 断面図(1)  
第40図 3区X=-56,160ライン 断面図(2)  
第41図 3区X=-56,170ライン 断面図  
第42図 3区Y=-16,320ライン 断面図  
第43図 3区Y=-16,330ライン付近 断面図  
第44図 3区西壁 断面図  
第45図 3区北壁(2D-5e) 断面図  
第46図 4区X=-56,160ライン 断面図(1)  
第47図 4区X=-56,160ライン 断面図(2)  
第48図 4区X=-56,170ライン 断面図(1)  
第49図 4区X=-56,170ライン 断面図(2)  
第50図 4区Y=-16,270ライン 断面図  
第51図 4区Y=-16,290ライン 断面図  
第52図 4区Y=-16,300ライン 断面図  
第53図 3区・4区第1層下面 全体図  
第54図 4002～4004段 断面図  
第55図 3区・4区第2層下面 全体図  
第56図 3005集石・3009溝・3163溝・3164土坑 平・断面図  
第57図 3164土坑 遺物出土状況図  
第58図 掘立柱建物1 平・断面図(1)  
第59図 掘立柱建物1 平・断面図(2)  
第60図 掘立柱建物1 平・断面図(3)  
第61図 掘立柱建物2 平・断面図(1)  
第62図 掘立柱建物2 平・断面図(2)  
第63図 掘立柱建物3 平・断面図  
第64図 掘立柱建物4 平・断面図(1)  
第65図 掘立柱建物4 平・断面図(2)  
第66図 掘立柱建物5 平・断面図(1)  
第67図 掘立柱建物5 平・断面図(2)  
第68図 掘立柱建物6 平・断面図  
第69図 掘立柱建物7 平・断面図  
第70図 掘立柱建物8 平・断面図(1)  
第71図 掘立柱建物8 平・断面図(2)  
第72図 3002集石 平面図  
第73図 3003溝上層遺物出土位置図  
第74図 3003溝木製構造物 平・断面図  
第75図 3413杭群 平・断面図  
第76図 3006溝遺物出土位置図  
第77図 3006溝木製構造物 平・断面図  
第78図 3006溝最下層 かご出土状況図  
第79図 3066・3086・3090・3093・3200・3287  
・3405溝 断面図  
第80図 4007土坑 平・断面図  
第81図 4008・4023・4027・4029溝 断面図  
第82図 4032擬似畦畔 断面図  
第83図 3区第2層下面ピット 全体図  
第84図 3区第2層下面ピット 平・断面図(1)  
第85図 3区第2層下面ピット 平・断面図(2)  
第86図 3区第2層下面ピット 平・断面図(3)  
第87図 3区第2層下面ピット 平・断面図(4)  
第88図 3区第2層下面ピット 平・断面図(5)  
第89図 3区・4区第3層下面 全体図  
第90図 掘立柱建物20 平・断面図  
第91図 掘立柱建物21 平・断面図  
第92図 4099・4108・4123・4131・4157溝 断面図  
第93図 4044土坑 平・断面図

- 第94図 4区 Y=-16,280 ライン 4038 溝断面図  
 第95図 4038 溝及び南肩盛土遺物出土位置図  
 第96図 4038 溝内集石 平・断面図  
 第97図 4109 土坑 平・断面図  
 第98図 4046 礫群 平・断面図  
 第99図 2C-7i グリッド 土器出土状況図  
 第100図 4区第3層下面ピット 全体図  
 第101図 4区第3層下面ピット 平・断面図  
 第102図 3区・4区第4層下面 全体図  
 第103図 掘立柱建物9 平面図、断面図 (1)  
 第104図 掘立柱建物9 断面図 (2)  
 第105図 掘立柱建物10 平・断面図 (1)  
 第106図 掘立柱建物10 平・断面図 (2)  
 第107図 掘立柱建物11 平・断面図 (1)  
 第108図 掘立柱建物11 平・断面図 (2)  
 第109図 掘立柱建物12 平・断面図 (1)  
 第110図 掘立柱建物12 平・断面図 (2)  
 第111図 掘立柱建物13 平・断面図  
 第112図 3003 溝下層遺物出土位置図  
 第113図 3003 溝最下層遺物出土位置図  
 第114図 3432 溝・3433 溝遺物出土位置図  
 第115図 3004 溝 断面図、3493 土坑 平・断面図  
 第116図 3区第4層下面検出ピット 全体図  
 第117図 3区第4層下面ピット 平・断面図 (1)  
 第118図 3区第4層下面ピット 平・断面図 (2)  
 第119図 3区第4層下面ピット 平・断面図 (3)  
 第120図 3区第4層下面ピット 平・断面図 (4)  
 第121図 3区第4層下面ピット 平・断面図 (5)  
 第122図 3区第4層下面ピット 平・断面図 (6)  
 第123図 3区第4層下面ピット 平・断面図 (7)  
 第124図 3区第4層下面ピット 平・断面図 (8)  
 第125図 4区第4-1層下面 全体図  
 第126図 4区第4-2層下面 全体図  
 第127図 4区第4-3層下面 全体図  
 第128図 4区第4層下面 主要遺構図  
 第129図 掘立柱建物14 平・断面図  
 第130図 掘立柱建物15 平・断面図  
 第131図 掘立柱建物16 平・断面図  
 第132図 掘立柱建物17 平・断面図  
 第133図 掘立柱建物18 平・断面図  
 第134図 掘立柱建物19 平・断面図  
 第135図 4038 溝中～下層 断面図  
 第136図 4038 溝中～下層遺物出土位置図  
 第137図 4191・4193・4194 溝 断面図  
 第138図 4221 溝 断面図  
 第139図 4233～4235・4357 溝 断面図  
 第140図 4233～4235・4357 溝 平面図  
 第141図 4286 流路・4290 溝・4325 流路 断面図  
 第142図 4164 炉跡 平・断面図  
 第143図 4317 井戸 平・断面図  
 第144図 4316 土坑・4244 (3433) 土坑 平・断面図  
 第145図 4区第4層下面ピット 平・断面図 (1)  
 第146図 4区第4層下面ピット 平・断面図 (2)  
 第147図 4区第4層下面ピット 平・断面図 (3)  
 第148図 4区第4層下面ピット 平・断面図 (4)  
 第149図 4区第4層下面ピット 平・断面図 (5)  
 第150図 4区第3層・第4層下面検出杭、杭列 平面図  
 第151図 4区第3層・第4層下面 杭 平・立面図  
 第152図 4区第4層下面 杭 平・立面図  
 第153図 4区第4層下面 杭 断面図  
 第154図 4548 杭列 平・立面図  
 第155図 3473・3437 流路 断面図  
 第156図 3区・4区第5層下面 全体図  
 第157図 3473・3437 流路 平面図、遺物出土位置図  
 第158図 掘立柱建物1 出土土器  
 第159図 掘立柱建物2 出土土器  
 第160図 掘立柱建物3・4 出土土器  
 第161図 掘立柱建物5～8 出土土器  
 第162図 掘立柱建物9 出土土器  
 第163図 掘立柱建物10～12 出土土器  
 第164図 掘立柱建物15・17・19 出土土器  
 第165図 3003 溝埋土上層出土土器 (1)  
 第166図 3003 溝埋土上層出土土器 (2)  
 第167図 3003 溝埋土上層出土土器 (3)  
 第168図 3003 溝埋土上層出土土器 (4)  
 第169図 3003 溝埋土下層出土土器  
 第170図 3003 溝埋土最下層出土土器 (1)  
 第171図 3003 溝埋土最下層出土土器 (2)  
 第172図 3006 溝埋土下層・埋土出土土器 (1)  
 第173図 3006 溝埋土出土土器 (2)  
 第174図 3006 溝埋土出土土器 (3)  
 第175図 3006 溝埋土最下層出土土器  
 第176図 4038 溝埋土出土土器 (1)  
 第177図 4038 溝埋土出土土器 (2)  
 第178図 4038 溝埋土出土土器 (3)  
 第179図 4038 溝埋土中層出土土器  
 第180図 4038 溝埋土下層出土土器 (1)  
 第181図 4038 溝埋土下層出土土器 (2)  
 第182図 3006 溝南肩 (第4層) 出土土器 (1)  
 第183図 3006 溝南肩 (第4層) 出土土器 (2)  
 第184図 4038 溝南肩 (第4層) 出土土器 (1)  
 第185図 4038 溝南肩 (第4層) 出土土器 (2)  
 第186図 3438 流路出土土器  
 第187図 3014・3432・3433 溝出土土器 (1)  
 第188図 3014・3432・3433 溝出土土器 (2)  
 第189図 3014・3432・3433 溝出土土器 (3)  
 第190図 3014・3432・3433 溝出土土器 (4)  
 第191図 3004・3086・3090・3093・3200・3287・3444・3474・3500 溝出土土器

- 第192 図 4044 土坑・4029 溝・4099 溝・4108 溝・  
4109 土坑・4123 溝・4131 溝出土土器
- 第193 図 4191 溝・4221 溝・4194 溝出土土器
- 第194 図 4192 溝・4193 溝出土土器
- 第195 図 4286 流路・4290 溝出土土器
- 第196 図 3473 流路出土土器
- 第197 図 3473 流路・3437 流路出土土器
- 第198 図 3005 集石・3164 土坑出土土器
- 第199 図 3009 溝出土土器
- 第200 図 3443 土坑、3493 土坑出土土器
- 第201 図 4316 土坑・4317 井戸出土土器
- 第202 図 3 区ピット (個別) 出土土器 (1)
- 第203 図 3 区ピット (個別) 出土土器 (2)
- 第204 図 4 区第4層下面ピット出土土器
- 第205 図 3 区第4層出土土器
- 第206 図 3 区第5層出土土器
- 第207 図 4 区第4-3層出土土器
- 第208 図 4 区第4-4層出土土器
- 第209 図 4 区第4-2層出土土器
- 第210 図 4 区第4-1層出土土器
- 第211 図 4 区第4層出土土器 (1)
- 第212 図 4 区第4層出土土器 (2)
- 第213 図 3 区第3層出土土器
- 第214 図 4 区第3層出土土器 (1)
- 第215 図 4 区第3層出土土器 (2)
- 第216 図 3 区第2層出土土器 (1)
- 第217 図 3 区第2層出土土器 (2)
- 第218 図 3 区第2層出土土器 (3)
- 第219 図 4 区第2層・第1層・客土出土土器
- 第220 図 3 区断割・客土等出土土器
- 第221 図 移動式竈
- 第222 図 土製支脚 (1)
- 第223 図 土製支脚 (2)
- 第224 図 土玉・紡錘車・権?・土製勾玉
- 第225 図 土錘
- 第226 図 漆パレット・漆容器・漆附着土器
- 第227 図 円面硯・転用硯 (1)
- 第228 図 転用硯 (2)
- 第229 図 転用硯 (3)
- 第230 図 転用硯 (4)
- 第231 図 3・4 区出土石器 (1)
- 第232 図 3・4 区出土石器 (2)
- 第233 図 3・4 区出土石器 (3)
- 第234 図 3・4 区出土石器 (4)
- 第235 図 3・4 区出土石器 (5)
- 第236 図 3・4 区出土石器 (6)
- 第237 図 3・4 区出土石器 (7)
- 第238 図 3・4 区出土石器 (8)
- 第239 図 3・4 区出土石器 (9)
- 第240 図 3・4 区出土石器 (10)
- 第241 図 3・4 区出土石器 (11)
- 第242 図 木器 工具、農耕土木具
- 第243 図 木器 編み具
- 第244 図 木器 漁具、紡織具
- 第245 図 木器 調理加工具、食器具、楽器
- 第246 図 木器 服飾具
- 第247 図 木器 容器 (挽物・刳物) (1)
- 第248 図 木器 容器 (挽物・刳物) (2)
- 第249 図 木器 容器 (曲物) (1)
- 第250 図 木器 容器 (曲物) (2)
- 第251 図 木器 容器 (曲物) (3)
- 第252 図 木器 容器 (曲物) (4) ほか
- 第253 図 木器 蓋板
- 第254 図 木器 斎串 (1)
- 第255 図 木器 斎串 (2)
- 第256 図 木器 斎串 (3)
- 第257 図 木器 斎串 (4)
- 第258 図 木器 人形 (1)
- 第259 図 木器 人形 (2)
- 第260 図 木器 馬形 (1)
- 第261 図 木器 馬形 (2)、武器形、鳥形
- 第262 図 木器 舟形ほか
- 第263 図 木器 工具・発火具
- 第264 図 木器 施設材・器具材、発火具
- 第265 図 木器 部材 (1)
- 第266 図 木器 部材 (2)
- 第267 図 木器 部材 (3)
- 第268 図 木器 建築材 (1)
- 第269 図 木器 建築材 (2)
- 第270 図 木器 建築材 (3)
- 第271 図 木器 建築材 (4)
- 第272 図 木器 建築材 (5)
- 第273 図 木器 不明 (1)
- 第274 図 木器 不明 (2)
- 第275 図 木器 不明 (3)
- 第276 図 木器 不明 (4)
- 第277 図 木簡 不明 (5) 木簡状木製品
- 第278 図 木器 かご
- 第279 図 金属器
- 第280 図 鉄関連遺物 (1)
- 第281 図 鉄関連遺物 (2)
- 第282 図 木簡 (1)
- 第283 図 木簡 (2)
- 第284 図 木簡 (3)
- 第285 図 木簡 (4)
- 第286 図 木簡 (5)
- 第287 図 墨書土器 (1) 「門」①
- 第288 図 墨書土器 (2) 「門」②
- 第289 図 墨書土器 (3) 「門」③
- 第290 図 墨書土器 (4) 「家」「宅」「井」

第 291 図	墨書土器 (5) 「荒田大内」「大内」「下内」ほか
第 292 図	墨書土器 (6) 「東」「高郡」「石井」ほか
第 293 図	墨書土器 (7) 「馬津」「津」「船」ほか
第 294 図	墨書土器 (8) その他①
第 295 図	墨書土器 (9) その他②
第 296 図	墨書土器 (10) その他③
第 297 図	調査地点の層序及び試料採取位置
第 298 図	主要珪藻化石群集
第 299 図	花粉化石群集の層位分布
第 300 図	植物珪酸体含量の層位分布

第 301 図	大型植物化石群集の層位分布
第 302 図	ウイグルマッチングによる年代値 (1)
第 303 図	ウイグルマッチングによる年代値 (2)
第 304 図	ウイグルマッチング結果
第 305 図	鳥取県下の製鉄遺跡出土砂鉄・製錬滓の化学組成
第 306 図	古代主要遺構群変遷図 (3区・4区)
第 307 図	墨書土器の組成と変遷
第 308 図	主要遺物構成図 (1)
第 309 図	主要遺物構成図 (2)
第 310 図	因幡国高草郡の主要遺跡

## 挿表一覧

表 1	新旧遺構番号対照表	表 36	土器観察表 (23)
表 2	3区・4区ピット一覧表 (1)	表 37	土器観察表 (24)
表 3	3区・4区ピット一覧表 (2)	表 38	土器観察表 (25)
表 4	3区・4区ピット一覧表 (3)	表 39	土器観察表 (26)
表 5	3区・4区ピット一覧表 (4)	表 40	土器観察表 (27)
表 6	3区・4区ピット一覧表 (5)	表 41	土器観察表 (28)
表 7	木簡一覧表	表 42	土器観察表 (29)
表 8	墨書土器一覧表 (1)	表 43	土器観察表 (30)
表 9	墨書土器一覧表 (2)	表 44	土器観察表 (31)
表 10	墨書土器一覧表 (3)	表 45	土製品観察表 (1)
表 11	墨書土器一覧表 (4)	表 46	土製品観察表 (2)
表 12	墨書土器一覧表 (5)	表 47	石器観察表 (1)
表 13	墨書土器一覧表 (6)	表 48	石器観察表 (2)
表 14	土器観察表 (1)	表 49	石器観察表 (3)
表 15	土器観察表 (2)	表 50	木器観察表 (1)
表 16	土器観察表 (3)	表 51	木器観察表 (2)
表 17	土器観察表 (4)	表 52	木器観察表 (3)
表 18	土器観察表 (5)	表 53	木器観察表 (4)
表 19	土器観察表 (6)	表 54	木器観察表 (5)
表 20	土器観察表 (7)	表 55	木器観察表 (6)
表 21	土器観察表 (8)	表 56	木器観察表 (7)
表 22	土器観察表 (9)	表 57	木器観察表 (8)
表 23	土器観察表 (10)	表 58	木器観察表 (9)
表 24	土器観察表 (11)	表 59	木器観察表 (10)
表 25	土器観察表 (12)	表 60	木器観察表 (11)
表 26	土器観察表 (13)	表 61	金属器観察表 (1)
表 27	土器観察表 (14)	表 62	金属器観察表 (2)
表 28	土器観察表 (15)	表 63	放射性炭素年代測定結果
表 29	土器観察表 (16)	表 64	珪藻分析結果
表 30	土器観察表 (17)	表 65	花粉分析結果
表 31	土器観察表 (18)	表 66	植物珪酸体含量
表 32	土器観察表 (19)	表 67	種実遺体同定結果
表 33	土器観察表 (20)	表 68	放射性炭素年代測定及び樹種同定結果
表 34	土器観察表 (21)	表 69	ウイグルマッチングによる解析結果
表 35	土器観察表 (22)	表 70	良田平田遺跡出土木材の樹種同定

表 71	ウイグルマッピング測定試料および処理
表 72	放射性炭素年代測定、暦年較正、ウイグルマッピングの結果
表 73	供試材の歴史と調査項目
表 74	供試材の化学組成

表 75	出土遺物の調査結果のまとめ
表 76	各樹種の解剖学的特徴 (1)
表 77	各樹種の解剖学的特徴 (2)
表 78	樹種同定結果

## 巻頭写真一覧

1	良田平田遺跡近景 (2～4区、南西から)
2	3区掘立柱建物 1～3 (南西から)

	出土文字資料 (木簡・墨書土器、一部)
--	---------------------

## 文中写真一覧

写真 1	発掘調査速報展 (県立博物館)
写真 2	展示会 (松保地区公民館)
写真 3	4区東側基本層序 (南から)
写真 4	4023 溝断面 (近接、西から)
写真 5	4区 2 地点の X 線写真
写真 6	4区 4 地点の X 線写真
写真 7	4区 11 地点の X 線写真
写真 8	土壌薄片画像
写真 9	土壌薄片顕微鏡画像
写真 10	珪藻化石
写真 11	花粉化石
写真 12	植物珪酸体
写真 13	大型植物遺体
写真 14	木材顕微鏡写真
写真 15	良田平田遺跡出土自然木の光学顕微鏡写真

写真 16	年代測定を行った試料
写真 17	流出溝滓・椀形鍛冶滓の顕微鏡組織
写真 18	流出溝滓・炉内滓の顕微鏡組織
写真 19	良田平田遺跡出土かごの同定資料サンプリング位置 (上) と底部の拡大写真 (下)
写真 20	3資料の横断面の低倍率顕微鏡写真
写真 21	TTR-71 の顕微鏡写真
写真 22	顕微鏡写真 (1)
写真 23	顕微鏡写真 (2)
写真 24	顕微鏡写真 (3)
写真 25	顕微鏡写真 (4)
写真 26	顕微鏡写真 (5)
写真 27	顕微鏡写真 (6)
写真 28	顕微鏡写真 (7)
写真 29	顕微鏡写真 (8)

# 第 I 章 調査の経緯

## 第 1 節 調査に至る経緯

山陰自動車道は、鳥取県鳥取市を起点とし、山口県美祢市を終点とする、延長約 380 キロメートルの自動車専用道路である。この道路は、鳥取・鳥根・山口 3 県の主要都市を東西に結び、山陰地方の産業経済の発展や観光振興、交通渋滞の解消と緩和、災害時の緊急輸送路の確保を目的として、国土交通省により整備が進められている。鳥取西道路は、山陰自動車道のうち鳥取市本高と鳥取市青谷町青谷を結ぶ全長 19.3 km の区間で、鳥取インターチェンジで鳥取自動車道（中国横断自動車道姫路鳥取線）に、青谷インターチェンジで国道 9 号「青谷・羽合道路」に接続し、高速道路ネットワークの一翼を担う。

湖山池南岸を通る鳥取西道路の計画地内には周知の埋蔵文化財包蔵地が数多く認められていたため、道路建設工事に先立って国土交通省、鳥取県、鳥取市で協議し、計画地内に存在する埋蔵文化財の状況を把握する必要性が確認された。そこで、平成 17 年度からは計画地内の踏査（分布調査）や鳥取市教育委員会による試掘調査及び確認調査が進められ、調査結果に基づき道路事業と埋蔵文化財保護との調整が図られている。

良田平田遺跡は、箕上山北麓にあたる丘陵を樹枝状に開析する湖山池畔の小開析谷に位置する（第 1 図、第 2 図）。良田地区の道路計画地内では、事前の踏査等により遺物散布地が把握されており、遺跡の範囲と内容を確認するため、平成 21 年度と平成 22 年度に鳥取市教育委員会が文化庁の国庫補助と県費補助を受けて試掘調査及び確認調査を行った。その結果、古代から中世にかけての遺構、遺物が確認されて事業地内に遺跡が存在することが明らかとなった。計画地内の埋蔵文化財の取扱いに



第 1 図 鳥取西道路予定地と調査地の位置



## 第I章 調査の経緯

ついて、再度国土交通省、鳥取県、鳥取市で慎重に協議を重ねた結果、道路盛土部分となる計6,290m<sup>2</sup>を対象として記録保存のための発掘調査が行われることになり、文化財保護法第94条による手続きを経た後、平成23・24年度に鳥取県教育委員会が国土交通省中国地方整備局鳥取河川国道事務所の委託を受けて発掘調査を実施した。

発掘調査に当たっては、現場発掘作業、出土遺物の整理及び報告書の作成を財団法人鳥取県教育文化財団（平成25年度から公益財団法人に移行）に再委託した。さらに発掘作業、調査記録作業等について、平成23年度は埋蔵文化財発掘調査支援業務委託（良田平田遺跡（1区・2区・3区））国際文化財株式会社・サンイン技術コンサルタント共同企業体、平成24年度は埋蔵文化財発掘調査支援業務委託（良田平田遺跡、良田中道遺跡）安西工業株式会社・株式会社ジーアイシー共同企業体の支援を受けた。

## 第2節 調査の経過

### （1）平成23年度調査

#### 事前調査

発掘調査の着手に先立ち、4月に調査地周辺を含めた現状の観察と、平成21年度に鳥取市教育委員会によって実施された試掘調査成果の確認作業を現地で行った。



第2図 調査地位置図

本格的な調査は、鳥取県教育文化財団と国際文化財株式会社・サンイン技術コンサルタント共同企業体による調査支援業務委託契約が整った4月21日から開始し、基準点設置、水準測量などの事前の測量作業を実施した。1区は丘陵裾の谷部にあたり、周囲に自生する樹木の枝葉が調査地上空に被さっていたため、調査の支障となるこれらの枝葉を伐採し、倒木等を除去した後に現地盤測量作業を行った。4月25日にはラジコンヘリコプターによる調査前の航空写真撮影を実施した。

### 1区の調査

1区は、廃土置場となる前面の水田と高低差が大きいという水路を挟んでおり重機の搬入が困難であったため、5月17日から人力で表土剥ぎ作業を実施した。その作業と併行して、表土が除去できた部分から調査区壁面に沿った排水溝と調査区中央付近に南北方向に設定したトレンチを掘削し、堆積状況の把握に努めた。

鳥取市教育委員会による試掘トレンチの状況及び上記の南北トレンチ、排水溝の断面観察の結果から、遺物包含層を概ね3層に大別できることを確認し、各層下面で遺構検出を行った。第1層下面の測量を5月26日に、第2層下面の測量を5月31日に行い、第3層下面の調査に進んだ。第3層下面では複数の遺構が検出され、6月8日に写真用足場から1区完掘状況全景写真を撮影するとともに6月10日にはラジコンヘリコプターによる航空写真撮影を行った。1区では古代を中心とした遺構、遺物を確認し、補足調査と資材撤去を行って6月17日に現地での調査を終了した。

### 2区の調査

2区については廃土処理の関係上、調査区を便宜的に現況水田の区画に合わせて南北に2分割し、調査を実施した。

南半部は5月9日から17日まで重機による表土掘削を行い、表土掘削終了後に作業員による人力掘削と遺構検出に着手した。併せて南半部と北半部の境界に沿って重機で地層確認のためのトレンチを掘削し、基本層序を把握するとともに今後の調査の指針とした。その結果、調査区における遺物包含層は3層に大別できること、調査区の西半部は現代の圃場整備による削平を受けて遺物包含層や遺構面が遺存していないことが明らかとなった。

攪乱、客土の除去と暗渠の掘削に続き、5月26日から第1層の掘削に着手した。6月7日に第1層下面で2001溝や水田段差2016段などを検出し、6月10日に第1層下面全景の航空写真撮影を行った。

6月13日から21日まで第2層の掘削を行い、2001～2006溝を検出して6月24日に高所作業車を使用して全景写真を撮影した。

6月27日から第3層の掘削を行った。第3層を掘り下げる過程で自然堆積層である第4層が盛り上がった状態で2009擬似畦畔を、2009擬似畦畔を水口状に分断する2010溝を検出した。

7月12日には高所作業車で第3層下面の全景写真を撮影し、地層確認用のトレンチの断面写真撮影及び測量作業を行って7月27日に南半部の調査を終えた。

北半部は南半部の調査と併行して7月15日から重機による表土掘削を進め、7月28日から人力掘削と遺構等の精査に着手した。精査の結果、北半部は西側を中心として大部分が圃場整備時の攪乱を受けて遺物包含層、遺構面が遺存していないことがわかり、圃場整備時の攪乱、客土の除去に時間を要すこととなった。

9月16日に第2層を検出した状況を高所作業車から撮影し、同層を掘削して水田段差と考えられ

る2017段を調査した後、9月29日に第2層下面全景の航空写真撮影を行った。

航空写真撮影後すぐに第3層の掘削に着手した。2012溝で木庖丁が出土するなど、第3層及び同層下面遺構では南半部で認められなかった弥生時代の遺構、遺物を検出した。

10月13日には高所作業車を使用して第3層下面の全景写真を撮影し、その後に遺構等の測量、北壁断面の写真測量、自然科学分析用試料の採取等を行い、10月19日に2区の調査をすべて完了した。

### 3区の調査

3区は、5月17日から重機による表土掘削を開始した。3区及び4区は狭隘な谷に位置し、圃場整備によって水田が棚田状に4段設けられており、表土掘削は西側の下段水田北側から順次東側の上段へ進めていった。現耕作土である表土及び客土の直下で、古代の多量の遺物や、先行調査中の2区で把握されている第2層に相当する層の広がり確認できたことから、圃場整備によって遺物包含層、遺構面が削平を受けていることが予見された。

3区の人力掘削は5月20日から開始した。最初に、複数時期にわたって縦横に敷設された暗渠の除去を行い、主に南北方向の暗渠断面を利用して谷の横断方向の基本層序を把握し、遺構の分布状況や遺構面の確認を行った。それに加えて、3区・4区の概ね中心を通り、谷の縦断方向の地層を確認、記録するための土層観察用畦をX=-56,160ライン、X=-56,170ラインの2本設定することとし、先行してトレンチを掘り下げて下層確認に努めた。

近世以降の作土層と見られる第1層はほとんど残っておらず、6月22日には第1層下面の全景（第2層の検出状況）を高所作業車を使用して撮影した。

6月24日から第2層の掘削に着手した。第2層は圃場整備で水田段差を設けるために削平された下段東半部と上段東端以外で遺存していた。ただ、第2層は3003溝埋土と掘立柱建物等の整地土（第4層）を基盤とした作土層であり、検出当初は下層との識別が困難で、第2層として取上げた下層遺物も多い。

最も多く遺物が出土した3003溝、3006溝は第2層下面で検出しており、断面観察用のベルトを残して順次掘り下げを進めた。3003溝では、6月30日に木簡、墨書土器「門」「門西」「門東家二」、7月5日に巡方、斎串、7月13日に馬形が出土した。3003溝はトレンチ等の断面観察の結果、畦畔状の盛土によって構築された小規模な区画溝状の段階（上層）と砂の平行葉理が認められるなど水路として機能していた段階（下層）とに大別できることがわかり、上層段階が完掘できたため、第2層下面遺構の検出状況と合わせて7月27日に高所作業車で撮影した。3006溝でも7月5日に人形、8月1日に丸軋、8月5日に富壽神寶が出土した。

第2層を掘り下げて精査する過程で多数のピットが存在することを把握しており、表土掘削時点で既に柱根を確認していた3145ピットを含む掘立柱建物1も検出した。3003溝と3006溝から官衙関連遺物が多数出土し、当遺跡にそうした性格の施設が存在することが想定されたため、8月25日に鳥根大学法文学部の大橋泰夫教授に現地指導を受けた。検出済みの掘立柱建物1は大きな建物ではなく総柱建物となる可能性があること、有力者の居宅の一部（出先、支所的な施設）の可能性もあることなどの指摘があり、木簡や墨書土器の記載文字が施設等の性格を探るうえで重要なため早期に積読する必要があることも助言いただいた。8月30日には調査区北壁法面に掛かる掘立柱建物1のピットを可能な限り検出するため、調査支援業者の現場代理人と協議し、安全勾配を確保したうえで北側を拡張した。その結果、新たに2基のピットが確認された。

9月29日に、掘立柱建物1の柱根・根石等を残して、第2層下面遺構完掘状況の航空写真撮影を行った。

第2層下面で検出、完掘済みの掘立柱建物1～3などの主要な遺構は保護したうえで、10月3日から第3層、第4層の掘削と遺構精査を開始した。10月15日には現地説明会を開催し、地元の方をはじめとして122名の方に来跡、見学いただいた。

現地説明会開催後は全体の掘り下げを行い、新たに掘立柱建物4～12のピットや、3006溝に先行する3438流路等を検出した。さらに、調査区北側を中心に広がる整地層の状況から下層に遺構が存在する可能性が考えられたため、2D-5eグリッドにトレンチを設定して掘り下げを行った。その結果、3473流路、3437流路を検出し、地山に由来する大径の偽礫を多量に含む第5層は3473流路を埋め戻した造成土であることが明らかとなり、当初想定していた遺構面数から1面増加することになった。

10月27日には文字関係資料を中心に重要な発見が続き、3003溝下層で文書木簡である10号木簡、掘立柱建物9の3450ピットで記録木簡（歴名）である5号木簡が出土した。

11月3日には松保公民館主催による文化行事の一環として現地見学会を開催し、23名の参加者があった。

11月15日に第4層下面遺構及び3437流路を除く第5層下面遺構の完掘状況について航空写真を撮影し、11月22日に3437流路の完掘状況を高所作業車から撮影した後、調査区西壁断面の測量等補足調査を行い、11月28日にすべての調査を終了した。

なお、3区で当初見込んでいた以上の量の遺物が出土し、今後の整理作業を圧迫することが予想されたため、8月8日から10月26日まで現地で出土遺物の洗浄作業を行った。

また、5号木簡が古代因幡国の国・郡・郷名と人物の姓名を記した貴重な資料であることが明らかとなったため、報道発表を行い、平成24年2月28日から4月1日まで鳥取県立博物館歴史・民俗展示室「歴史の窓」コーナーで他の遺物や写真パネルとともに展示、公開した。

## （2）平成24年度の調査

### 事前調査

平成24年度の調査は4区のみであり、鳥取県教育文化財団と安西工業株式会社・株式会社ジーアイシー共同企業体による調査支援業務委託契約締結後、4月23日から基準点設置、水準測量などの事前の測量作業を開始した。

### 4区の調査

5月10日から重機によって前年度調査時の廃土の移動とともに表土掘削を開始した。表土掘削の過程で鳥取市教育委員会による試掘トレンチの断面を精査して堆積状況を確認したところ、北西部は古代の整地層が厚く残っていること、南東部は第2層及び第3層に該当する作土とみられる層が良好な状態で遺存し、北西部とは様相が異なることなどが把握できた。

5月18日から作業員による人力掘削に着手し、5月23日から第1層下面の遺構検出を行い、5月31日には自然堆積層である第1-4層下で4001～4004段、4005畦畔を検出した。6月18日に第1層下面の調査を終え、全景写真を撮影した。

6月20日から第2層の掘削を開始した。4区では第2層が良好な状態で遺存していたので、観察の結果、第2-1層と第2-2層に分けることができ、出土した貿易陶磁等からそれぞれ鎌倉時代、室町

第I章 調査の経緯

時代の作土であると想定された。第2層下面では耕地段差とみられる4024段、4030段、流出した土砂によって埋没し擬似畦畔となった4029溝、4032擬似畦畔などを検出し、7月11日に全景写真を撮影した。

この時点で、今後の掘削で排出が見込まれる土量が廃土置場に成形、仮置き可能な土量を超えることが予想されたため、国土交通省と協議し、7月30日から一部を前年度調査の廃土置場となっている2区へ運搬した。

7月12日から第3層の掘削を開始した。第3層は調査区東半部で厚く残っており掘り下げに時間を要したが、7月27日から南西部で遺構検出作業に着手した。8月1日から4038溝の掘削を開始し、8月2日には上層で和同開珎、土製支脚、8月3日には3号木簡などが出土した。8月22日には4109土坑を検出して掘り下げたところ、南西隅で木錘7点がまとまって出土した。9月5日に4038溝上層部分と第3層下面遺構の完掘を終え、全景の航空写真撮影を行った。

9月7日から主に調査区北部に広がる第4層の掘削を開始した。第4層の上部は第3層耕作時の攪拌が及んで層理面が不明瞭となっており、遺構検出が困難であったため、攪拌が及んで変質した部分を第4-1層として掘り下げ、その直下(第4-2層上面)で遺構検出に努めた。整地層である第4-2層上面で検出したピットには礎盤石を伴うものもあったが、掘立柱建物14以外に建物は把握できなかった。そこで、第4-2層、第4-3層を掘り下げて各層下面で遺構検出を行い、新たに見つかったピットを含めて掘立柱建物15～18を検出した。

同様の理由で、本来的には第3層下面遺構に帰属すると考えられる4189段、4190擬似畦畔、4550段、



第3図 『鳥取西道路を掘る!』第35号抜粋



写真1 発掘調査速報展(県立博物館)



写真2 展示会(松保地区公民館)

4551 擬似畦畔を第 4 層掘り下げ中に確認、検出している。

10 月 2 日には調査区西端の第 4-2 層下面で検出した 4228 ピット上層から 1 号木簡の断片が出土した。両面に墨書が認められ、片面に「孔王部」の文字を読み取ることができたため、人名の記された文書木簡であることが理解できた。10 月 9 日に底面付近からも「寵命」の文字が記された同木簡の下部片が出土し、後日全体を釈読した結果、7 世紀末に遡る可能性がある木簡ということが明らかとなった。

10 月 18 日に 3 区で全体の半分まで調査していた 3433 土坑の残り部分を検出し (4244 土坑)、完掘して記録を補足した。また同日、4317 井戸を掘り下げていたところ、胴部穿孔された古墳時代前期末の完形の甕が出土した。

10 月 25 日に高所作業車で第 4 層下面遺構を完掘した全景写真を撮影し、その後に見つかった杭などの補足調査を行い、10 月 31 日に現地での調査をすべて終了した。

なお、平成 24 年度の調査成果については財団法人鳥取県教育文化財団のホームページや同財団調査室で月次刊行する広報誌を通じて適宜公表した (第 3 図)。また、11 月 28 日、29 日には調査地近隣の松保地区公民館、12 月 10 日から 17 日にかけては湖山池情報プラザ、平成 25 年 3 月 12 日から 18 日にかけては、鳥取県立生涯学習センターふれあい会館で遺物の展示と調査報告会を行い、調査成果を広く公開することに努めた。さらに、1 号木簡が 7 世紀末に遡る可能性がある「前白木簡」であり、確実な文書木簡としては中国地方最古のものと判明したため、報道発表し、3 月 6 日から 4 月 7 日まで鳥取県立博物館歴史・民俗展示室「歴史の窓」コーナーで他の遺物や写真パネルとともに展示、公開した。

### 第 3 節 調査体制

#### 平成 23 年度

##### 鳥取県教育委員会

教育長 横濱 純一  
鳥取県教育委員会事務局文化財課  
課長 上山 憲二  
歴史遺産室長 中原 斉  
課長補佐（兼主幹） 田貝 隆  
文化財主事 大野 哲二

##### 財団法人鳥取県教育文化財団

理事長 井上 善弘  
事務局長 漆原 貞夫  
事務職員 岡田 美津子

##### 調査室

室長 松井 潔（※ 1）  
（美和調査事務所長兼務）  
次長 石本 富正  
事務職員 福田 早由里

##### 美和調査事務所 調査第 3 担当

副主幹 中森 祥（※ 1）  
後藤 信義（※ 2）  
文化財主事 高尾 浩司（※ 1）  
事務職員 植木 智子

##### 発掘調査支援業者

埋蔵文化財発掘調査支援業務委託（良田平田遺跡（1区・2区・3区））国際文化財株式会社・サンイン技術コンサルタント株式会社共同企業体

現場代理人 山田 功一（平成 23 年 4 月 14 日～4 月 28 日）  
飯田 英樹（平成 23 年 4 月 29 日～）

副現場代理人 中村真起雄  
調査員 青嶋 邦夫（1 区）

江藤 敦（2 区・3 区）  
脇本 博康（2 区・3 区）  
安村 健（2 区・3 区）  
東園千輝男（2 区・3 区）

調査補助員 大塚 正樹（1 区）  
西野 順二（2 区・3 区）  
朝日向忠久（2 区・3 区）  
渡辺 智（2 区・3 区）  
大橋 忠昭（2 区・3 区）

#### 平成 24 年度

##### 鳥取県教育委員会

教育長 横濱 純一  
鳥取県教育委員会事務局文化財課  
課長 上山 憲二  
歴史遺産室長 北浦 弘人  
課長補佐（兼主幹） 土山 和俊  
文化財主事兼係長 大野 哲二

##### 財団法人鳥取県教育文化財団

理事長 井上 善弘  
事務局長 漆原 貞夫（平成 24 年 12 月 31 日まで）  
中川 眞一

（平成 25 年 1 月 1 日から 1 月 20 日まで）

石本 富正（平成 25 年 1 月 21 日から）

事務職員 岡田 美津子  
事務補助員 橋本 絵美

##### 調査室

室長 松井 潔（※ 1）  
（美和調査事務所長兼務）  
次長 石本 富正（平成 24 年 5 月 31 日まで）  
中川 眞一（平成 24 年 6 月 1 日から）

主事 福島 亘（※ 1）  
事務職員 福田 早由里

##### 美和調査事務所 調査第 3 担当

副主幹（総括） 濱田 竜彦（※ 1）

副主幹 西川 徹（※ 1）

文化財主事 島崎 久恵（※ 2）

高尾 浩司（※ 1）

茶谷 満（※ 1）

事務職員 植木 智子

##### 発掘調査支援業者

埋蔵文化財発掘調査支援業務委託（良田平田遺跡、良田中道遺跡）安西工業株式会社・株式会社ジーアイシー共同企業体

現場代理人 森 正人

副現場代理人 吉村 眞一

支援調査員 田代 郁夫（良田平田遺跡）

東 貴之（良田平田遺跡）

有馬 啓介（良田中道遺跡）

入江 剛弘（良田中道遺跡）

主幹 野口 良也 (※1)  
 文化財主事 高尾 浩司 (※1)

平成 26 年度

鳥取県教育委員会

教育長 山本 仁志  
 鳥取県教育委員会事務局文化財課  
 課長 木本 美喜  
 歴史遺産室長 松井 潔  
 課長補佐 (兼主幹) 土山 和俊  
 文化財主事兼係長 野口 良也  
 文化財主事 岡野 雅則

公益財団法人鳥取県教育文化財団

理事長 井上 善弘

(平成 26 年 4 月 1 日から 6 月 30 日まで)

野村 勇二 (平成 26 年 7 月 1 日から)

事務局長 石本 富正  
 副主幹 岡田 美津子

調査室

室長 北浦 弘人 (※1)  
 次長兼総務企画課長 中川 眞一

(平成 26 年 4 月 1 日から 4 月 30 日まで)

民木 一美 (平成 26 年 5 月 1 日から)

総務係長 川村 悟 (※1)

主事 福島 亘 (※1)

事務職員 田中 絵里子

第 1 工区担当

主幹 牧本 哲雄 (※1)

副主幹 高尾 浩司 (※1)

調査補助員 荒井 英樹 (良田平田遺跡)  
 (平成 24 年 5 月 7 日～8 月 1 日)  
 坂口 尚人 (良田平田遺跡)  
 (平成 24 年 8 月 2 日～10 月 31 日)  
 黒田 和英 (良田平田遺跡)  
 山本 雅徳 (良田中道遺跡)  
 藪野 勝久 (良田中道遺跡)

測量士 河田 高志  
 山本 卓宏  
 倉田 耕治

平成 25 年度

鳥取県教育委員会

教育長 横濱 純一

鳥取県教育委員会事務局文化財課

課長 上山 憲二

歴史遺産室長 北浦 弘人

課長補佐 (兼主幹) 土山 和俊

係長 小口 英一郎

文化財主事 岡野 雅則

公益財団法人鳥取県教育文化財団

理事長 井上 善弘

事務局長 石本 富正

事務職員 岡田 美津子

植木 智子

(兼調査室事務職員)

調査室

室長 松井 潔 (※1)

次長兼総務企画課長 中川 眞一

総務係長 川村 悟 (※1)

主事 福島 亘 (※1)

事務職員 福田 早由里

第 2 工区担当

※1 鳥取県教育委員会から派遣

※2 公益財団法人大阪府文化財センターから出向



## 第II章 良田平田遺跡の位置と環境

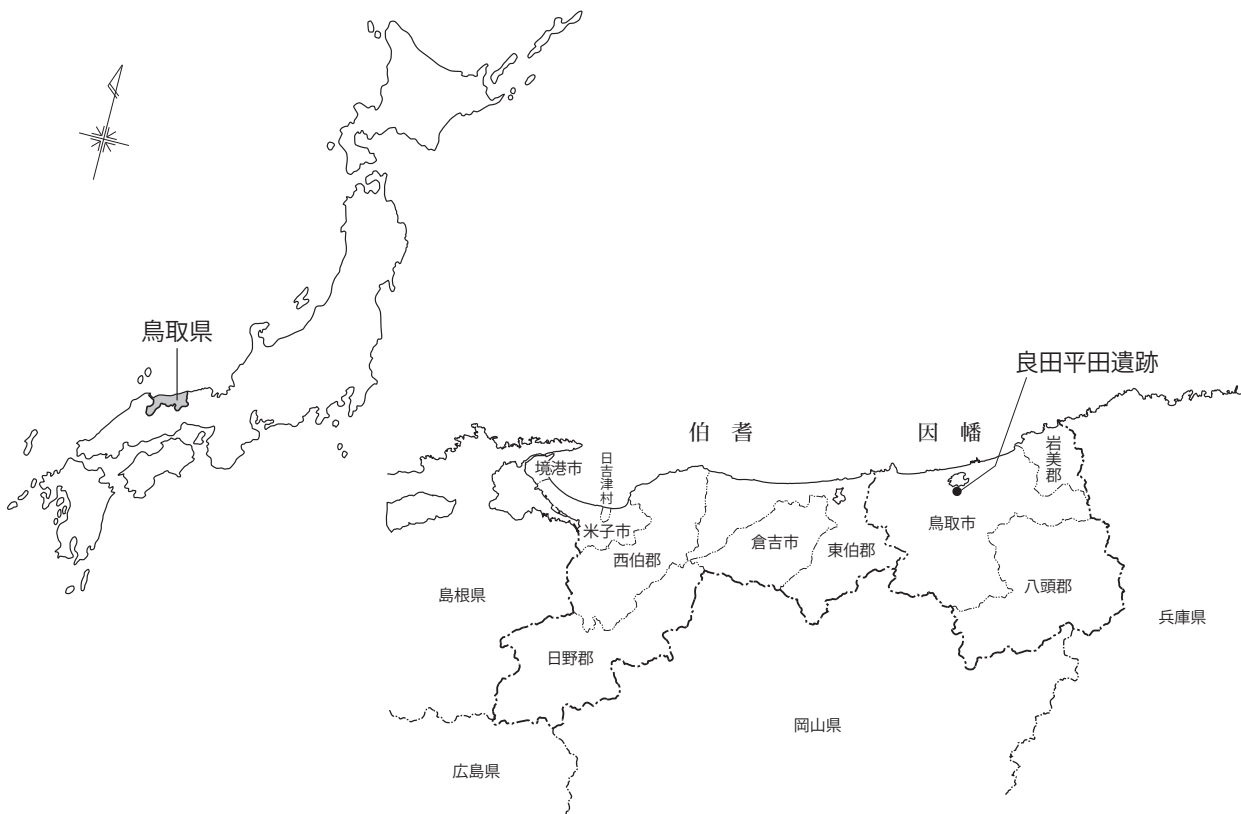
### 第1節 遺跡の位置と地理的環境

良田平田遺跡は鳥取県鳥取市良田に所在する。鳥取県は中国地方の北東部に位置し、県域は東西に  
およそ100 km、南北におよそ40 kmと東西に長い。鳥取市は鳥取県の東部にあり、東は岩美郡、南  
は八頭郡、西は東伯郡と接し、北には日本海が広がる。

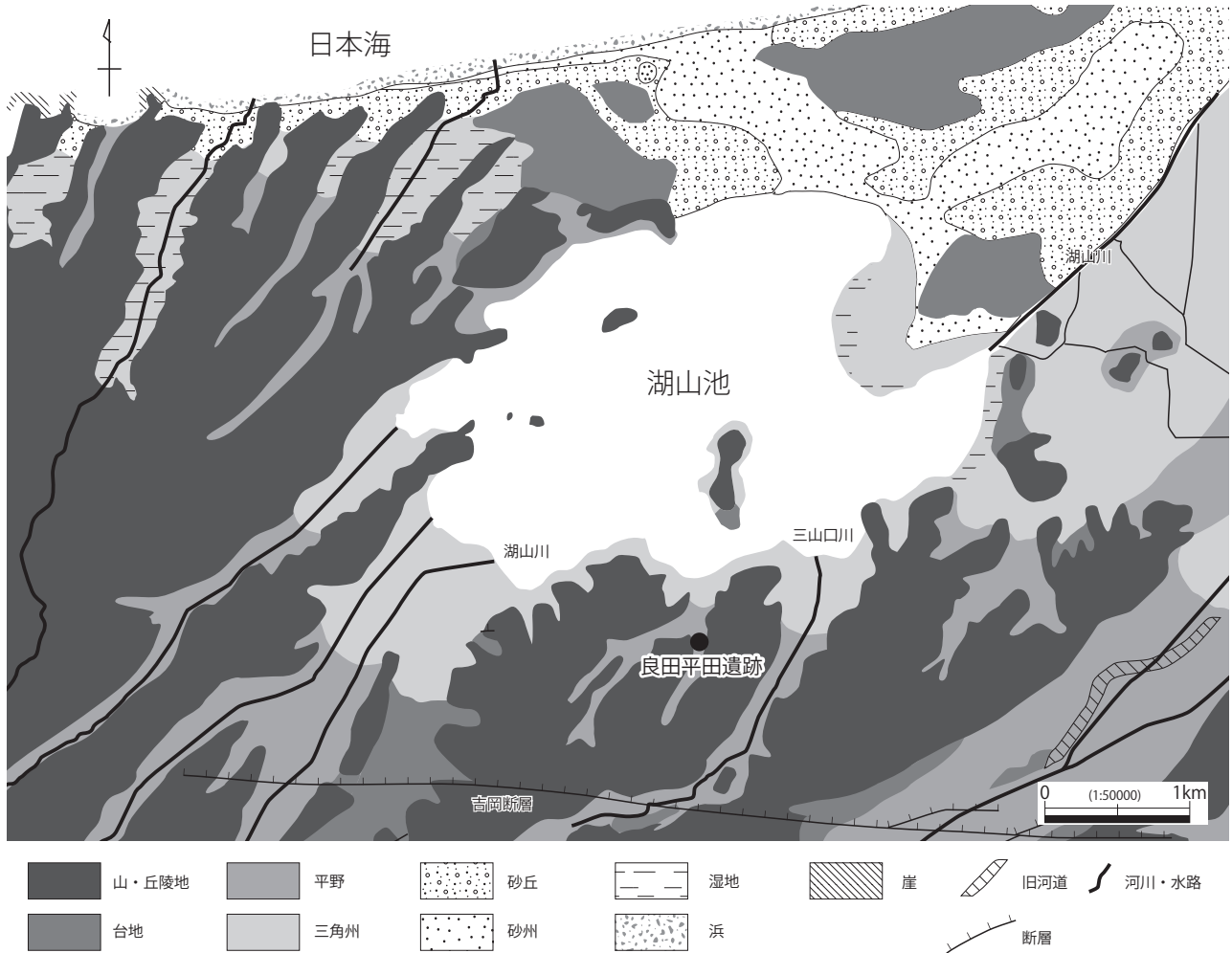
遺跡の所在する良田地区は、鳥取市の中央やや北寄りの湖山池南岸に位置する（第4図）。三山口  
川が流入する湖山池は、鳥取市の中央やや北寄りに位置する面積6.8 km<sup>2</sup>を測る海跡湖で、現在は流  
出河川にする水門操作により、弱い汽水環境にあるものの、過去には日本海の内湾として海水環境に  
あった。

湖山池南岸は、中国山地から延びる山地や丘陵地と、それらが開析されてできた谷底平野や中小河  
川によって形成された三角州が広がる（第5図）。良田地区は南方の箕上山から派生する丘陵を樹枝  
状に開析する小開析谷に位置し、谷部が水田などの耕地として、北側及び西側丘陵裾部が集落として  
主に利用されている。東側の高住地区から延びる丘陵上と、北西部の良田地区集落の後背丘陵上には  
古墳群が形成されており、周知の埋蔵文化財包蔵地として知られている。

また、遺跡の南方約1.5 kmには、昭和18年に発生した鳥取大地震の震源ともなった「吉岡断層」  
が東西に走っており、今回の調査でも地震の影響と考えられる地層の変形が確認されている。



第4図 遺跡の所在地



第5図 遺跡周辺の地形

## 第2節 歴史的環境

鳥取西道路の計画地の中でも、良田平田遺跡が位置する湖山池の周辺は、鳥取県東部における遺跡密集地域の一つである。本節では湖山池周辺の歴史を概観する（第6図）。

### 【縄文時代】

湖山池周辺での人々の生活痕跡は縄文時代前期中葉まで遡る。高住平田遺跡（9）では北白川下層式の土器のほか、当該期と思われる石錘も出土した。また、東桂見遺跡（17）や桂見遺跡（15）でも前期末頃の大歳山式土器が認められる。

中期においても高住平田遺跡では鷹島式から里木Ⅱ式の土器群や当該期の石錘、杭などの遺物が出土しているほか、高住平田遺跡に隣接する高住井手添遺跡（10）の平成23年度調査では、船元式を中心とする土器群が包含層から多量に出土しており、湖山池沿岸地域での人々の継続的な活動が認められる。

中期末から後期にかけては、湖山池南東部の布勢、桂見に代表される低湿地遺跡において遺構・遺物が確認されている。布勢第1遺跡（21）では、杭と板材を用いた後期の水路護岸らしき遺構が確認された。周辺は湿潤な環境下で多数の木製品が良好な状態で地中に保存されており、中でも布勢第1遺跡出土の朱漆塗りの木製容器や、桂見遺跡（15）出土の丸木舟（県指定保護文化財）は特筆される。

後期以降の土器は、湖山池南側にある青島第1遺跡（4）でも出土した。

後期後半から晩期にかけては、千代川やそこへ合流する河川によって形成された自然堤防上に人々が進出したようである。野坂川沿いの大桝遺跡（32）や、千代川と湖山池の間にある岩吉遺跡（43）、北東部にある湖山第2遺跡（48）では、晩期の土器が見つかった。湖山池南西部の岩本第2遺跡（67）では、少量ながら晩期の突帯文土器が出土する。ただし、明確な遺構はいずれも未確認である。

また近年では、有富川と野坂川に挟まれた本高弓ノ木遺跡（39）の平成22年度調査で、木材を貯木した可能性がある流路が確認され、弥生時代前期の土器に伴って突帯文土器が出土したほか、高住井手添遺跡（10）の平成23年度調査でも、蛇行する流路から突帯文土器のほか、良好な遺存状態の編み物籠が13点出土しており注目される。

良田地区では良田中道遺跡（2）で後～晩期の流路が見つまっている。

#### 【弥生時代】

前期の遺物出土地点は、縄文時代晩期に展開した地域と大きな差はない。これまで遺構はほとんど確認されていなかったが、湖山池南西部にある松原田中遺跡（58）で前期末頃の溝が確認された。また、金沢坂津口遺跡（59）では流路から箕状の編組製品が出土し、帰属時期を厳密にできないものの、前期に遡る可能性がある資料として注目に値する。

中期以降は前期に比して様相が把握できつつある。湖山第2遺跡では、中期前葉と思われる掘立柱建物が確認された。松原田中遺跡ではこの時期の木器溜りが見つかり、鋳未成品や容器類が出土した。中期中葉の状況は松原田中遺跡や高住井手添遺跡、本高弓ノ木遺跡などで土器が出土している程度で不明瞭だが、中期後葉段階の遺構は検出例が多い。布勢第2遺跡（22）や湖山第2遺跡では堅穴建物を、岩吉遺跡では掘立柱建物を確認しており、これらは後期も存続する。南部では、高住字宮ノ谷の丘陵（8）から流水文銅鐸が、青島に近接し湖山池に面する塞ノ谷遺跡（3）から分銅形土製品がそれぞれ出土している。北部の砂丘地では、中ノ茶屋遺跡（69）でこの頃の遺物が確認されている。

後期段階の集落遺跡の確認例は多い。湖山第2遺跡ではこの頃から遺構数が増え、布勢第2遺跡に続き、桂見遺跡、帆城遺跡（14）、大桝遺跡では丘陵裾に、西桂見遺跡（13）では丘陵上に集落が展開する。特に、布勢第2遺跡の玉作工房と思しき堅穴建物は注目される。

良田地区においても、良田平田遺跡（1）と良田中道遺跡で中～後期の土器や石器、木庖丁が出土しており、生産域として利用されていたようである。

この頃の墳墓群が湖山池南東部の丘陵上で累代的に造営されており、その中でも後期中葉の長軸17mを測る布勢鶴指奥1号墳丘墓（20）、水銀朱や玉類を副葬する桂見墳墓群（16）の存在は、首長層の存在を示すものだろう。さらに後期末になると因幡地方最大の弥生墳丘墓である西桂見墳丘墓（全長約65m）が出現し、湖山池南東岸には有力な集団が存在していたようだ。

南西岸でも、松原田中遺跡や松原谷田遺跡（57）、岩本第2遺跡などで集落が確認されており、松原田中遺跡で中～後期の玉作関連資料が出土し、岩本第2遺跡では大型の堅穴建物からガラス管玉が出土している。湖山池に突き出した丘陵の先端部には1000点以上のガラス玉類と鉄製武器を副葬した松原1号墓（53）があり、湖山池南西岸地域にもそうした集落を基盤として輩出された有力な首長層が存在したことが窺える。

#### 【古墳時代】

古墳時代に入ると、丘陵上に多くの古墳が造られる。



- |        |            |         |        |          |
|--------|------------|---------|--------|----------|
| ○ 集落遺跡 | ● 主要な前方後円墳 | ● 主要な円墳 | ∩ 横穴墓群 | ▲ その他の遺跡 |
| ○ 古墳群  | ■ 主要な前方後方墳 | □ 城跡    | × 出土地  |          |

1. 良田平田遺跡 2. 良田中道遺跡 3. 塞ノ谷遺跡 4. 青島第1遺跡 5. 高住古墳群 6. 良田古墳群  
 7. 高住宮ノ谷古墳群 8. 高住宮ノ谷遺跡（高住銅鐸出土推定地） 9. 高住平田遺跡 10. 高住井手添遺跡  
 11. 高住牛輪谷遺跡 12. 倉見古墳群 13. 西桂見遺跡 14. 帆城遺跡 15. 桂見遺跡 16. 桂見古墳群・墳墓群  
 17. 東桂見遺跡 18. 桂見鍋山遺跡 19. 布勢古墳群 20. 布勢鶴指奥墳墓群 21. 布勢第1遺跡 22. 布勢第2遺跡  
 23. 里仁第1横穴群 24. 里仁第2横穴群 25. 里仁第3横穴群 26. 里仁古墳群 27. 里仁29号墳 28. 鍋山城跡  
 29. 桝間古墳群 30. 桝間1号墳 31. 里仁遺跡 32. 大桝遺跡 33. 野坂遺跡 34. 小森山遺跡 35. 宮谷古墳群  
 36. 古海古墳群 37. 本高古墳群 38. 本高14号墳 39. 本高弓ノ木遺跡 40. 本高下ノ谷遺跡 41. 山ヶ鼻遺跡  
 42. 菖蒲遺跡 43. 岩吉遺跡 44. 布勢古墳 45. 天神山遺跡 46. 天神山城跡 47. 湖山第1遺跡 48. 湖山第2遺跡  
 49. 大熊段1号墳 50. 大熊段遺跡 51. 三浦遺跡 52. 三浦1号墳（琵琶隈古墳） 53. 松原1号墓 54. 松原古墳群  
 55. 松原小奥遺跡 56. 松原所在古墓 57. 松原谷田遺跡 58. 松原田中遺跡 59. 金沢坂津口遺跡 60. 丸山城跡  
 61. 吉岡古墳群 62. 吉岡1号墳 63. 吉岡遺跡（丸山地区） 64. 吉岡遺跡（大海地区） 65. 岩本古墳群 66. 防己尾城跡  
 67. 岩本第2遺跡 68. 三津古墳群 69. 中ノ茶屋遺跡 70. 尾崎須恵器窯跡

第6図 周辺の遺跡

鳥取平野最大の前方後円墳は、大柵遺跡を見下ろす尾根上にある全長 92 m の柵間 1 号墳 (30) で、湖山池沿岸では全長 81 m の里仁 29 号墳 (27) が最も大きい。また全長 30 m 前後の前方後円墳は、桂見、高住、良田、松原、吉岡の各古墳群に点在する。松原古墳群 (54) 内の 7 号墳 (全長 54 m) は、周辺では突出した規模を持つ。

前期古墳の調査は、桂見古墳群や倉見古墳群 (12)、松原古墳群で実施された。これらはすべて方墳で、立地も含めて弥生時代からの伝統を継承していることが想定される。また、平成 21 年度に実施された本高古墳群 (37) の調査では、当初は円墳と認識されていた本高 14 号墳 (38) が全長 63 m を測る前方後円墳であることが明らかとなり、現状では山陰地方で最も早くに築造された前方後円墳と評価されている。

中期古墳の調査例は里仁 32 ～ 35 号墳 (26) にある。いずれも方墳で、32・33 号墳は鱗付円筒埴輪を棺に転用した埋葬施設を確認し、35 号墳から堅櫛が多数出土した。

後期古墳は、北東部の濃山台地上にある全長 36 m の三浦 1 号墳 (琵琶隈古墳) (52) や全長 46 m の大熊段 1 号墳 (49)、東部にある全長 59 m の布勢古墳 (44、国指定史跡) といった前方後円墳が比較的近接して築造される。横穴式石室は倉見 9 号墳 (12)、高住 12 号墳 (5)、松原 28 号墳 (54) や吉岡 1 号墳 (葦岡長者古墳) (62) などがあるが、千代川東岸に比べると確認例は少ない。このほか、松原古墳群では、尾根頂部が広がる場所を中心に築造された 10 基の古墳と斜面に開口する後期末の横穴墓 (松原 1 号横穴墓) が調査された。古海古墳群 (36) に属する山ヶ鼻古墳 (県指定史跡) は凝灰岩の巨石を組み合わせた横穴式石室を持ち、畿内の横穴式石室を思わせる特殊な構造をとっている。

集落は弥生時代後期から継続して、湖山第 2 遺跡や西桂見遺跡、布勢第 2 遺跡、松原田中遺跡、松原谷田遺跡などで営まれた。ただ中期の遺構、遺物は減少傾向にある。西桂見遺跡は前期で廃絶し、布勢第 2 遺跡も中期は未確認である。湖山第 2 遺跡は中期で終焉し、隣接する湖山第 1 遺跡は中期末から後期の建物を検出する。松原田中遺跡でも後期後半と推定される複数棟の掘立柱建物や溝が検出されている。

塞ノ谷遺跡では、弥生時代後期から古墳時代にかけての遺物とともに木製の護岸施設を伴う池状遺構が見つかり、舟形、刀形といった木製模造品などが出土している。水に係る祭祀が行われていたようである。塞ノ谷遺跡の南側に位置する良田平田遺跡では前期末の井戸、中期末と推定される掘立柱建物や井戸、流路が確認されている。碧玉製とみられる勾玉や、管玉未成品も出土しており、丘陵上に展開する高住古墳群との関連が注目される。

### 【古代】

湖山池周辺は、律令制下では因幡国高草郡に属した。それ以前の 7 世紀後半には、奈良県石神遺跡 (明日香村) で出土した荷札木簡に「高草評野口〔岬〕五十戸」の文字が見えることから、因幡国内に後の高草郡となる高草評が立評されていたようである。吉岡遺跡 (大海地区) (64) では単弁十二葉蓮華文軒丸瓦や鴟尾の破片が出土しており、古代寺院が存在した可能性がある。

桂見遺跡では 8～9 世紀の掘立柱建物群が検出され、赤色塗彩された土師器や転用硯、荷札木簡も出土しており、公の出先機関及び住居と報告されている。岩吉遺跡では 8～10 世紀の溜り状遺構や自然流路から 567 点に及ぶ墨書土器、人形や馬形、斎串といった木製祭祀具、「天長二 (825) 年税長」と記された題箋軸を含む木簡等が出土している。墨書土器の多くに「草田」と記されており、承和 9

(842)年『東大寺東南院文書』高庭庄卷第三に湖山池東岸～南東岸の田名として記されている「草尾田」を省略したものとの見方もある。高庭庄は東大寺の政治的地位の低下や海面の上昇などの影響で開発が困難となり、10世紀後半には完全に没落する。

近年の調査では、高住平田遺跡で奈良時代から平安時代にかけての遺構・遺物が出土しており、「深縁」「深縁曹□〔司<sub>り</sub>〕〕と記された墨書土器や人形のほか、銅印が1点出土している。良田平田遺跡の調査でも、奈良時代から平安時代を中心として、飛鳥時代に遡る可能性をもつものも含め古代の木簡が16点出土し、溝で区画された掘立柱建物群が検出された。

### 【中世】

南北朝の争乱期において因幡の実質的な支配を確立した山名時氏は、貞治3(1346)年に室町幕府から正式に因幡守護に任じられ、以後山名氏が因幡守護職に就くことになる。

その守護所として築城されたのが天神山城(46)である。正確な築造時期はよく分からないが、15世紀後半には守護所として機能していたらしい。その後但馬山名氏の支配下に入るが、永禄6(1563)年に武田高信による攻撃を受けた山名豊数が退去し廃城となる。一方、丸山城跡(60)と防己尾城跡(66)は、この地域を拠点とする吉岡氏との関連性が考えられよう。

当該期の墓は、天神山城の北側の三浦遺跡(51)、大熊段遺跡(50)や、南側の里仁古墳群、布勢墳墓群、布勢鶴指奥墳墓群、桂見墳墓群、西桂見遺跡で見つかった。大熊段遺跡、布勢墳墓群、桂見墳墓群、西桂見遺跡等では、方形に周溝を持つものや盛土を確認した。

※参考文献(本章で紹介した遺跡の主要文献のみを掲出。遺跡名五十音順)

『葦岡長者古墳(吉岡1号墳)発掘調査報告書』明日の湖南を考える会 1984

『岩吉遺跡』岩吉遺跡調査団 1976

『岩吉遺跡発掘調査概報』鳥取市文化財報告書25 鳥取市教育委員会 鳥取市遺跡調査団 1989

『岩吉遺跡発掘調査概報Ⅱ』鳥取市文化財報告書20 鳥取市教育委員会 鳥取市遺跡調査団 1990

『岩吉遺跡Ⅲ』鳥取市文化財報告書30 鳥取市教育委員会 鳥取市遺跡調査団 1991

『岩吉遺跡Ⅳ』財団法人鳥取市教育文化財団 1997

『大熊段遺跡』鳥取県教育文化財団報告書19 財団法人鳥取県教育文化財団 1986

『桂見墳墓群』鳥取市文化財報告書 鳥取市教育委員会 鳥取市遺跡調査団 1984

『桂見墳墓群Ⅱ』財団法人鳥取市教育福祉振興会 1993

『平成6年度 桂見遺跡発掘調査報告書』財団法人鳥取市教育福祉振興会 1995

『平成7年度 桂見遺跡群発掘調査概要報告書』財団法人鳥取市教育福祉振興会 1996

『桂見遺跡-八ツ割地区・堤谷東地区・堤谷西地区-』鳥取県教育文化財団調査報告書45

財団法人鳥取県教育文化財団 1996

『平成8年度 桂見遺跡群発掘調査概要報告書』財団法人鳥取市教育福祉協議会 1997

『平成9年度 桂見遺跡発掘調査報告書』財団法人鳥取市教育福祉振興会 1998

『桂見遺跡群(その1)』財団法人鳥取市教育福祉振興会 1998

『桂見遺跡群(その2)』財団法人鳥取市教育福祉振興会 1998

『平成20年度 桂見遺跡発掘調査報告書』財団法人鳥取市文化財団 2009

## 第Ⅱ章 良田平田遺跡の位置と環境

- 『桂見古墳群・桂見遺跡発掘調査概要報告書』鳥取市文化財報告書 23 鳥取市教育委員会 1988
- 『湖山第1遺跡』鳥取県教育文化財団調査報告書 24 鳥取県教育委員会 財団法人鳥取県教育文化財団 1989
- 『湖山第2遺跡』鳥取県教育文化財団調査報告書 11 財団法人鳥取県教育文化財団 1982
- 『里仁古墳群』鳥取県教育文化財団報告書 18 財団法人鳥取県教育文化財団 1985
- 『高住平田遺跡Ⅰ』鳥取県教育委員会 2012
- 『天神山遺跡発掘調査概報』鳥取県教育委員会 1973
- 『天神山遺跡発掘調査報告書』鳥取県教育委員会 1989
- 『徳尾遺跡群発掘調査報告書』鳥取県教育委員会 1985
- 『西桂見遺跡』鳥取市文化財報告書 X 鳥取市教育委員会 1981
- 『西桂見遺跡Ⅱ』鳥取市文化財報告書 16 鳥取市教育委員会 倉見古墳群発掘調査団 1984
- 『西桂見遺跡－鷺谷口地区・鷺谷奥地区・堤谷地区－ 倉見古墳群』鳥取県教育文化財団調査報告書 46  
財団法人鳥取県教育文化財団 1996
- 『東桂見遺跡 布勢鶴指奥墳墓群』鳥取県教育文化財団調査報告書 29 財団法人鳥取県教育文化財団 1992
- 『布勢遺跡発掘調査報告書』鳥取県教育文化財団調査報告書 7 財団法人鳥取県教育文化財団 1981
- 『布勢墳墓群』財団法人鳥取市教育福祉振興会 1998
- 『松原1号墓』財団法人鳥取市文化財団 2012
- 『松原古墳群Ⅰ』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書 30  
鳥取県埋蔵文化財センター 国土交通省鳥取河川国道事務所 2010
- 『松原古墳群Ⅱ 松原小奥遺跡』鳥取県文化財調査報告書 20 鳥取県教育委員会 2010
- 『松原田中遺跡Ⅰ』鳥取県教育委員会 2013
- 『本高古墳群』鳥取県文化財調査報告書 21 鳥取県教育委員会 2010
- 『三浦遺跡』鳥取県教育文化財団調査報告書 9 鳥取大学 財団法人鳥取県教育文化財団 1982
- 『鳥取県史』第1巻 原始古代 鳥取県 1972
- 『新修鳥取市史』第1巻 古代・中世篇 鳥取市 1983
- 『発掘通信 鳥取西道路の遺跡を掘る!』第1～47号 財団法人鳥取県教育文化財団 2009～2012
- 『発掘通信 鳥取西道路の遺跡を掘る!』第48～59号 公益財団法人鳥取県教育文化財団 2013

## 第Ⅲ章 調査の方法

### 第1節 調査地の地区割

#### (1) 地区割の方法と名称

鳥取県教育委員会が鳥取県教育文化財団に委託した鳥取西道路関連の発掘調査では、調査成果の標準化を目的として、遺跡や遺構の位置表示や遺物の取上げ等に利用する地区割に、平面直角座標系の第Ⅴ系（世界測地系）を使用している。地区割については、10 m×10 m（100 m<sup>2</sup>）の区画を基本的な最小単位とし、その名称（記号）については、以下のように設定した（第7図）。

**第Ⅰ区画** 鳥取県の全域に設定した大区画である。10,000 m×10,000 mで、1～91の区画を設け、北東隅からT1～T91の記号を付した。

**第Ⅱ区画** 第Ⅰ区画の1区画内を、1,000 m×1,000 mに100分割した区画である。第Ⅱ区画については、1区画の南北軸に1～10、東西軸にa～jを付し、1a～10jの記号を付した。

**第Ⅲ区画** 第Ⅱ区画の1区画内を、100 m×100 mに100分割した区画である。第Ⅲ区画については、1区画の南北軸に1～10、東西軸にA～Jを付し、1A～10Jの記号を付した。

**第Ⅳ区画** 第Ⅲ区画の1区画内を、10 m×10 mに100分割した区画である。第Ⅳ区画については、1区画の南北軸に1～10、東西軸にa～jを付し、1a～10jの記号を付した。

#### (2) 良田平田遺跡における地区割

良田平田遺跡の発掘調査は、平成23年度に1区～3区で、平成24年度に4区で行った。調査区には前項で述べた10 m単位の地区割を設定した（第8図）。良田平田遺跡の調査範囲は、T23（第Ⅰ区画）－7g（第Ⅱ区画）内に位置しており、文中で遺構・遺物位置について地区割を用いながら記載する際には、第Ⅰ区画と第Ⅱ区画の記号を省略し、調査区名、第Ⅲ区画、第Ⅳ区画の記号を用いて「3区2D-7c」のように記す。

### 第2節 発掘調査と記録の対象

#### (1) 発掘調査と記録の対象

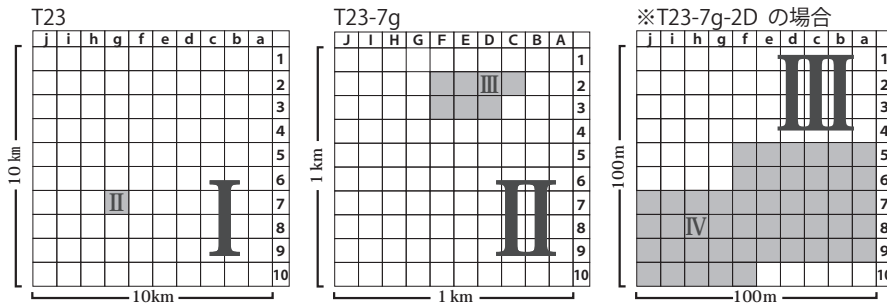
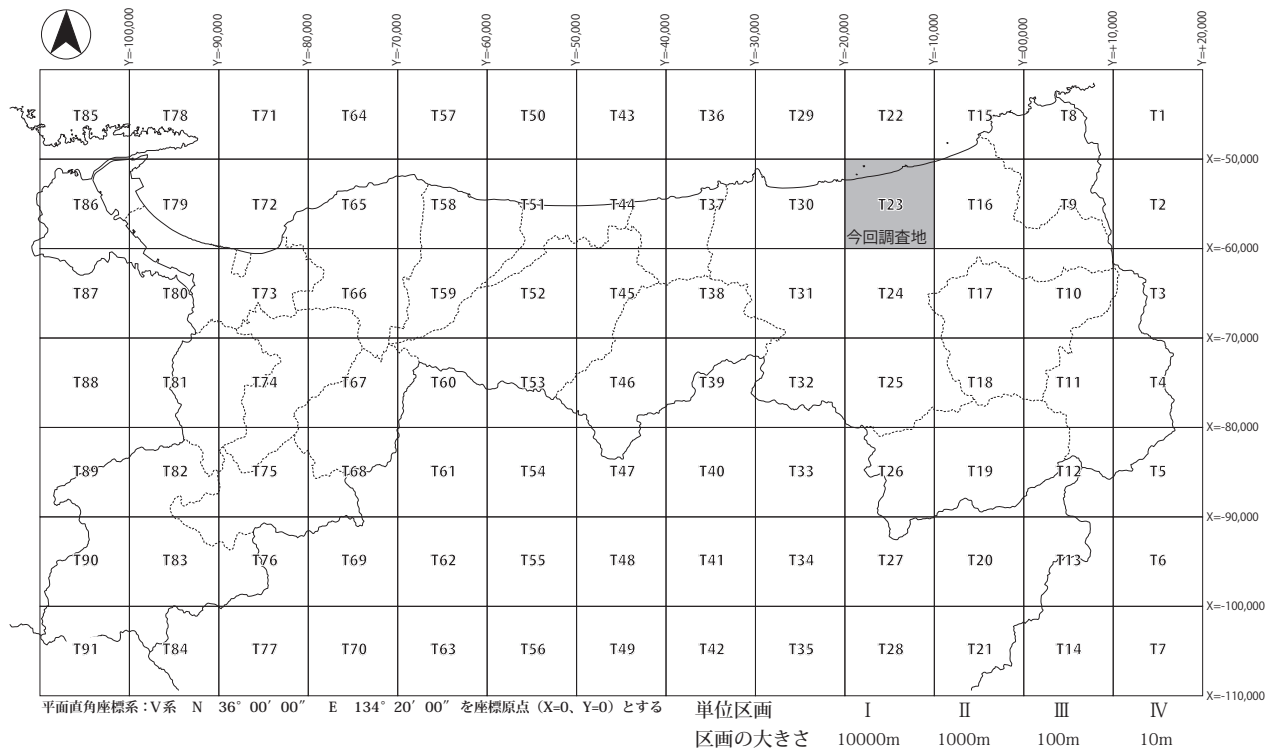
良田平田遺跡の調査範囲は、道路盛土部分のうち試掘調査で遺構、遺物が確認された丘陵裾の水田部であり、平成23年度は1区180 m<sup>2</sup>、2区3,170 m<sup>2</sup>、3区1,440 m<sup>2</sup>の計4,790 m<sup>2</sup>が、平成24年度は4区1,500 m<sup>2</sup>が調査対象となった。掘削は表土掘削を重機、包含層および遺構の検出・掘削は人力で行い、調査の記録作業は表土除去後を対象として行った。

#### (2) 遺構名称の設定

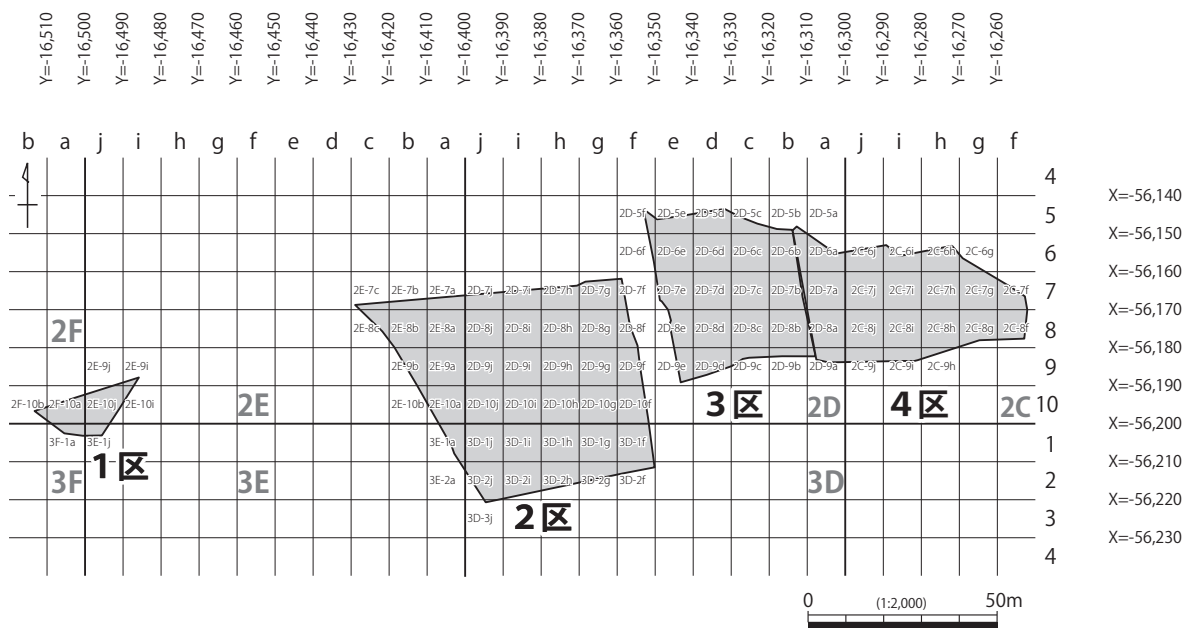
鳥取県教育委員会が鳥取県教育文化財団に委託した鳥取西道路関連の発掘調査では、検出順に遺構番号を付与することを基本方針としている。遺構名称は、遺構番号の後ろに検出された遺構の種別を組み合わせることで1土坑、2溝のようになるが、種別については、調査が進む中で変更されること



第III章 調査の方法



第7図 地区割 (グリッド) 概念図



第8図 調査地地区割図

もある。一方で、一度付与された遺構番号については不変であり、本書においても調査時に付与した遺構番号を用いて報告を行っている（平成 23 年度調査においては、耕地段差、擬似畦畔、足跡は種別ごとに遺構番号を付した）。ただし、現地調査時に遺構番号を付したものについても、調査の結果、攪乱や自然地形等であることが明らかとなった場合、欠番とした。

遺構の番号については、上述したように調査区が 4ヶ所に分かれていることから、遺構番号の前にそれぞれの調査区名の序数を付した。例えば、1 区で検出した 1 溝は「1001 溝」、2 区で検出した 2 ピットは「2002 ピット」、3 区で検出した 4 溝は「3004 溝」、4 区で検出した 7 土坑は「4007 土坑」などとした。なお、一部の遺構については調査後の整理検討を経て名称を変更したものがあり、それらについては表 1 に示している。

### (3) 図面記録および写真撮影

現地での記録作業は、支援業者の調査員と調査補助員、測量士が監理者の指示・確認を受けながら行った。

図面記録に関しては、平断面図はトータルステーションを用いた測量と写真計測を、対象遺構や壁面の状況によって使い分けている。調査地内の堆積をみるための主要な土層断面図や個別の遺構平・断面図は、トータルステーションを用いたデジタル測量とデジタルカメラを使用した簡易的な写真測量を行った。一部の平・断面図、立面図および遺物出土状況図は支援調査員、調査補助員が手測りで図化した。図面は個々の状況に合わせて 1/5、1/10、1/20、1/50、1/100 の縮尺で作成した。

作成した図面は、監理者の確認後に、現地での一次記録である〈素図〉として管理し、最終的には情報をデジタルデータとして整理・統合し、〈編集図〉を作成した。成果品としての編集図は、主にベクトルデータで構成され、イラストレーター CS4 以上での再編集が可能な形で保存(ai 形式)している。

写真の撮影は、撮影対象、範囲、アングル、使用機材等に関する発掘調査監理者の指示をもとに支援調査員が行った。撮影用機材としては、中型（6×7判）一眼レフカメラ、小型（35 mm 判）一眼レフカメラ、デジタル一眼レフカメラ（センサーサイズ APS-C 以上、有効画素数 1220 万画素以上）を併用し、対象によって機材を適宜選択しながら行った。また、中判・小型一眼レフカメラに使用したフィルムは、富士フィルム社 プロビア 100F（リバーサル）、富士フィルム社 ネオパン 100ACROS（黑白フィルム）である。

デジタル一眼レフカメラによる撮影は RAW・JPEG 形式の同時保存により行った。また、デジタル一眼レフカメラによる撮影は、写真撮影を行う全ての対象に対して行うとともに、撮影対象や日付などの撮影内容を記載した写真ラベルも合わせて撮影している。これにより、撮影した画像データを他のフィルムカメラの整理・検索用資料として使用できるようになり、写真記録管理用の〈写真台帳〉の作成時に有用なだけでなく、効率的な写真の管理・活用が可能となっている。

表 1 新旧遺構番号対照表

新遺構名	旧遺構名
3003溝	3003流路
3006溝	3006流路
掘立柱建物9	※構成ピットの再検討、修正
掘立柱建物13	※構成ピットの再検討、修正
掘立柱建物14	4区掘立柱建物1
掘立柱建物15	4区掘立柱建物2
掘立柱建物16	4区掘立柱建物3
掘立柱建物17	4区掘立柱建物4
掘立柱建物18	4区掘立柱建物5
掘立柱建物19	(新規)
掘立柱建物20	(新規)
掘立柱建物21	(新規)

#### (4) 出土遺物の取上げ

遺物の取上げには、鳥取県教育文化財団調査室が用意した遺物カードを使用した。取上番号は通し番号とし、遺物カードに記載された項目に基づいて遺物取上台帳を作成し、出土した遺物を取上げ、管理した。遺物カードの記載項目・内容は以下のとおりである。

**遺跡名** 「良田平田遺跡 11」、「良田平田遺跡 12」と記載。「11」、「12」は 2011、2012 年度に調査を実施したことを示す。さらに複数区で同時に調査を行うため、調査年度の次に出土した調査区を（1区）、（2区）、（3区）、（4区）と付した。

**地区名** 遺物の取り上げは、10 m×10 m のグリッドを基本とし、第 I～IV 区画で構成される地区割を記載した（第三章第 1 節（1）参照）。

**層位名** 遺物が帰属する包含層や遺構内に堆積した層位の番号ないし名称を記載した。

**遺構名** 遺物が帰属する遺構の名称を記載した。

**取上No.** 取上げ順に通し番号を記載した。

**出土年月日** 検出日ではなく、取上げ日を記載した。

**図面** 遺物の出土状況が記録された図面（微細図）の有無と図面のスケールを記載した。

**備考** 特記事項を記載した。

**時代・時期** 取り上げた遺物の帰属時期を記載するが、この度の調査では記載を省略した。

**種別** 土器や木器など素材によって大別される遺物の種別を記載した。

**その他** 上記の記載項目とは別に、座標値を記録して取上げたものについては、遺物カードのメモ欄に座標値を記載した。

#### (5) 出土遺物の整理と記録

出土遺物については、現地での取上げ後、鳥取県教育文化財団美和調査事務所に持ち帰って、以下のような整理作業を行っている。

**土器、土製品** 調査終了後に洗浄、接合、注記（マーキング）、復元、実測を行った。器種、形状が判明ないし復元できる個体を実測の対象としたが、3区・4区は出土量が膨大であるため、遺構の帰属時期を示すものを中心に選別、抽出した。墨書土器については独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所の受託調査研究等で撮影した赤外線写真の画像も参考に実測を行った。

**石器** 調査終了後に洗浄、接合、注記（マーキング）、実測を行った。本調査の出土品は、器種や用途が判明できるもののほか、使用痕が明瞭な個体について実測の対象とした。

**木製品** 調査終了後に洗浄、実測を行った。木製品も溝状遺構を中心に大量に出土したため、器種や用途が推定できる資料のうち遺存状況が良好なもの、または特徴的な加工が施されているものを実測の対象とした。木簡のうち、墨書部分は独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所の受託調査研究等で撮影した赤外線写真の画像及び積読結果を参考に直接デジタルトレースした。

**金属製品** 調査終了後、近年のものと判断されるものを除き実測を行った。

**写真撮影** 以上の出土遺物を対象に、デジタル一眼レフカメラ（センサーサイズ フルサイズ）で撮影を行った。

**保管** 図面、写真の記録類、出土遺物はすべて台帳に登録して収納作業を行った。

## 第IV章 1区の調査成果

### 第1節 立地と基本層序

当調査区は、湖山池から約350m南へ入った場所に位置する。立地は湖山池畔に広がる丘陵裏を東西方向に延びて湖山池に取り付く開析谷があり、その開析谷の南にそびえる丘陵（標高約80m）北裾部の小開析谷内にあたる。この小開析谷は近世以降の耕地開発によって棚田状に地形が改変されており、調査区内には上下2枚の水田面が残存し、調査区のはほぼ中央を東西方向に溝を伴う段が走る。旧地形を復元すると谷芯は南西－北東方向に指向して北側に広がる開析谷に取り付く。現地盤高は谷奥にあたる上段調査区南側で5.4～5.7m、開口部の北側で4.7～5.2mを測る。

前述したように当調査区は、丘陵から派生する小開析谷内に立地することや、小開析谷が近世以降の水田耕作のための開発によって棚田状に地形が改変されていたことから、地層は南から北に向かって厚く堆積する。

当調査区は半月形の平面を呈していたことや調査区内に段を持つことなどから、調査区の周囲と中央部に地層観察用のトレンチを設定して観察を行った。その結果、概ね3層に大別することができた（第9・10図、PL.3）。

**第1層** 表土層および旧耕土層直下に堆積する層であるが、後世の削平により調査区北半部に堆積が認められる。偽礫(0.5～1cm)を含む灰白色中砂～シルト混じり粗砂層を基本とする土壌化層である。層厚は0.05～0.1mを測る。瓦質土器、陶器、土師器、須恵器の細片が出土した。室町時代の層である。

**第2層** 偽礫を多く含む暗緑灰色中砂混じりシルトの締まりのよい土壌化層を基本とする。層厚は0.1～0.2mを測る。谷芯部である調査区の北東部のみに堆積が認められる。須恵器や土師器の細片に加えて土錘が出土した。須恵器の時期から平安時代に比定される。

**第3層** 暗青灰色粗砂～シルト混じり中砂層である。谷芯部である北東部を中心に堆積が確認できた。古墳時代後期から奈良時代までの須恵器や土師器片が出土した。

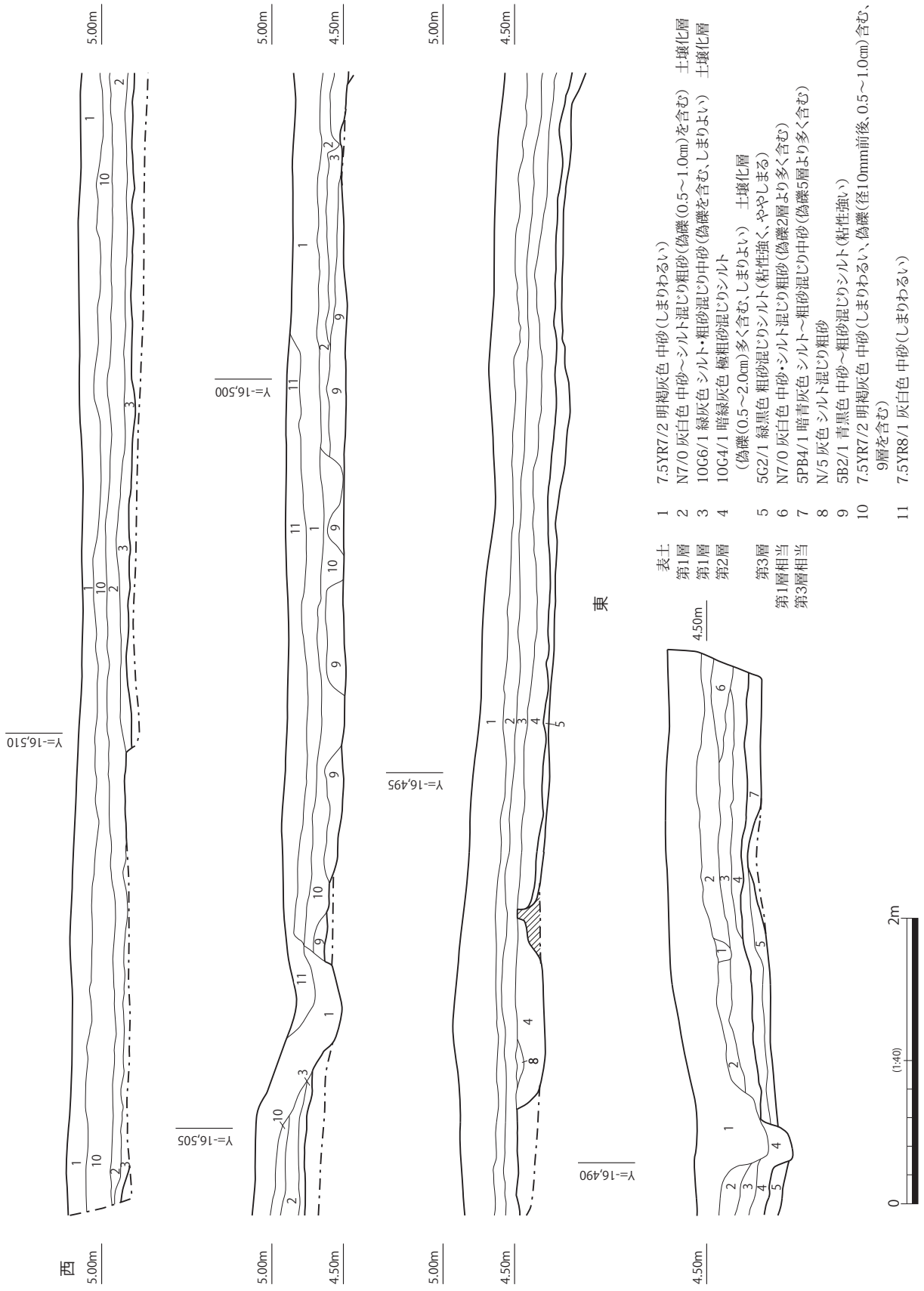
### 第2節 遺構と遺物

#### (1) 第1層下面

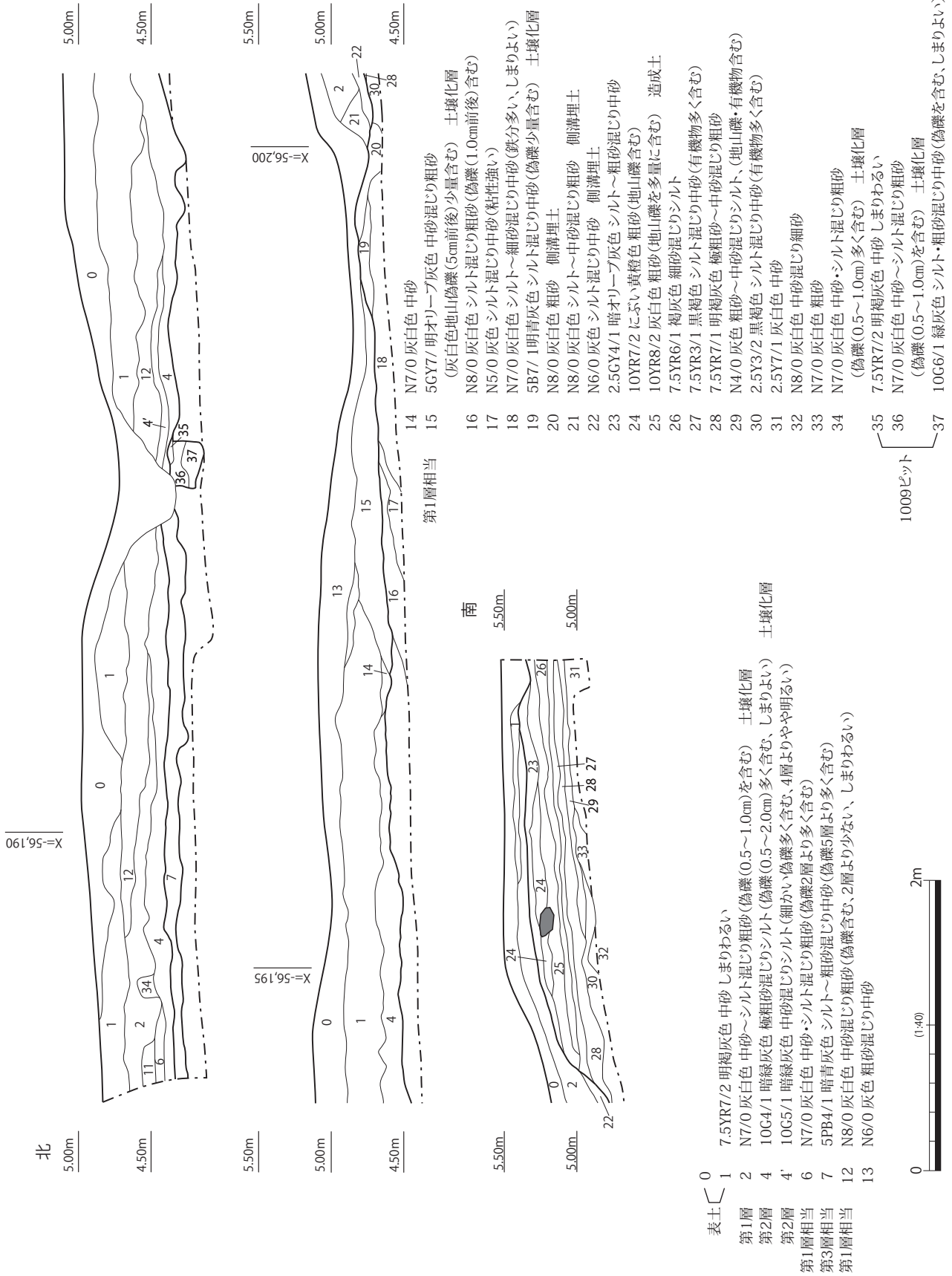
第1層を除去して検出したが、遺構は検出されなかった（第11図）。標高は上段部で5.3m、下段部で4.3mを測る。第2層は耕土層であり、水田遺構面と考えられる。第1層からは土師器甕（第18図1・2）が出土した。1は外反する頸部を持ち、口縁端部は丸く収める。体部内面はヘラケズリ調整を施している。口径は16.2cmを測る。2は受け口状の口縁で、端部は面を持つ。口径は19.8cmを測る。

#### 第2層出土遺物（第18図、PL.106）

第2層から須恵器坏底部（3）や管状土錘（8）が出土した。3は底径7.4cmで回転糸切り痕が残る。8の管状土錘は土師質で紡錘形を呈し、全長3.7cm、径0.9cm、穿孔径0.3cmを測る。



第9図 1区北壁 断面図

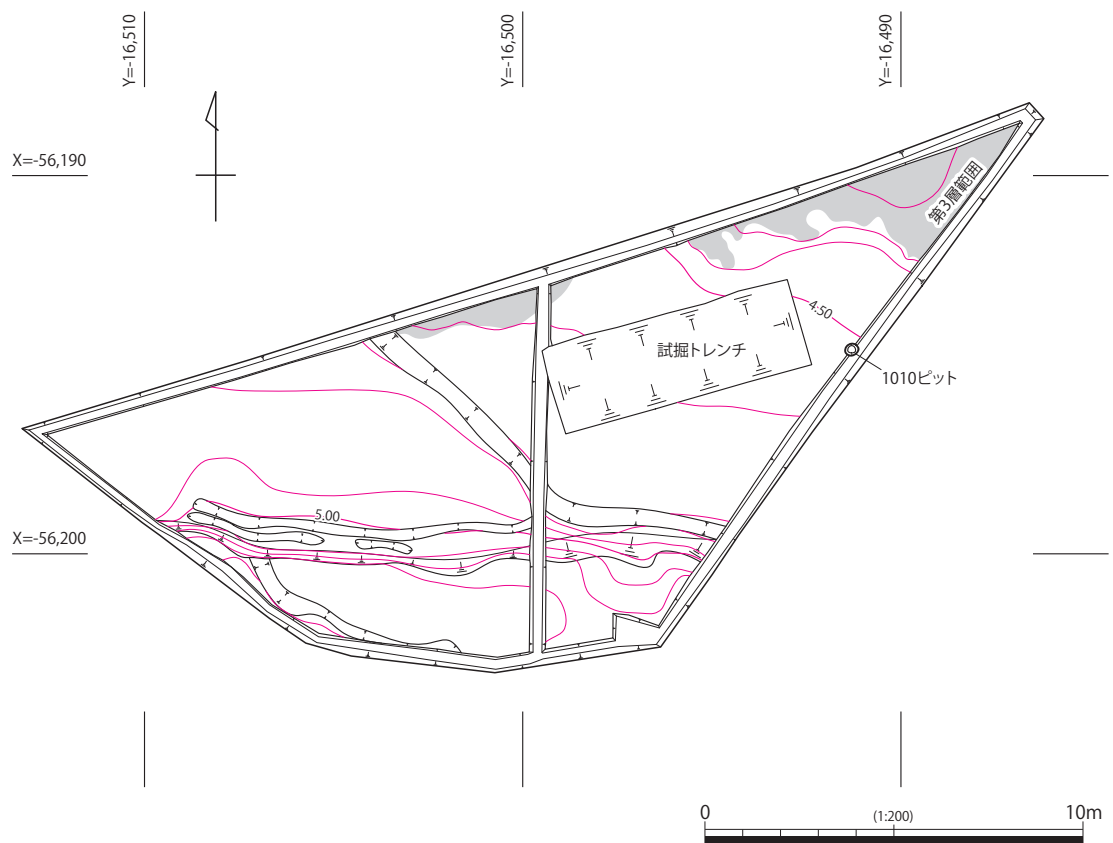


第10図 1区東壁 断面図

第IV章 1区の調査成果



第11図 1区第1層下面 全体図



第12図 1区第2層下面 全体図

(2) 第2層下面

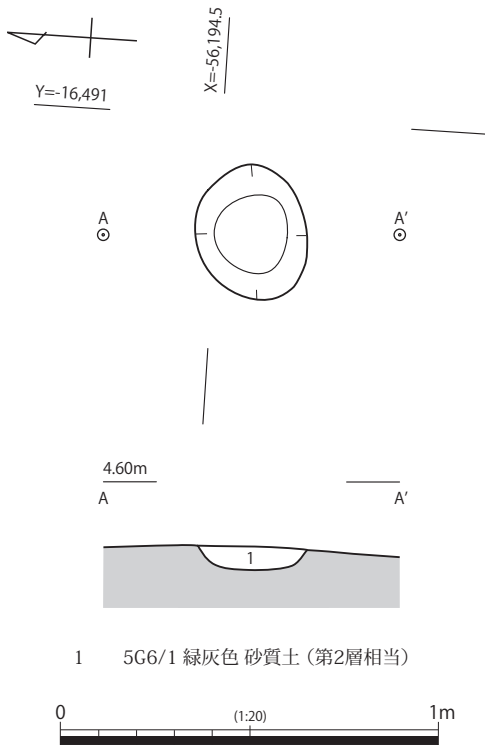
当該遺構面は調査区北東部に残る第2層を除去して検出した(第12図)。

1010ピット(第13図)

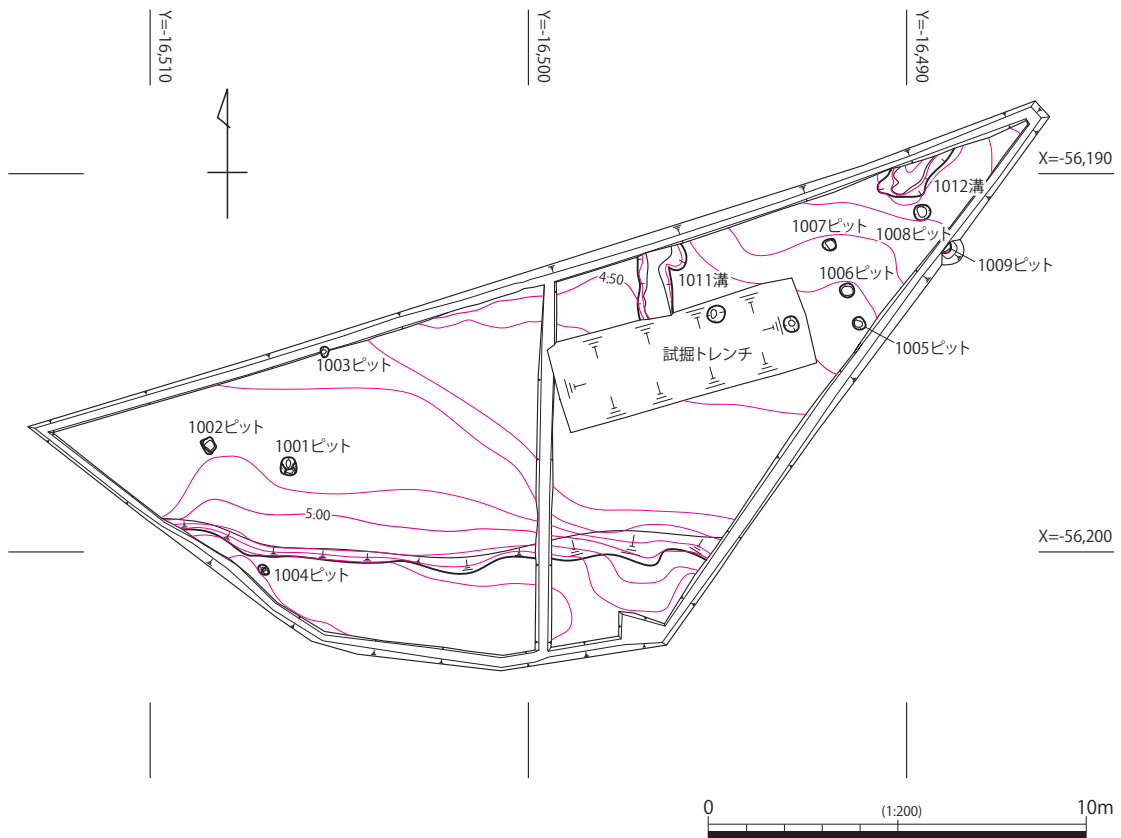
調査区南辺部で検出したピットで、直径0.3m、深さ0.05mを測る。埋土は緑灰色砂質土の単層である。遺物は出土しなかった。

第3層出土遺物(第18図、PL.106)

基本層序でも述べたが、第3層は谷芯部である調査区北東部を中心に堆積する。層中からは古墳時代後期から奈良時代までの須恵器や土師器片が出土したが、図示できたのは須恵器坏底部(4・5)2点であった。4は底径7.0cmで断面台形の高台を貼り付け、体部は内湾しながら立ち上がる。5は底径8.6cmを測る。断面台形の高台を貼り付け、底部外面にはヘラ記号が見られる。8世紀中葉の所産である。



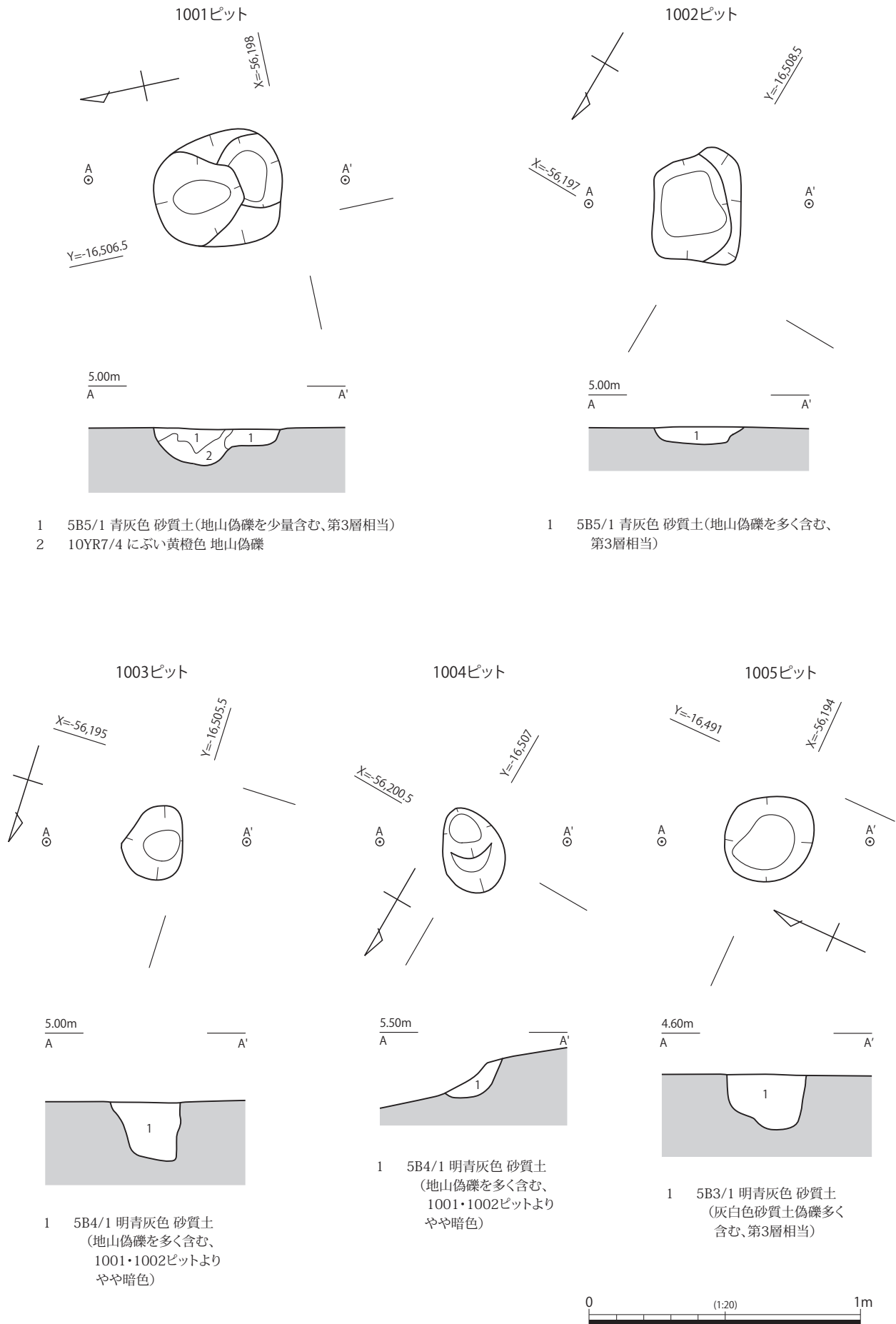
第13図 1010ピット 平・断面図



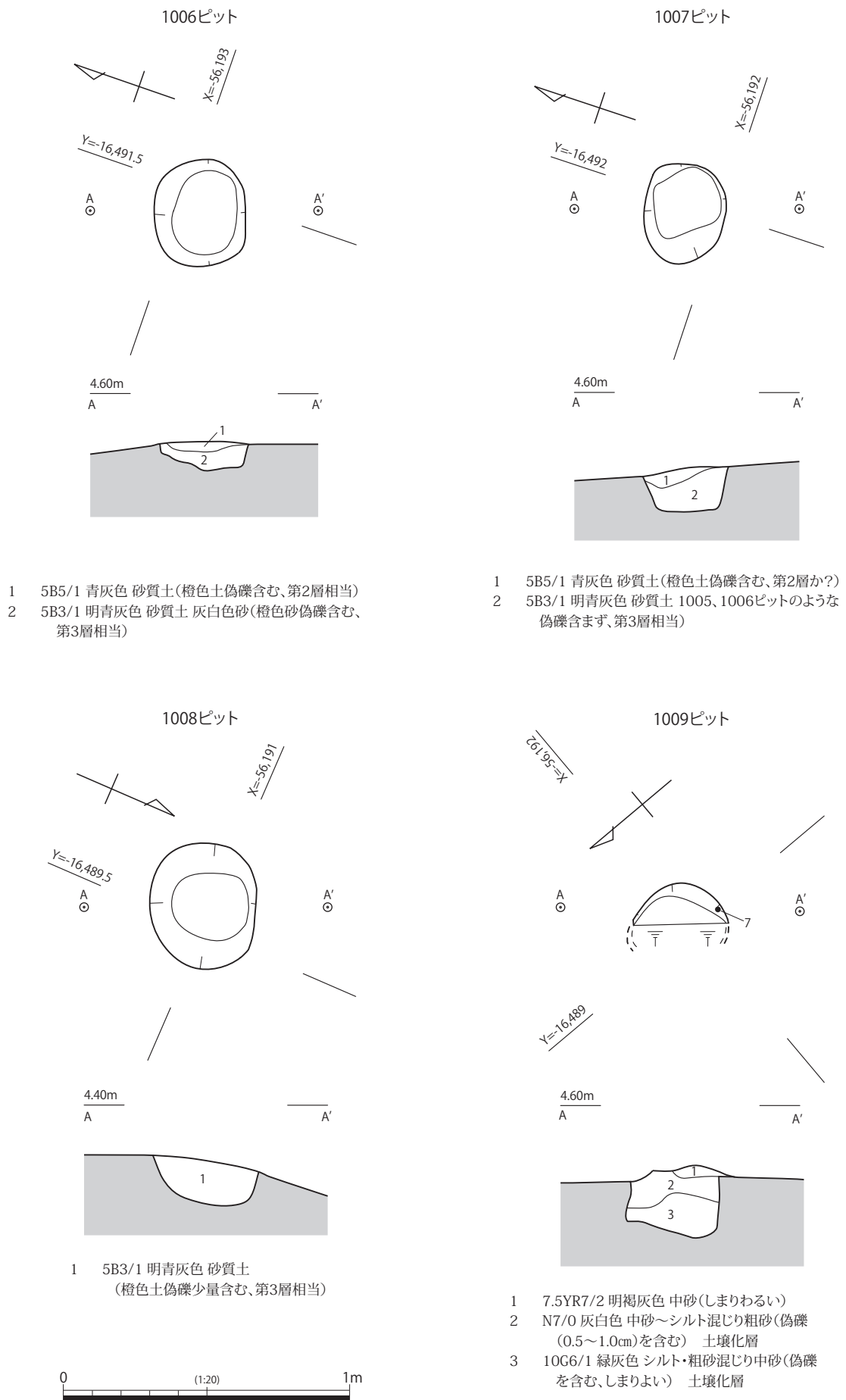
第14図 1区第3層下面 全体図



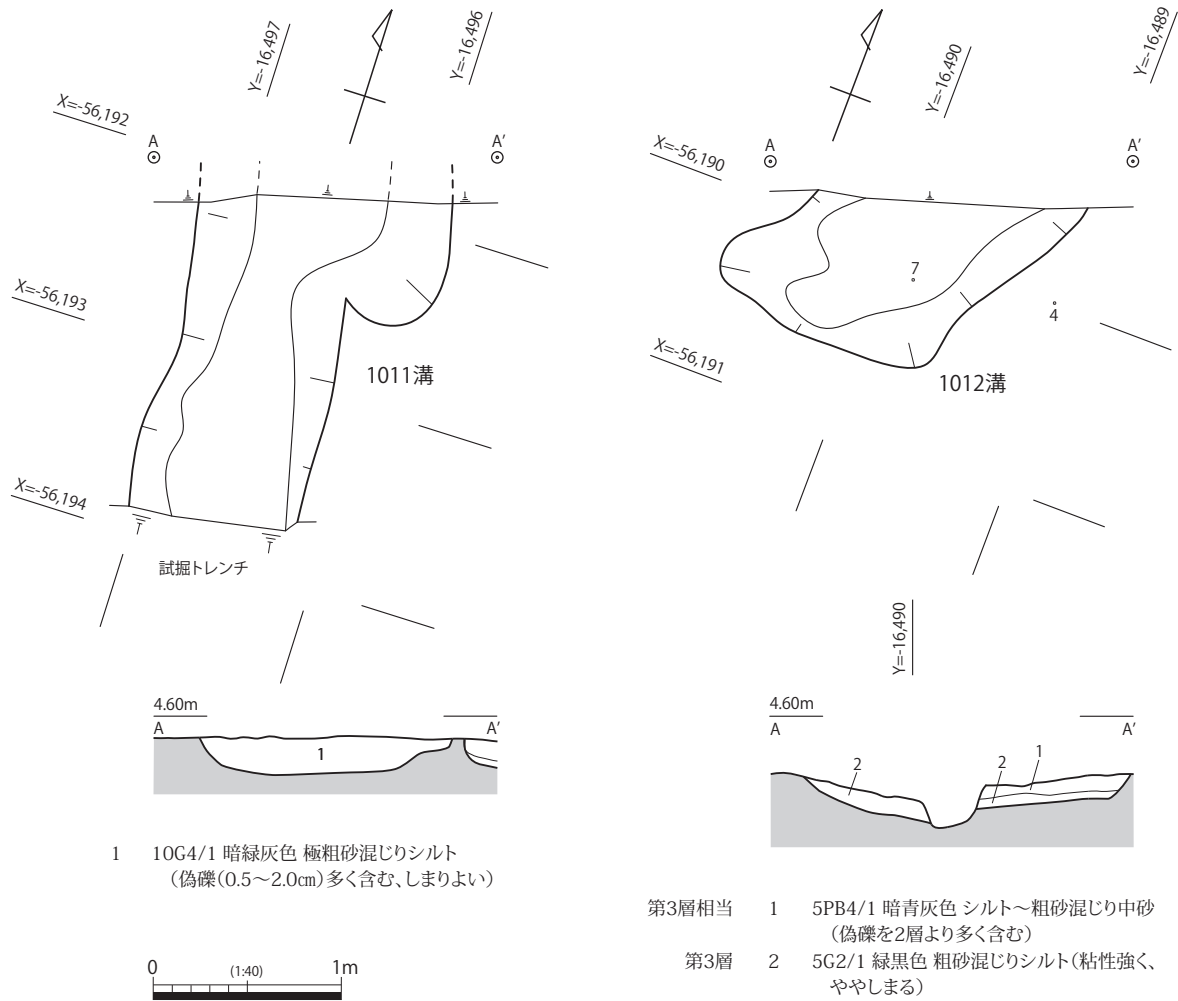
第IV章 1区の調査成果



第15図 1001～1005ピット 平・断面図



第16図 1006～1009ピット 平・断面図



第17図 1011溝・1012溝 平・断面図

### (3) 第3層下面

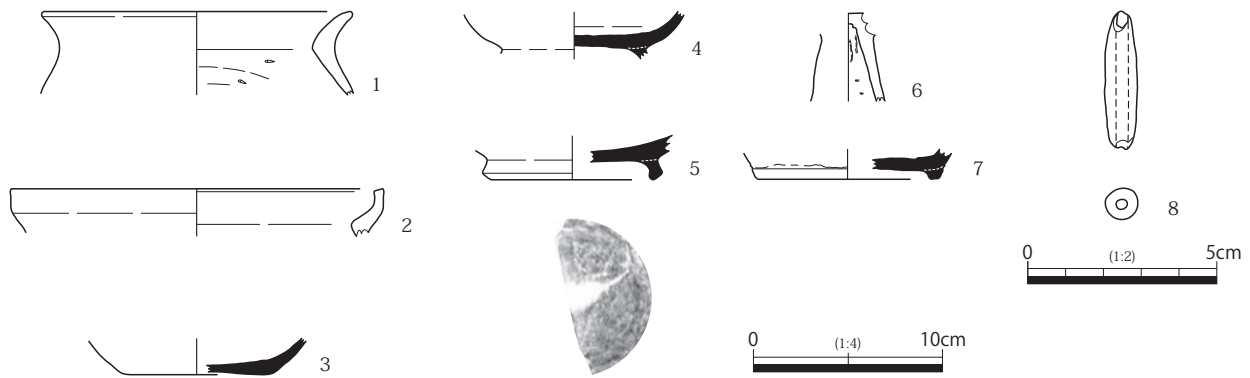
第3層下面は最終遺構面であり、遺構面は南西から北東方向に傾斜する。標高は4.1～5.4mを測る。検出した遺構はピット11基、溝2条などである(第14図、PL.4)。

#### 1001～1009ピット(第15・16図、PL.4・106)

11基のうち調査区西半部で検出した4基は第1層除去後に検出したが、埋土の状況から第3層下面に帰属すると判断した。さらに、東半部で検出したピットのうち2基は鳥取市の試掘調査時に検出されたもの〔鳥取市教育委員会2009〕である。ピットはいずれも円形または隅丸方形を呈し、直径は0.3～0.5m、深さ0.1～0.3mを測る。埋土は1001・1009ピットを除いて第3層相当の地山ブロックを少量含む青灰色もしくは明青灰色砂質土であるが、1006・1007ピットは上層に第2層相当の砂質土が入る。1001ピットは上層に第3層相当層が、下層には地山偽礫が入り、層境は踏み込み状に乱れる。1009ピットは調査区端の壁際で検出した。上層は明褐色のしまりの悪い中砂が、中層は灰白色中砂～シルト混じり粗砂層が、下層には緑灰色シルト・粗砂混じり中砂層がそれぞれ堆積する。土師器高坏筒部(第18図6)が出土した。

#### 1011溝(第17図、PL.4)

調査区北辺中央部で検出した。溝はほぼ南北を指向し、南端部は後世の耕作に伴う削平によって失



第18図 1区出土遺物

われたと考えられる。北端部は調査区外に延びる。規模は幅0.9～1.3m、深さ0.2mを測る。溝埋土は単層で極粗砂混じりシルト層で偽礫を多く含む。

### 1012溝 (第17図、PL.4)

調査区北辺東端部で検出した。南西－北東方向を指向し、溝南端部は後世の耕作に伴う削平で失われる。北端部は調査区外に延びる。規模は幅1.0m、深さ0.2mを測る。溝埋土は第3層が入る。埋土から須恵器坏底部(第18図7)が出土した。7は底径4.8cmを測り、底部端部に断面台形状の高台が取り付く。

## 第3節 小結

当該調査区は、東西方向に延びる丘陵裾部にある小開析谷が北側に開口する位置に立地する。遺構面は3枚検出したが、後世の耕作に伴う開発によって削平を受けており、残りは悪かった。第1層下面は畦畔等の遺構は検出されなかったが耕作面と考えられる。第2層下面は耕土層である第2層直下の遺構面でピットを1基検出した。第3層下面はピット11基と溝2条を検出した。遺物は8世紀中葉の遺物が出土しており、この小開析谷における開発が奈良時代に求められることがわかった。このことは他調査区での成果とも齟齬を来さないことから、良田平田遺跡周辺の谷の開発が大規模に行われたことを示唆する。

## 第V章 2区の調査成果

### 第1節 立地と基本層序

2区は湖山池の南岸から約300m南へ入った地点にある。調査地は南から延びる開析谷の開口部に位置し、2区の北側で西から延びる開析谷と合流して湖山池へ取り付く。2区の東側には3・4区がある小開析谷が取り付く。

開析谷を横断する調査区は東西約60～70m、南北約50～55mの3,170m<sup>2</sup>を測り、南から北へと傾斜する。なお、調査区内の西半部は現代の圃場整備によって包含層および遺構面は削平を受けており遺存していなかった。さらに、調査区西側にある丘陵裾部も耕地拡幅のため掘削したものと思われ、客土直下で地山が検出された。当該調査区における包含層は3層に大別できた(第19～21図、PL.5)。

**第1層** 現地盤は標高4.2～5.3mを測る。現代の昭和47年以降に行われた圃場整備によって地盤が大幅に改変される。表土層直下には最大厚0.6mの客土層が堆積しており、重機による掘削を行った。第1層は客土層直下に堆積する明黄褐色中砂・シルト混じり細砂層を基本とする近世以降の耕土層である。層厚は0.2～0.5mを測る。

**第2層** 当該層は中世の耕土層で4層に細分されるが、4層間に自然堆積層は認められず連続して堆積する。後世の削平により調査区東半部にのみ遺存する。上層の第2-1層は暗灰色粗砂混じりシルト層である。土壌化が著しいが遺構面の上面は第1層段階の耕作によって削平を受ける。層厚は0.1～0.2mを測る。第2-2層は黒色中砂混じりシルト層で、2層の中で最も安定した土壌化層である。層厚は0.05～0.2mを測る。第2-3層は黒色極細砂混じりシルト層である。第2-2層の耕作時による攪拌で削平されており、調査区南東部にのみ確認できた。第2-3層下面は耕作時にできたウシの足跡痕が無数に残る。層厚は0.1mである。第2-4層は暗灰黄色粗砂・中砂混じりシルトで第2-3層が遺存する調査区中央東半部の下層に残る。第2-3層がマーブル状に入っているのが看取できたが、これは、第2-3層耕作時のウシの足跡が及んだためと考えられる。

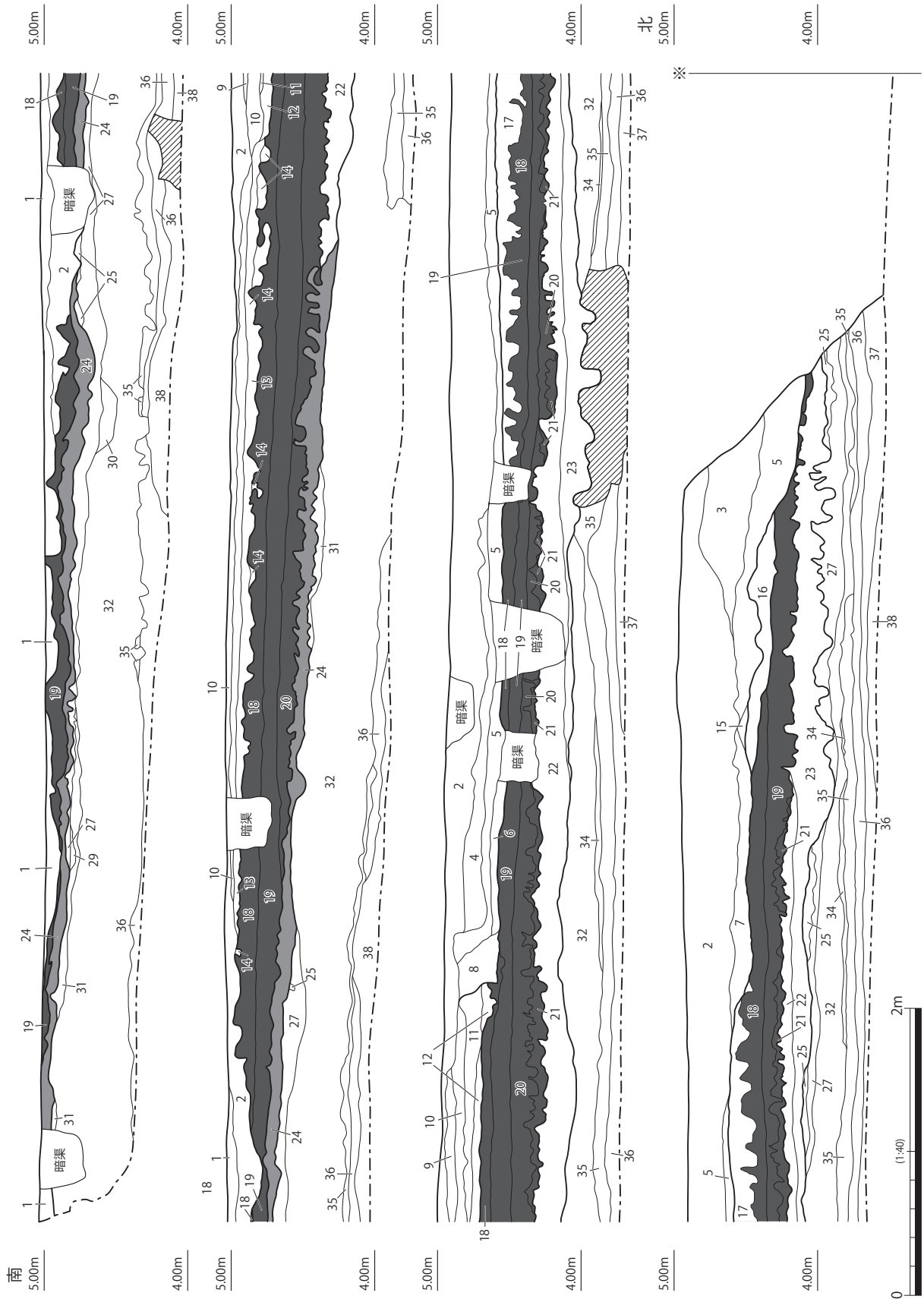
**第3層** 当該層は古代の耕土層で、褐灰色細礫・極粗砂混じりシルトを基本とする。層厚は0.1～0.2mを測る。層は調査区東半部に分布する地形に沿って南から北へと傾斜して堆積する。層の上面は第2層の耕作時の攪拌によって削平を受けていた。

**第4層** 当該層は自然堆積層である。数10cmの洪水砂層の堆積の下層に泥炭層と洪水砂層の互層が堆積する。

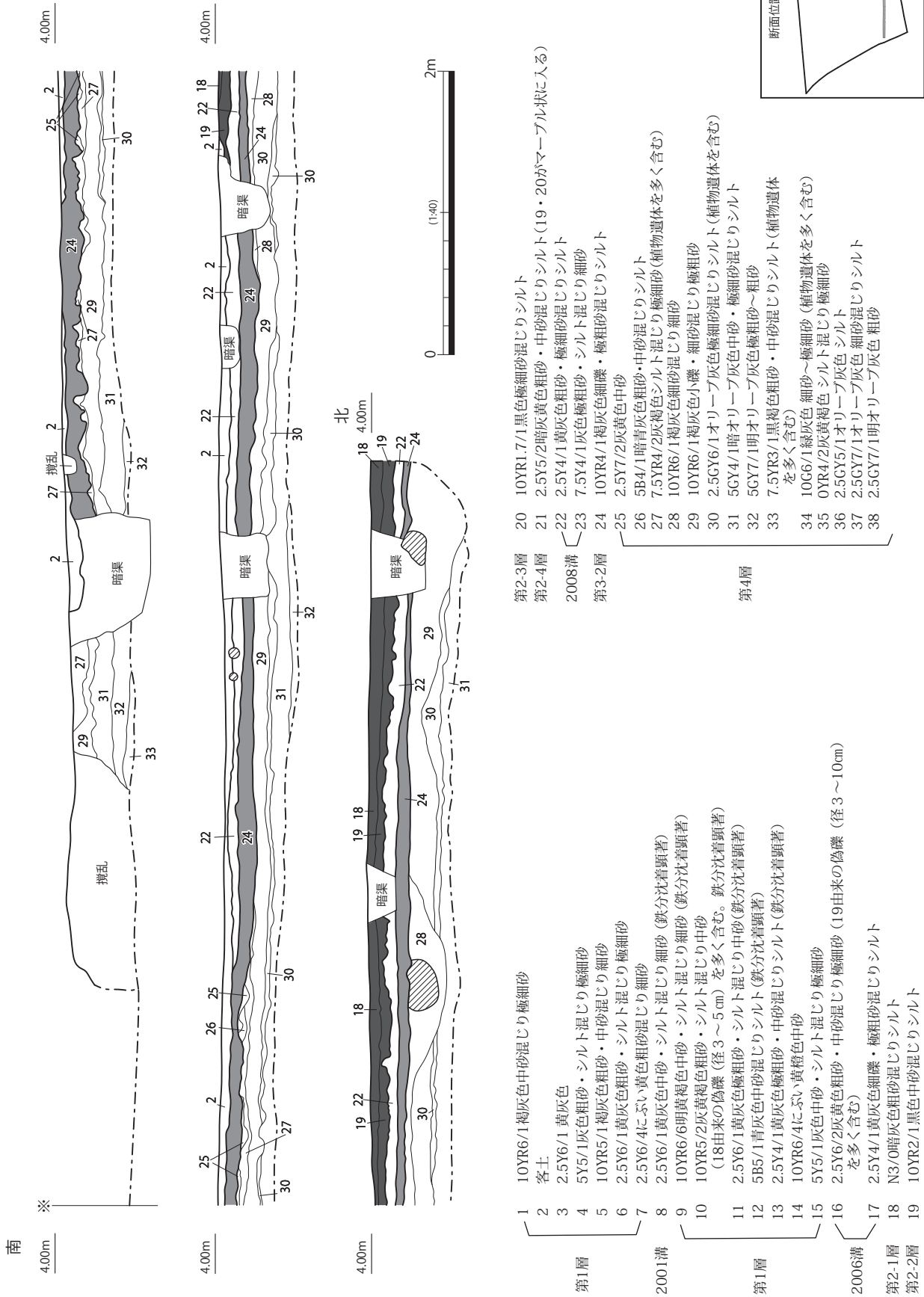
### 第2節 遺構と遺物

基本層序でも述べたが、2区は南から北へ延びて湖山池に取り付く開析谷内に位置することから、地形は南から北へと傾斜する。しかし、調査区北半部の大半と南半部の東側は圃場整備時に行われた大規模な掘削作業によって包含層及び遺構面が削平されていた。特に調査区東側は丘陵裾部を削り込んで耕地を拡幅していたことが看取できた。さらに削平した土砂を客土として利用して盛土整形を



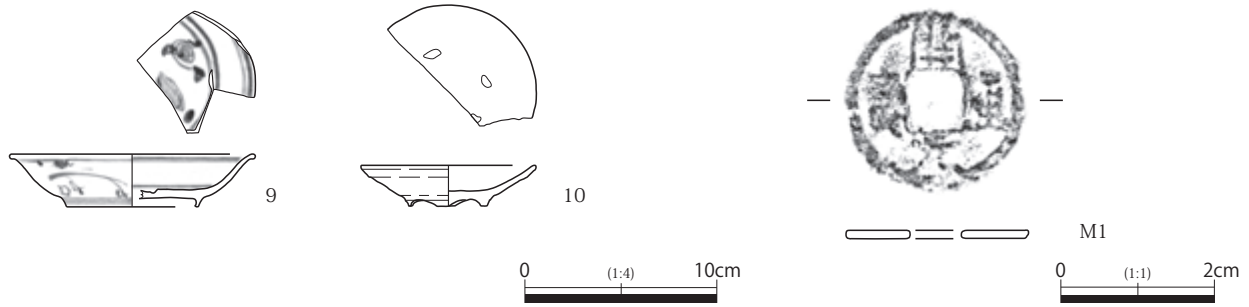


第20図 2区 Y=-16,370 ライン 断面図 (1)



第21図 2区 Y=-16,370 ライン 断面図 (2)





第22図 攪乱・第1層出土遺物

行って広面積を持つ田面の確保が計られていた。

**客土及び攪乱出土遺物（第22図、PL.106）**

第22図9は染付の小皿である。15世紀後葉～16世紀初頭の所産である。第22図10は白磁皿である。外反する口縁をもち、見込み部には砂目痕が残る。高台は切り込み高台である。高台部まで施釉される。

**第1層出土遺物（第22図、PL.185）**

当該層から染付、陶磁器、白磁、須恵器、土師器、瓦質土器、土錘などのほかに銭貨が1点出土した。M1は開元通寶（621年初鑄）である。直径2.4cm、厚さ0.1cm、重さ2.3gと、初鑄銭と比較して規模が小さいことから後鑄銭と考えられる。

**（1）第1層下面**

近世耕土層（第1層）を除去して検出した中世の耕作面である。第23図上に示した第2層残存部分以外は圃場整備による削平を受けていた（第24図、PL.6）。

**2001溝・2015溝・2016段（第25図、PL.7）**

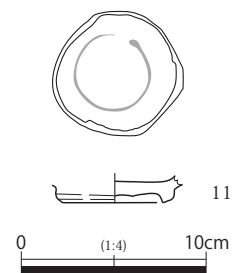
調査区南東部で2015溝と2016段を検出したが、畦畔は削平を受けており検出されなかった。溝は南西から北東方向に湾曲した後、東へ向きを変える。2016段は溝の北側約10mの地点を溝と同様湾曲しながらはしるが、第1層上面遺構である2001溝に切られる。この2015溝は畦畔際に構築されたもの、また、2016段は棚田状に造られた水田の段差によるものと推測できる。従って、圃場整備が行われる以前の水田面の形状は、谷部の地形に則した弧状を呈し、棚田状に段が構築されていたと考えられる。遺構面の標高は4.0～5.0mである。

遺構面上で青磁碗（第23図11、PL.106）が1点出土した。11の青磁碗底部は削り出しの高台を持ち、見込み部に圏線状の文様を施す。底径は6.2cmである。14世紀後葉から15世紀前葉の所産である。

なお、上述した青磁碗や後述する第2層の遺物から遺構面の時期は13～15世紀に比定される。

**第2-1層出土遺物（第26図、PL.106）**

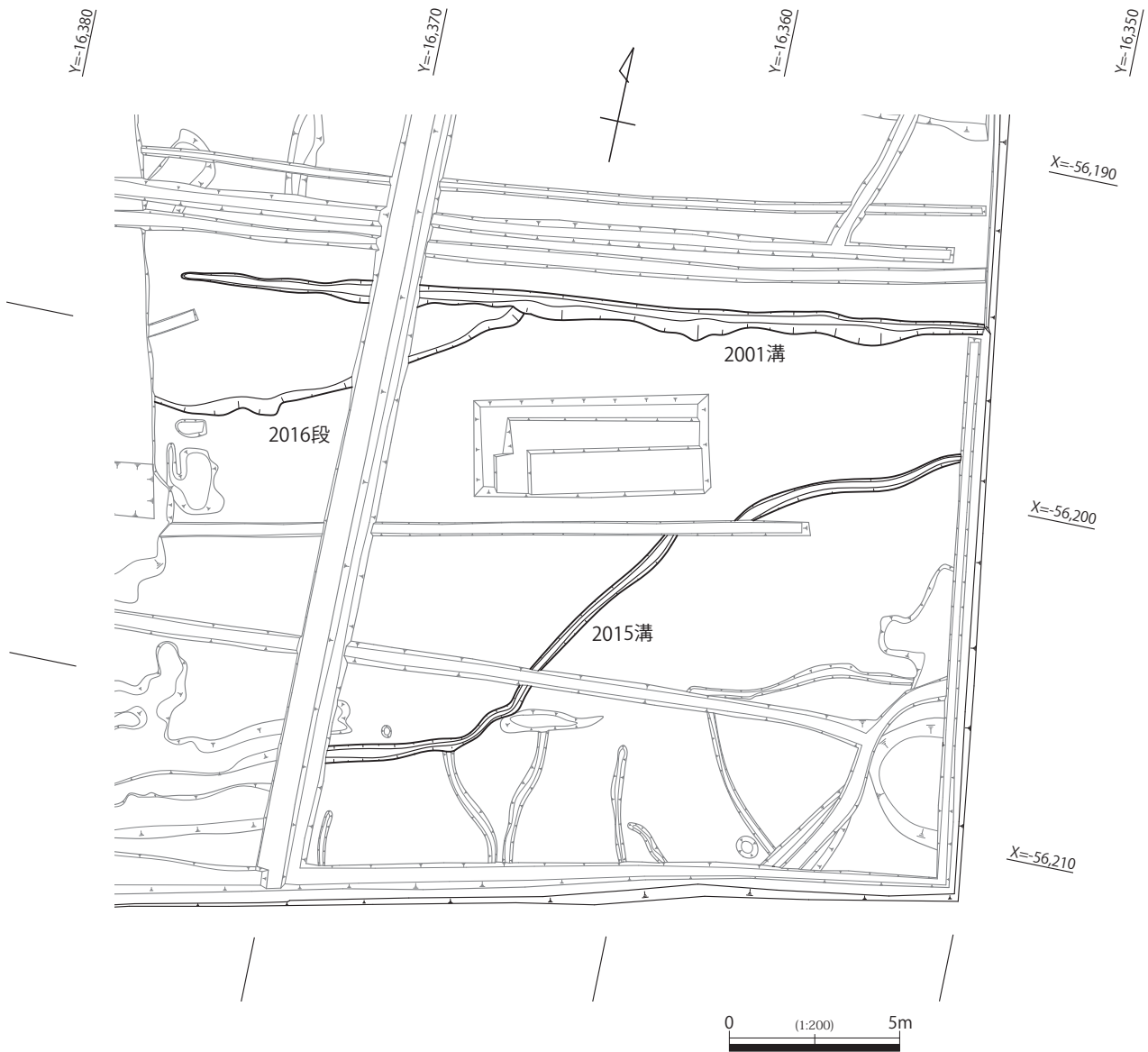
当該層は中世耕土層である。出土した遺物は青磁碗（12）、弥生土器甕（13）、土錘（14）などである。12は青磁碗体部である。口縁部は外反して端部は面を持つ。復元口径は13.4cmを測る。口縁



第23図 第1層下面出土遺物



第24図 2区第1層下面 全体図

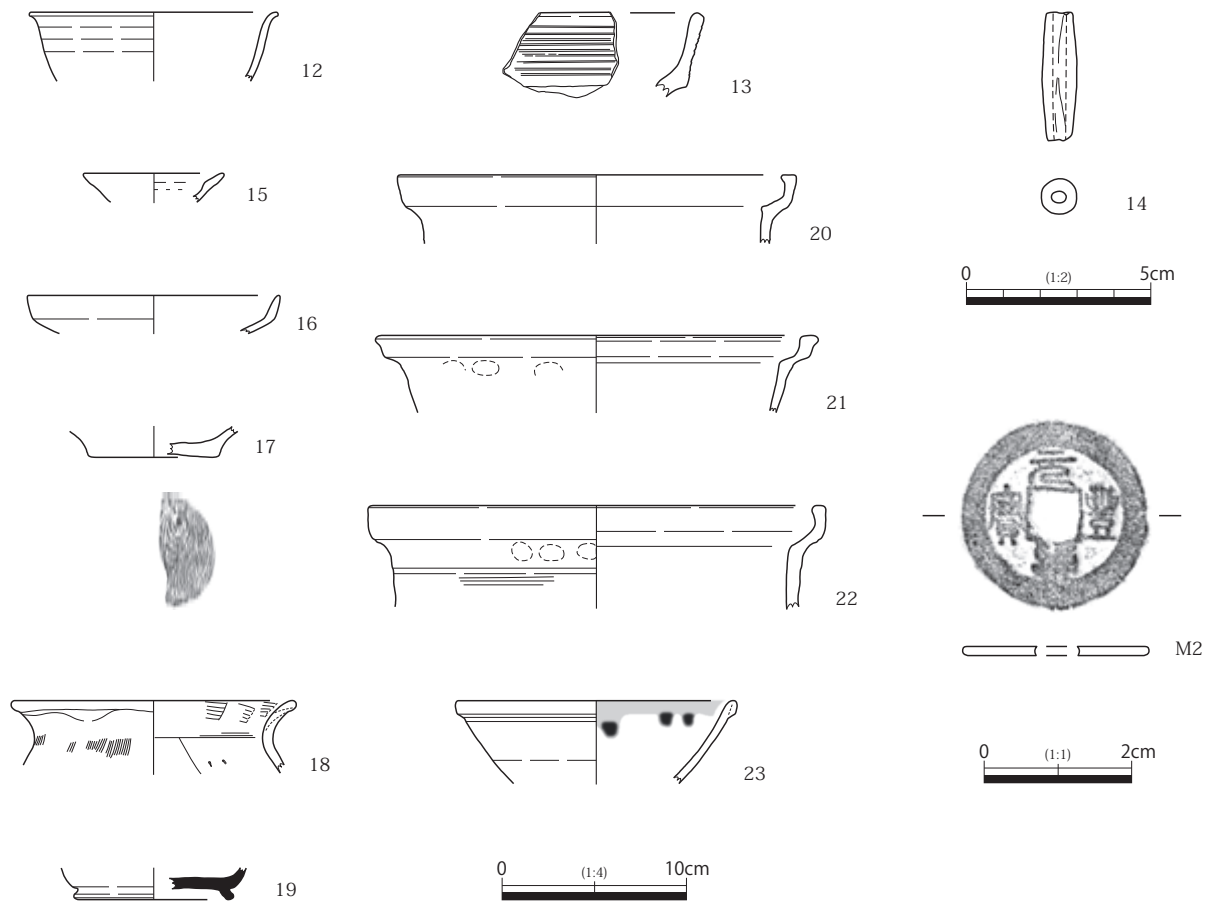


第25図 2001溝・2015溝・2016段 平面図

部を除く破断面三方向に漆継ぎの痕跡が残る。13は弥生土器の甕である。耕作時の巻き上げによるものと考えられるが、当調査区内で弥生時代後期の遺構は検出されなかったため、調査地周辺に遺構の存在が想定される。14は土師質の管状土錘である。長さ3.5cm、幅0.9cmを測る。

**第2-2層出土遺物（第26図、PL.106）**

当該層は中世耕土層である。出土した遺物は土師器（15～18）、須恵器（19）、瓦質土器（20～22）、白磁碗（23）、銭貨（M2）などである。15は手捏ねの小皿である。外上方に広がる口縁を持つ。復元口径は7.1cmを測る。16は手捏ねの皿である。やや外上方に立ち上がる口縁を持つ。17は皿底部である。底部外面に回転糸切り痕が残る。12～13世紀に比定される。18は甕口縁部である。口縁部は外反し、端部は丸く収める。体部外面は縦方向のハケ調整、内面はヘラケズリ、口縁部はナデの後、内面ハケ調整を施す。19は須恵器高台付坏底部である。外面に回転糸切り痕が残る。20～22はいずれも受け口状口縁をもつ瓦質の鍋口縁部である。13世紀の所産である。23は白磁碗である。玉



第26図 第2層出土遺物

縁状の口縁を持つ。11世紀後葉から12世紀前葉に比定される。M2は北宋銭の元豊通寶(1078年初鑄)である。直径2.6cm、厚さ0.1cm、重さ3.82gである。

## (2) 第2層下面

中世の第2層耕土層を除去して検出した。検出した遺構は耕作に伴うと考えられる溝6条と段である(第27図、PL.7)。なお、遺構面の標高は3.7～4.9mである。

### 2002溝～2007溝(第28・29図)

溝はいずれも調査区南東部に位置し、南から北方向に走る。溝の規模は幅0.15～0.45m、深さ0.05～0.2mであるが、2007溝は断面「U」字形を呈するのに対して、それ以外の2002～2006溝は断面矩形をなす。さらに2006溝は二段掘りがなされていた箇所がある。また、溝埋土は、2006溝以外は流水堆積層が堆積するのに対し、2006溝は最下層には流水堆積層が認められたが上層には第2層が入る。

### 2017段(第27図)

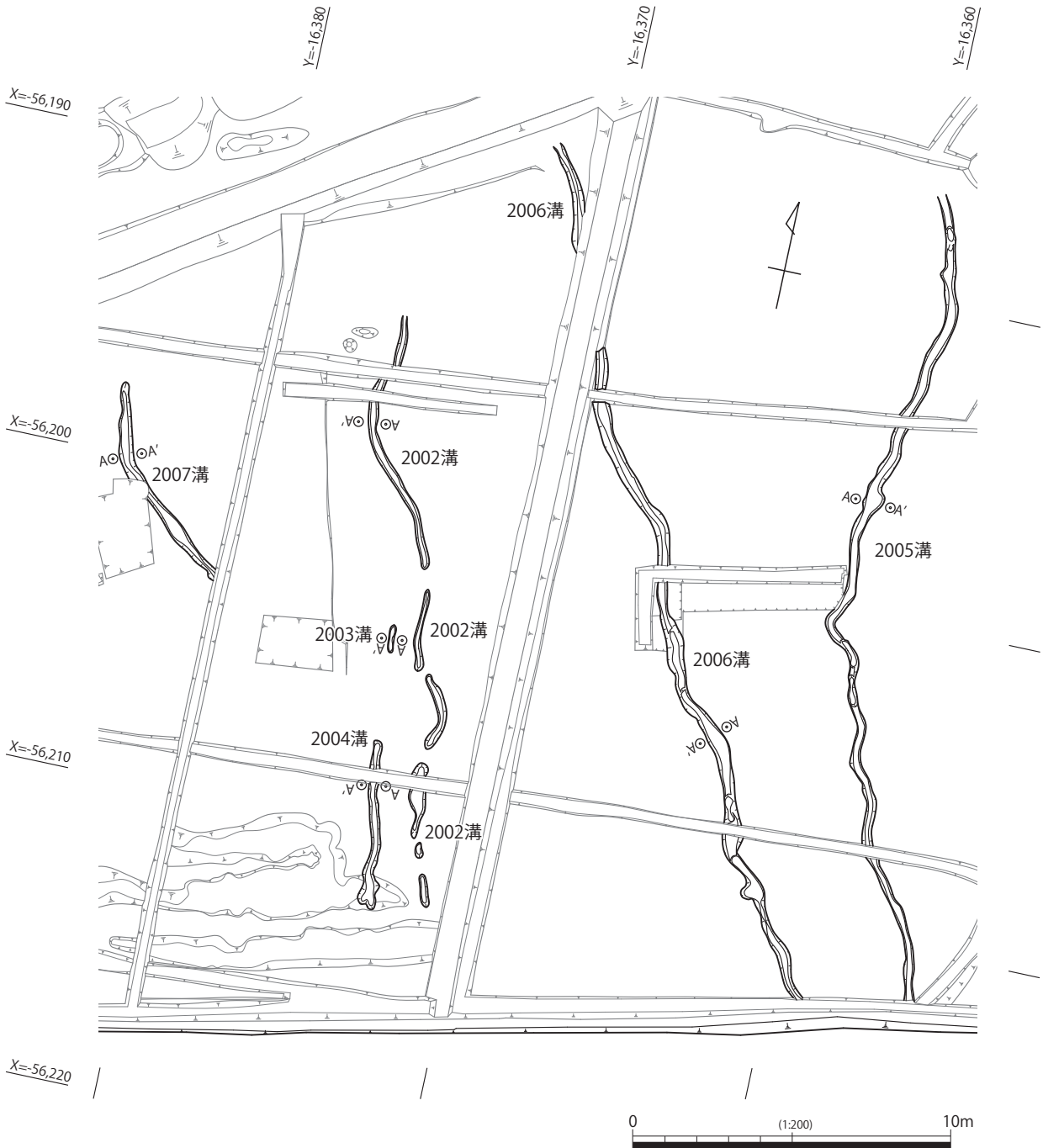
調査区北東部では水田段差と考えられる2017段を検出した。段差は3～10cmの比高を持つ。

### 第3層出土遺物(第30図、PL.107)

当該層から土師器(24)、須恵器(25)、弥生土器(26～28)、木製品(W1～W3)、石製品(S1)などが出土した。24は小形の皿底部で外面に回転糸切り痕が残る。25は坏身で6世紀中葉の所産である。26・27は共に弥生時代後期後葉の甕である。26は受け口状の口縁をもつ。27は甕体部片で外



第27図 2区第2層下面 全体図

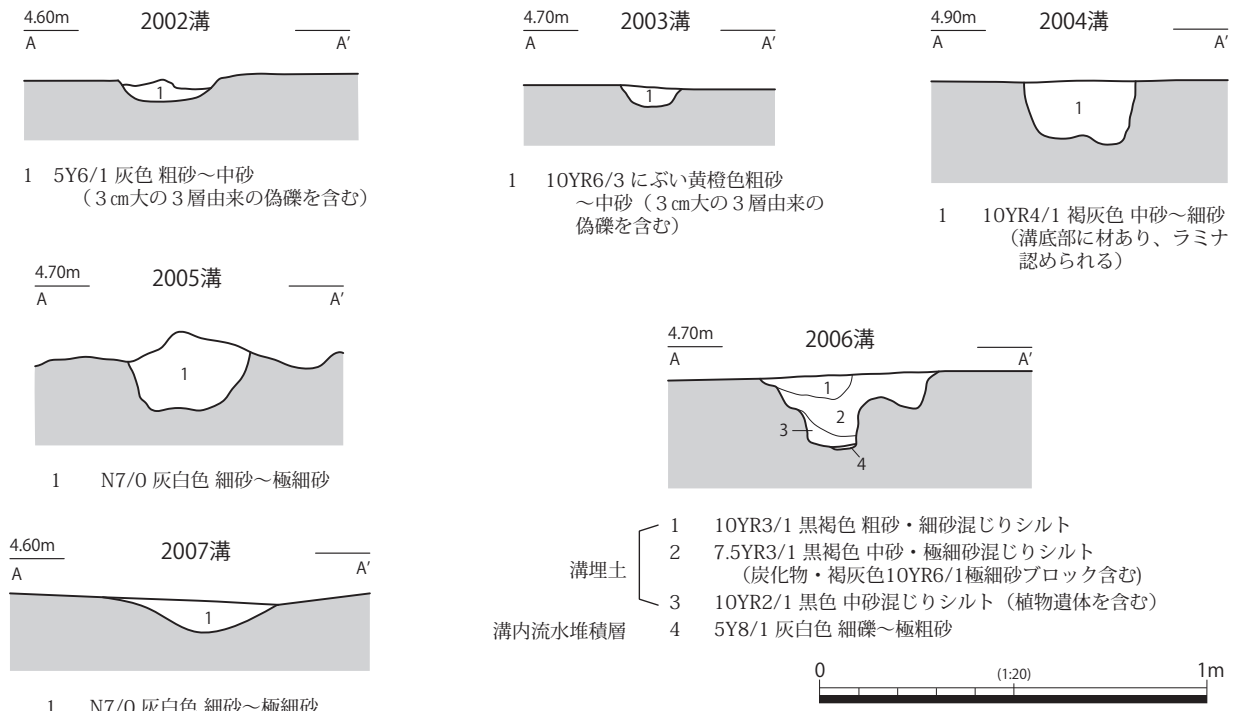


第28図 2002～2007溝 平面図

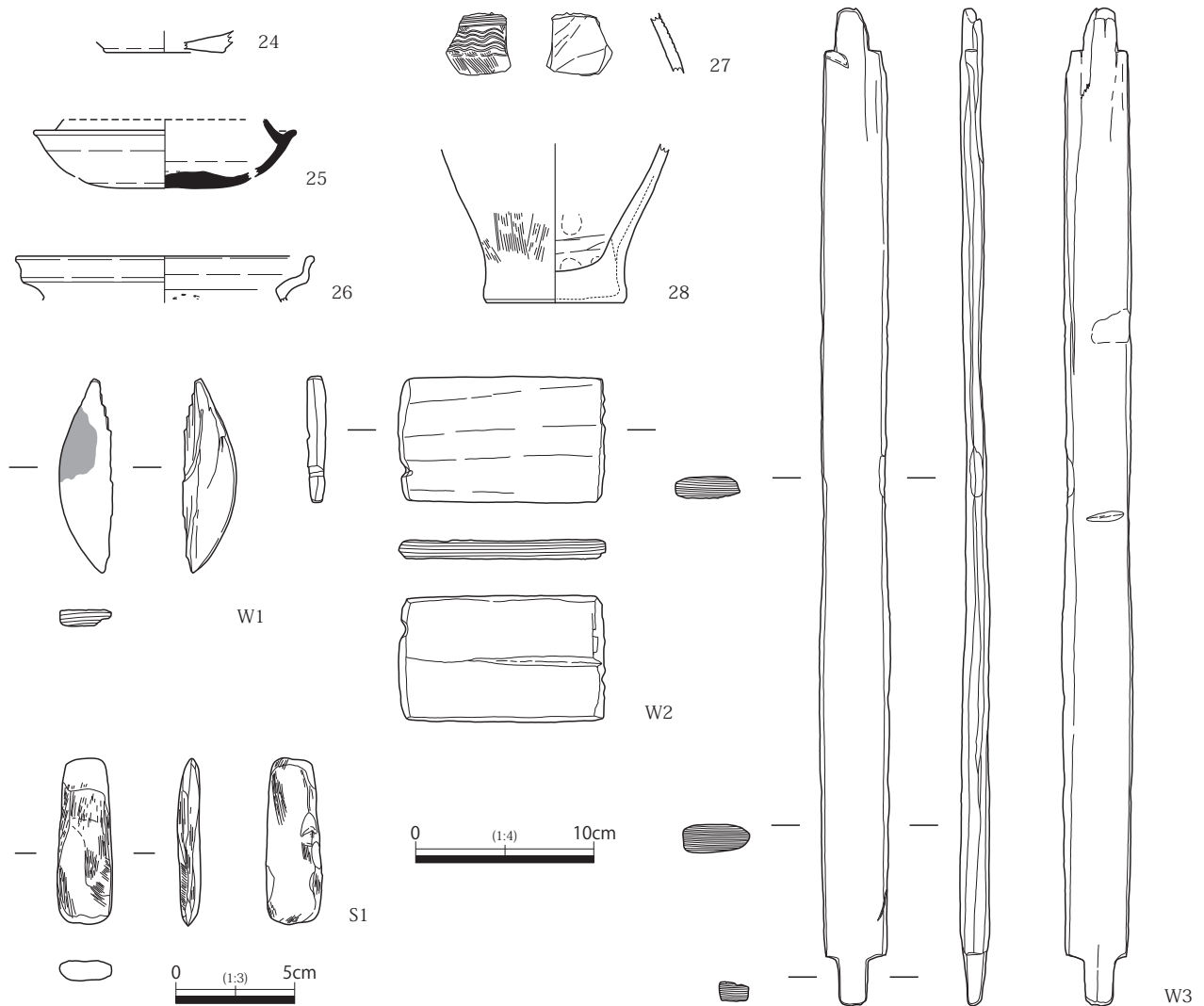
面に櫛描き直線文と波状文を施す。28は中期中葉の甕底部である。

W1は曲物の底である。W2は短冊状の板である。全長11.7cm、幅7.1cm、厚さ1.0cmで、上部を折欠き、下部は表裏両側を削って稜を造り出す。W3は枠型田下駄の横棧と考えられる。全長56.5cm、幅3.9cm、厚さ1.5cmで、両端に柄を造り出す。材はスギである。S1は小型の磨製石斧である。片岩製で、規模は全長7.0cm、上幅1.7cm、下幅2.2cm、厚さ0.8cm、重さ25.5gである。刃部には使用痕が残る。

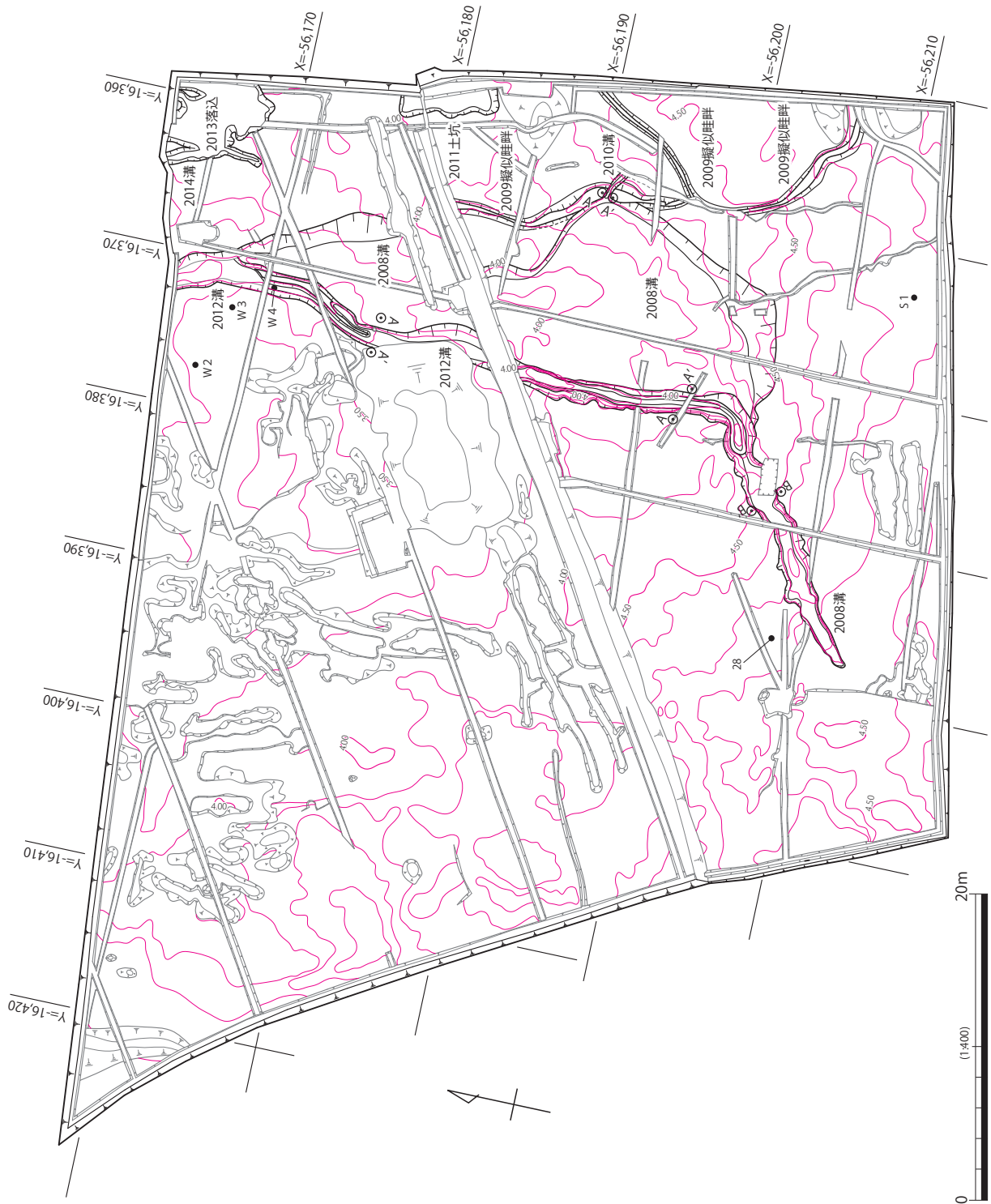
第V章 2区の調査成果



第29図 2002～2007溝 断面図

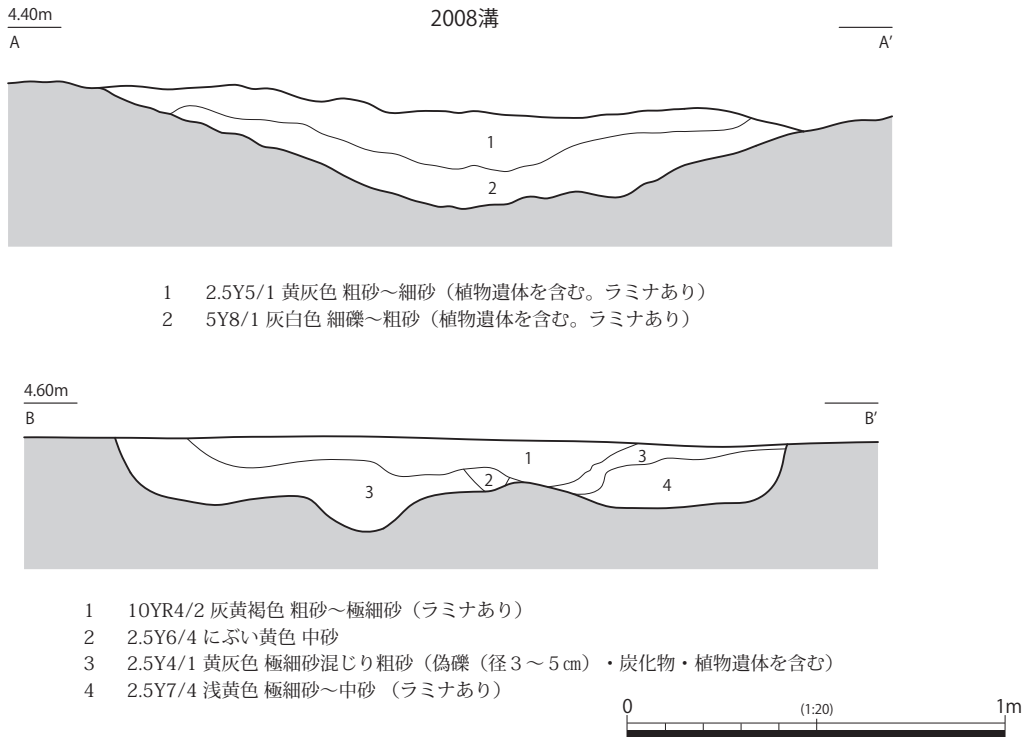


第30図 第3層出土遺物



第31図 2区第3層下面 全体図





第32図 2012溝 断面図

### (3) 第3層下面

当該面は第3層を除去して検出した。当該面より下は自然堆積層の連続であったことから、当該面が最終遺構面となる。検出した遺構は擬似畦畔、溝、土坑、落込などである(第31図、PL.8)。遺構面の標高は3.6～4.8mを測る。

#### 2008溝 (第31・33図、PL.10・107)

2008溝はX=-56,200、Y=-16,370付近から北東方向に走る2012溝が北方向へ屈曲する部分から大きく東側に膨らみながら北へ向かう。そして、調査区北端部付近で収束し2012溝と合流する。このことから、2008溝は2012溝が屈曲部で破堤した際に流れた痕跡であろうと考えられる。

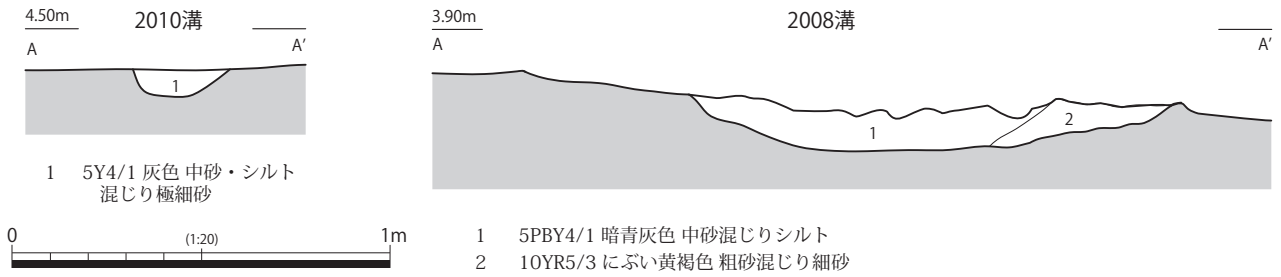
遺物は弥生土器(第36図29～31)が出土した。29は壺で口縁端部は折り返して面を作る。中期前葉に比定される。30は壺体部である。外面に刺突文を施す。時期は中期前葉である。31は高坏脚部である。端部は面を持つ。中期中葉の所産である。

#### 2012溝 (第31・32図、PL.10・11)

幅1.3m、深さ0.15mを測る。X=-56,212、Y=-16,388付近から北東方向に走り、X=-56,202、Y=-16,373付近で屈曲して北方向へ向かい、調査区外へ延びる。溝から木製穂摘具(第36図W4)が出土した。内湾刃型式で平行四辺形状を呈し、全長16.4cm、幅5.0cm、厚さ1.0cmを測る。前面の背近くを中央部から左側辺に抜ける断面「V」字状の浅い溝が彫られる。溝の中には2孔1対の紐孔を穿つが、右側の紐孔のさらに右側0.8cmのところ未貫通の穿孔が見られる。樹種はケヤキである。

#### 2009擬似畦畔・2010溝 (第31・33図)

第3層を除去した際、第4層の洪水砂が盛り上がった状態で検出した。擬似畦畔は調査区東辺部を南東隅からやや西へ振りながら北へと延びるが、途中北東方向に分岐する。X=-56,190、Y=-16,360付



第33図 2008溝・2010溝 断面図

近で2009擬似畦畔を水口状に分断する2010溝を検出した。2010溝は南東-北西方向に走り、幅0.25m、深さ0.07m、長さ約2mの規模を測る。

**2011土坑 (第34図、PL.9・107)**

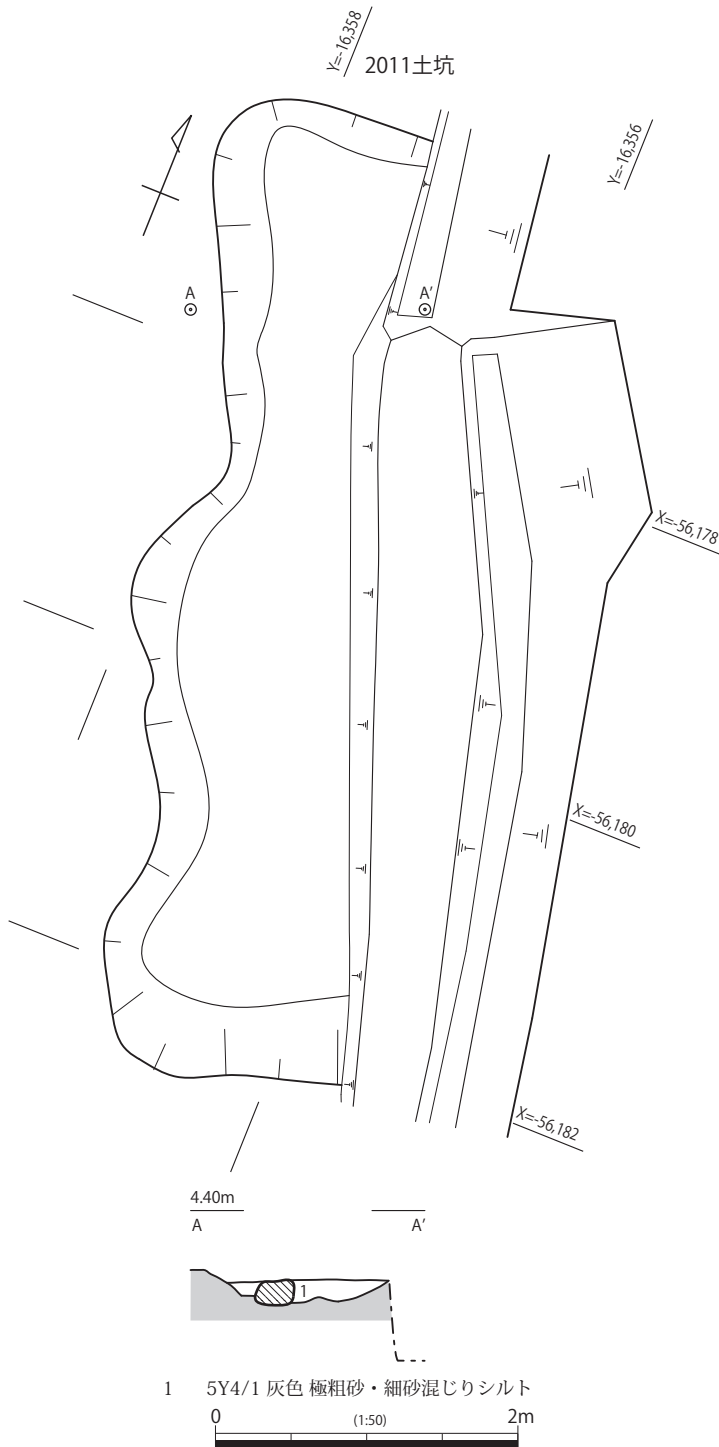
調査区中央東辺部で検出した。土坑の東半部は調査区外に延びるため全容は不明であるが、南北6.5m、東西1.6m以上の方形を呈し、深さは0.2mを測る。埋土は単層で灰色極細砂・細砂混じりシルトである。出土遺物は須恵器(32・33)、製塩土器(34)である。32は高台をもつ坏底部、33は平底の皿である。34は肥厚した口縁部を持つ。外面には指頭圧痕が、内面には布目が残る。

**2013落込・2014溝 (第19・35図、PL.9)**

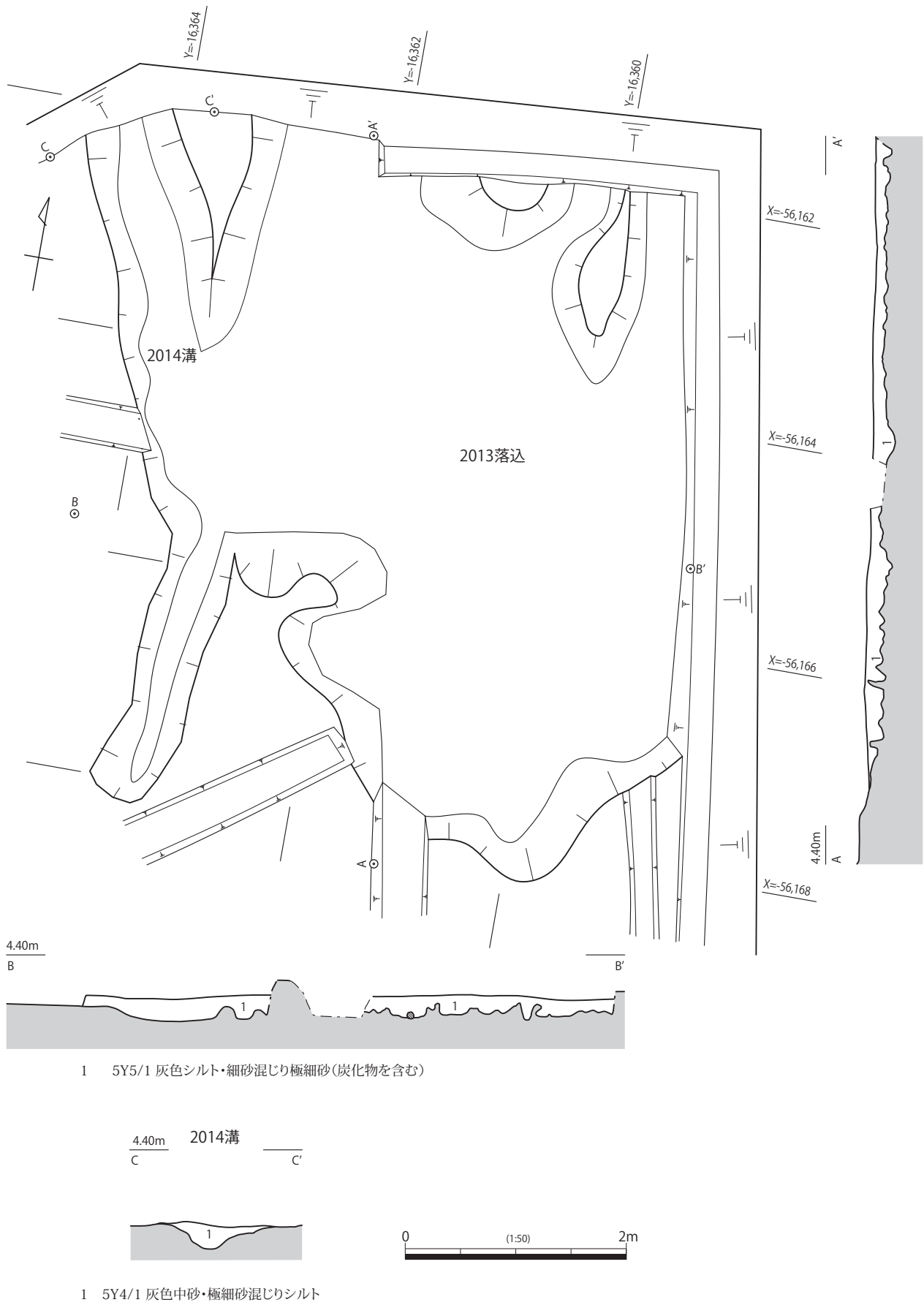
調査区北東隅で検出した。平面、底面共に不整形な形状で、深さ0.1~0.2mを測る。遺物は古代の須恵器や土師器が出土したが、いずれも細片で図示できるものはなかった。さらに、古墳時代の須恵器片も出土したが、ローリングを受けていた。2014溝は2013落込に接する溝で南北方向に走る。幅0.6~1.0m、深さ0.2mを測る。遺物の出土はなかった。

**第3層下面直上出土遺物 (第36図、PL.11)**

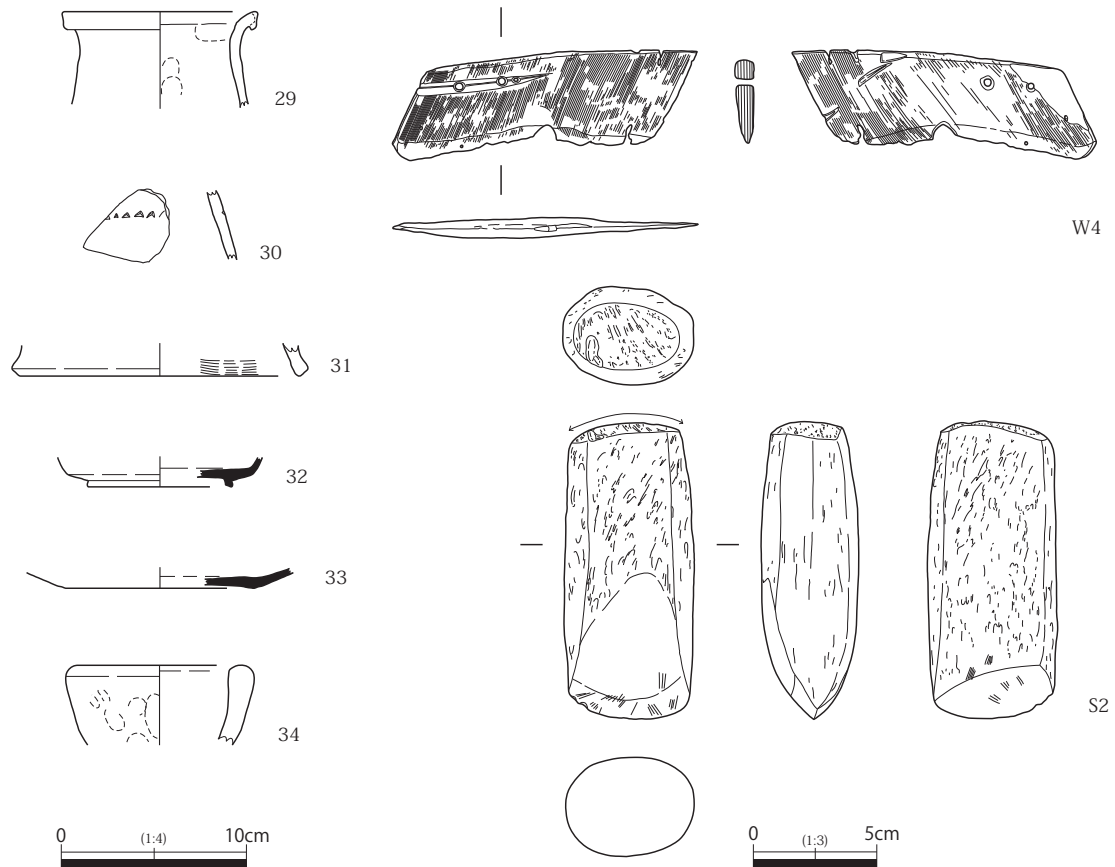
なお、機械掘削中に第3層下面直上で磨製石斧(第36図S2)が出土した。磨製石斧は結晶片岩製であり、規模は全長



第34図 2011土坑 平・断面図



第35図 2013落込・2014溝 平・断面図



第36図 3層下面遺構・3層下面直上出土遺物

12.0 cm、上幅 4.8 cm、下幅 5.2 cm、厚さ 4.0 cm、重さ 490.0 g である。刃部には使用痕が、基部には敲打痕が残る。

### 第3節 小結

今回の調査で3枚の遺構面を検出した。2区においては弥生時代中期から活動を行っていたことがわかった。検出した遺構は溝1条のみであったことから、活動の具体的な内容については不明であるが、土器片の他に木製穂摘具が出土していることから近くで生産活動が行われていたことが推定される。古代に入ると2区は耕地として利用されるようになる。道路を挟んで隣接する3区が官衙関連施設として利用されるのと対照的な土地利用といえるが、これは3区のある谷に比べて2区のある谷の方が広く、より耕作に適していたことも一因であると考えられる。以降、中世から現代まで連綿と耕作地として利用されてきた。

## 第VI章 3区・4区の調査成果

### 第1節 立地と基本層序

3区・4区は東から延びる小開析谷に位置し、調査前は圃場整備によって4枚の水田が棚田状に設けられていた。東から延びる尾根によって南北は遮られており、開口部の西側しか視通できない。圃場整備前の航空写真及び字界図によれば、上段部は地形に即して弧状を呈す高低差が小さい棚田となっていた。その区画等は圃場整備時の客土下に残っており、近世以降概ね踏襲されていることが第1層の掘り下げ過程でも追認できた。

調査地は耕作や造成といった人為的な攪乱を受けた層が連続しており、自然堆積層を面的に残す場所はわずかであった。したがって、確認できた遺構のほとんどが人為的な攪乱を受けた各層の下面で検出したものである。各遺構が掘削された当時の地表面は上層の攪乱が及んで失われているので、同一面で検出した遺構は必ずしも同一時期のものとは限らない。

また、同一の谷を東西に分割して2ヶ年にわたり調査しているため、各土層の繋がりや解釈について整合を図る必要があった。特に、3区の土層は4区の調査成果によって解釈、再整理が可能な箇所があり、一次資料（素図、写真）及び編集図に記録された内容の一部について報告書編集時に修正を加えている（主に X=56,160 ライン断面、Y=16,320 ライン断面）。

以下、基本層序及び各層下面で確認できた主要な遺構について概要を述べる（第38～52図）。

**第1層** 黒褐色～暗灰黄色・黄灰色の中砂～小礫混じりシルト層で、攪拌された作土層である。近世の遺物を含み、近世以降の水田作土と考えられる。水田を棚田状に造成するため、谷奥の東側は客土で嵩上げする一方、谷出口となる西側は大きく削平を受けていた。よって、第1層は4区で厚く残る



第37図 3区・4区土層断面記録位置

が3区ではほとんど残っていなかった。

第1層はさらに4層に細分できた。第1-2層と第1-4層は葉理、逆級化構造が認められる極粗砂～極細砂で、谷奥あるいは斜面部から流水によって運ばれたと推測される自然堆積層である。その上位層である第1-1層及び第1-3層は多分に砂粒を含んでよく攪拌されており、断面で変形構造も確認できるなど下位の自然堆積層を母材とした作土と理解できる（写真3）。4006畦畔、4002段は第1-4層によって被覆された結果、機能面を残した状態で検出できた遺構である。

**第2層** 黒色～黒褐色の中砂・粗砂混じりシルト層で、攪拌された作土層である。鎌倉～室町時代の遺物を含み、中世の水田作土と考えられる。4区で良好に遺存している状況は第1層と同じだが、3区でも圃場整備時に削平を受けた水田段差部（Y=-16,330～-16,340ライン間）を除けば、薄く面的に確認できた。ただ、3区では第2-2層直上まで攪乱が及んでいるので、層厚は5～10cmと概して薄く、遺存状況は良くない。

第2層は大きく3層に細分できた。第2-1層は第2-2層の上位層で色調がやや明るく、概ねY=-16,280ラインまで広がりが確認できた。主に室町時代の遺物を含み、客体的に古代～鎌倉時代のものも認められる。同層上部で、第1層耕作時に嵌入した近世陶器がわずかに出土した。第2-2層は基本的に黒色を呈し、3区及び4区全体に広

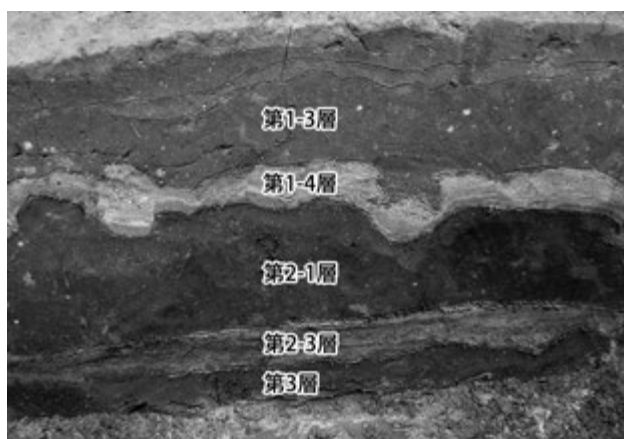
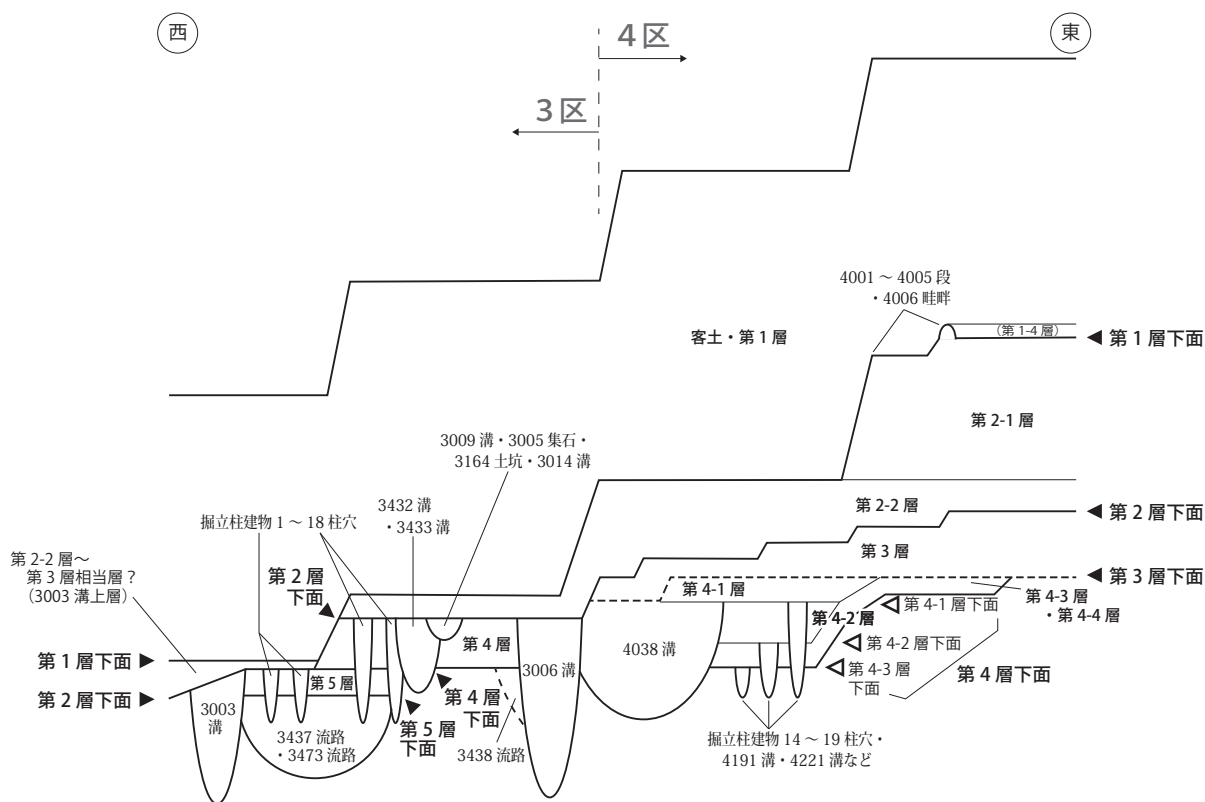


写真3 4区東側基本層序（南から）



第38図 3区・4区基本層序模式図

第VI章 3区・4区の調査成果



第39図 3区 X=-56,160 ライン 断面図 (1)

がっていた。第2-1層、第2-2層ともに良好に遺存する4区ではその層理面で遺構検出を試みたが、擬似畦畔や耕地段差等の遺構は確認できなかった。主に鎌倉時代～室町時代前期の遺物を含み、紀年木簡（17号木簡、元應元（1319）年）も出土した。第2-2層は後述する第3層の遺存状況が影響して色調や含有物が場所によって異なる。4区では第3層及び4038溝埋土上部を母材として攪拌したため色調が全般的にやや明るく、植物遺体や木片を含む。それに対して3区では、中世段階に棚田状の水田を造成して第3層を削平したと考えられ、第4層を母材にしているため色調がやや暗く、炭や古代の遺物を含む。第2-3層は葉理の認められる中砂～粗砂の自然堆積層である。耕作による攪拌を受けて部分的にしか残っていなかったが、4008溝、4023溝、4027溝、4029溝を埋積し、谷全体を覆う広範囲な堆積層であったことが窺える。さらに4023溝、4027溝、4029溝を埋積した砂が帯状の高まりとして残っており、第2-2層耕作時の擬似畦畔として検出できた。

また、3区西端では、西側に隣接する2区の調査状況と比較、検討しながら第2層の広がり把握しようとした。掘り下げの過程で第2層を第2-1層から第2-3層まで3細分して調査を進めていたが、そのうち広範囲で確認できる典型的な第2層は最上部のみとわかり（結果的にこの層は第2-2層に該当）、下位の2つの層は3003溝の埋土上層であると認識を改めた。そのため、3003溝出土遺物のうち、上層に伴うものについては遺物カードに修正前の層名（第2-2層あるいは第2-3層）を付して取上げを行っている。

- |  |  |
|--|--|
| 1 客土   | 3003溝(上層)  |
| 第2層(第2-2層)                                     | 38 10YR 3/1 黒褐色 中砂・粗砂混じりシルト<br>(植物遺体を含む)             |
| 2 10YR 3/1 黒褐色 中砂・極粗砂混じり極細砂                    | 39 10YR 3/1 黒褐色 中砂・細砂混じりシルト<br>(炭化物・植物遺体を含む)         |
| 3 10YR 3/1 黒褐色 中砂～粗砂混じり極細砂                     | 40 10YR 3/1 黒褐色 中砂・シルト混じり極細砂<br>(炭化物・植物遺体を含む)        |
| 3009溝  | 41 10YR 3/2 黒褐色 中砂混じりシルト(植物遺体を含む)                    |
| 4 10YR 2/1 黒色 極細砂混じり細砂～粗砂(ラミナあり)               | 3003溝(下層)  |
| 第3層  | 42 10YR 6/3 にぶい黄褐色 極細砂混じり中砂～粗砂<br>(ラミナあり。植物遺体を含む)    |
| 5 10YR 3/1 黒褐色 中砂～極粗砂混じり極細砂(炭化物・植物遺体を含む)       | 43 10YR 4/1 褐灰色 シルト・中砂混じり細砂<br>(炭化物・植物遺体を含む。)        |
| 6 10YR 4/1 褐灰色 細砂～極粗砂混じり極細砂(炭化物・植物遺体を含む)       | 44 10YR 7/2 にぶい黄褐色 極細砂混じり中砂～粗砂<br>(ラミナあり。植物遺体を含む)    |
| 7 10YR 3/1 黒褐色 中砂混じり極細砂                        | 45 10YR 4/1 褐灰色 極細砂・粗砂混じり中砂(ラミナあり)                   |
| 8 10YR 3/1 黒褐色 極細砂混じり細砂～極粗砂(炭化物・植物遺体を含む)       | 46 10YR 3/1 黒褐色 中砂混じり極細砂(植物遺体を含む)                    |
| 9 10YR 3/2 黒褐色 極細砂混じり細砂～中砂(植物遺体を含む)            | 47 10YR 3/2 黒褐色 中砂混じり極細砂(植物遺体を含む)                    |
| 10 10YR 3/1 黒褐色 極細砂混じり細砂～粗砂(植物遺体を含む)           | 48 10YR 3/2 黒褐色 細砂混じりシルト(植物遺体を含む)                    |
| 11 10YR 3/2 黒褐色 中砂～極粗砂混じり極細砂(炭化物を含む)           | 49 10YR 4/1 褐灰色 シルト・粗砂混じり中砂(植物遺体を含む)                 |
| 3014溝  | 50 10YR 3/1 黒褐色 シルト混じり細砂(植物遺体を含む)                    |
| 12 10YR 3/1 黒褐色 中砂～極粗砂混じり極細砂                   | 51 10YR 3/1 黒褐色 粗砂・中砂混じりシルト(植物遺体を含む)                 |
| 3164土坑   | 3003溝(最下層)   |
| 13 10YR 2/1 黒色 極細砂混じり細砂～中砂(植物遺体を含む)            | 52 10YR 7/2 にぶい黄褐色 極粗砂～中礫<br>(1～3cm大の礫を多量に含む)        |
| 14 10YR 4/1 褐灰色 極細砂混じり細砂～粗砂(炭化物・植物遺体を含む)       | 第5層  |
| 第4層  | 53 10YR 5/2 灰黄褐色 中砂～極粗砂                              |
| 15 2.5Y 3/1 黒褐色 粗砂・極粗砂混じり極細砂(炭化物・焼土・偽礫(地山)を含む) | 3493土坑   |
| 3432・3433溝                                     | 54 10YR 3/1 黒褐色 中砂混じりシルト<br>(3～5cm大の偽礫(地山)を多量に含む)    |
| 16 10YR 5/4 にぶい黄褐色 中砂と10YR 4/1 褐灰色 極細砂の互層      | 55 10YR 4/1 褐灰色 中砂・粗砂混じりシルト<br>(3～5cm大の偽礫(地山)を多量に含む) |
| 17 10YR 3/1 黒褐色 細砂～中砂混じり極細砂                    | 第6層  |
| 18 2.5Y 2/1 黒色 中砂・粗砂混じり極細砂(植物遺体を含む)            | 56 10YR 2/1 黒色 中砂混じり極細砂<br>(偽礫(地山)・植物遺体を含む)          |
| 19 2.5Y 4/1 黄灰色 細砂～粗砂(ラミナあり)                   | 57 10YR 6/2 灰黄褐色 中砂～極粗砂(しまる)                         |
| 20 10YR 4/1 褐灰色 極細砂混じり細砂～粗砂                    | 58 10YR 8/2 灰白色 極細砂～細砂                               |
| 21 10YR 4/1 褐灰色 極細砂混じり細砂～粗砂(植物遺体を含む)           | 59 10YR 2/2 黒褐色 シルト(腐植土層)                            |
| 22 2.5Y 2/1 黒色 粗砂・中砂混じり極細砂                     | 60 10YR 6/2 灰黄褐色 極粗砂・細砂混じり中砂                         |
| 23 10YR 3/1 黒褐色 極粗砂混じり中砂(植物遺体を多量に含む。炭化物を含む)    | 61 10YR 4/2 灰黄褐色 中砂～極粗砂                              |
| 24 10YR5/1 褐灰色 中砂～極粗砂                          | 62 10YR 2/2 黒褐色 シルト(植物遺体層)                           |
| 3008ピット  | 63 10YR 2/1 黒褐色 シルト(植物遺体層)                           |
| 25 10YR 3/1 黒褐色 粗砂・極粗砂混じり極細砂(偽礫(地山)を含む)        | 64 10YR 3/1 黒褐色 シルト(植物遺体層)                           |
| 3142ピット  | 65 10YR 2/2 黒褐色 中砂・粗砂混じりシルト(植物遺体層)                   |
| 26 10YR 5/3 にぶい黄褐色 中砂・粗砂混じりシルト                 |  |
| 27 10YR 3/1 黒褐色 粗砂・細砂混じり極細砂(炭化物・植物遺体を含む)       |  |
| 28 2.5Y 3/1 黒褐色 粗砂・中砂混じり極細砂                    |  |
| 29 5Y 3/1 オリーブ黒色 極粗砂・粗砂混じり細砂                   |  |
| 30 5Y 4/1 灰色 粗砂・シルト混じり極細砂                      |  |
| 31 7.5Y 3/1 オリーブ黒色 極粗砂・シルト混じり細砂                |  |
| 第4層  |  |
| 32 10YR 2/1 黒色 粗砂・極粗砂混じり極細砂(植物遺体を含む)           |  |
| 33 2.5Y 2/1 黒色 中砂混じり極細砂(植物遺体を含む)               |  |
| 34 10YR 3/2 黒褐色 中砂・粗砂混じり細砂                     |  |
| 35 10YR 3/2 黒褐色 中砂～細礫混じり極細砂(炭化物を含む)            |  |
| 36 10YR 5/3 にぶい黄褐色 中砂～極粗砂                      |  |
| 3206ピット  |  |
| 37 7.5YR3/1 黒褐色 極細砂・細砂混じり中砂                    |  |

第40図 3区 X=-56,160 ライン 断面図(2)

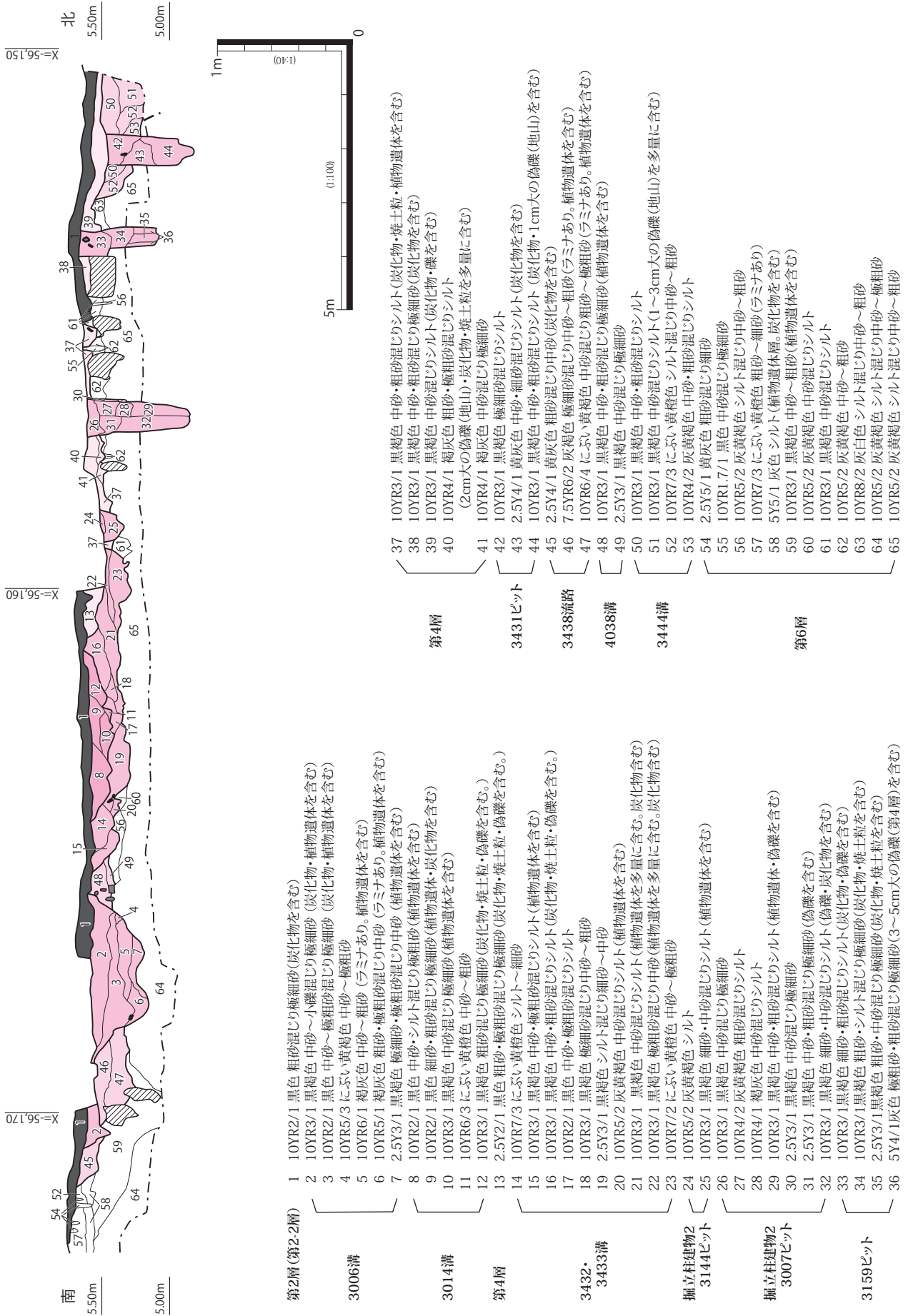
**第3層** 黒褐色の中砂～極粗砂混じりシルト～極細砂である。自然科学分析の成果によれば、上部層準で人為的に攪拌された状況が肉眼観察でき、イネの穎なども産出しているため、一時的にでも作土として利用された可能性がある(第Ⅶ章第1節参照)。第3層の耕作時に下位層準である第4層あるいは4038溝埋土の上部まで攪拌が及んでおり、層界は不明瞭となっている。なお、3区において第3層は第2層耕作時に削平されたか、その母材となって消失したか、どちらかの原因によって2D-7bグリッド以外ほとんど残っていない。第3層は古代の遺物を多く含むが、わずかに白磁や黒色土器が認められるため、古代末から中世前期(10世紀後半～12世紀)の堆積と考えられる。

**第4層** 灰色・灰黄褐色～黒褐色の中砂～極粗砂混じりシルトを主体とする。3区・4区の位置する谷は南側の丘陵裾が張り出し、北側に向かい緩やかに低くなる。第4層は谷中央を走行する溝及び旧流路から北側に分布しており、多量の偽礫や炭、奈良～平安時代の遺物を含むことから、掘立柱建物の基盤とするために客土された古代の整地土層と認識できた。谷筋を通る旧流路を利用して水路とし



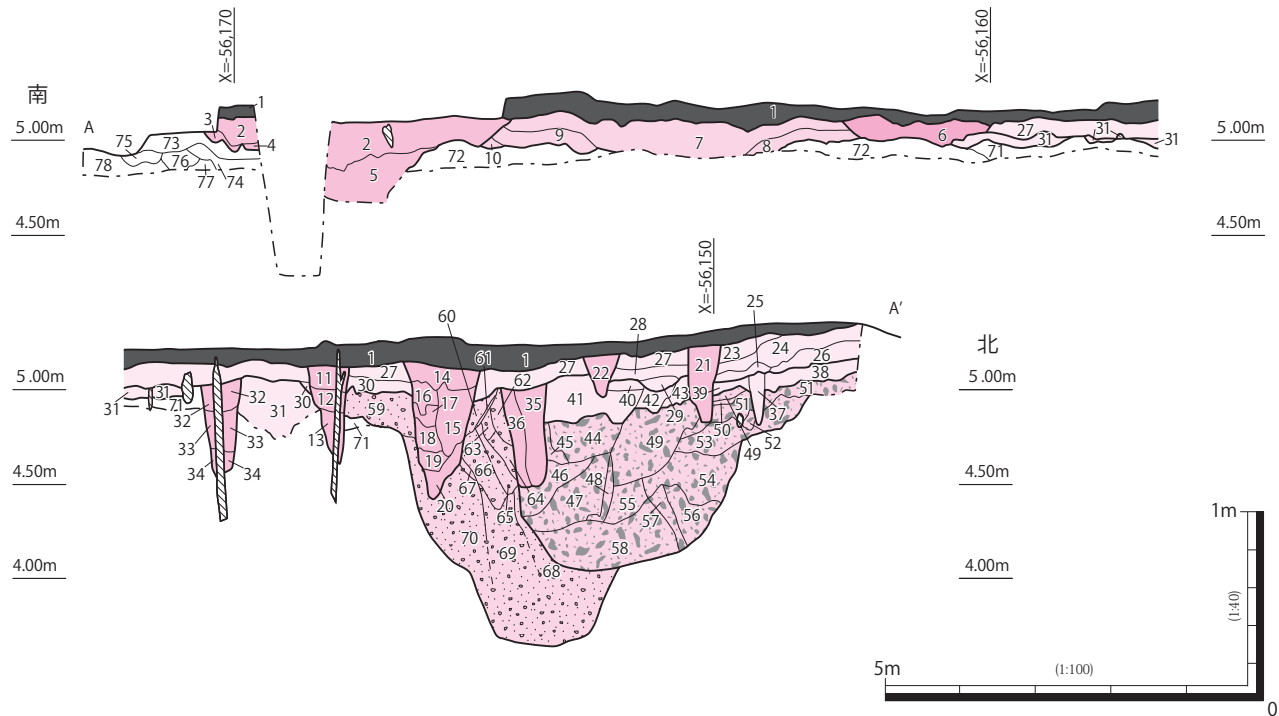


第41図 3区 X=-56,170ライン 断面図



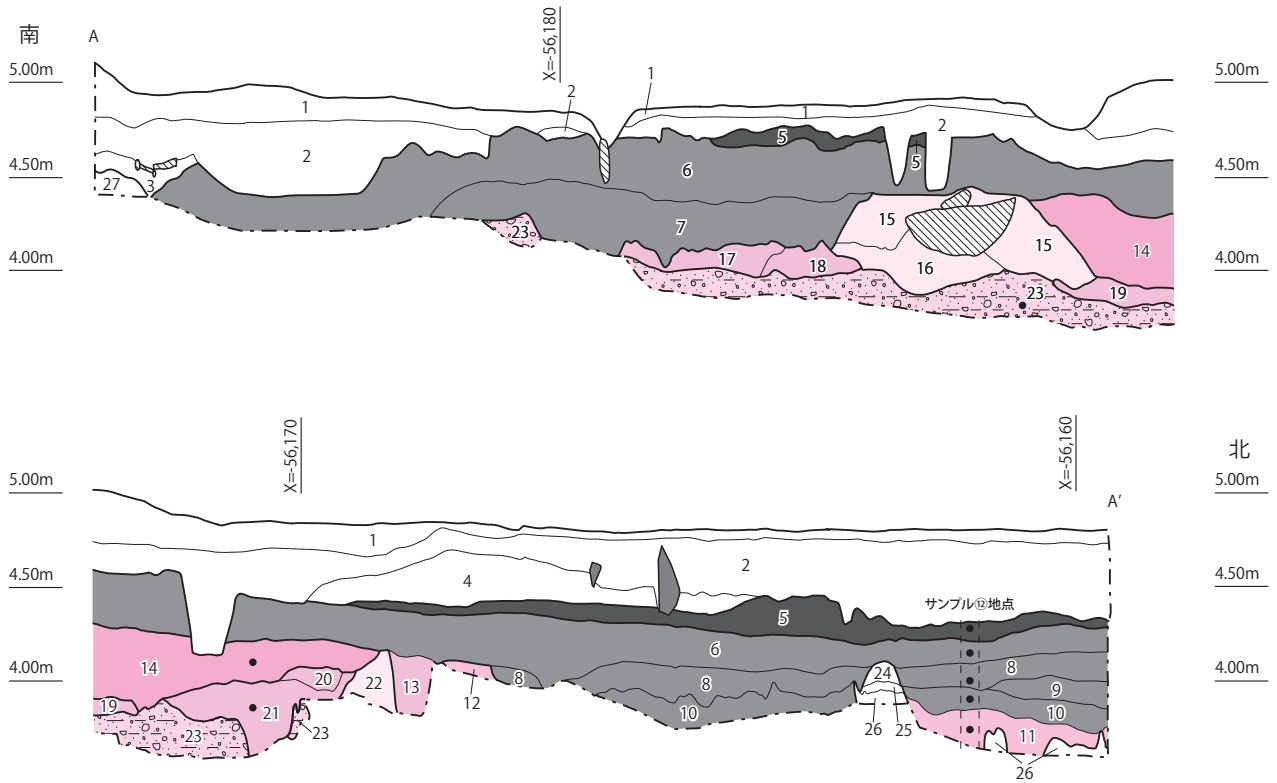
第42図 3区 Y=-16,320ライン 断面図

第VI章 3区・4区の調査成果

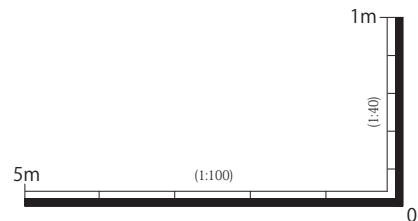


- |   |  |   |
|---|--|---|
| <p>第2層(第2-2層)</p> <p>3006溝</p> <p>3014溝</p> <p>4038溝?</p> <p>3165ピット</p> <p>3182ピット</p> <p>3522ピット</p> <p>3162溝</p> <p>第4層</p> <p>3284ピット</p> <p>3523ピット</p> <p>第5層</p> | <p>1 10YR2/2 黒褐色 粗砂～細礫混じり極細砂 (1～2cm大の礫・炭化物を含む)</p> <p>2 10YR4/1 褐灰色 粗砂・中砂混じりシルト (炭化物・植物遺体を多量に含む)</p> <p>3 10YR6/2 灰黄褐色～7.5YR5/8 明褐色 細砂～極細砂</p> <p>4 10YR7/2 にぶい黄橙色 粗砂混じり中砂 (炭化物を含む)</p> <p>5 10YR2/1 黒色 中砂混じり極細砂と10YR 6/3 にぶい黄橙色 粗砂～小礫の互層(ラミナあり)</p> <p>6 10YR3/1 黒褐色 中砂～粗砂混じり極細砂 (炭化物を含む)</p> <p>7 10YR3/1 黒褐色 中砂～細礫混じり極細砂 (炭化物・植物遺体を含む)</p> <p>8 10YR3/1 黒褐色 細砂～粗砂混じり極細砂 (植物遺体を含む)</p> <p>9 10YR3/1 黒褐色 細砂～粗砂混じり極細砂 (植物遺体を多量に含む)</p> <p>10 7.5YR2/1 黒色 中砂混じり極細砂 (炭化物を含む)</p> <p>11 10YR3/1 黒褐色 中砂～粗砂混じり極細砂 (炭化物・焼土粒を含む)</p> <p>12 10YR3/1 黒褐色 粗砂混じり極細砂</p> <p>13 10YR3/1 褐灰色 中砂混じりシルト (植物遺体を含む)</p> <p>14 10YR3/1 黒褐色 中砂混じり極細砂 (炭化物を含む)</p> <p>15 10YR3/1 黒褐色 細砂～粗砂混じり極細砂 (炭化物・焼土粒を含む)</p> <p>16 10YR3/1 黒褐色 粗砂・中砂混じり極細砂 (偽礫を含む)</p> <p>17 10YR4/2 灰黄褐色 中砂・シルト混じり細砂 (偽礫を含む)</p> <p>18 10YR4/1 褐灰色 中砂・粗砂混じりシルト (偽礫を含む)</p> <p>19 10YR3/1 黒褐色 粗砂・中砂混じりシルト (偽礫を含む)</p> <p>20 10YR3/1 黒褐色 シルト(腐植土層)</p> <p>21 10YR3/2 黒褐色 中砂～細礫混じり極細砂 (炭化物・焼土粒・偽礫を多量に含む)</p> <p>22 10YR3/1 黒褐色 中砂混じり極細砂 (2～3cm大の角礫を少量含む)</p> <p>23 10YR4/2 灰黄褐色 中砂～粗砂混じり極細砂 (炭化物を含む)</p> <p>24 10YR4/2 灰黄褐色 中砂混じりシルト</p> <p>25 10YR4/2 灰黄褐色 シルト混じり中砂 (炭化物・偽礫を含む)</p> <p>26 10YR4/2 灰黄褐色 中砂～粗砂混じり極粗砂 (炭化物を含む)</p> <p>27 10YR3/2 黒褐色 中砂～細礫混じり極細砂 (炭化物を含む)</p> <p>28 10YR4/2 灰黄褐色 中砂混じり極細砂 (炭化物を含む)</p> <p>29 10YR4/2 灰黄褐色 細砂混じり極細砂 (炭化物を含む)</p> <p>30 10YR3/1 黒褐色 中砂混じり極細砂</p> <p>31 10YR6/3 にぶい黄橙色 細砂～極細砂 (ラミナあり)</p> <p>32 10YR3/1 黒褐色 細砂～粗砂混じり極細砂 (炭化物・焼土粒を含む)</p> <p>33 10YR3/1 黒褐色 中砂混じりシルト</p> <p>34 10YR3/1 黒褐色 シルト混じり中砂～粗砂</p> <p>35 10YR4/1 褐灰色 シルト混じり中砂～粗砂 (偽礫を含む)</p> <p>36 10YR2/1 黒色 極粗砂混じり細砂</p> <p>37 10YR3/2 黒褐色 粗砂混じり極細砂 (3～5cm大の偽礫・炭化物を含む)</p> <p>38 10YR3/2 黒褐色 粗砂～細礫混じり極細砂 (炭化物・偽礫を含む)</p> <p>39 10YR3/2 黒褐色 中砂～粗砂混じり極細砂 (炭化物を含む)</p> <p>40 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂混じり細砂</p> <p>41 7.5YR5/2 灰褐色 極細砂混じり中砂～粗砂 (偽礫を含む)</p> <p>42 10YR3/2 黒褐色 中砂～粗砂混じり極細砂 (炭化物を含む)</p> <p>43 10YR4/2 灰黄褐色 粗砂～小礫混じり極細砂</p> | <p>3473流路</p> <p>44 10YR6/2 灰黄褐色 粗砂～中砂 (3～4cm大の偽礫(地山)を多量に含む)</p> <p>45 10YR4/1 褐灰色 極粗砂混じり中砂(炭化物を含む)</p> <p>46 2.5Y5/1 黄灰色 シルト混じり粗砂～中砂 (1cm以下の偽礫(地山)を含む)</p> <p>47 10YR6/2 にぶい黄褐色 極粗砂～粗砂 (2cm大の偽礫(地山)を多量に含む)</p> <p>48 10YR4/1 褐灰色 シルト (1～2cm大の偽礫(地山)・炭化物を含む)</p> <p>49 10YR4/2 灰黄褐色 中砂～粗砂混じりシルト (偽礫(地山)を含む)</p> <p>50 10YR4/2 灰黄褐色 極粗砂混じり細砂</p> <p>51 10YR4/3 灰黄褐色 粗砂混じりシルト (偽礫(地山)を多量に含む)</p> <p>52 10YR4/3 にぶい黄褐色 粗砂・中砂混じりシルト</p> <p>53 2.5Y2/1 黒色 細砂混じりシルト</p> <p>54 2.5Y2/1 黒色 粗砂混じりシルト (1～2cm大の偽礫(地山)が縞状に混じる)</p> <p>55 2.5Y4/1 褐灰色 シルト (1～3cm大の偽礫(地山)・炭化物を多量に含む)</p> <p>56 10YR5/2 灰黄褐色 中砂～極粗砂</p> <p>57 10YR4/1 褐灰色 中砂混じりシルト</p> <p>58 10YR4/1 褐灰色 シルト</p> <p>59 10YR5/2 灰黄褐色 極細砂～極粗砂</p> <p>60 10YR5/2 灰黄褐色～10YR 3/1 黒褐色 シルト混じり中砂</p> <p>61 10YR3/1 黒褐色 シルト (腐植土層)</p> <p>62 10YR5/3 にぶい黄褐色 粗砂 (2cm大の偽礫(地山)を含む)</p> <p>63 10YR3/1 黒褐色 極細砂</p> <p>64 10YR5/2 灰黄褐色 細砂～粗砂</p> <p>65 5YR6/2 灰オリーブ色 粗砂混じり細砂 (2cm大の偽礫(地山)を含む)</p> <p>66 10YR5/3 にぶい黄褐色 粗砂 (ラミナあり)</p> <p>67 2.5Y6/2 灰黄色 細砂</p> <p>68 10YR2/1 黒色 シルト</p> <p>69 5Y7/1 灰白色 極粗砂～粗砂</p> <p>70 5Y4/1 灰色 シルト混じり 極粗砂～粗砂</p> <p>71 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 細砂混じり極細砂</p> <p>72 7.5YR6/3 にぶい褐色 細砂～粗砂 (ラミナあり。植物遺体を少量含む)</p> <p>73 10YR3/2 黒褐色 中砂～粗砂混じり極細砂 (植物遺体を含む)</p> <p>74 10YR2/2 黒褐色 細砂～中砂混じりシルト (植物遺体を多量に含む)</p> <p>75 7.5YR6/2 灰褐色 細砂～粗砂 (ラミナあり)</p> <p>76 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂混じり中砂～粗砂</p> <p>77 10YR4/2 灰黄褐色 中砂混じり極細砂</p> <p>78 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂混じり細砂～中砂 (植物遺体を含む)</p> <p>3437流路</p> |
|---|--|---|

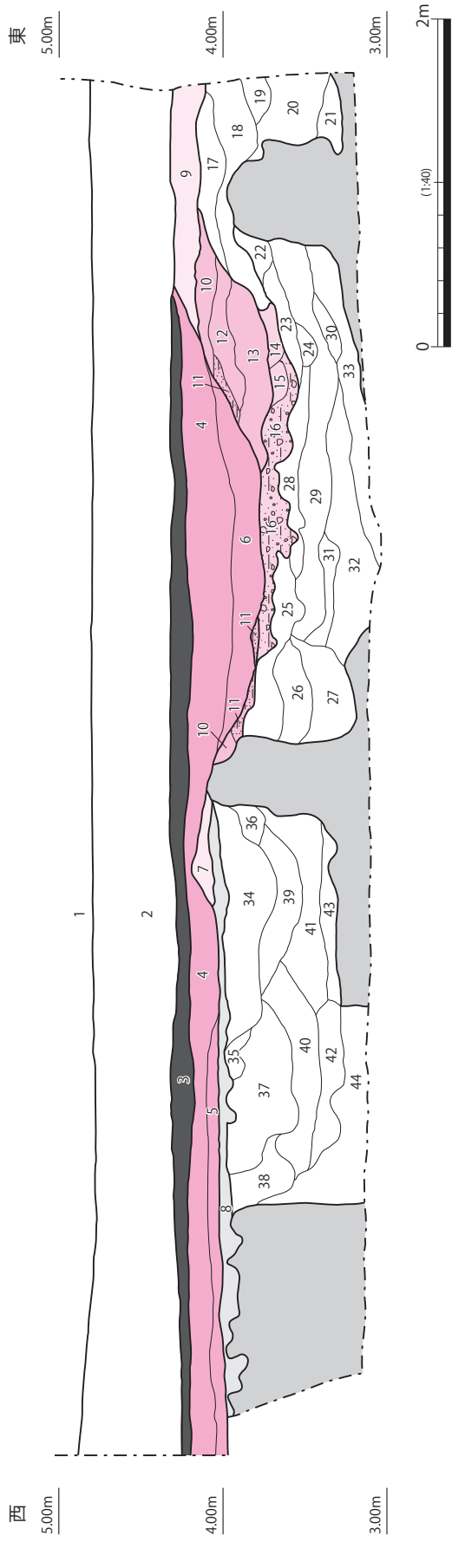
第43図 3区 Y=-16,330 ライン付近 断面図



- 1 耕作土
- 2 客土
- 3 カクラン(暗渠)
- 4 カクラン(基盤整備)
- 第2層(第2-1層) 5 10YR2/1 黒色中砂混じりシルト
- 第2層(第2-2層) {
  - 6 10YR3/1 黒褐色 中砂・粗砂混じりシルト(植物遺体を含む)
  - 7 10YR2/3 黒褐色 中砂・極粗砂混じり極細砂(植物遺体・炭化物を含む)
  - 8 10YR3/1 黒褐色 中砂・細砂混じりシルト(炭化物・植物遺体を含む)
  - 9 10YR3/1 黒褐色 中砂・シルト混じり極細砂(炭化物・植物遺体を含む) ※調査時は第2-3層
  - 10 10YR3/2 黒褐色 中砂混じりシルト(植物遺体を含む)
- 3003溝上層 {
  - 11 10YR3/2 黒褐色 細砂混じりシルト(植物遺体を含む)
  - 12 10YR3/1 黒褐色 粗砂混じりシルト
  - 13 10YR3/1 黒褐色 粗砂混じり極細砂(22層の偽礫を含む)
- 3003溝下層 {
  - 14 10YR3/1 黒褐色 細砂・粗砂混じりシルト(植物遺体を少量含む)
  - 15 2.5YR3/1 黒褐色 粗砂・中砂混じり極細砂(植物遺体を含む)
  - 16 2.5YR3/2 黒褐色 粗砂・シルト混じり極細砂(植物遺体、木片を多量に含む) 木製構造物に伴う盛土
  - 17 2.5YR2/2 黒褐色 中砂・細砂混じり極細砂(植物遺体を含む)
- 3438流路 {
  - 18 2.5YR3/3 暗オリーブ褐色 粗砂・シルト混じり細砂
  - 19 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 粗砂・極細砂混じり中砂(植物遺体を含む)
  - 20 10YR7/2 にぶい黄橙色 中砂～粗砂
  - 21 10YR3/1 黒褐色 中砂・細砂混じり極細砂
- 3413杭群盛土 22 10YR4/2 灰黄褐色 粗砂・シルト混じり中砂(固くしまる)
- 3003溝最下層 23 10YR7/2 にぶい黄橙色 極粗砂～中礫
- 第6層 {
  - 24 10YR6/4 にぶい黄橙色 中砂～粗砂
  - 25 2.5YR6/2 灰黄色 細砂
  - 26 10YR2/2 黒褐色 シルト(植物遺体層)
  - 27 10YR7/6 明黄褐色 極粗砂・シルト混じり細砂



第44図 3区西壁 断面図



第45図 3区北壁(2D-5e) 断面図

- |  |  |  |
|--|--|--|
| <p>現代耕作土<br/>各土</p> <p>第2層(第2-1層)</p> <p>3003溝</p> <p>第5層</p> <p>3003溝下層</p> <p>3003溝最下層</p> <p>3473流路</p> | <p>1 10YR4/3 にぶい、黄褐色 極細砂</p> <p>2 10YR5/6 黄褐色 粗砂・極粗砂混じり極細砂</p> <p>3 2.5Y3/1 黒褐色 小礫・極粗砂混じり極細砂(炭化物・焼土粒を含む)</p> <p>4 10YR3/1 黒褐色 極粗砂・粗砂混じりシルト(炭化物・焼土粒・植物遺体を含む)</p> <p>5 10YR3/2 黒褐色 中砂混じり極細砂(炭化物・植物遺体を含む)</p> <p>6 10YR3/2 黒褐色 中砂・粗砂混じりシルト(炭化物・焼土粒・植物遺体を含む)</p> <p>7 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂・粗砂混じり中砂 3003溝西肩盛土</p> <p>8 10YR4/2 灰黄褐色 中砂混じり極細砂 作土か</p> <p>9 10YR4/1 褐灰色 粗砂・極粗砂混じり極細砂</p> <p>10 10YR3/2 黒褐色 極細砂混じり中砂(炭化物を含む)</p> <p>11 10YR6/4 にぶい、黄褐色 細砂～極細砂(ラミナあり)</p> <p>12 2.5Y3/1 黒褐色 中砂・細砂混じり極細砂(2cm大の偽礫(地山)を含む)</p> <p>13 10YR4/1 褐灰色 粗砂・シルト混じり中砂(1～3cm大の偽礫(地山)を含む)</p> <p>14 10YR4/1 褐灰色 シルト・細砂混じり粗砂</p> <p>15 2.5Y3/1 黒褐色 中砂・細砂混じりシルト(2cm大の偽礫(地山)を含む)</p> <p>16 10YR7/2 にぶい、黄褐色 極粗砂～中砂(1～3cm大の礫を多量に含む)</p> <p>17 10YR3/2 黒褐色 極粗砂・粗砂混じり極細砂(炭化物・1～3cm大の偽礫(地山)を含む)</p> <p>18 10YR2/2 黒褐色 粗砂・極細砂混じり粗砂</p> <p>19 10YR7/2 黒褐色 中砂・極細砂混じり粗砂</p> <p>20 10YR4/1 褐灰色 粗砂・シルト混じり中砂(2～3cm大の偽礫(地山)を多量に含む)</p> <p>21 10YR4/1 褐灰色 シルト混じり粗砂(3～5cm大の偽礫(地山)を含む)</p> | <p>22 10YR4/1 褐灰色 シルト混じり中砂(1～2cm大の偽礫(地山)を含む)</p> <p>23 10YR5/1 褐灰色 シルト・粗砂混じり中砂(2～3cm大の偽礫(地山)を含む)</p> <p>24 10YR6/2 灰黄褐色 粗砂～中砂</p> <p>25 10YR3/2 黒褐色 粗砂・中砂混じりシルト(2～5cm大の偽礫(地山)を多量に含む)</p> <p>26 10YR4/1 褐灰色 シルト・中砂混じり粗砂(1～2cm大の偽礫(地山)を多量に含む)</p> <p>27 10YR5/2 灰黄褐色 中砂混じり粗砂(1～5cm大の偽礫(地山)を多量に含む)</p> <p>28 2.5Y3/1 黒褐色 シルト</p> <p>29 10YR3/2 黒褐色 中砂混じりシルト(3～5cm大の偽礫(地山)を多量に含む)</p> <p>30 2.5Y4/1 黄褐色 中砂混じりシルト</p> <p>31 10YR4/1 灰黄褐色 中砂～粗砂(2～3cm大の偽礫(地山)を含む)</p> <p>32 10YR3/2 黒褐色 シルト</p> <p>33 10YR5/2 灰黄褐色 中砂・シルト混じり粗砂(3～4cm大の偽礫(地山)を含む)</p> <p>34 10YR4/1 褐灰色 シルト・粗砂混じり中砂(3cm大の偽礫(地山)を多量に含む)</p> <p>35 10YR4/2 灰黄褐色 中砂～粗砂(1cm大の偽礫(地山)を多量に含む)</p> <p>36 10YR3/1 黒褐色 粗砂混じりシルト(3cm大の偽礫(地山)を含む)</p> <p>37 10YR4/1 褐灰色 シルト混じり中砂(2～5cm大の偽礫(地山)を含む)</p> <p>38 2.5Y3/2 黒褐色 細砂・中砂混じりシルト</p> <p>39 10YR4/1 褐灰色 シルト混じり中砂(1～3cm大の偽礫(地山)を多量に含む)</p> <p>40 10YR3/2 黒褐色 粗砂・シルト混じり中砂(3～5cm大の偽礫(地山)を多量に含む)</p> <p>41 10YR4/2 灰黄褐色 粗砂～中砂(3～5cm大の偽礫(地山)を多量に含む)</p> <p>42 2.5Y3/2 黒褐色 シルト混じり中砂(3～5cm大の偽礫(地山)を多量に含む)</p> <p>43 10YR3/1 黒褐色 シルト混じり粗砂～中砂(3cm大の偽礫(地山)を含む)</p> <p>44 2.5Y3/2 黒褐色 中砂・粗砂混じりシルト</p> |
|--|--|--|

た3006溝及び4038溝の南肩も第4層で盛土されており、土師器、須恵器が多量に出土した。細かく観察すると、第4層は一様でなく場所によって色調や含有物に差異があり、同層の掘り下げ中に検出できた遺構もある。よって、整地は複数回に渡って行われたと推測できる。

第4層の性格と広がりとは3区で確認していたため、続く4区の調査時にもその所見をもとに整合を図った。しかし、上部は耕作の影響を受けて変質し、下部に整地土とは異なる堆積層も確認できた。そこで、4区については第4層を以下のとおり4細分し、理解に努めた。

**第4-1層** 黒褐色～褐灰色の中砂～極粗砂混じりシルトを主体とする。古代の遺物、偽礫や炭、焼土粒を含む。第4-2層または4038溝埋土上部を母材として攪拌された作土層と考えられる。本来的には同層上面で遺構を視認できるはずだが、上部を攪拌された結果平面形状が不明瞭となっており、遺構検出は同層を掘り下げた下面で行っている。掘立柱建物14は同層下面で検出した。

**第4-2層** 褐灰色の中砂～極粗砂混じりシルトまたは粘土を主体とする。古代の遺物、地山由来の粘土偽礫や炭、焼土粒を含む整地土である。厚さ20cm以上を測るが、上部は攪拌されているので本来的にはもう少し厚みがあったものと推測する。掘立柱建物15・16の柱穴の多くは同層下面で検出したが、一部は第4-3層下面まで掘り下げて検出している。

**第4-3層** 褐灰色のシルト・粗砂混じり中砂層で、2D-6a、2D-6bグリッドに分布していた。4区調査時に認識、細分した層であり、3区調査時は2D-6bグリッドの一部でのみ確認できた堆積層だったため「第4層」として遺物の取上げ等を行っている。古墳時代前～中期、終末期の遺物、第6層の偽礫を含む土壌層である。

**第4-4層** 2C-6iグリッドで確認した黒褐色の中砂～極粗砂混じり泥炭層である。古墳時代～古代の遺物を含む。4038溝北側に広がる同系色のシルト層を当初は第4層として調査を進めていたが、その下位で泥炭質の第4-4層を確認したので細分した。丘陵裾の湿地環境で生成された土壌であり、4038溝北側で第4層と認識した層は、第4-4層上部が攪拌されたものを含むと考える。4286流路や4290溝は第4-4層を掘り込む遺構である。

**第5層** 黒褐色～灰黄褐色の中砂～細礫混じり極細砂層で、偽礫や炭を含む。3区北端から3003溝東肩にかけて分布しており、3473流路及び3437流路、3003溝北東部の検出範囲に重なる。3003溝下層段階の一部と、3473流路、3437流路などは第5層下面で検出した。第4層のように地山由来の粘土偽礫を多分に含むわけではないが、同様に整地土と考えられる。3473流路及び3437流路上部を均すように盛土しており、整地層でも初期段階のものと想定する。

**第6層** 第4層・第5層より下位の自然堆積層で、遺構、遺物とも確認していない。谷奥側の4区と谷口側の3区で堆積が少し異なる。大きくは木片や植物遺体、偽礫を含み斜面側からの崖錐堆積物とみられる中砂～細礫層と、植物遺体が多く集積し生物擾乱が顕著な黒褐色のシルト（～泥炭）層に分かれる。湿地環境にありながら、断続的に谷斜面からの土砂の供給を受けていたことが窺える。

また、4区2C-6j・7jグリッドでは層相から土石流堆積物と考えられる浅黄色～にぶい黄褐色の細砂～極粗砂層が約40～60cmの厚さで堆積している。古環境変遷の解析結果については第Ⅶ章第1節に詳しいが、この土石流堆積によってできた地形の起伏を均して建物等を造営する平坦地を設けるために、切土あるいは盛土（第4層・第5層）していたことが理解できる。

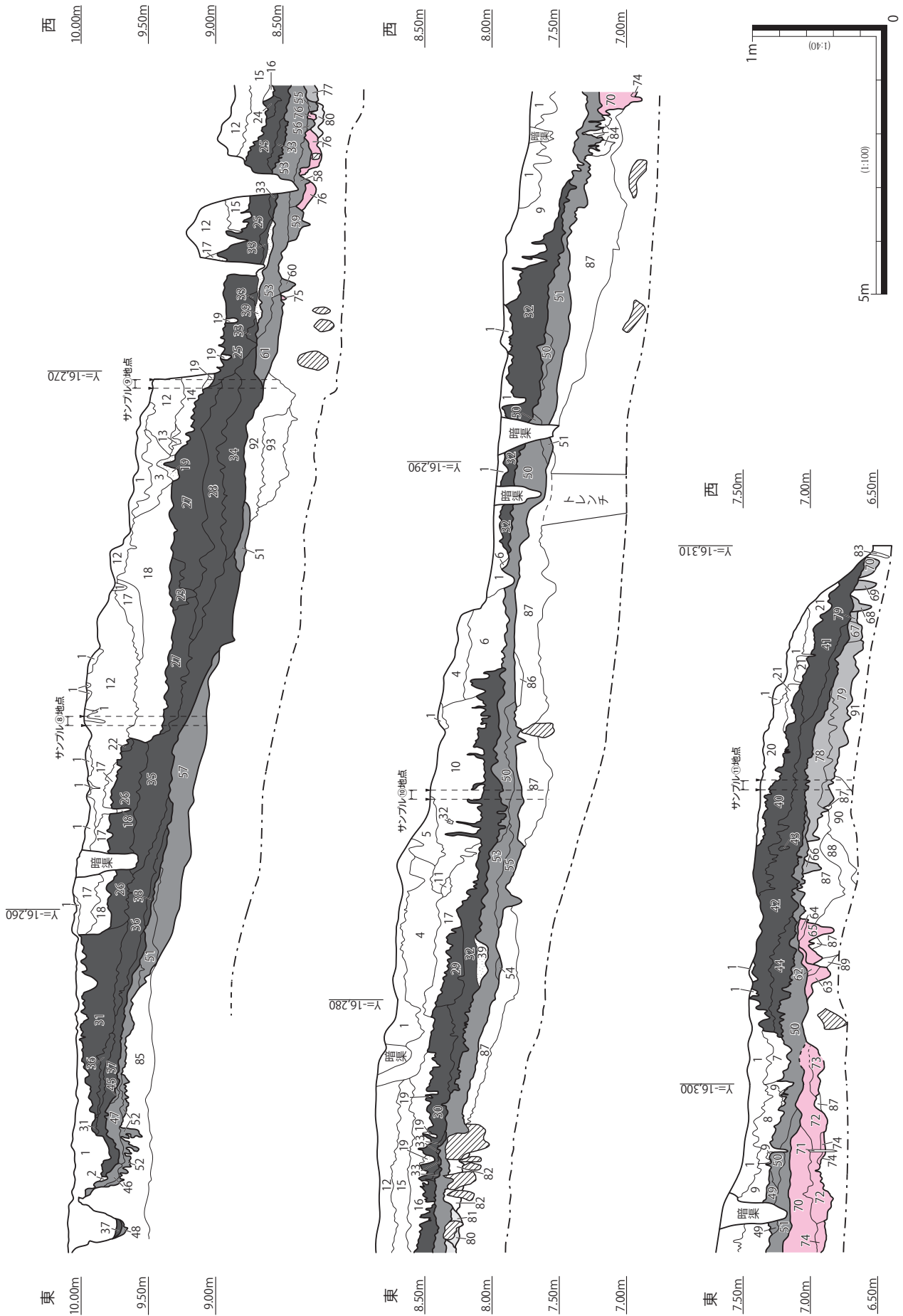


第46図 4区 X=-56,160 ライン 断面図(1)

客土	1 10YR6/4 にぶい黄褐色シルト混じり粗砂～中砂 客土		
	2 10YR4/1 褐灰色 中砂～極粗砂混じりシルト(炭を含む、鉄分沈着顕著) 耕作土		
	3 2.5Y3/2 黒褐色 細砂～粗砂混じりシルト(炭を含む、鉄分沈着) 耕作土		
第1層	4 2.5Y5/2 暗灰黄色 細砂～粗砂混じりシルト(炭を含む、鉄分沈着) 耕作土	4191溝	49 10YR4/1 褐灰色 細砂～中砂混じりシルト
	5 2.5Y5/1 黄灰色 中砂・粗砂混じりシルト(小礫を少量混じる、炭を含む、鉄分沈着)	第4層	50 10YR3/1 黒褐色 細砂～中砂混じり極細砂(木片・植物遺体を多量に含む)
	6 2.5Y4/2 暗灰黄色 中砂・粗砂混じりシルト(炭を少量含む、鉄分沈着) 耕作土		51 10YR3/2 黒褐色 極粗砂混じり中砂(木片・植物遺体を多量に含む)
第1層相当	7 10YR4/1 褐灰色 中砂混じりシルト(鉄分沈着、7・8層撈拌による偽礫を含む)	第4層(第4-2層)	52 10YR4/1 褐灰色 シルト混じり中砂(73層偽礫を含む)
	8 10YR3/1 黒褐色 中砂・粗砂混じりシルト(炭を含む、中礫が少量混じる) 耕作土	4221溝	53 10YR4/2 にぶい黄褐色 粗砂～中砂(自然堆積層)
第2層(第2-1層)	9 10YR3/2 黒褐色 粗砂混じりシルト(炭を含む)		54 10YR4/1 褐灰色 中砂～極粗砂混じり極細砂(73層偽礫・炭化物・焼土粒を多量に含む)
	10 2.5Y3/2 黒褐色 粗砂混じりシルト(炭を含む)	第4層(第4-3層)	55 2.5Y4/1 黄灰色 中砂混じりシルト(細礫・炭・10YR6/3)にぶい黄褐色粘土の1～5cmの偽礫を多量に含む)
第2層(第2-2層)	11 2.5Y3/1 黒褐色 中砂～極粗砂混じりシルト(偽礫・炭・植物遺体を含む)		56 10YR3/1 黒褐色 極細砂・粗砂混じり中砂(ラミナあり。炭化物・木片を含む)
	12 2.5Y7/4 浅黄色 中砂～粗砂 自然堆積層	4286溝	57 10YR4/1 褐灰色 粗砂混じりシルト
第3層	13 2.5Y2/1 黒色 細砂～粗砂混じりシルト		58 10YR4/1 褐灰色 シルト・粗砂混じり中砂(炭を含む)
	14 10YR3/1 黒褐色 中砂混じりシルト(炭を含む)	第4層(第4-4層)	59 10YR4/1 褐灰色 シルト・粗砂混じり中砂(第5層偽礫・炭を含む)
	15 10YR3/1 黒褐色 粗砂・小礫混じりシルト(炭を含む)		60 10YR3/2 黒褐色 粗砂・中砂混じり極細砂(炭を含む)
	16 10YR5/2 灰黄褐色 中砂～粗砂 自然堆積層		61 10YR2/2 黒褐色 中砂・粗砂混じり泥炭(植物遺体を多量に含む。分解は進んでいないか、土壌化弱い)
	17 10YR3/2 黒褐色 粗砂混じりシルト(38・39層偽礫を含む)		62 7.5YR3/1 黒褐色 中砂～極粗砂混じり泥炭(炭・植物遺体を含む)
	18 10YR4/2 灰黄褐色 中砂混じりシルト(炭・小礫を含む)		63 2.5Y3/1 黄褐色 中砂～細砂(植物遺体を含む。ラミナあり)
	19 2.5Y3/2 黒褐色 中砂～粗砂混じりシルト		64 2.5Y4/1 黄褐色 中砂～粗砂(ラミナあり)
	20 10YR3/2 黒褐色 中砂～極粗砂混じり極細砂(小礫・炭・焼土粒を含む。第4層の偽礫を含む)		65 10YR3/2 黒褐色 泥炭混じり中砂
4131溝	21 10YR4/1 褐灰色 中砂～極粗砂混じりシルト(炭・木片を含む)		66 2.5Y7/2 灰黄褐色 細砂～極細砂
	22 10YR4/1 褐灰色 細砂～粗砂混じりシルト(炭・植物遺体を含む)		67 10YR4/2 灰黄褐色(泥質)シルト
第4層(第4-1層)	23 10YR4/1 褐灰色 中砂・粗砂混じりシルト(炭・偽礫・植物遺体を含む)		68 2.5Y7/1 灰白色 シルト混じり中砂
	24 10YR4/1 褐灰色 粗砂・中砂混じりシルト(偽礫・焼土粒・小礫を多量に含む)		69 2.5Y6/2 灰黄色 中砂～粗砂
	25 2.5Y4/1 黄灰色 粗砂・中砂混じりシルト(炭を含む)		70 10YR5/2 灰黄褐色 シルト
4174ピット	26 10YR4/1 褐灰色 中砂混じりシルト(炭を含む。21よりシルト質強い)		71 5Y6/1 灰色 極細砂
4036ピット	27 10YR4/2 灰黄褐色 中砂混じり極細砂(1～5cm大の73層偽礫を多量に含む)		72 2.5Y5/1 黄灰色 粗砂～中砂
4020ピット	28 10YR3/1 黒褐色 中砂混じり極細砂(1～5cm大の73層偽礫を多量に含む)		73 2.5Y8/2 灰白色 極粗砂混じり中砂～粗砂(ラミナ認められず。木片含む) ※土石流堆積か?
4288ピット	29 10YR3/2 黒褐色 極細砂(木片・1～3cm大の73層偽礫を含む)		74 2.5Y7/2 灰黄色 シルト混じり中砂～細砂(しまる。ラミナなし。木片含む)
	30 10YR6/2 灰黄褐色 中砂～粗砂(73層偽礫)		75 10YR5/2 灰黄褐色 細砂～中砂(木片含む)
4035ピット	31 10YR2/2 黒褐色 極細砂(炭・1～5cm大の73層偽礫を多量に含む)		76 7.5YR3/1 黒褐色 細砂～中砂混じり泥炭
	32 73層偽礫		77 10YR7/2 にぶい黄褐色 細砂～粗砂(偽礫を含む。ラミナ認められず)
	33 10YR2/2 黒褐色 極細砂(炭・1～5cm大の73層偽礫を含む)		78 10YR3/2 黒褐色 中砂混じり泥炭
	34 73層偽礫		79 10YR3/2 黒褐色 シルト(植物遺体を含む)
	35 10YR3/2 黒褐色 粗砂混じりシルト(炭・1～5cm大の73層偽礫を含む)		80 2.5Y5/2 暗灰黄色 極細砂～粗砂
	36 2.5Y3/2 黒褐色 シルト(木片・1～5cm大の73層偽礫を含む)		81 10YR5/2 灰黄褐色 シルト
第4層	37 10YR5/2 灰黄褐色 シルト混じり中砂(1～2cm大の73層偽礫を含む)		82 5Y7/2 灰白色 粗細砂～細砂(逆紋化構造。ラミナあり)
	38 10YR4/1 褐灰色 極粗砂～中砂混じりシルト(炭・小礫を含む)		83 5Y6/1 灰白色 粗砂～極粗砂(0.5～1cm大、5B6/1青灰色・2.5Y8/2灰白色粘土偽礫を多量に含む) 土石流堆積?
	39 7.5YR4/1 褐灰色 極粗砂～中砂混じりシルト(炭・中礫を含む)		84 2.5Y5/2 暗灰黄色 シルト混じり中砂～極細砂
	40 10YR3/1 黒褐色 粗砂・中砂混じりシルト(偽礫・炭・植物遺体(木片)を含む)		85 10YR2/2 黒褐色 泥炭
	41 10YR3/1 黒褐色 中砂・粗砂混じりシルト(炭・偽礫を多量に含む)		86 2.5Y6/2 灰黄色 中砂～粗砂(上部2～3cm土壌化)
	42 10YR3/2 黒褐色 粗砂・粗砂混じり極細砂(1cm以下の73層偽礫・炭を含む)		
	43 10YR3/2 黒褐色 中砂～極粗砂混じり泥炭(炭を含む)		
	44 10YR4/1 褐灰色 シルト混じり中砂(0.5cm大の73層偽礫を含む)		
4226ピット	45 2.5Y4/1 黄灰色 粗砂・中砂混じりシルト(炭・偽礫を含む)		
	46 2.5Y3/1 黒褐色 粗砂混じりシルト(泥炭質)		
4225ピット	47 10YR4/1 褐灰色 粗砂混じりシルト(炭・偽礫を含む)		
	48 10YR3/1 黒褐色 中砂・極粗砂混じりシルト(炭・0.5～1cmの偽礫を含む)		

第47図 4区 X=-56,160 ライン 断面図 (2)



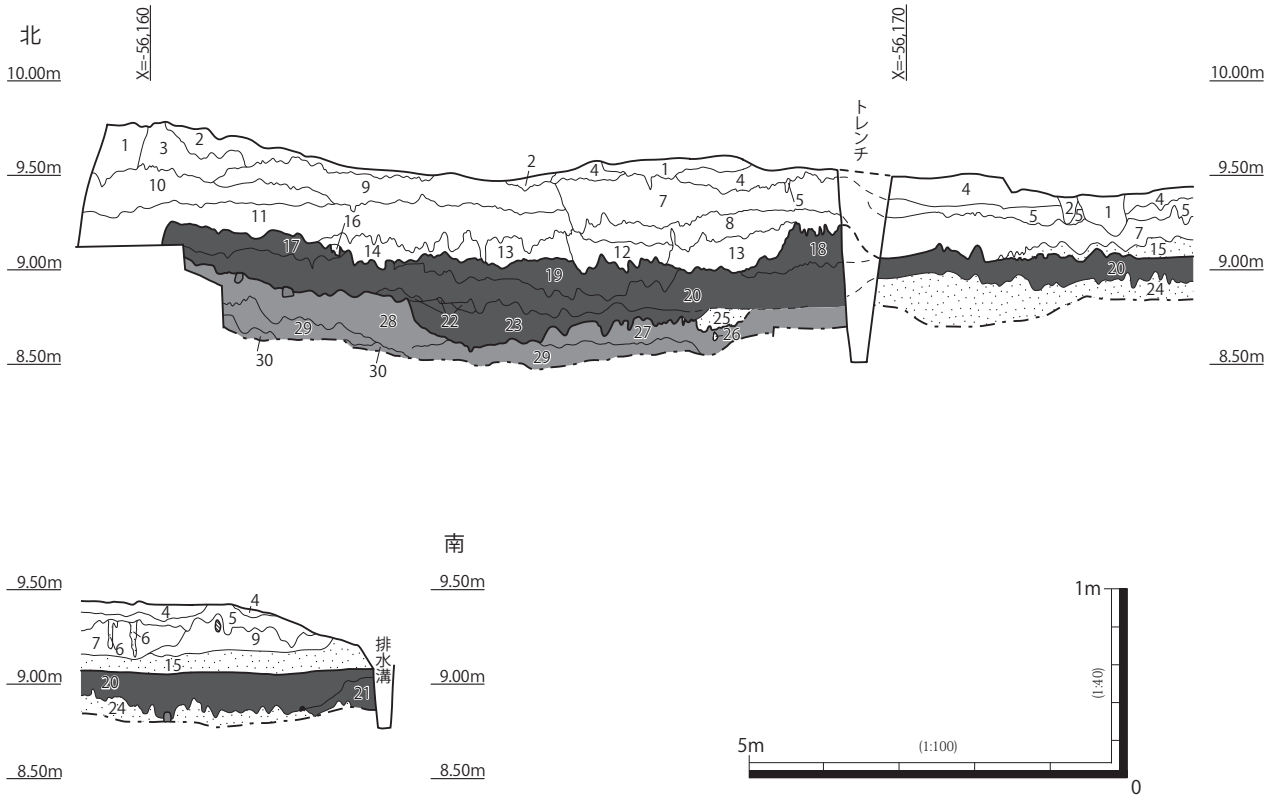


第48図 4区 X=-56,170 ライン 断面図 (1)

1	挿孔・客土	
2	客土の偽礫	
3	2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト混じり中砂～小礫(10YR7/6明黄褐色粗砂～中砂の偽礫を含む)	
4	2.5Y4/1 黄灰色 粗砂・極粗砂混じりシルト	
5	2.5Y5/1 黄灰色 粗砂～小礫混じりシルト(粗砂～中砂の偽礫を含む)	
6	10YR3/1 黒褐色 中砂～小礫混じりシルト(炭を含む)	
7	10YR4/1 褐灰色 粗砂・中砂混じりシルト(炭を含む)	
8	2.5Y4/1 黄灰色 中砂～小礫混じりシルト(炭を含む)	
9	10YR3/1 黒褐色 極粗砂～中砂混じりシルト(炭を含む)	
10	5Y4/1 灰白色 粗砂・中砂混じりシルト(粗砂～中砂の偽礫を含む)	
11	2.5Y4/1 黄灰色 中砂・粗砂混じりシルト	
12	2.5Y4/2 暗灰黄色 中砂～極粗砂混じりシルト	
13	10YR7/4 にぶい、黄褐色 極細砂～極粗砂 (逆礫化構造。最下部は2.5Y7/2灰黄色を呈す極細砂が約1cm厚で堆積、上部にかけて中～極粗砂)	
14	2.5Y4/2 暗灰黄色 粗砂～中砂混じりシルト(粗・中砂の偽礫を含む)	
15	2.5Y4/1 黄灰色 粗砂・中砂混じりシルト(2.5Y3/2黒褐色中砂・粗砂混じりシルト偽礫を含む)	
16	10YR4/1 褐灰色 粗砂～小礫混じりシルト(炭を含む)	
17	10YR6/6 明黄褐色 粗砂～中砂(5～15cm大の偽礫を含む)	
18	10YR7/6 明黄褐色 粗砂～中砂(5cm大の偽礫を含む)	
19	10YR5/3 にぶい、黄褐色 極細砂～極粗砂 (逆礫化構造。最下部は2.5Y7/2灰黄色を呈す極細砂が約1cm厚で堆積、上部にかけて中～極粗砂)	
20	2.5Y5/1 黄灰色 中砂・粗砂混じりシルト(鉄分沈着)	
21	10YR3/2 黒褐色 シルト	
22	2.5Y3/2 黒褐色 シルト	
23	2.5Y3/1 黒褐色 極粗砂・粗砂混じりシルト(炭・10YR7/6明黄褐色粗砂～中砂の偽礫を含む)	
24	2.5Y3/1 黒褐色 細砂・中砂混じりシルト(偽礫を含む)	
25	2.5Y3/1 黒褐色 中砂・粗砂混じりシルト(炭を含む)	
26	2.5Y3/2 黒褐色 粗砂混じりシルト	
27	5Y3/1 オリーブ黒色 中砂・粗砂混じりシルト(炭を含む)	
28	2.5Y2/1 黒色 粗砂混じりシルト	
29	10YR3/1 黒褐色 中砂～細礫混じりシルト(炭・偽礫を含む)	
30	2.5Y3/2 黒褐色 粗砂・中砂混じりシルト(炭・植物遺体・偽礫を含む)	
31	10YR3/1 黒褐色 中砂・細砂混じりシルト	
32	2.5Y3/1 黒褐色 細砂～粗砂混じりシルト(植物遺体・炭を含む)	
33	2.5Y2/1 黒色 粗砂・中砂混じりシルト	
34	10YR3/1 黒褐色 中砂～極粗砂混じりシルト(木片・植物遺体を含む)	
35	10YR2/1 黒色 中砂・粗砂混じりシルト	
36	10YR2/2 黒褐色 中砂～極粗砂混じり極細砂	
37	10YR2/1 黒色 中砂・粗砂混じり極細砂	
38	2.5Y2/1 黒色 シルト混じり粗砂～中砂	
39	10YR6/2 灰黄褐色 細砂～粗砂(ラミナあり。間に植物遺体の薄層が輪状に入る)	
40	10YR3/1 黒褐色 極粗砂～中砂混じりシルト	
41	10YR3/1 黒褐色 極粗砂～中砂混じりシルト(偽礫)	
42	10YR1/7/1 黒色 中砂・粗砂混じりシルト	
43	10YR3/1 黒褐色 粗砂混じりシルト(偽礫)	
44	2.5Y2/1 黒色 中砂～極粗砂混じりシルト(植物遺体を含む)	
45	10YR7/4 にぶい、黄褐色 シルト混じり細砂～粗砂	
46	10YR3/2 黒褐色 極細砂混じり粗砂～中砂	
47	10YR3/2 黒褐色 極粗砂混じり中砂～粗砂	
48	10YR4/2 灰黄褐色 中砂～極粗砂混じりシルト(植物遺体を含む)	
49	10YR3/2 黒褐色 中砂・粗砂混じり極細砂(炭・小礫・木片を含む)	
50	10YR3/2 黒褐色 極細砂混じり粗砂～中砂(炭化物を含む)	
51	10YR3/2 黒褐色 極細砂混じり粗砂～中砂(5Y6/2灰オリーブ色シルト混じり粗砂～中砂の偽礫を少量含む)	
52	10YR3/1 黒褐色 粗砂・中砂混じり極細砂	
53	10YR3/1 黒褐色 粗砂・中砂混じり極細砂	
54	10YR3/2 黒褐色 中砂・粗砂混じり極細砂(炭・木片・1cm大の礫を含む)	
55	10YR3/2 黒褐色 極細砂・粗砂混じり粗砂(炭・木片を含む)	
56	10YR3/1 黒褐色 極細砂・粗砂混じり中砂	
57	10YR5/2 灰黄褐色 極粗砂混じり極粗砂～粗砂	
58	10YR3/2 黒褐色 極粗砂混じり中砂	
59	10YR4/1 褐灰色 極粗砂混じり中砂(部分的に中～粗砂がラミナ状に入る)	
60	10YR3/1 黒褐色 中砂・粗砂混じり極細砂(木片を含む)	
61	10YR3/2 黒褐色 粗砂・中砂混じり泥炭(偽礫・木片を含む) より真側では、中～粗砂が主体となる。(偽礫土に近い、色調は同じ)	
62	10YR3/1 黒褐色 シルト・粗砂混じり細砂(炭・偽礫・細礫を含む)	
63	10YR6/1 灰白色 細砂～粗砂(ラミナあり。木片・炭・第5層偽礫を含む)	
64	10YR3/1 黒褐色 粗砂・極細砂混じり細砂(炭・第5層偽礫を含む)	
65	10YR4/1 褐灰色 粗砂・シルト混じり細砂～中砂(炭・第5層偽礫を含む)	
66	10YR8/3 浅黄褐色 シルト混じり細砂～中砂(10YR3/1黒褐色極細砂偽礫を含む)	
67	10YR5/2 灰黄褐色 シルト混じり細砂～中砂(炭・偽礫を含む)	
68	10YR3/1 黒褐色 シルト・粗砂混じり中砂(炭・偽礫を含む)	
69	10YR6/2 灰黄褐色 粗砂・中砂混じり細砂(炭を含む)	
70	10YR7/2 にぶい、黄褐色 中砂～粗砂(ラミナあり。炭・偽礫を含む)	
71	2.5Y3/2 黒褐色 シルト・極粗砂混じり細砂～中砂(炭・木片・1cm大の礫を含む)	
72	2.5Y4/1 黄灰色 粗砂・極粗砂混じりシルト(假)	
73	2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト・極粗砂混じり粗砂～中砂	
74	10YR3/2 黒褐色 極粗砂混じり細砂～中砂(炭を薄層状に含む)	
75	10YR8/3 浅黄褐色 極粗砂～中砂(ラミナあり)	
76	10YR7/2 にぶい、黄褐色 中砂～粗砂	
77	10YR7/1 灰白色～10YR2/6明黄褐色 中砂～粗砂 (ラミナあり。部分的に極細砂混じる)4038溝へ流れ込む旧流路か	
78	10YR4/1 褐灰色 シルト・極粗砂混じり中砂 (径1～5cm大の第5層偽礫・炭・小礫を多量に含む)	
79	2.5Y5/1 黄灰色 粗砂・シルト混じり中砂(細礫・炭を含む)	
80	10YR2/2 黒褐色 極粗砂混じり中砂(第5層偽礫を含む)	
81	10YR3/1 黒褐色 粗砂・中砂混じり極細砂	
82	10YR5/1 褐灰色 シルト混じり粗砂～中砂	
83	10YR5/2 灰黄褐色 極粗砂・粗砂混じり中砂(第4層由来の偽礫を含む)	
84	10YR5/2 灰黄褐色 極細砂・粗砂混じり中砂(炭・第5層偽礫・木片を含む)	
85	5Y6/2 灰オリーブ シルト混じり粗砂～中砂 10YR7/2 にぶい、黄褐色 細砂(木片を含む) ※87の再堆積土	
86	10YR7/2 にぶい、黄褐色 細砂(木片を含む) ※87の再堆積土	
87	10YR8/3 浅黄褐色 細砂～粗砂(径1～3cm大の礫を含む、硬くしめる)	
88	7.5Y4/1 明緑灰色 細砂・粗砂混じりシルト(砂は偽礫状に入るところが多い)	
89	10YR6/2 灰黄褐色 シルト混じり細砂～中砂(木片を含む)	
90	5Y7/1 灰白色 中砂混じりシルト(地山由来の1～10cm大偽礫・木片を含む)	
91	2.5Y7/2 灰黄色 シルト混じり中砂(地山由来の1～2cm大偽礫・灰黄色シルト(薄層状)・木片を含む)	
92	2.5Y7/1 灰白色～10YR7/2 にぶい、黄褐色 中砂～粗砂(小礫を含む。ラミナあり)	
93	10YR7/1 灰白色～10YR4/1 褐灰色 細砂～粗砂(ラミナあり)	

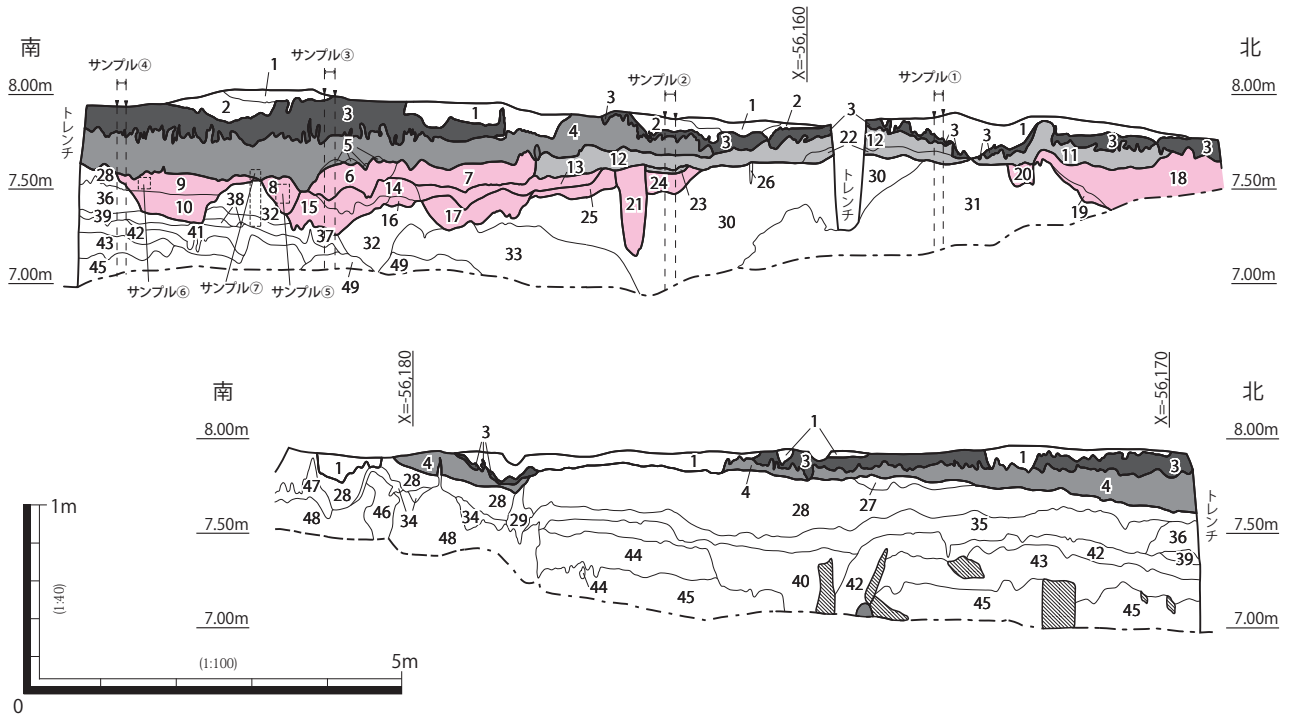
第49図 4区 X=56,170 ライン 断面図(2)

第VI章 3区・4区の調査成果



- |            |  |
|------------|--|
| 客土         | 1 攪乱   |
| 第1層(第1-1層) | 2 2.5Y3/2 黒褐色 シルト混じり極粗砂～中砂   |
|            | 3 5Y6/2 灰オリーブ 細～小礫混じり細～中砂  |
|            | 4 2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト混じり中砂～小礫(10YR7/6明黄褐色粗砂～中砂の偽礫を含む)                       |
| 第1層(第1-2層) | 5 2.5Y4/3 オリーブ褐色 粗砂・極粗砂混じりシルト(炭化物を含む)                                    |
|            | 6 10YR7/4 にぶい黄褐色 極細砂～極粗砂(ラミナあり。逆級化構造) 自然堆積層                              |
| 第1層(第1-3層) | 7 2.5Y4/2 暗灰黄色 中砂～極粗砂混じりシルト(偽礫を含む)                                       |
|            | 8 2.5Y4/2 暗灰黄色 粗～中砂混じりシルト(粗～中砂の偽礫を多く含む)                                  |
|            | 9 5Y4/1 灰色 中～極粗砂混じりシルト(中・粗砂の偽礫を含む。炭化物を含む)                                |
|            | 10 2.5Y4/2 暗灰黄色 粗・中砂混じりシルト(炭化物を含む)                                       |
| 第1層(第1-4層) | 11 2.5Y3/2 黒褐色 粗・中砂混じりシルト(中・粗砂の偽礫・炭化物を含む)                                |
|            | 12 2.5Y3/2 黒褐色 粗砂～小礫混じりシルト(2.5Y2/1黒色細～粗砂混じりシルトの偽礫・炭化物を含む)                |
|            | 13 10YR3/1 黒褐色 粗砂・中砂混じりシルト(2.5Y2/1黒色細～粗砂混じりシルト及び粗・中砂の偽礫を含む)              |
|            | 14 2.5Y3/2 黒褐色 中～粗砂混じりシルト(2.5Y2/1黒色細～粗砂混じりシルトの偽礫・炭化物を含む)                 |
|            | 15 10YR7/2 にぶい黄褐色 中・粗砂(上部)～2.5Y8/3 浅黄色 極細砂～細砂(下部)(ラミナあり。逆級化構造)           |
|            | 16 10YR5/3 にぶい黄褐色 極細砂～極粗砂(逆級化)   |
| 第2層(第2-1層) | 17 2.5Y3/1 黒褐色 中砂・粗砂混じりシルト   |
|            | 18 2.5Y3/1 黒褐色 中砂・粗砂混じりシルト(炭化物を含む)                                       |
|            | 19 2.5Y2/1 黒色 細～粗砂混じりシルト(炭化物・植物遺体を含む)                                    |
| 第2層(第2-2層) | 20 2.5Y3/1 黒褐色 粗砂・極粗砂混じりシルト(炭化物・偽礫を含む)                                   |
|            | 21 2.5Y3/2 黒褐色 シルト混じり中砂～粗砂(偽礫を含む)  |
| 第2層(第2-3層) | 22 10YR6/2 灰黄褐色 中砂～粗砂(20層に由来する植物遺体の溝層がラミナ状に入る)                           |
|            | 23 5Y5/1 黒色 極粗砂混じり細砂～粗砂(植物遺体を多量に含む。炭化物を含む)                               |
| 第3層        | 24 5Y2/1 黒色 シルト混じり中砂～極粗砂(偽礫を含む)  |
|            | 25 10YR7/2 にぶい黄褐色 中砂～粗砂(ラミナあり)   |
|            | 26 25層の偽礫  |
|            | 27 10YR3/2 黒褐色 細砂～粗砂混じり極細砂(1～3mm大の炭、中礫を含む)                               |
|            | 28 10YR3/2 黒褐色 中砂～極粗砂混じり極細砂(1～2cm大の中～粗砂偽礫・礫、2～3mm大の炭を含む)<br>23耕作時の畦畔盛土か。 |
|            | 29 10YR2/2 黒褐色 中砂～極粗砂混じり極細砂(炭・木片を含む)                                     |
|            | 30 2.5Y5/2 暗灰黄色 粗砂～中砂  |

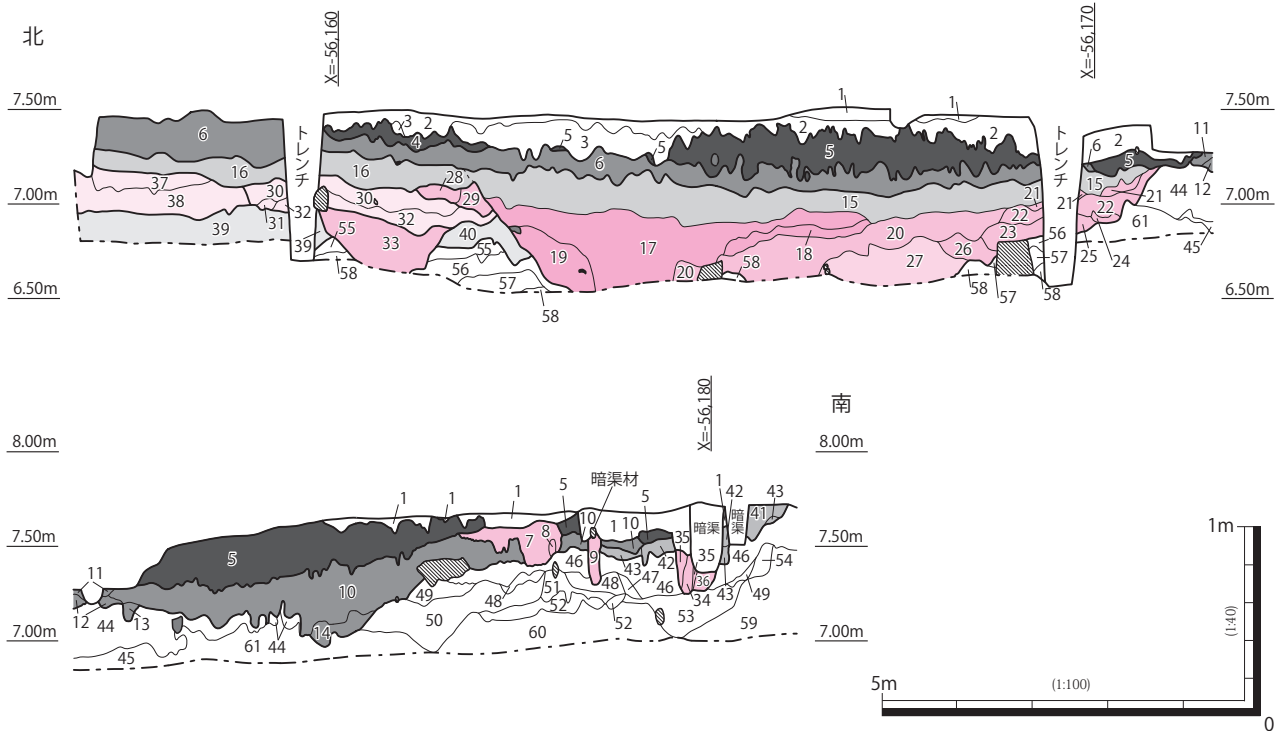
第50図 4区 Y=-16,270 ライン 断面図



- |   |   |   |  |
|---|---|---|--|
| <p>第1層</p> <p>第2層 (2-2層)</p> <p>第3層</p> <p>4038溝</p> <p>第4層 (4-1層)</p> <p>4038溝</p> <p>4194溝</p> <p>4192溝</p> <p>4216ピット</p> <p>4014ピット</p> <p>第4層 (4-1層)</p> | <p>1 客土・造成土</p> <p>2 10YR4/2 灰黄褐色 粗砂・中砂混じりシルト(炭を含む)</p> <p>3 10YR3/1 黒褐色 中砂～小礫混じりシルト(炭を含む)</p> <p>4 10YR3/2 黒褐色 細砂～極粗砂混じり極細砂(炭・植物遺体を含む) 耕作による攪拌顕著</p> <p>5 10YR6/6 明黄褐色 中砂～粗砂</p> <p>6 10YR3/1 黒褐色 粗砂・極粗砂混じり極細砂～細砂(炭・木片・中礫を含む)</p> <p>7 10YR4/1 褐灰色 粗砂・極粗砂混じり極細砂～細砂(炭・木片・第5層の偽礫を含む)</p> <p>8 10YR3/1 黒褐色 極細砂・粗砂混じり細砂～中砂(炭・木片を含む)</p> <p>9 10YR3/1 黒褐色 細砂・中砂混じり極細砂(炭・地山偽礫(径1cm大、最大で約10cm大のものあり)を含む。間ににぶい黄褐色中砂～粗砂が挟在するが、地震によるものか変形)</p> <p>10 10YR7/3 にぶい黄褐色 中砂～粗砂(ラミナあり、中礫・偽礫・炭を含む)</p> <p>11 10YR3/2 黒褐色 中砂～極粗砂混じりシルト(炭・焼土粒・木片を含む)</p> <p>12 10YR3/1 黒褐色 粗砂・シルト混じり中砂～細砂(径1cm大の礫・炭・木片・第5層の偽礫を含む)</p> <p>13 10YR3/1 黒褐色 細砂～粗砂混じりシルト(炭・木片を含む。部分的に細砂～粗砂がラミナ状に通る)</p> <p>14 10YR3/1 黒褐色 シルト・粗砂混じり細砂～中砂(木片・炭・偽礫を含む)</p> <p>15 2.5Y6/2 灰黄色 中砂～極粗(間に10YR3/1黒褐色中砂・粗砂混じり泥炭層が挟在) 4038溝下層</p> <p>16 10YR7/2 にぶい黄褐色 中砂～粗砂(中礫・木片を含む) 4038溝下層</p> <p>17 10YR6/2 灰黄褐色 中砂・粗砂～10YR3/1黒褐色中砂混じり泥炭(炭・木片・偽礫を含む。層上部・下部を中心に中砂～粗砂がラミナ状に通る)</p> <p>18 2.5Y4/1 黄灰色 中砂～小礫混じりシルト(炭・木片・植物遺体を含む)</p> <p>19 10YR5/2 灰黄褐色 シルト・粗砂混じり中砂(第5層の偽礫・炭を含む) 溝掘削時の再堆積土</p> <p>20 10YR3/1 黒褐色 粗砂・中砂混じりシルト(径2～3cm大の第5層(28層) および10YR4/1褐灰色シルト偽礫を多量に含む。炭・木片を含む)</p> <p>21 10YR4/1 褐灰色 中砂・粗砂混じりシルト(第5層および10YR2/2泥炭の偽礫(径1～4cm大)を多量に含む。炭を含む)</p> <p>22 2.5Y4/1 黄灰色 シルト・極粗砂混じり細砂～中砂(炭・偽礫・中礫を含む)</p> <p>23 10YR3/1 黒褐色 細砂～粗砂混じりシルト(第5層の偽礫を含む)</p> | <p>4193溝</p> <p>杭痕?</p> <p>第6層</p> <p>第7層</p> | <p>24 10YR3/1 黒褐色 シルト・粗砂混じり細砂(炭・木片を含む)</p> <p>25 10YR2/2 黒褐色 中砂・粗砂混じり泥炭(炭・偽礫・木片を含む)</p> <p>26 10YR3/1 黒褐色 粗砂混じりシルト(第5層の偽礫を多量に含む)</p> <p>27 10YR8/3 浅黄橙色 小礫混じり細砂～粗砂(ラミナあり。28層の再堆積)</p> <p>28 2.5Y8/2 灰白色 極細砂～細砂(木(枝)片・偽礫・中礫を多く含み、硬くしまる)</p> <p>29 10YR6/3 にぶい黄褐色 粗砂混じり極細砂～細砂(中礫・34層偽礫を含む) ※縮まりがなく樹根か</p> <p>30 2.5Y8/3 浅黄色 中砂混じり極粗砂～細砂(中礫・偽礫・木片を含み、硬くしまる)</p> <p>31 10YR7/2 にぶい黄褐色 粗砂混じり細砂～中砂(中礫・木片を含み、硬くしまる)</p> <p>32 2.5Y6/2 灰黄色 極細砂～中砂(小礫・偽礫を含む。炭をわずかに含む)</p> <p>33 2.5Y4/2 暗灰黄色 中砂・粗砂混じりシルト(植物遺体・中礫を含む)</p> <p>34 10YR3/2 黒褐色 細砂～中砂混じり泥炭(木片を含む)</p> <p>35 10YR7/2 にぶい黄褐色 極粗砂混じり中砂～粗砂(間に暗灰黄色極細砂層を挟在。同層には偽礫を含む。層上部は土壌化して暗色化)</p> <p>36 10YR7/3 にぶい黄褐色 中砂～小礫(ラミナあり。上部は土壌化し、暗色化)</p> <p>37 10YR3/2 黒褐色 中砂・粗砂混じり泥炭(木片・植物遺体を含む)</p> <p>38 10YR8/4 浅黄橙色 中砂～粗砂</p> <p>39 2.5Y5/2 暗灰黄色 中砂・粗砂混じりシルト</p> <p>40 5Y5/1 灰色 小礫混じり中砂～極粗砂(ラミナあり。立木?・木片含む)</p> <p>41 2.5Y5/2 暗灰黄色 シルト(植物遺体・径1～2cmの木(枝)片を含む)</p> <p>42 2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト(植物遺体を含む)</p> <p>43 2.5Y9/2 灰黄色 粗砂～極粗砂(ラミナあり)</p> <p>44 2.5Y6/2 灰黄色 極粗砂混じり中砂～粗砂(ラミナあり。上部2～3cmは土壌化して暗色化)</p> <p>45 10YR4/2 灰黄褐色 中砂・粗砂混じり泥炭</p> <p>46 5Y7/2 灰白色 細砂～中砂(ラミナあり。植物遺体を含む)</p> <p>47 2.5Y8/2 灰白色 細砂～中砂(しまる)</p> <p>48 10YR8/3 浅黄橙色 粗砂～細砂(ラミナあり)</p> <p>49 5Y7/2 灰白色 細砂～粗砂(ラミナあり。逆級化構造)</p> |
|---|---|---|--|

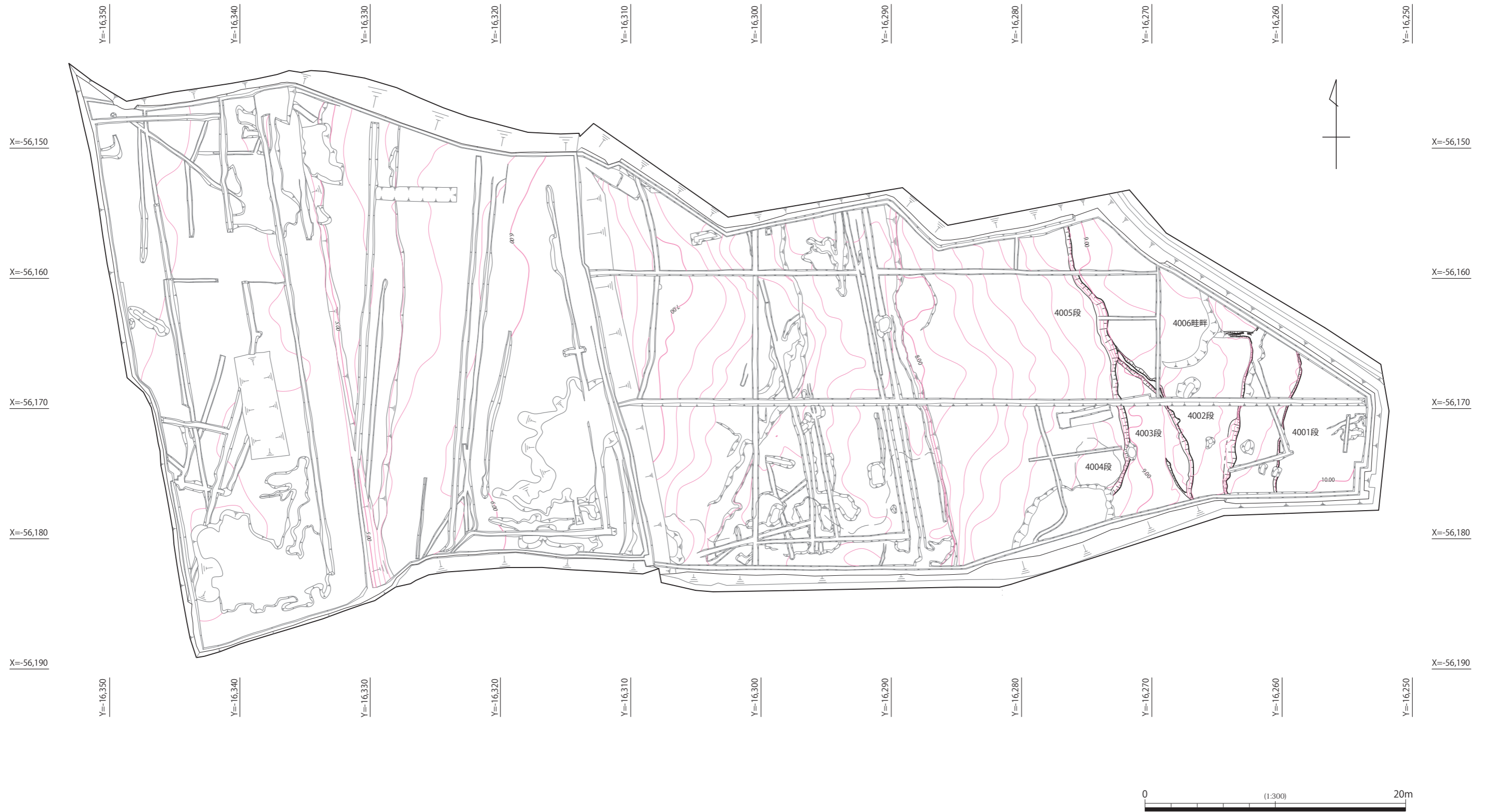
第51図 4区 Y=-16,290 ライン 断面図

第VI章 3区・4区の調査成果



- |             |   |  |
|-------------|---|--|
| 第1層         | 1 耕作土 床土  |  |
| 第2層(第2-2層)  | 2 10YR6/2 灰黄褐色 粗砂・極粗砂混じり極細砂(第2層偽礫を含む)                       |  |
|             | 3 10YR3/2 黒褐色 粗砂～小礫混じり極細砂(第2層偽礫・炭を含む)                       |  |
| 第3層         | 4 2.5Y2/1 黒色 粗砂～小礫混じりシルト(炭を含む)                              |  |
|             | 5 10YR3/1 黒褐色 中砂～極粗砂混じりシルト(炭を含む)                            |  |
| 4023溝       | 6 10YR3/2 黒褐色 中砂～極粗砂混じり極細砂～シルト(炭・木片・焼土粒を含む)                 |  |
|             | 7 10YR7/1 灰白色 細砂～粗砂(ラミナあり。植物遺体の薄層が縞状に入る)                    |  |
| 4353ピット     | 8 21層の偽礫  |  |
|             | 9 10YR4/1 褐灰色 シルト・粗砂混じり中砂(炭・35層偽礫を含む)                       |  |
| 第3層         | 10 10YR3/2 黒褐色 中砂～極粗砂混じり極粗砂(偽礫・炭・木片を含む)                     |  |
|             | 11 10YR3/2 黒褐色 極細砂混じり中砂～粗砂(ラミナあり)                           |  |
| 4038溝       | 12 7.5YR4/1 褐灰色 中砂混じり極細砂(偽礫を含む)                             |  |
|             | 13 10YR3/2 黒褐色 極細砂混じり中砂～粗砂(小礫・炭・偽礫を含む)                      |  |
| 第4層(第4-1層)  | 14 2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト・極粗砂混じり中砂(炭・木片・偽礫を含む)                    |  |
|             | 15 10YR3/2 黒褐色 細砂～粗砂混じり極細砂(炭・木片を含む) 第4-1層相当                 |  |
| 4038溝       | 16 10YR4/1 褐灰色 中砂～中礫混じりシルト(偽礫・炭・焼土粒を含む)                     |  |
|             | 17 10YR3/2 黒褐色 粗砂・中砂混じり極細砂(第4層偽礫・炭・木片・小礫を含む。)               |  |
| 4038溝中層     | 18 10YR8/4浅黄橙色～10YR7/2にぶい黄橙色細砂～中砂(間に37層に關係する細砂～中砂が挟在。ラミナあり) |  |
|             | 19 10YR4/1 褐灰色 シルト・極粗砂混じり細砂～中砂(第4層偽礫・炭・木片を含む)               |  |
| 4038溝下層     | 20 10YR4/2 灰黄褐色 シルト・極粗砂混じり細砂～粗砂(ラミナあり。炭・木片を含む)              |  |
|             | 21 10YR3/2 黒褐色 シルト・小礫混じり中砂～粗砂(炭・木片を含む)                      |  |
| 4191溝       | 22 10YR4/2 灰黄褐色 粗砂～中砂(偽礫を含む。上～中位にかけて・灰・種皮(トチなど)を薄層状に含む)     |  |
|             | 23 10YR5/2 灰黄褐色 極細砂混じり細砂～中砂(ラミナあり)                          |  |
| 第4層(第4-2層?) | 24 10YR6/3 にぶい黄橙色 中砂～小礫                                     |  |
|             | 25 10YR6/2 灰黄褐色 粗砂～中砂                                       |  |
| 4221溝       | 26 10YR3/2 黒褐色 中砂～極粗砂混じり泥炭(木片・小礫を含む)                        |  |
|             | 27 10YR6/2 灰黄褐色 中砂～極粗砂(中礫を多量に含む。炭・木片を含む)                    |  |
| 4127ピット     | 28 10YR3/1 黒褐色 極粗砂混じりシルト                                    |  |
|             | 29 10YR4/1 褐灰色 中砂～中礫混じりシルト(炭・焼土粒を含む)                        |  |
| 第4層(第4-2層)  | 30 7.5YR4/1 褐灰色 中砂混じり極細砂(偽礫・炭・焼土粒を含む)                       |  |
|             | 31 17層の偽礫   |  |
| 第4層(第4-3層)  | 32 7.5YR4/1 褐灰色 シルト・極粗砂混じり中砂(炭を含む)                          |  |
|             | 33 10YR4/1 褐灰色 細砂・中砂混じりシルト(炭・木片・偽礫を含む)                      |  |
| 第4層         | 34 10YR4/1 褐灰色 シルト混じり細砂～中砂(柱痕跡)                             |  |
|             | 35 10YR4/1 褐灰色 シルト・極粗砂混じり中砂(炭・35層偽礫を含む)                     |  |
| 第4層         | 36 10YR3/1 黒褐色 シルト・極粗砂混じり中砂(炭・35層偽礫を多量に含む)                  |  |
|             | 37 10YR4/1 褐灰色 粗砂・極粗砂混じりシルト(炭・焼土粒・地山由来の偽礫を含む)               |  |
| 第4層         | 38 10YR4/1 褐灰色 中砂～粗砂混じりシルト(地山由来の偽礫・炭・焼土粒を含む)                |  |
|             | 39 10YR4/1 褐灰色 シルト・粗砂混じり中砂(炭・偽礫・小礫を含む)                      |  |
| 第4層         | 40 10YR4/1 褐灰色 シルト・極粗砂混じり細砂～中砂(45・46の偽礫を含む。炭・小礫を含む)         |  |
|             | 41 10YR4/1 褐灰色 極細砂・極粗砂混じり中砂(炭・35層偽礫を多量に含む)                  |  |
| 第6層         | 42 10YR3/1 黒褐色 シルト・極粗砂混じり中砂(炭・35層偽礫を多量に含む)                  |  |
|             | 43 10YR6/2 灰黄褐色 極粗砂混じり中砂～細砂(炭を含む)                           |  |
|             | 44 2.5Y7/2 灰黄色 中砂～極粗砂                                       |  |
|             | 45 10YR6/2 灰黄褐色 細砂～粗砂(偽礫を含む)                                |  |
|             | 46 10YR7/2 にぶい黄橙色 粘土混じり中砂～粗砂(中礫を含む)                         |  |
|             | 47 10YR2/3 黒褐色 泥炭混じり中砂～粗砂(泥炭は偽礫状)                           |  |
|             | 48 10YR4/2 灰黄褐色 シルト混じり中砂～極粗砂(植物遺体を含む)                       |  |
|             | 49 2.5Y5/2 暗灰黄色 細砂～粗砂                                       |  |
|             | 50 2.5Y7/1 灰白色 細砂～極粗砂(ラミナあり。南半部は植物遺体の薄層がラミナ状に入る)            |  |
|             | 51 2.5Y6/2 灰黄色 細砂～粗砂(木片を含む)                                 |  |
|             | 52 10YR4/2 灰黄褐色 中砂～極粗砂混じり泥炭                                 |  |
|             | 53 10YR7/1 灰白色 中砂～極粗砂(ラミナあり。南半部は植物遺体の薄層がラミナ状に入る)            |  |
|             | 54 7.5YR5/2 灰褐色 粘土混じり中砂～細砂(炭を含む)                            |  |
|             | 55 10YR7/3 にぶい黄橙色 細砂～中砂(小礫を含み、硬くしまる)                        |  |
|             | 56 2.5Y5/2 暗灰黄色 シルト(植物遺体を含む)                                |  |
|             | 57 7.5YR3/2 黒褐色 泥炭(木片・植物遺体を多量に含む)                           |  |
|             | 58 2.5Y6/2 灰黄色 中砂～粗砂  |  |
|             | 59 10YR7/3 にぶい黄橙色 細砂～中砂                                     |  |
|             | 60 2.5Y6/2 灰黄色 粗砂～中砂(ラミナあり)                                 |  |
|             | 61 10YR5/2 灰黄褐色 粗砂～中砂(ラミナあり。木片含む)                           |  |

第52図 4区 Y=-16,300 ライン 断面図



第53図 3区・4区第1層下面 全体図

## 第2節 検出した遺構

### (1) 第1層下面の遺構

#### 4001～4005段・4006畦畔 (第53・54図、PL.64・65)

4区東端で検出した耕地段差である。このうち、4001段、4003段、4005段は近世の作土である第1-3層によって形成された耕地段差で、4002段、4004段とは時期が異なる。4005段によって4003段北部で検出した擬似畦畔状の高まりと4004段は削平されており、4005段が3つの中では最も新しい。断面Cラインの3層は4003段に伴う作土である。

4002段と4004段は葉理、逆級化構造が認められる自然堆積層の第1-4層によって被覆されて埋没、廃棄された耕地段差で、耕作に伴う凹凸も認められるなど機能面を残す。4006畦畔は4002段に伴うもので、幅35～40cmを測り、延長約2mを検出した。自然科学分析の結果からも第2層は水田作土であることが明らかで、第2-1層出土遺物から室町時代の水田跡と考えられる。

### (2) 第2層下面の遺構

#### 3005集石・3009溝・3163溝・3164土坑 (第55～57図、PL.13)

3区東端に広がる第3層相当層の上面で検出した遺構群である。ただ、同層は後述する4038溝の北側再掘削後の堆積層の可能性もある。

**3005集石**は1.4×1.2mの範囲に20～40cm大の垂角礫を集積したものである。掘り込みは確認できず、第2層に伴うものか、それより上位で形成されたものか不明である。集石の形成に伴って、下位の礫は3164土坑にかかるように沈み込んでいる。

**3009溝**は3005集石の下で検出した南北方向に延びる溝で、延長8.8m、幅は一様でなく30～90cmを測る。検出面からの深さは10～15cmと浅い。埋土は第2-2層に由来する細砂～粗砂で、本来的には第2層の耕作に伴う溝の下部を検出した可能性がある。3163溝は3009溝に切られる溝で、位置、方向もほぼ重複する。

**3164土坑**は3005集石、3009溝の下で検出した。長軸2.2m、短軸1.4mを測る不整楕円形の土坑である。検出面からの深さは10cm程度で、浅い皿状を呈す。土師器坏、皿類(第198図652～665)とともに礫や木片が廃棄されたような状態で出土し、中には円形曲物の蓋(第249図W70)や不明木製品(第275図W276)も含まれていた。出土遺物から、10世紀前半頃の廃棄土坑であろう。

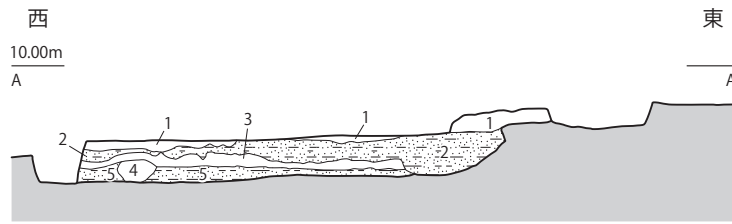
#### 掘立柱建物1 (第58～60図、PL.14・15)

3区北端で検出した掘立柱建物である。建物は北側の丘陵裾に寄せて建てられているため、当初は3145～3150ピットの6基しか検出できていなかったが、その後安全勾配を確保できる範囲で北壁を拡張して掘り下げ、3151ピットと3152ピットを確認した。

3146ピット、3149ピット、3151ピットを隅柱とする梁行2間(4.0m)、桁行3間(6.6m)の側柱建物で、主軸方位はN-65°-Wである。身舎の面積は26.4m<sup>2</sup>を測る。3152ピットを除き、すべての柱穴で柱根が残っていた。3145ピット、3146ピットの柱根は圃場整備時に西側へ引き倒されたようだが、その底部は概ね原位置を留めているものと推察する。柱間寸法は桁行方向が2.2～2.3m、梁行方向がやや狭く1.8～2.0mとなっている。

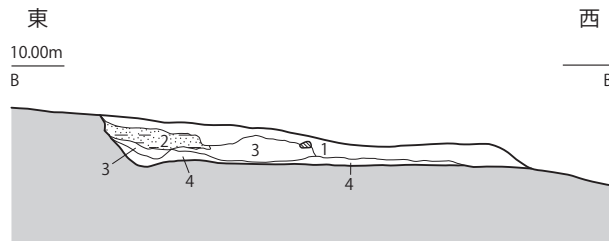
柱穴は長軸90～100cm、短軸70～100cmの不整楕円形、不整隅丸長方形をしており、検出面

4002段 断面A-A'



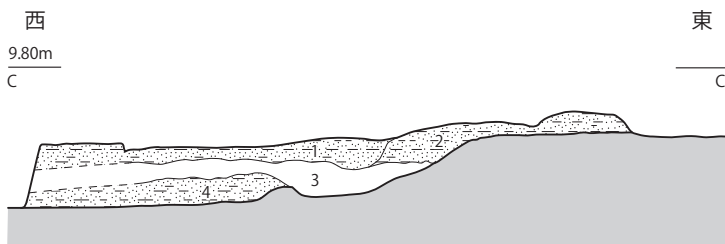
- 1 2.5Y3/2 黒褐色 粗砂・中砂混じりシルト 作土(近世以降)
- 2 2.5Y7/4 浅黄色 細砂～中礫(ラミナあり) 自然堆積層
- 3 10YR4/1 褐灰色 シルト混じり中砂～極粗砂(土壌化層) 作土
- 4 10YR4/1 褐灰色 シルト混じり粗砂～中砂の偽礫
- 5 2.5Y5/2 暗灰黄色 細砂～粗砂(ラミナあり) 自然堆積層

4002段 断面B-B'



- 1 2.5Y7/4 浅黄色 中砂～極粗砂(10cm大の偽礫を含む) 客土
- 2 2.5Y7/4 浅黄色 極細砂～極粗砂(ラミナあり)
- 3 2.5Y5/3 黄褐色 中砂～極粗砂(中礫を含む)
- 4 2.5Y3/1 黒褐色 粗砂・中砂混じりシルト

4003・4004段 断面

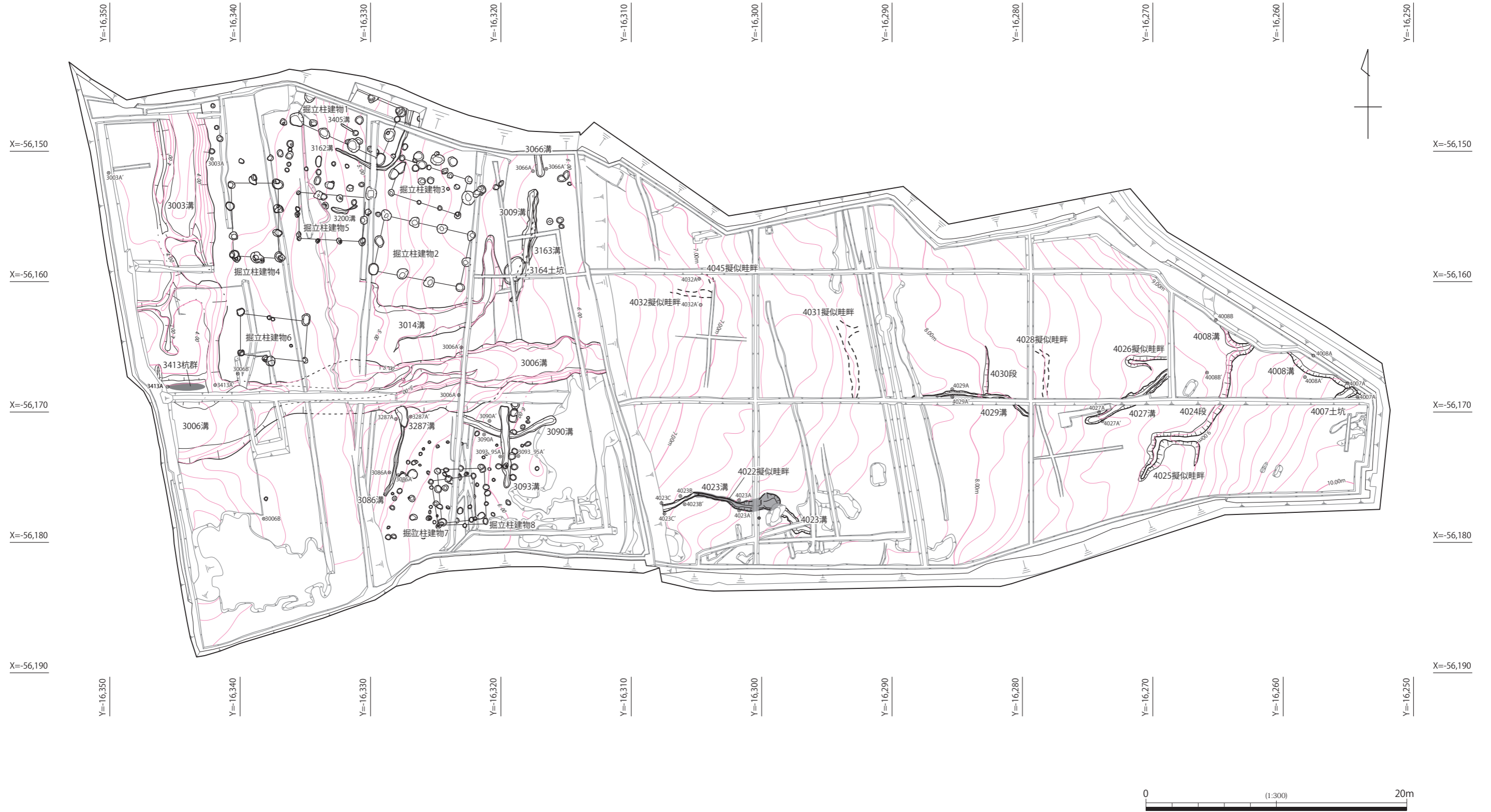


- 1 2.5Y4/1 黄灰色 シルト混じり粗砂～中礫 自然堆積層
- 2 10YR7/2 にぶい黄褐色 細砂混じり極粗砂～粗砂
- 3 2.5Y3/1 黒褐色 細砂～粗砂混じりシルト(黄灰色2.5Y4/1細砂偽礫を含む) 作土
- 4 2.5Y6/2 灰黄色 極粗砂～細砂(逆級化構造。ラミナあり) 自然堆積層

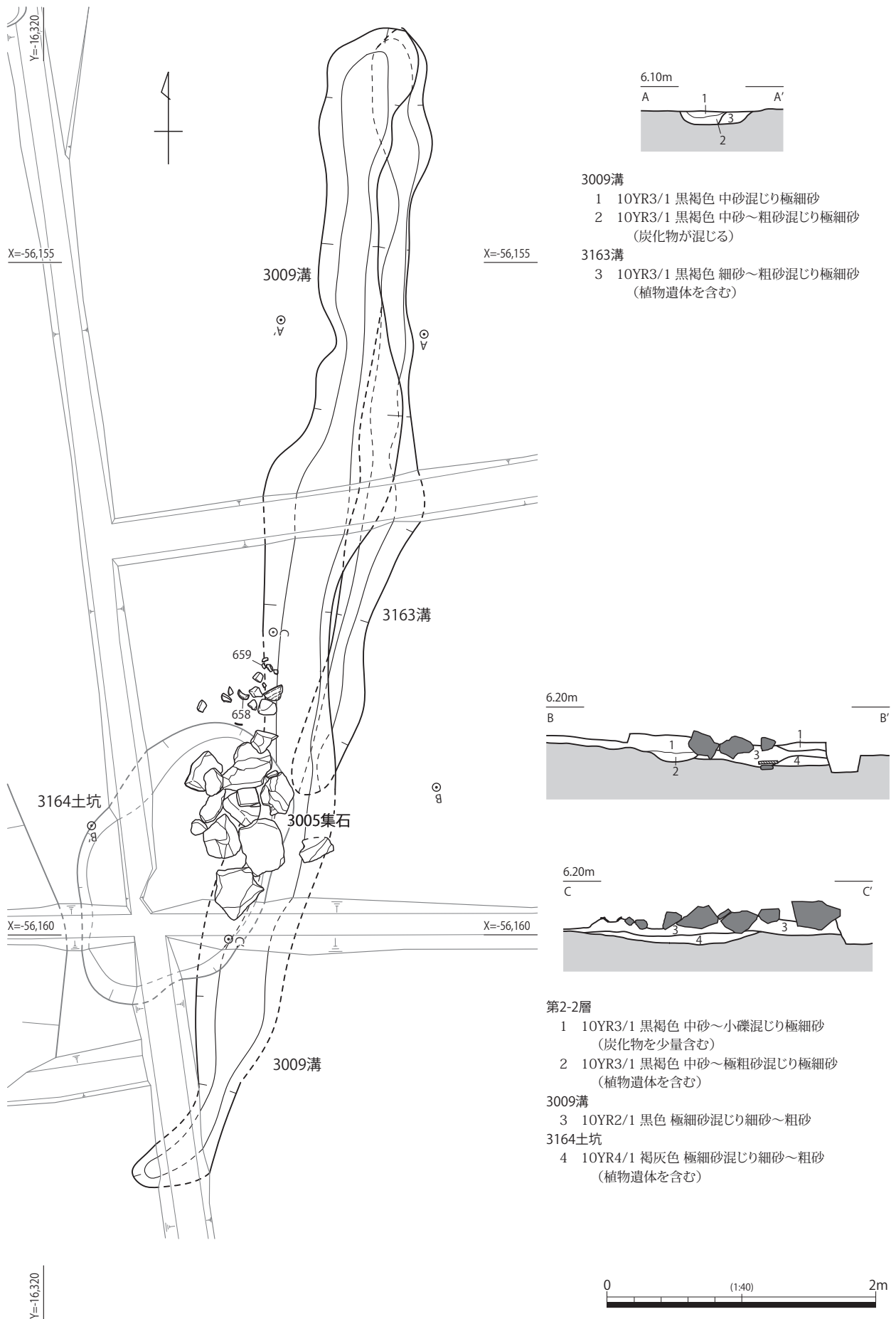


第54図 4002～4004段 断面図

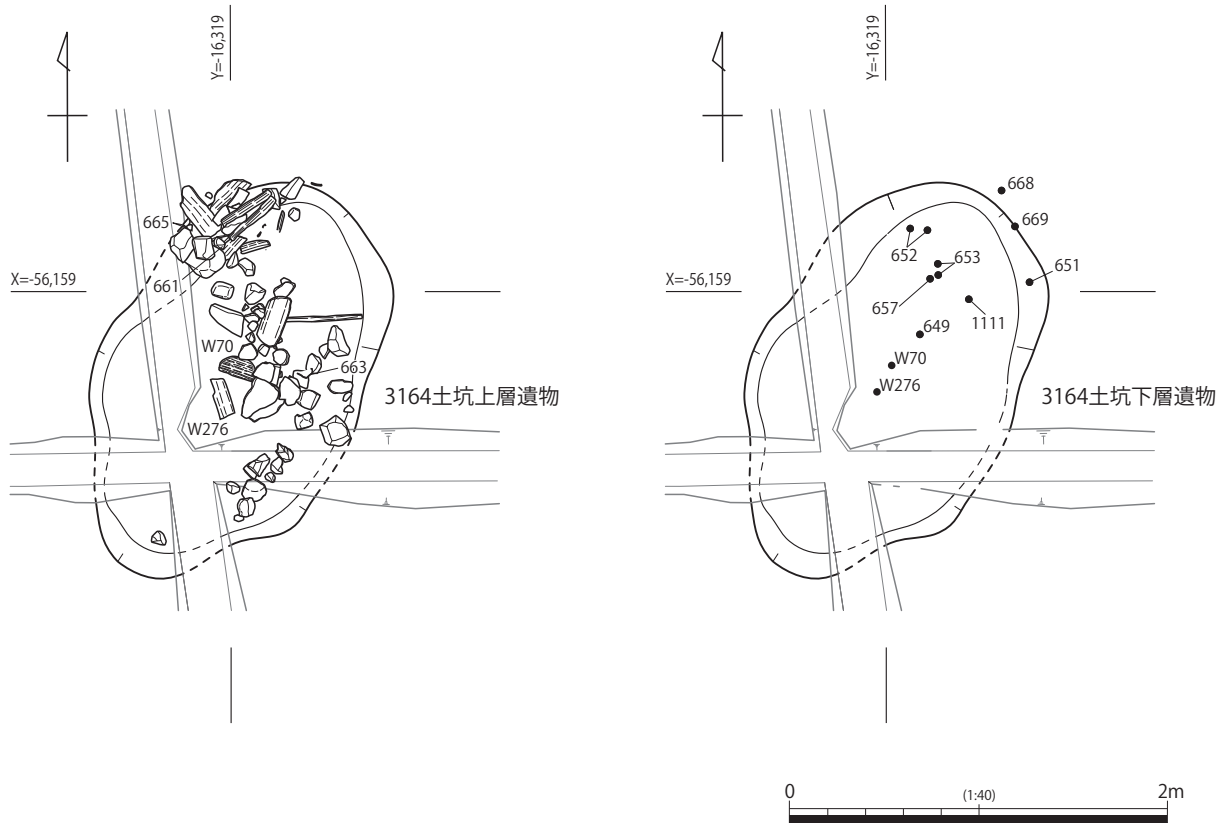




第55図 3区・4区第2層下面 全体図



第56図 3005集石・3009溝・3163溝・3164土坑 平・断面図



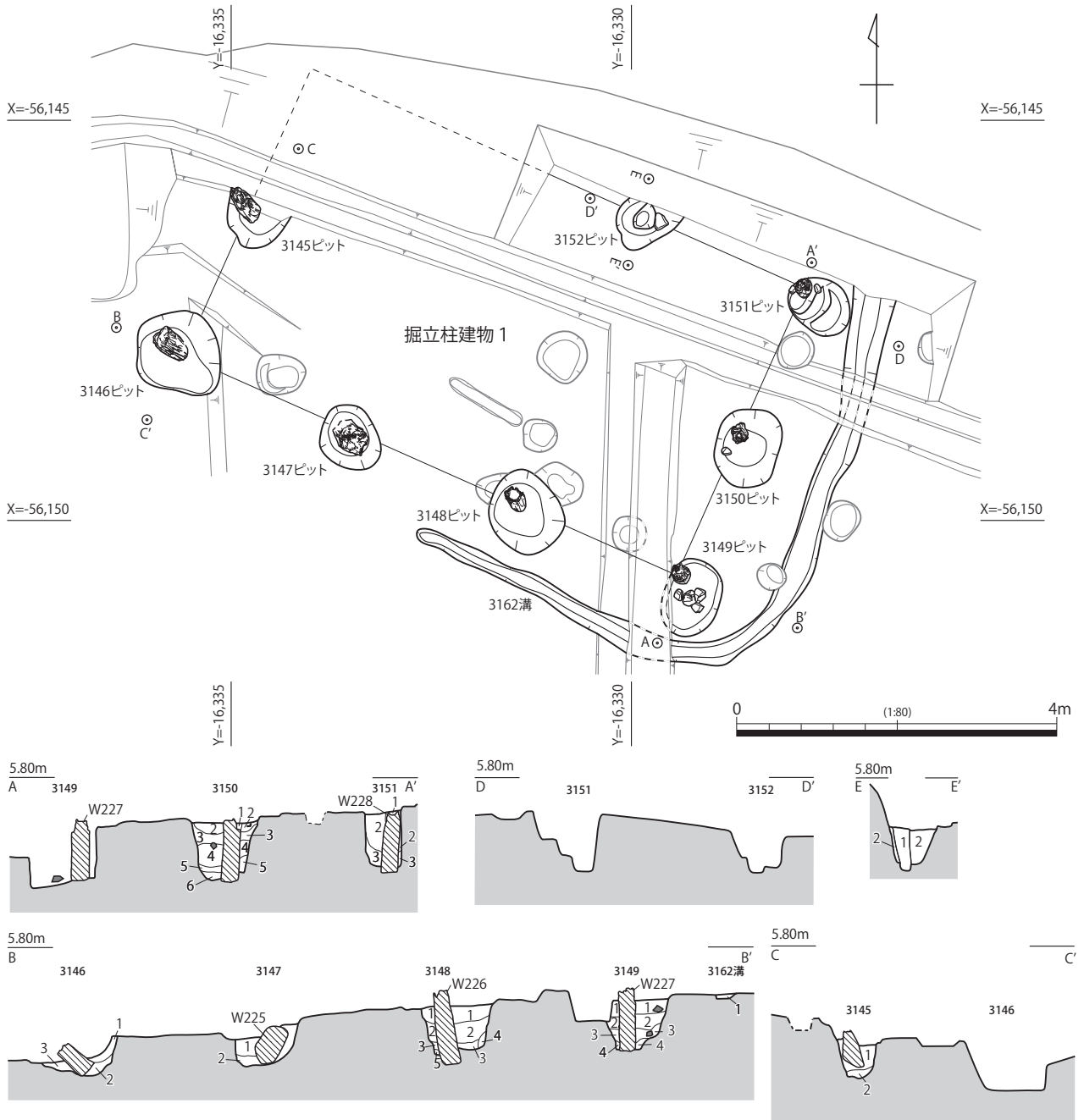
第 57 図 3164 土坑 遺物出土状況図

からの深さは 70 ～ 80 cm を測る。柱掘方埋土は地山由来の粘土偽礫を多分に含む黒褐色～黄灰色のシルトを主体とし、3149 ピットには柱掘方下部に拳大の割石による根石が伴う。3150・3151 ピットでも柱掘方埋土から割石が出土したが、根石とは考えられない。柱根は径 20 ～ 25 cm のものが多く、3146 ピット出土柱根が最も太く 35 cm あった。遺存状況が比較的良い 3147・3149・3151 ピット出土柱根で樹種同定とウイグルマッチングによる年代測定を行った（第VII章第2節参照）。樹種はすべてスギであり、年代測定の結果、3147 ピット出土柱（第 268 図 W225）で calAD666-698 と古い測定値が出たものの他 2 点は 3149 ピット出土柱（第 269 図 W227）が calAD790-830、3151 ピット出土柱（W228）が calAD767-815 であった。

掘立柱建物 1 の外周では雨落溝と考えられる 3162 溝を検出した。検出範囲では幅 16 ～ 50 cm、側柱からの距離 80 ～ 110 cm、検出面からの深さ 6 ～ 10 cm を測る。東辺及び南辺に沿って L 字状に検出しているが、西側ほど圃場整備の影響を強く受けているので、削平されて残っていない可能性があるだろう。

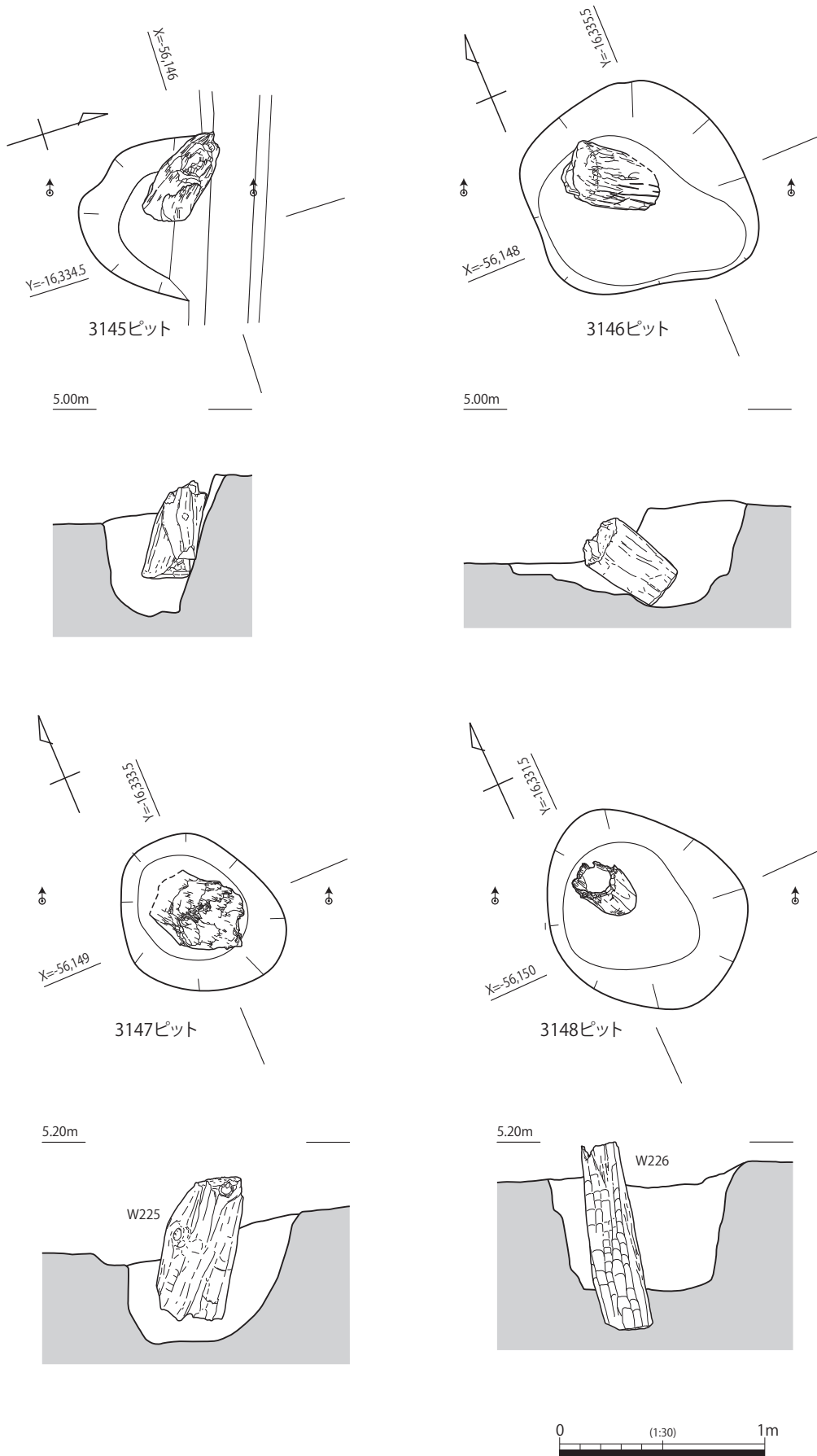
各ピットから出土した土器（第 158 図 35 ～ 48）は 9 世紀前半の須恵器を主体とするが、40・43 などやや新しい様相を示すものも含まれる。年代測定結果が樹皮・辺材を除いた測定値であることを勘案すれば、当建物の時期は 9 世紀後半～ 10 世紀初め頃と考える。

また、3162 溝では土器（第 158 図 49・50）、鉄滓（第 280 図 M17 ～ 19）が出土した。鉄滓はすべて同じような外観上の特徴をもっており、うち 2 点を分析した結果、どちらも砂鉄を始発原料とする製錬滓（流出溝滓）であった。さらに 49 は外面に熔融した飛沫状の鉄滓が付着しており、近傍で製鉄が行われていた可能性が高い。

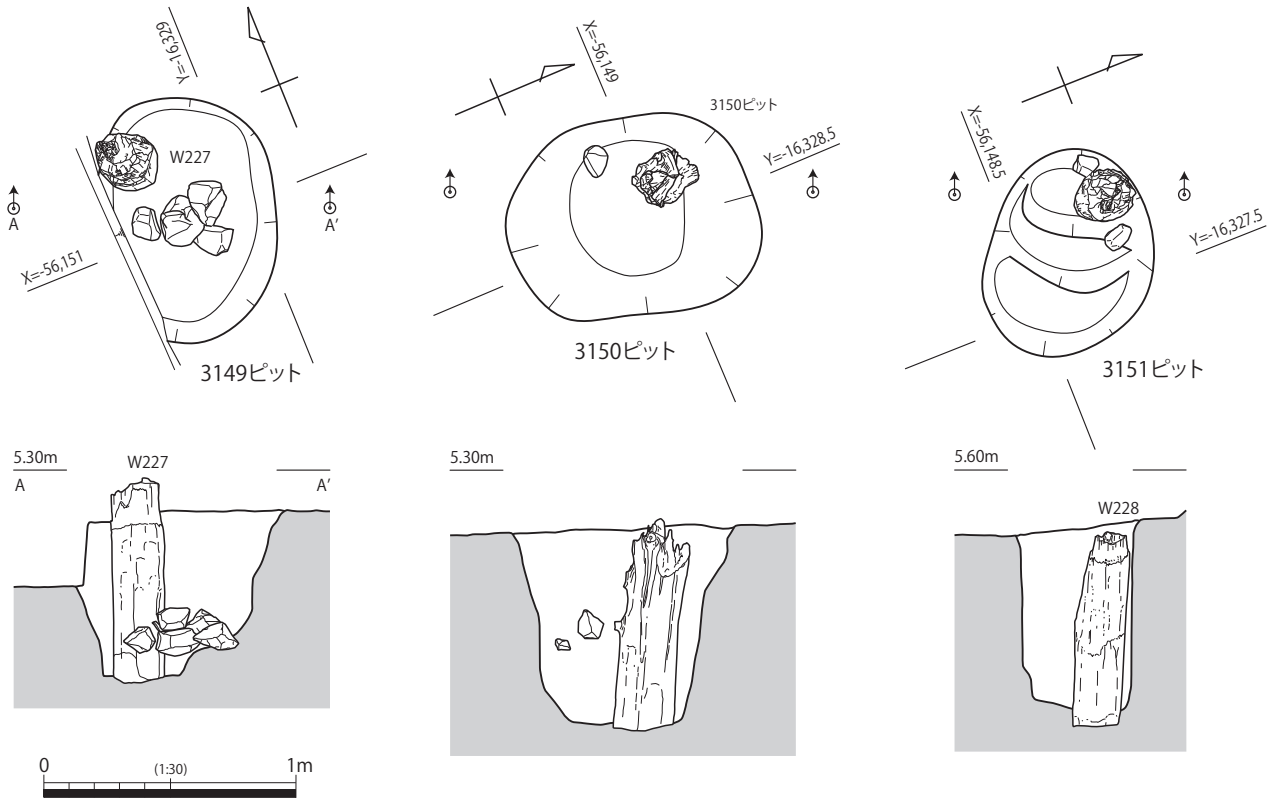


- B-B'**  
 <3146ピット>  
 1 5Y3/1 オリーブ黒色 極粗砂混じり細砂  
 2 7.5Y4/1 灰色 粗砂混じりシルト  
 3 10YR5/3 にぶい黄褐色 細砂混じりシルト (5cm大の偽礫(地山)を多量に含む)  
 <3147ピット>  
 1 2.5Y3/2 黒褐色 粗砂混じりシルト (炭化物を含む)  
 2 2.5Y2/1 黒色 中砂混じりシルト(5cm大の偽礫(地山)を含む)  
 <3148ピット>  
 1 2.5Y3/2 黒褐色 粗砂混じりシルト(炭化物を含む)  
 2 10YR5/2 灰黄褐色 細砂混じりシルト(5cm大の偽礫(地山)を含む)  
 3 2.5Y4/1 黄灰色 極細砂混じりシルト  
 4 10YR4/1 褐灰色 中砂・極細砂混じりシルト  
 5 5Y3/1 オリーブ黒色 シルト混じり極細砂  
 <3149ピット>  
 1 10YR3/1 黒褐色 粗砂・細砂混じりシルト(炭化物・焼土粒を含む)  
 2 10YR4/1 黄灰色 細砂混じりシルト(3cm大の偽礫(地山)を含む)  
 3 5Y4/1 灰色 中砂混じりシルト(炭化物を含む)  
 4 10YR3/2 黒褐色 中砂・細砂混じりシルト(3cm大の偽礫(地山)を含む)  
 <3162溝>  
 1 5Y3/1 オリーブ黒色 粗砂混じり極細砂(炭化物・焼土粒を含む)
- A-A'**  
 <3150ピット>  
 1 2.5Y4/1 黄灰色 シルト  
 2 2.5Y3/1 黒褐色 細礫・極粗砂混じり極細砂 (3~5cm大の偽礫(地山)を多量に含む。炭化物を含む)  
 3 2.5Y3/2 黒褐色 粗砂混じりシルト(5cm大の偽礫(地山)・炭化物を含む)  
 4 10YR3/1 黒褐色 細砂混じりシルト(10cm大の偽礫(地山)を多量に含む)  
 5 7.5Y3/1 オリーブ黒色 極細砂混じりシルト(10cm大の偽礫(地山)を含む)  
 6 7.5Y4/1 灰色 中砂混じりシルト(5cm大の偽礫(地山)を含む)  
 <3151ピット>  
 1 2.5Y4/1 黄灰色 シルト  
 2 2.5Y3/1 黒褐色 細礫・極粗砂混じり極細砂 (5cm大の偽礫(地山)を多量に含む。炭化物を含む)  
 3 2.5Y3/2 黒褐色 粗砂混じりシルト(5cm大の偽礫(地山)を多量に含む)  
 E-E'  
 <3152ピット>  
 1 10YR4/1 褐灰色 細砂混じりシルト(3cm大の偽礫(地山)・炭化物・焼土粒を含む)  
 2 2.5Y4/1 黄灰色 粗砂混じりシルト(5cm大の偽礫(地山)を多量に含む)  
 C-C'  
 <3145ピット>  
 1 10YR3/1 黒褐色 極粗砂混じりシルト(炭化物・偽礫(地山)を含む)  
 2 5YR3/2 オリーブ黒色 中砂・細砂混じりシルト

第58図 掘立柱建物1 平・断面図(1)



第59図 掘立柱建物1 平・断面図(2)



第60図 掘立柱建物1 平・断面図(3)

**掘立柱建物2 (第61・62図、PL.16・17)**

3区中央北側で検出した東西棟の掘立柱建物である。梁行2間(4.1m)、桁行3間(6.8m)の側柱建物で、主軸はN-79°-Wである。身舎の面積は27.8m<sup>2</sup>を測り、掘立柱建物1とほぼ同規模である。

柱間寸法は梁行方向で2.2~2.3m、桁行方向で1.9~2.1mとほぼ揃っている。柱穴は長軸約80~90cm、短軸70cm前後の不整楕円形~隅丸方形をしており、検出面からの深さは浅いもので41cm(3140ピット)、深いもので75cm(3141ピット)を測る。建物を構築した場所にはスギの根が放射状に伸びており、それらを切断しながら柱掘方を掘削している。

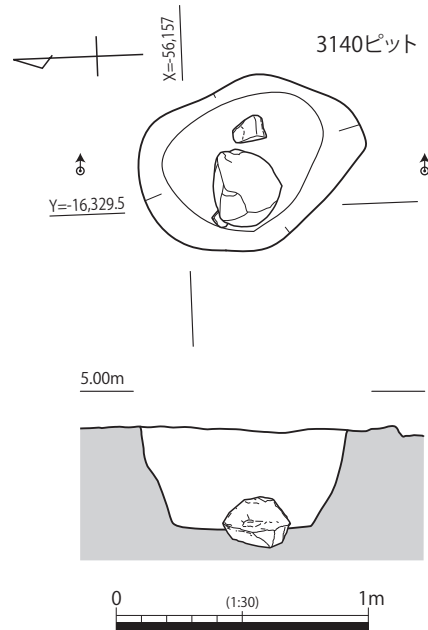
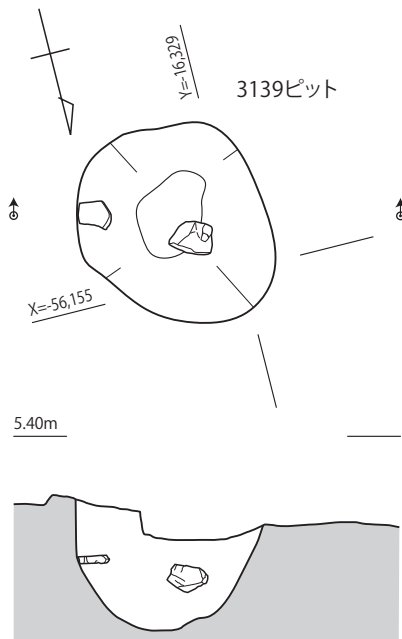
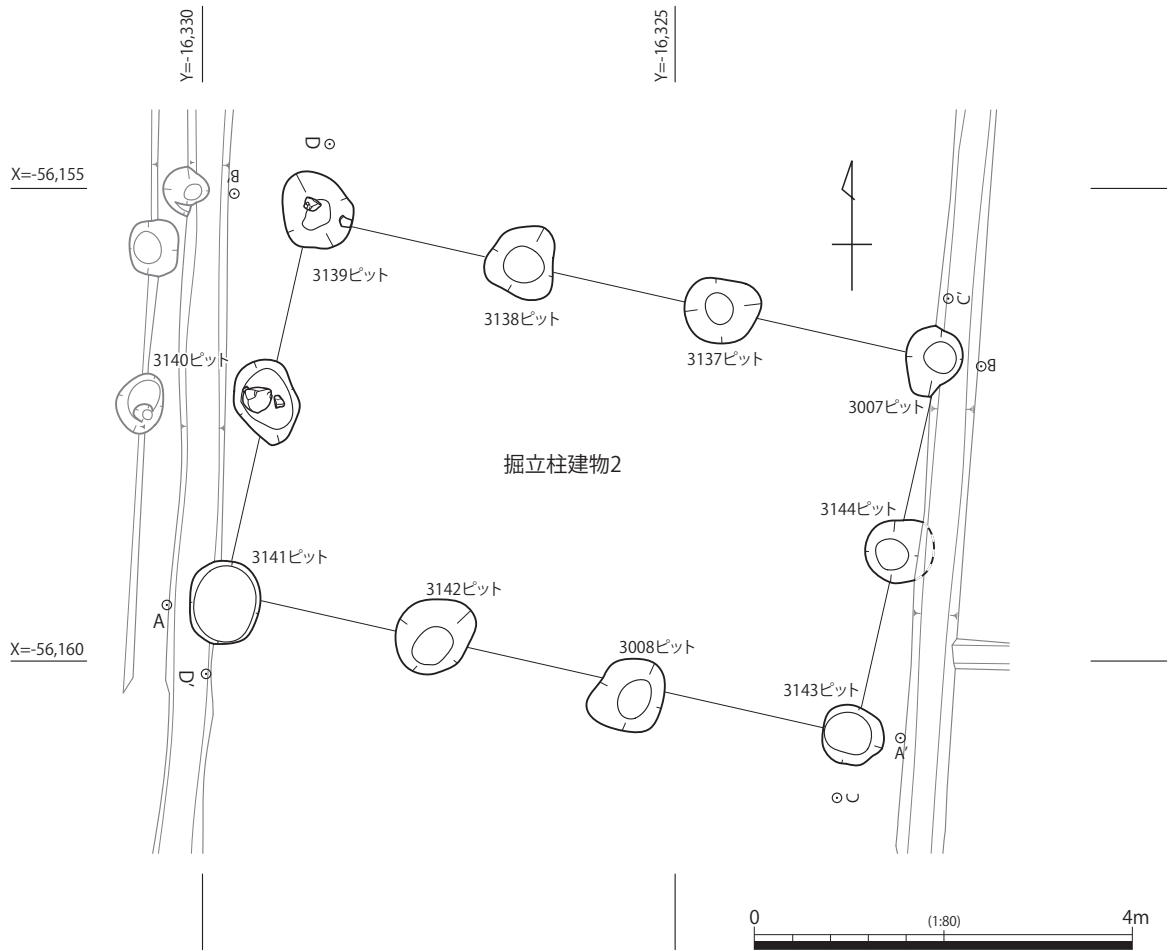
柱掘方埋土は黒褐色~オリーブ黒色の極細砂及び細砂を主体とし、炭や偽礫を多分に含む。3007ピット、3142ピットの埋土下部で柱痕跡を確認したが、上部は堆積が乱れており、柱は切り取られたか抜き取られた可能性がある。さらに、3008・3142・3179ピットを除くすべてのピットは上半部に地山由来ののび黄橙色シルトが充填してあり、柱を除去した後に意図的に埋め戻したことが看取できる。なお、3140ピットのみ底面に礎盤石が残っていた。

各ピットから出土した土器の主体は9世紀後半~10世紀前半の須恵器蓋、坏である(第159図51~62)。3143ピットを3432溝・3433溝より上位で検出しているため、建物の廃絶時期は10世紀前半以降であろう。

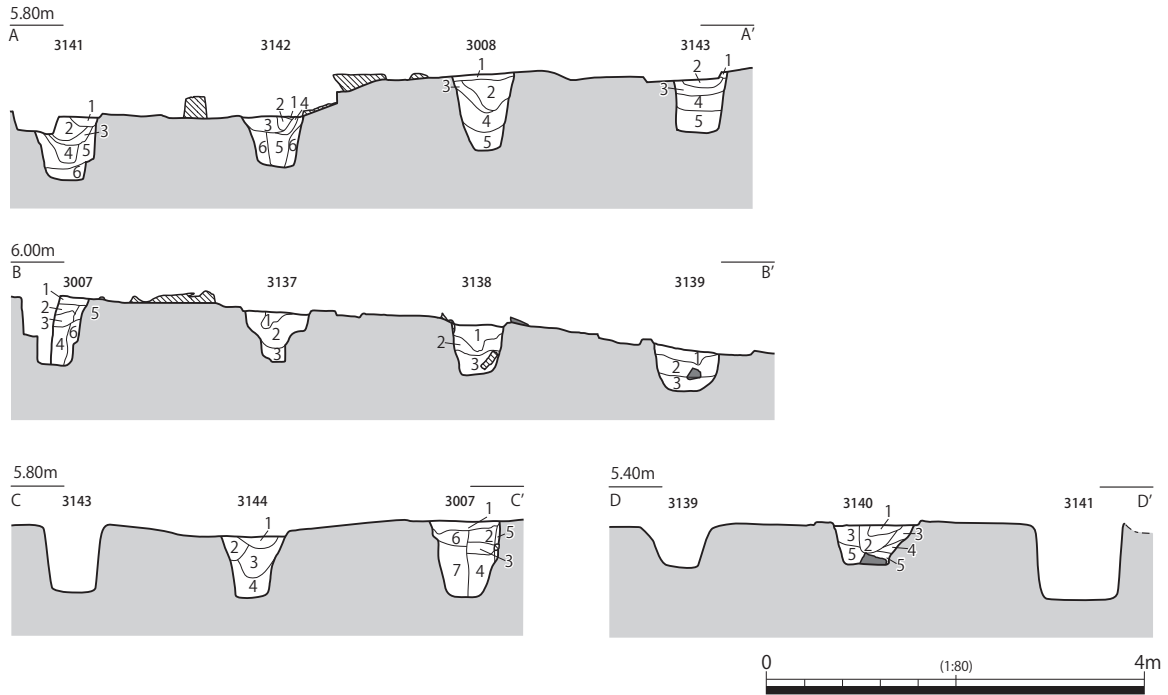
**掘立柱建物3 (第63図、PL.18)**

3区北側、掘立柱建物2の北に隣接する位置で検出した掘立柱建物である。梁行1間(2.7m)、桁行(5.4m)の側柱建物で、主軸はN-72°-Wである。身舎の面積は14.6m<sup>2</sup>を測る。

柱間寸法は梁行方向が2.7m、桁行方向は3113ピット-3107ピット間と3131ピット-3129ピット間が2.2mと広く、3106ピット-3135ピット間と3126ピット-3130ピット間が1.5mと狭い。柱



第61図 掘立柱建物2 平・断面図(1)



A-A'

<3141ピット>

- 1 2.5Y2/1 黒色 中砂・細砂混じり極細砂
- 2 10YR6/3 にぶい黄橙色 粗砂混じりシルト
- 3 5Y3/1 オリーブ黒色 粗砂・シルト混じり細砂
- 4 10YR 6/3 にぶい黄橙色 粗砂・細砂混じりシルト
- 5 N3/0 暗灰色 極粗砂・極細砂混じり中砂 (3~5cm大の偽礫 (地山)を含む)
- 6 2.5Y4/1 黄灰色 極細砂混じり中砂

<3142ピット>

- 1 5Y3/1 オリーブ黒色 細砂混じり極細砂
- 2 2.5Y5/2 暗灰黄色 シルト
- 3 N4/0 灰色 粗砂・シルト混じり極粗砂 (1~3cm大の偽礫 (地山)を含む)
- 4 5Y2/1 黒色 粗砂・中砂混じり極細砂 (植物遺体を含む)
- 5 7.5Y2/1 黒色 粗砂・シルト混じり細砂
- 6 N3/0 暗灰色 極粗砂・極細砂混じり中砂 (炭化物を含む)

<3008ピット>

- 1 5Y3/1 オリーブ黒色 極粗砂・細砂混じりシルト (1~3cm大の偽礫 (地山)を含む)
- 2 N3/0 暗灰色 粗砂・中砂混じりシルト (1~3cm大の偽礫 (地山)を含む)
- 3 N4/0 灰色 粗砂・極細砂混じり細砂 (1~3cm大の偽礫 (地山)を含む)
- 4 7.5Y2/1 黒色 小礫・極細砂・シルト混じり細砂 (3~5cm大の偽礫 (地山)を多量に含む)
- 5 2.5Y3/1 黒褐色 極粗砂・極細砂混じり中砂

<3143ピット>

- 1 5Y3/2 オリーブ黒色 極粗砂・細砂混じり極細砂 (1~3cm大の偽礫 (地山)を含む)
- 2 10YR6/3 にぶい黄橙色 シルト
- 3 10YR3/2 黒褐色 中砂混じり極細砂
- 4 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 粗砂・シルト混じり極細砂 (1~3cm大の偽礫 (地山)を含む)
- 5 2.5Y3/2 黒褐色 粗砂・シルト混じり細砂

D-D'

<3140ピット>

- 1 10YR6/3 にぶい黄橙 極粗砂混じりシルト 埋め戻し土
- 2 10YR3/2 黒褐色 粗砂・中砂混じり極細砂 (炭化物・1cm大の偽礫 (整地土)を含む)
- 3 2.5Y4/1 黄灰色 中砂シルト混じり極細砂
- 4 5Y3/2 オリーブ黒色 粗砂・中砂混じり極細砂
- 5 5Y4/1 灰色 極粗砂混じり中砂 (3cm大の偽礫 (整地土)を含む)

B-B'

<3007ピット>

- 1 7.5Y3/1 オリーブ黒色 粗砂混じり極細砂 (炭化物を多量に含む)
- 2 2.5Y4/1 黄灰色 中砂混じり極細砂 (3~5cm大の偽礫 (地山)を含む)
- 3 10YR6/3 にぶい黄橙色 細砂混じりシルト
- 4 5Y3/2 オリーブ黒色 中砂・シルト混じり極細砂 (植物遺体・偽礫を含む。炭化物を多量に含む)
- 5 5Y3/1 オリーブ黒色 粗砂混じりシルト
- 6 7.5Y4/1 灰色 粗砂・極細砂混じり細砂

<3137ピット>

- 1 10YR6/3 にぶい黄橙色 細砂混じりシルト (炭化物・焼土粒を多量に含む)
- 2 10YR4/1 褐灰色 粗砂・細砂混じり極細砂 (炭化物を少量含む。1~3cm大の偽礫 (地山)を含む)
- 3 2.5Y4/1 黄灰色 極細砂混じり粗砂 (3~5cm大の偽礫 (地山)を含む)

<3138ピット>

- 1 10YR6/3 にぶい黄橙色 細砂混じりシルト (炭化物・焼土粒を多量に含む)
- 2 2.5Y4/1 黄灰色 粗砂・シルト混じり極細砂 (炭化物を含む)
- 3 5Y3/2 オリーブ黒色 中砂混じりシルト

<3139ピット>

- 1 2.5Y3/1 黒褐色 粗砂・中砂混じり極細砂
- 2 5Y4/1 灰色 中砂・シルト混じり細砂 (炭化物を含む。3~5cm大の偽礫 (地山)を少量含む)
- 3 5Y3/1 オリーブ黒色 粗砂・中砂混じりシルト

C-C'

<3144ピット>

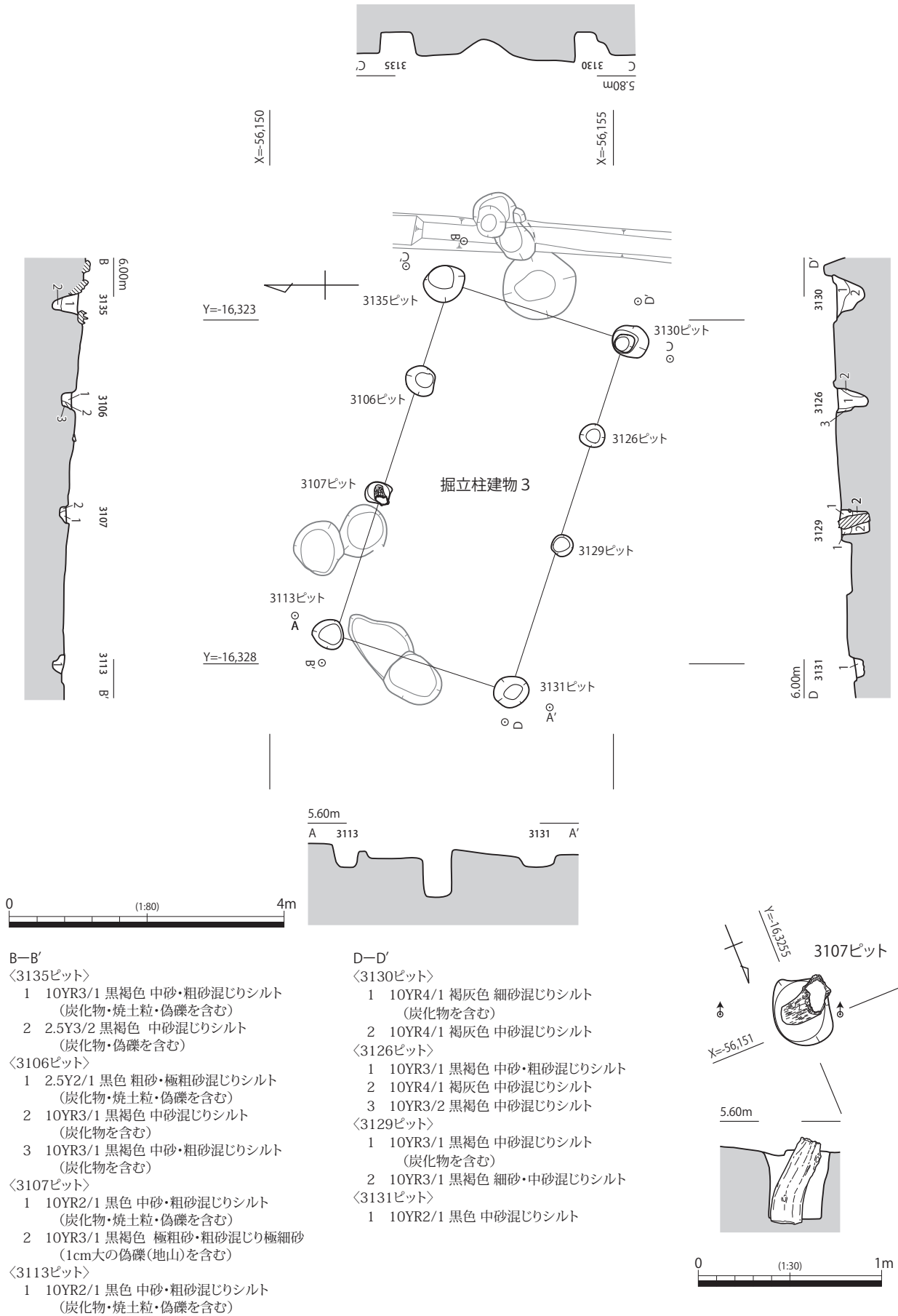
- 1 2.5Y3/1 黒褐色 粗砂・シルト混じり極細砂 (炭化物・燃土粒を含む)
- 2 5Y3/1 オリーブ黒色 中砂・極細砂混じりシルト (1~3cm大の偽礫 (地山)を含む)
- 3 2.5Y6/3 にぶい黄色 シルト 埋め戻し土
- 4 7.5Y3/1 オリーブ黒色 中砂・極細砂混じり細砂

<3007ピット>

- 1 7.5Y3/1 オリーブ黒色 粗砂混じり極細砂 (炭化物を多量に含む)
- 2 2.5Y4/1 黄灰色 中砂混じり極細砂 (3~5cm大の偽礫 (地山)を含む)
- 3 10YR6/3 にぶい黄橙色 細砂混じりシルト
- 4 5Y3/2 オリーブ黒色 中砂・シルト混じり極細砂 (植物遺体・偽礫を含む。炭化物を多量に含む)
- 5 2.5Y3/1 黒褐色 中砂混じり極細砂
- 6 2.5Y3/1 黒褐色 中砂・粗砂混じり極細砂 (偽礫を含む)
- 7 10YR3/1 黒褐色 細砂・中砂混じりシルト (偽礫・炭化物を含む)

第62図 掘立柱建物2 平・断面図 (2)





第 63 図 掘立柱建物 3 平・断面図

穴は隅柱となる 3113・3135・3130・3131 ピットが大きく直径 50～60 cm の不整円形を呈するのに対し、間の 4 基は直径が約 30 cm 程度で一回り小さい。そのうち 3107 ピットで直径 15 cm の柱根が残っていた。芯持材で節が残り面取り等の加工も見られない。

柱掘方埋土はほぼ黒褐色の粗砂・中砂混じりシルトの単層だが、3126 ピットに 3107 ピット柱根と同規模の柱痕跡が認められた。

各柱穴から出土した土器は 10 世紀前半の須恵器、土師器が主体であり、廃絶時期もその頃と考える。また、隣接する掘立柱建物 2 の出土土器よりもやや様相が新しいため、掘立柱建物 3 のほうが新しい建物であろう。

#### 掘立柱建物 4 (第 64・65 図、PL.19・20)

3 区西側で検出した梁行 2 間 (3.6 m)、桁行 3 間 (5.6～5.8 m) の側柱建物である。主軸方向は N-5°W で、近接する 3003 溝と平行する。桁行方向の柱列のうち西側が短いいため身舎の平面形は歪な長方形を呈し、面積は 25.6 m<sup>2</sup> となる。

柱間寸法は、梁行方向が 1.7～1.9 m で、桁行方向は東側がほぼ 2.0 m で揃うのに対し西側が 1.5～2.3 m とばらつく。柱穴は長軸、短軸とも 50～80 cm を測る不整楕円形あるいは円形である。検出面からの深さは 20～30 cm のものが多いが 3362 ピットのみ 62 cm と深い。いずれも第 2 層耕作時あるいは圃場整備時に削平を受けていると考えられる。柱掘方埋土は褐灰色の粗砂・中砂混じり極細砂～シルトを主体とする。

主柱穴は北東から 3236・3426・3372・3365・3361・3300・3293・3276・3273・3268 ピットである。3269・3418・3416 ピットは主柱穴を切るピットで、柱抜取穴の可能性はある。3362・3361・3304 ピットで径 15 cm の柱根が残っていたが、3361 ピット以外の柱根は切り合い関係からみて建て替え前のものとする。3426 ピットには拳大の礫による根石が残っていた。

各柱穴出土土器のうち、須恵器坏 (第 160 図 75) や土師器坏 (77) は 10 世紀前半のものであり、建物の時期もその頃と考える。

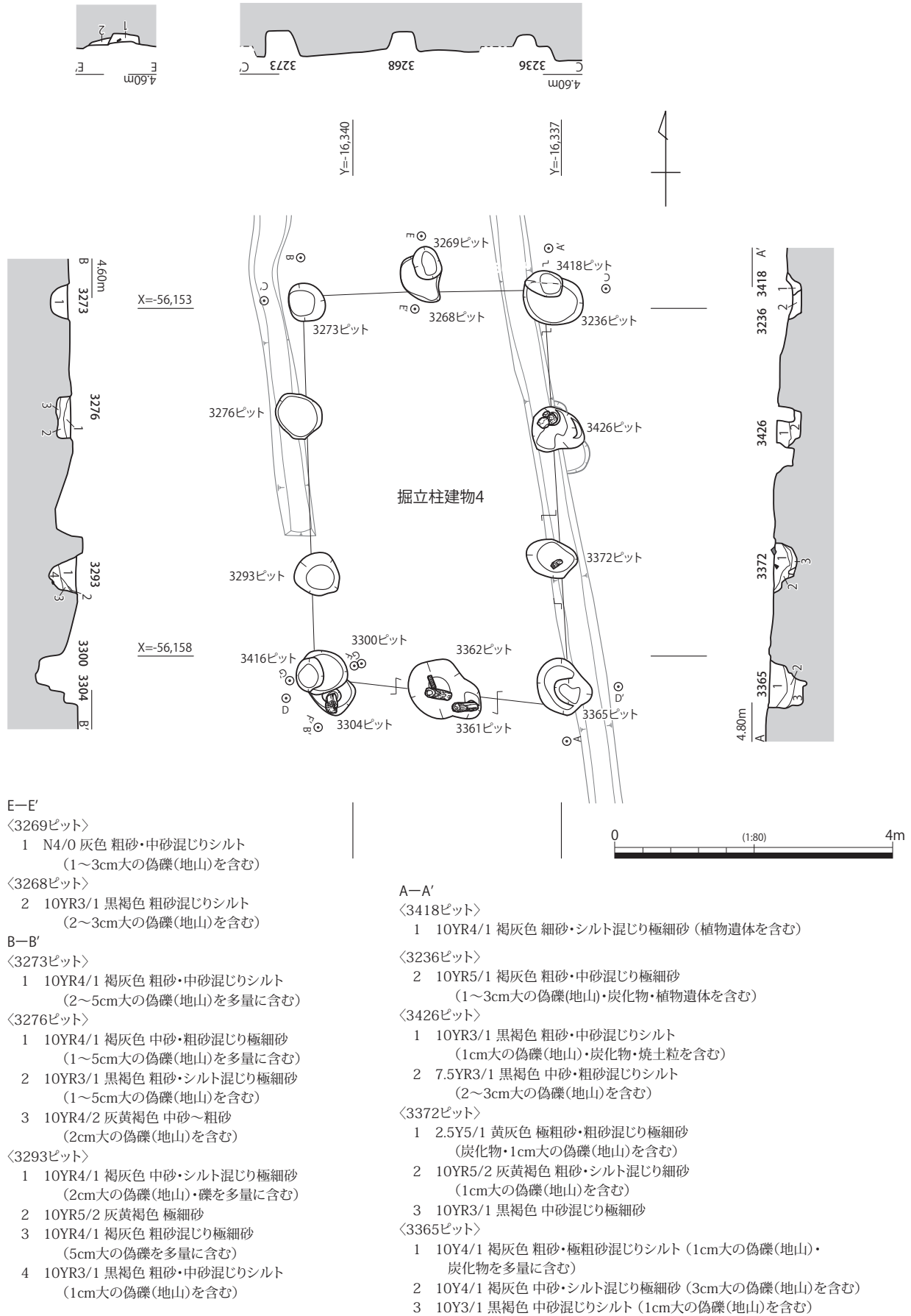
#### 掘立柱建物 5 (第 66・67 図、PL.19～21)

3 区中央北側で検出した梁行 2 間 (3.4 m)、桁行 3 間 (5.2 m) の側柱建物である。主軸方向は N-87°W、身舎の面積は 17.7 m<sup>2</sup> である。掘立柱建物 1～4 と近接位置にある。

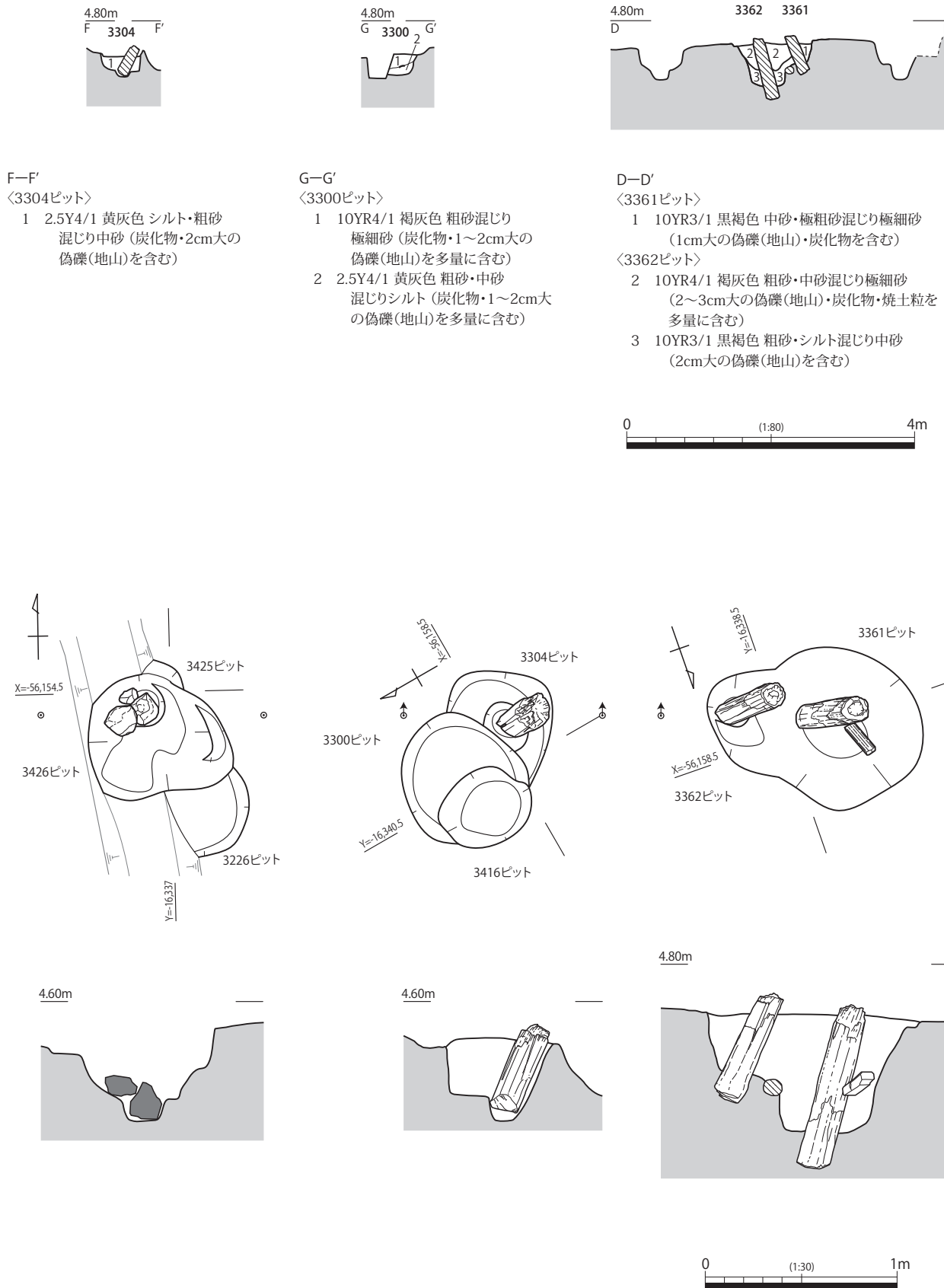
桁行方向の柱間寸法は、3283 ピット－3181 ピット間が最も狭く 1.4 m、3234 ピット－3283 ピット間が最も広く 2.0 m を測り、それ以外は 1.6～1.9 m である。西及び南側柱列と北東側隅柱に直径 10～15 cm の柱根が残る。梁行方向の柱間寸法は 1.6～1.8 m と考えられるが、西側の柱列のうち中央と南西隅で複数の柱穴を検出しており、組み合わせによって柱間寸法が異なる。3220 ピットと 3221 ピットは切り合い関係にあり、そこから推察すると 3229 ピットと 3228 ピットの関係も建て替えに伴うものの可能性がある。3228 ピットの柱根を建て替え後のものと仮定した場合、3234 ピット－3228 ピット－3221 ピット間の柱間寸法は東側の柱列柱間寸法とほぼ合致する。

柱穴は直径 30～60 cm の不整楕円形をしており、検出面からの深さは約 30～60 cm を測る。特に西側は圃場整備等の影響を強く受けているため、本来はもっと深かったと推測する。柱掘方埋土は黒褐色～褐灰色の偽礫を含むシルト～極細砂を主体としている。

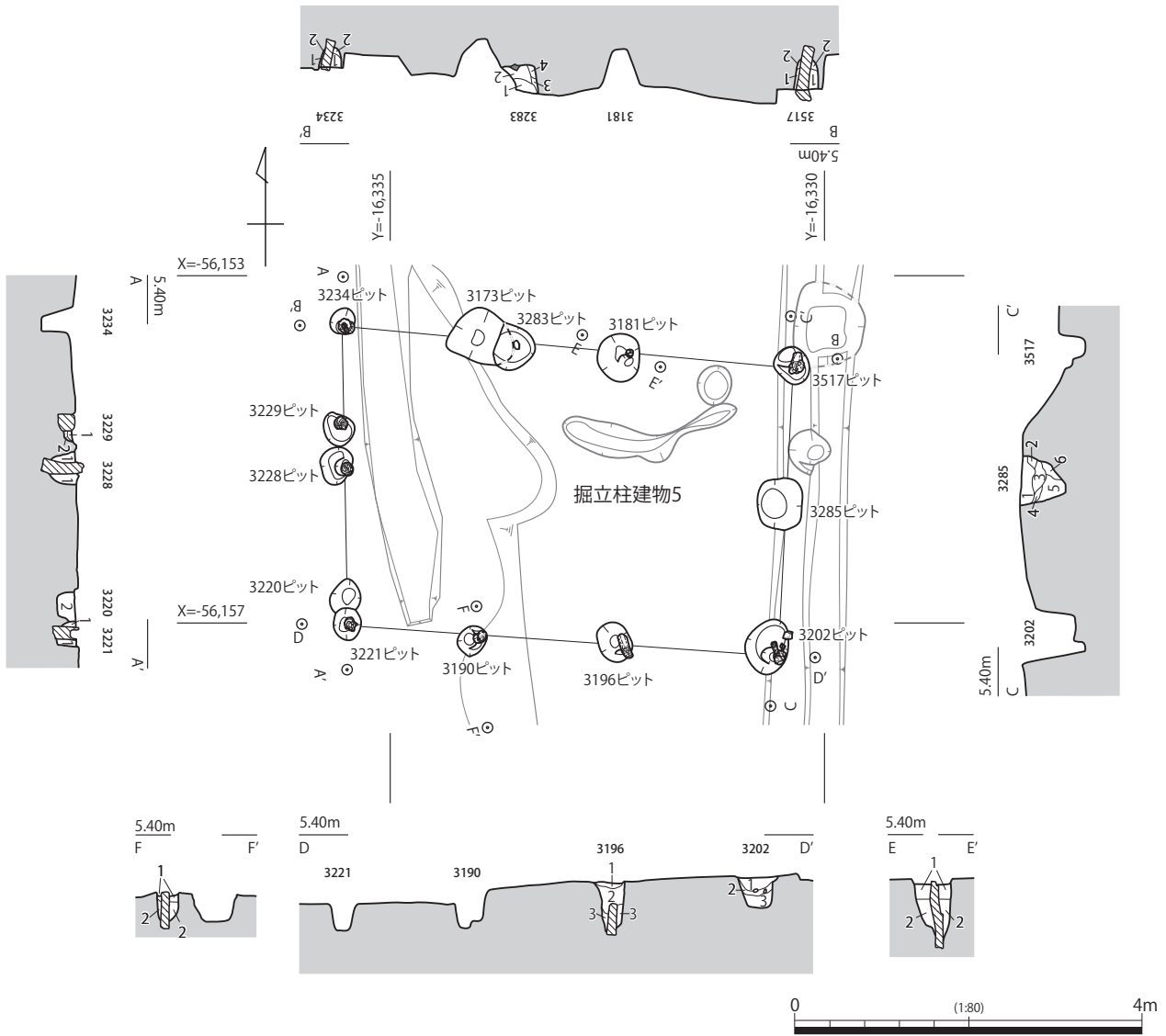
3285 ピットで 9 世紀後半の緑釉陶器皿 (第 161 図 79) が出土しているが、土師器坏 (78) の方が新相を示しており、10 世紀前半の建物と考える。須恵器坏蓋 (80) は第 5 層からの混入であろう。



第64図 掘立柱建物4 平・断面図(1)



第65図 掘立柱建物4 平・断面図(2)



A-A'

<3234ピット>

- 1 10YR3/1 黒褐色 中砂混じりシルト
- 2 10YR2/1 黒色 粗砂・中砂混じりシルト

<3229ピット>

- 1 10YR3/2 黒褐色 シルト・中砂混じり粗砂
- 2 10YR3/2 黒褐色 シルト・粗砂混じり細砂

<3228ピット>

- 1 10YR3/1 黒褐色 中砂・粗砂混じりシルト

<3221ピット>

- 1 10YR3/2 黒褐色 シルト・粗砂混じり中砂

<3220ピット>

- 2 10YR3/1 黒褐色 シルト・粗砂混じり中砂

F-F'

<3190ピット>

- 1 10YR3/2 黒褐色 シルト混じり細砂
- 2 10YR2/2 黒褐色 細砂混じりシルト

E-E'

<3181ピット>

- 1 10YR4/1 褐灰色 中砂混じりシルト
- 2 10YR3/1 黒褐色 シルト・中砂混じり細砂

B-B'

<3283ピット>

- 1 2.5Y4/1 黄灰色 粗砂・極細砂混じり細砂
- 2 7.5Y3/1 オリーブ黒色 粗砂・中砂混じりシルト (1cm大の偽礫(地山)を少量含む)

- 3 10YR4/1 褐灰色 粗砂・シルト混じり中砂
- 4 5Y4/1 灰色 中砂・シルト混じり極細砂

<3517ピット>

- 1 10YR3/1 黒褐色 中砂・粗砂混じりシルト (偽礫を含む)

- 2 5Y6/2 灰オリーブ色 粗砂

<3234ピット>

- 1 10YR3/1 黒褐色 中砂混じりシルト
- 2 10YR2/1 黒色 粗砂・中砂混じりシルト

D-D'

<3196ピット>

- 1 10YR3/2 黒褐色 中砂・粗砂混じりシルト
- 2 10YR3/2 黒褐色 粗砂・シルト混じり中砂 (1cm大の偽礫(地山)を多量に含む)
- 3 2.5Y3/2 黒褐色 粗砂混じりシルト

C-C'

<3285ピット>

- 1 10YR3/1 黒褐色 中砂・粗砂混じり極細砂 (2cm大の中礫を含む)

- 2 10YR4/2 灰黄褐色 粗砂・中砂混じり極細砂

- 3 10YR4/1 褐灰色 中砂・細砂混じりシルト (炭化物・焼土粒・2cm大の中礫を含む)

- 4 10YR4/1 褐灰色 中砂・シルト混じり極細砂 (炭化物を含む)

- 5 10YR4/1 褐灰色 細砂・中砂混じりシルト

- 6 10YR3/2 黒褐色 シルト混じり中砂 (偽礫(地山)を含む)

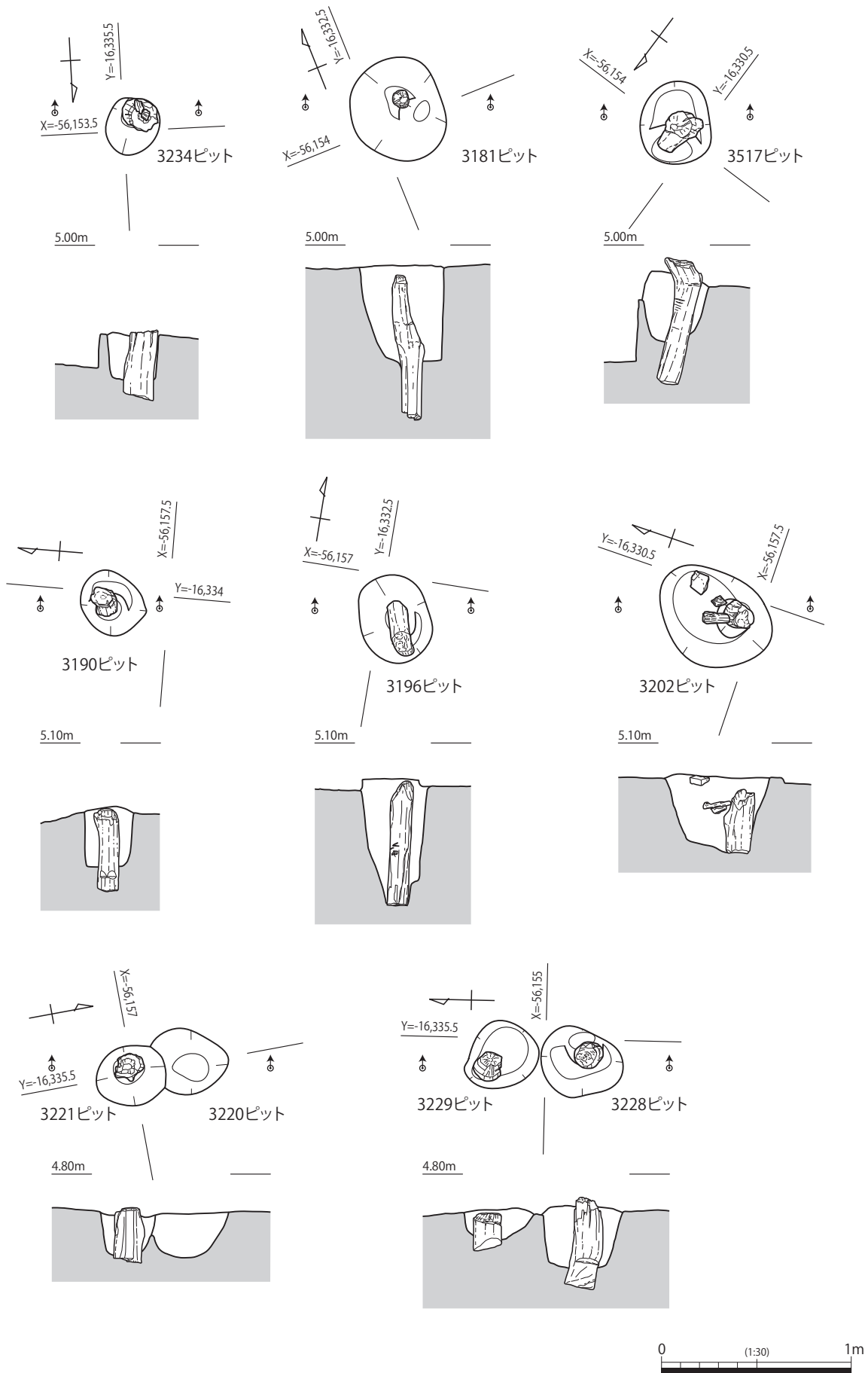
<3202ピット>

- 1 10YR3/2 黒褐色 中砂混じり極細砂 (木片・2cm大の偽礫(地山)を多量に含む)

- 2 10YR3/1 黒褐色 粗砂混じりシルト (1cm大の偽礫(地山)を含む)

- 3 10YR4/2 灰黄褐色 粗砂混じりシルト

第66図 掘立柱建物5 平・断面図(1)



第 67 図 掘立柱建物 5 平・断面図 (2)

### 掘立柱建物6（第68図、PL.19・21）

3区西側、3003溝と3006溝の交点付近で検出した掘立柱建物である。梁行1間（3.1m）、桁行2間（5.0m）の側柱建物で、主軸方向はN-83°-W、身舎の面積は15.5m<sup>2</sup>を測る。

柱穴のうち、北側の3346ピットと3348ピットが隣接し、3322ピットと3415ピットが切り合い関係にあるが、礎盤石が残る3415ピットとその正対位置にある3346ピットが当建物に伴うものと判断した。

柱間寸法は、梁行方向が2.9～3.1m、梁行方向は東側の間隔がやや広く2.2～2.9mである。柱穴は長軸約60～70cm、短軸約30～60cmの概ね不整円形を呈すが、3335ピットのみ不整隅丸長方形となる。検出面からの深さは約10～50cmと浅いが圃場整備による削平の影響もあるだろう。

柱掘方埋土は黒褐色の極粗砂～細砂混じり極細砂～中砂を主体とする。3355ピットには直径約20cmの柱根が残っており、その下を20～30cm角の礫を積んだ礎盤石で支えていた。柱根の遺存状態は良くないが、上面の状況から見て廃絶時に切り取られた可能性もあるだろう。

柱穴からわずかだが9世紀前半の須恵器が出土しており、建物もそれ以降のものと考えられる。

### 掘立柱建物7（第69図、PL.24）

3区南側で検出した掘立柱建物である。3067ピットと3068ピットが掘立柱建物8のピットを切っており、当建物の方が新しい。梁行2間（3.2m）、桁行2間（3.4m）の側柱建物である。平面プランからすれば総柱建物であった可能性もあるが、建物中央部分を暗渠が通り攪乱されているため柱穴の有無がわからず、側柱建物とした。主軸はN-9°-W、身舎の面積は10.9m<sup>2</sup>である。

柱間寸法は桁行方向が1.6～1.8mであるのに対し梁行方向はややばらつく。南辺の柱間は1.5mと揃うが、北辺は3059ピット-3050ピット間が2.2m、3050ピット-3055ピット間が1.2mとなる。

柱穴は長軸約40～80cm、短軸約30～60cmの不整円形、楕円形を呈す。検出面からの深さは約20～50cmと全体的に浅い。3006溝より南側は丘陵裾が張り出しており元々地形的に少し高く、圃場整備時に削平を受けているようで第2層の広がりもほとんど確認できなかった。よって、3区南側に位置するピットが全体的に浅い理由は圃場整備の影響と想定する。

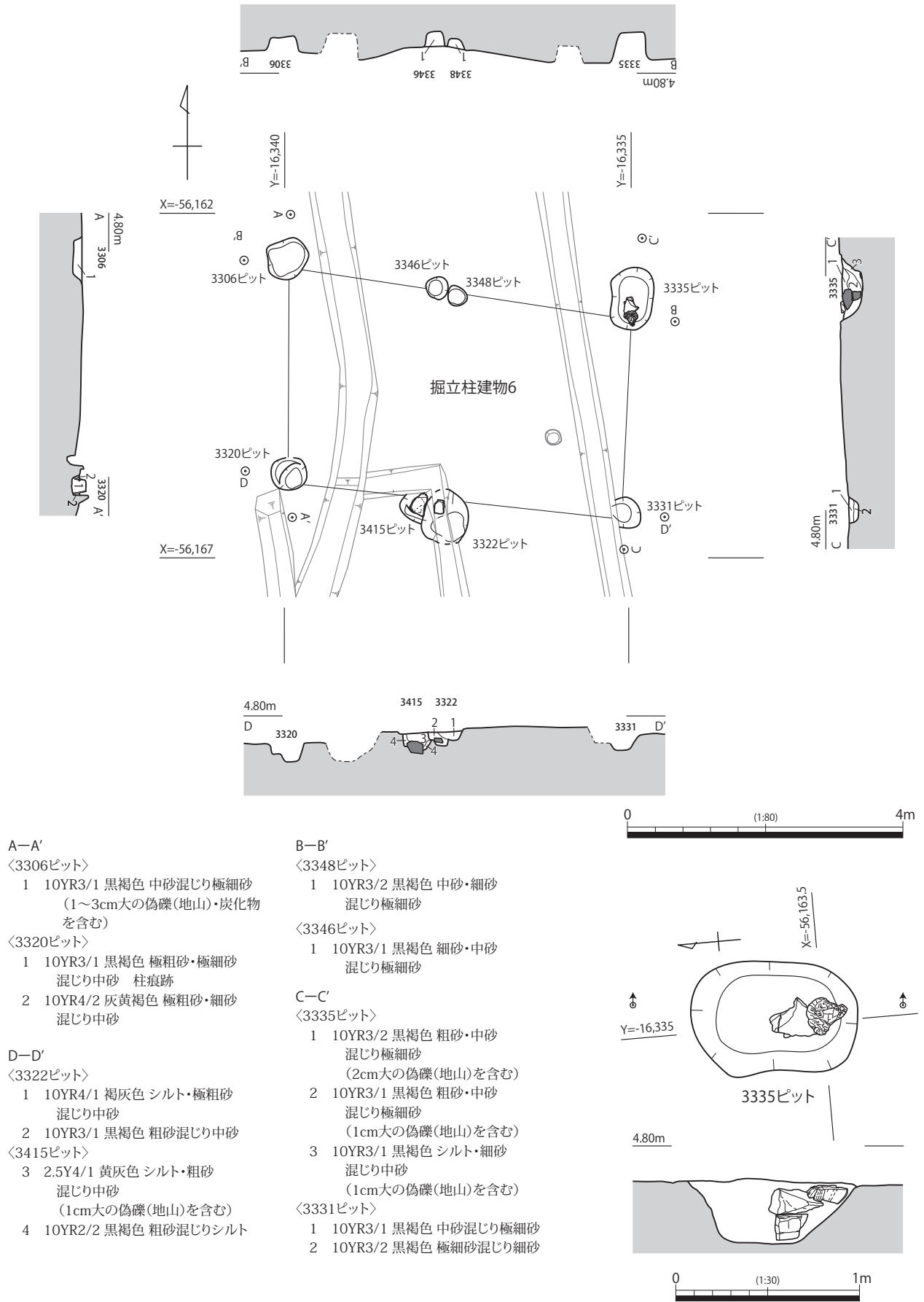
柱掘方埋土は黒褐色の粗砂～シルト混じり極細砂を主体とする。3068ピットと3045ピットでは柱根が残っていた。3045ピット柱根は下に礎盤石が据え置いてあったが、3068ピットには礎盤石がなく荷重によって下部が沈下していた。3068ピット上半部の堆積は柱抜取埋土と考えられ、ピットに残る柱根は廃絶時に上部を切り取った残材の可能性もあるだろう。3059ピット、3055ピットでも柱痕跡を確認したが、3059ピットは3068ピットと同様の堆積をしているため、柱は抜き取られたか切り取られたと推測する。

柱穴から出土した土器は細片ばかりで図化できるものはない。ただ、3006溝より南側で出土土器に8世紀を下るものは認められず、重複する掘立柱建物8との関係から見て、8世紀前半頃の建物と推測する。

### 掘立柱建物8（第70・71図、PL.24）

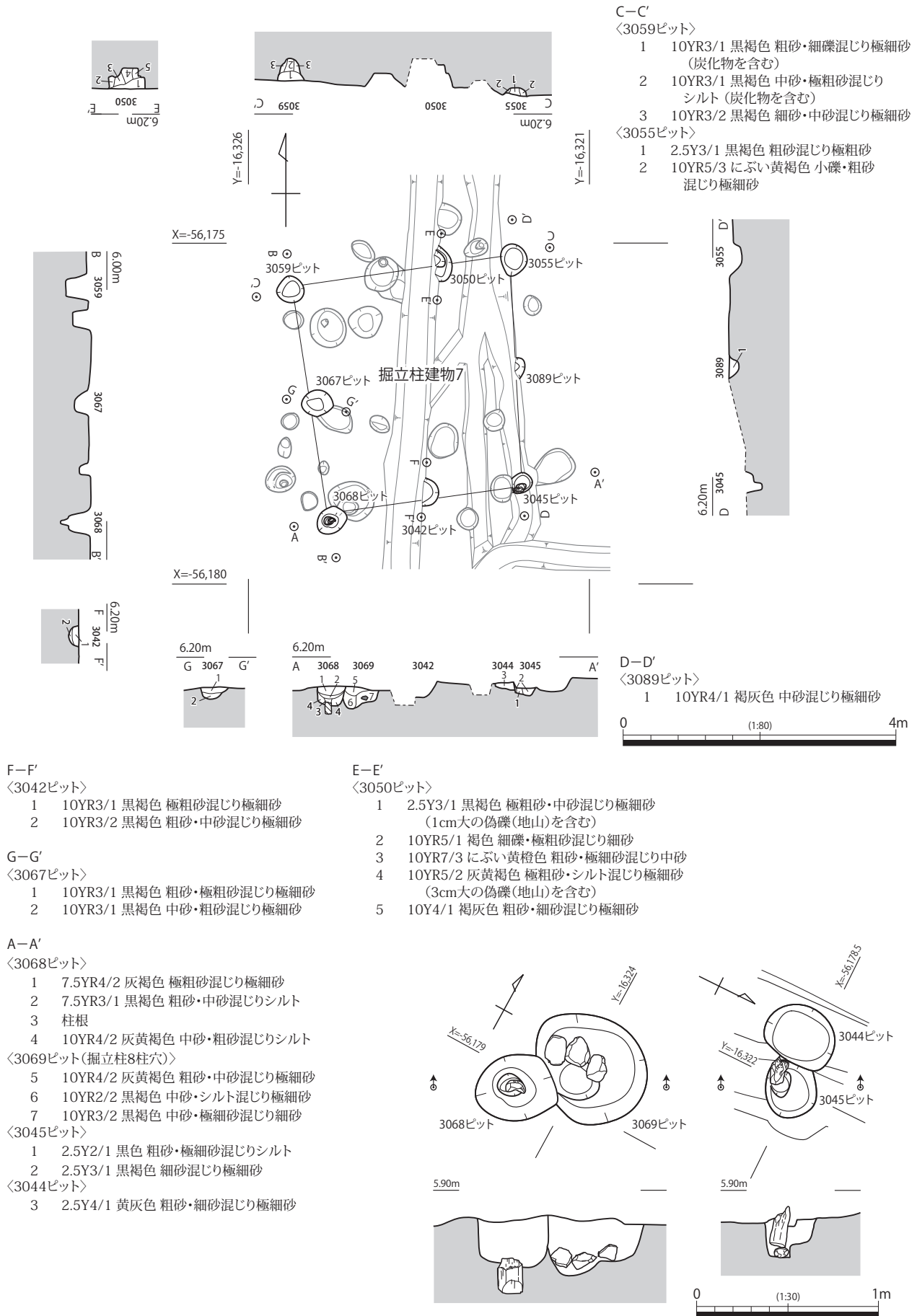
3区南側で検出した掘立柱建物である。重複する掘立柱建物7とはピットの切り合い関係から当建物の方が古い。梁行2間（3.5m）、桁行3間（4.3m）の側柱建物で、主軸はN-5°-W、身舎の面積は15.1m<sup>2</sup>である。

柱間寸法は梁行方向で1.7～1.8m、桁行方向で1.3～1.5mを測る。柱穴は長軸約50～70cm、



第68図 掘立柱建物6 平・断面図

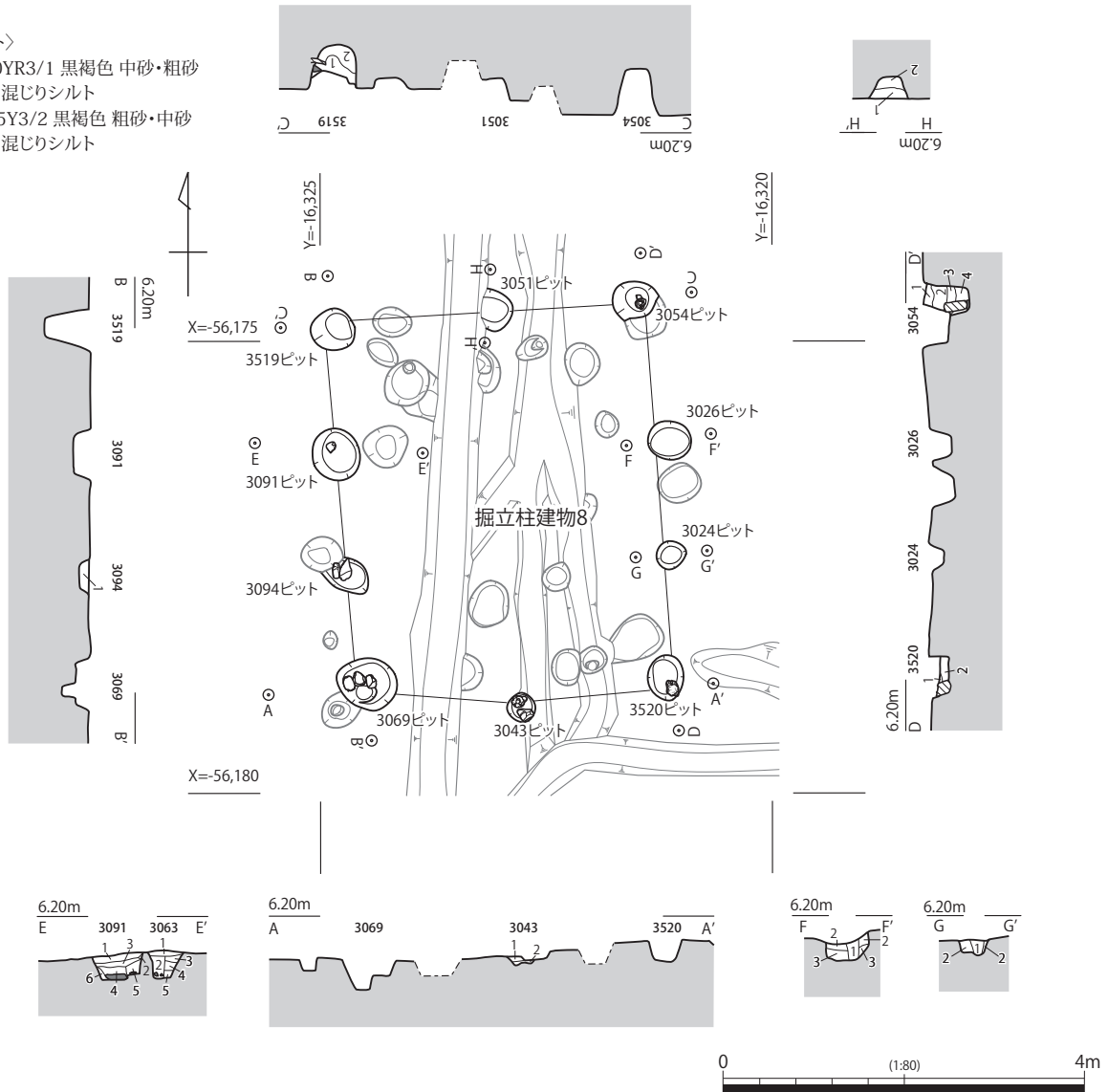




第 69 図 掘立柱建物 7 平・断面図

C-C'  
 <3519ピット>

- 1 10YR3/1 黒褐色 中砂・粗砂混じりシルト
- 2 2.5Y3/2 黒褐色 粗砂・中砂混じりシルト



E-E'

<3091ピット>

- 1 10YR3/1 黒褐色 中砂・粗砂混じり極細砂
- 2 10YR4/4 褐色 中砂・粗砂混じり極細砂
- 3 10YR5/1 褐灰色 シルト・粗砂混じり極細砂
- 4 10YR3/1 黒褐色 中砂・細砂混じり極細砂
- 5 10YR4/1 褐灰色 シルト・粗砂混じり極細砂
- 6 10YR4/2 灰黄褐色 中砂混じりシルト

<3063ピット>

- 1 2.5Y4/1 黄灰色 小礫・極粗砂混じり極細砂
- 2 10YR3/1 黒褐色 粗砂・細砂混じりシルト (炭化物を含む)
- 3 10YR4/1 褐灰色 極粗砂・シルト混じり極細砂 (炭化物を含む)
- 4 2.5YR3/1 黒褐色 中砂混じりシルト (炭化物を含む)
- 5 10YR3/2 黒褐色 中砂混じりシルト (炭化物を含む)

B-B'

<3094ピット>

- 1 10YR4/1 褐灰色 中砂混じりシルト

H-H'

<3051ピット>

- 1 2.5Y3/1 黒褐色 極粗砂・中砂混じり細砂 (1cm大の偽礫(地山)・炭化物を含む)
- 2 10Y3/1 黒褐色 極粗砂・シルト混じり極細砂 (1cm大の偽礫(地山)を含む)

A-A'

<3043ピット>

- 1 10YR3/2 黒褐色 粗砂混じり極細砂
- 2 10YR3/1 黒褐色 中砂・シルト混じり極細砂

D-D'

<3054ピット>

- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色 中砂・シルト混じり極細砂(炭化物を含む)
- 2 2.5Y2/1 黒色 中砂・細砂混じりシルト(炭化物を含む)
- 3 2.5Y5/1 黄灰色 粗砂・中砂混じりシルト
- 4 10YR3/1 黒褐色 粗砂・細砂混じりシルト

<3520ピット>

- 1 5Y3/1 オリーブ黒色 粗砂混じりシルト
- 2 10YR3/2 黒褐色 粗砂・中砂混じりシルト

F-F'

<3026ピット>

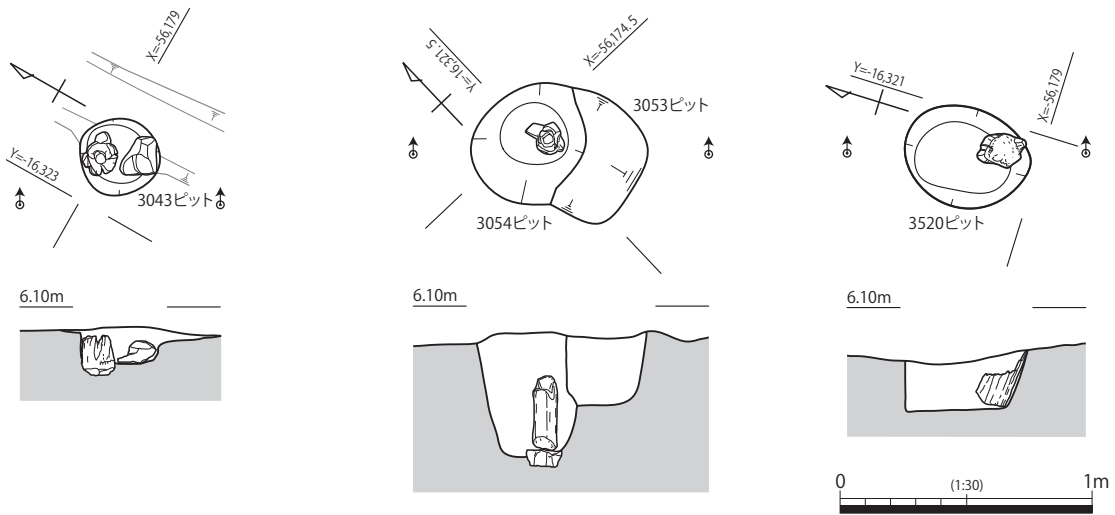
- 1 10YR2/1 黒色 中砂・シルト混じり極細砂
- 2 10YR3/2 黒褐色 粗砂・細砂混じり極細砂
- 3 2.5Y3/2 黒褐色 極粗砂・中砂混じりシルト

G-G'

<3024ピット>

- 1 10YR3/1 黒褐色 粗砂～小礫混じり細砂 (炭化物を含む)
- 2 10YR3/2 黒褐色 中砂～細砂混じり極細砂 (炭化物を含む)

第70図 掘立柱建物8 平・断面図(1)



第71図 掘立柱建物8 平・断面図(2)

短軸約40～60cmの不整楕円形を呈す。検出面からの深さは3519ピットと3051ピットが約70cmと深い、他は約30cmと浅い。掘立柱建物7と同様の理由が考えられる。

柱掘方埋土は黒褐色～褐灰色・黄灰色の中砂～細礫混じり極細砂～シルトを主体とする。3054ピット、3043ピット、3520ピットに直径10～15cmの柱根、3054ピットと3043には礎盤石、3069ピットには拳大の礫による根石が残っていた。柱根が残るピットの堆積状況から見て、柱上部は建物廃絶時に切り取られた可能性がある。

ピットから出土した土器は7世紀末～8世紀前半の須恵器を主体とする。建物の時期は8世紀前半と考える。

### 3003溝(第39・45・55・72～75図、PL.30～37)

3区西端で検出した溝で、ほぼ南北方向に主軸をとって直線的に延びる。3003溝は大きく上層、下層、最下層の3つの段階を確認しており、本項では上層段階と、同段階で検出した関連遺構(3002集石、3003溝木製構造物、3413杭群)を記述することとし、下層～最下層段階は「(4)第4層下面の遺構」で後述する。

#### 3003溝上層段階

検出した範囲で幅3～4.5m、検出面からの深さ約60cmを測る。3003溝上層段階はX=-56,160ライン付近に3003溝下層段階の堆積が高まりとして残っており、その高まりを境として南北に分かれている(第55図)。流水を伴う水路というより区画溝のような落込みを呈す。上層の堆積も炭化物や焼土粒、分解の進んだ植物遺体を含む黒褐色の中砂～極粗砂混じりシルトが主体である。

3003溝上層段階の西側肩は畦畔状に盛土して構築している。南側は北側から続く畦畔状の高まりが二股に分かれ、西壁へと続く部分は掘削され残った基盤層が擬似畦畔状になっており、南側へと延びる部分は途中で水口状に切れている。西壁断面で採取した試料をもとに自然科学分析を行った結果、植物珪酸体含量は上部(第44図6層)ほど多く、下層ほど少ないもののイネ属珪酸体も検出されていることから、3003溝より西側は水田が営まれていた可能性がある(第VII章第1節参照)。

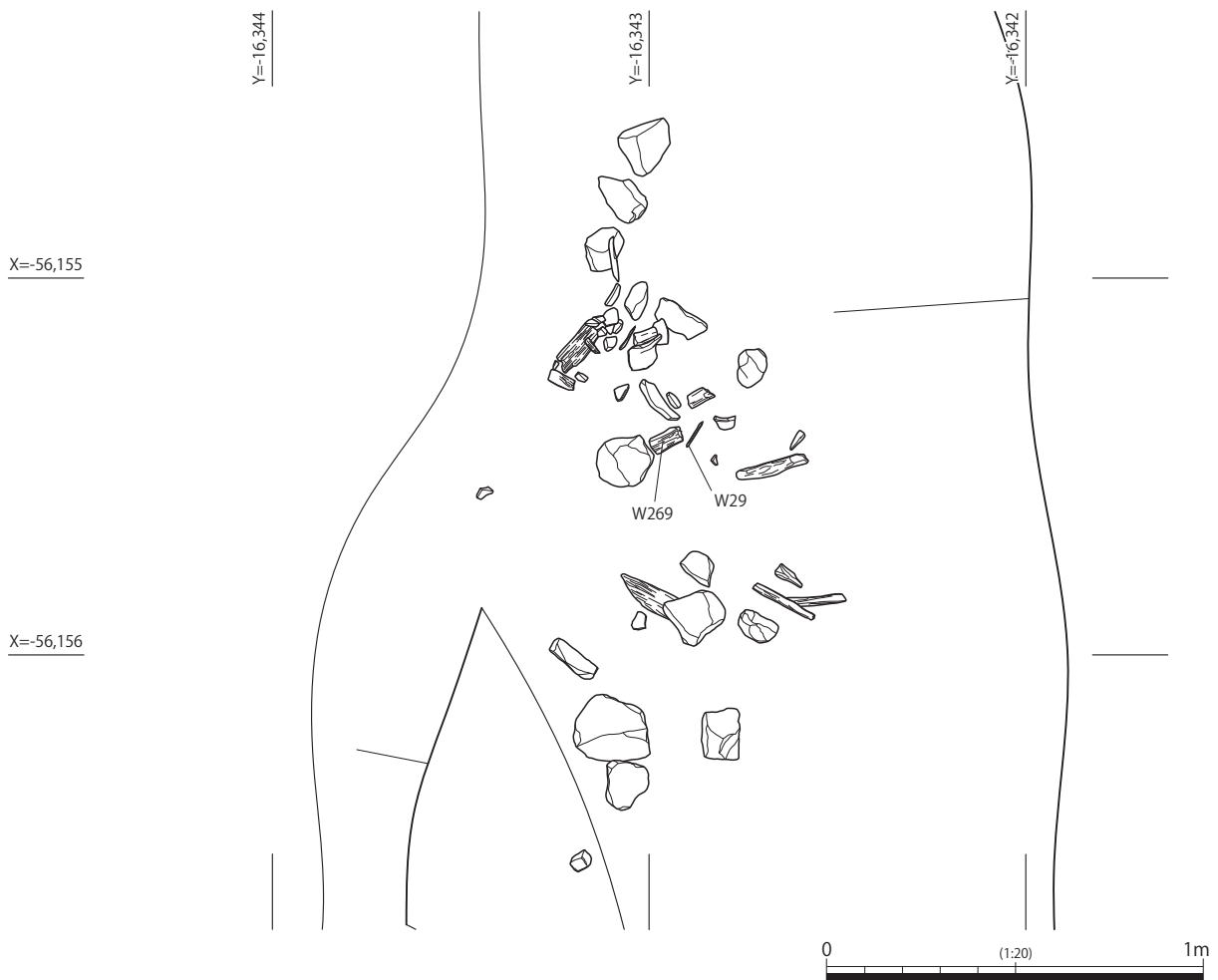
**3002集石**は上層の堆積過程で形成されたもので、拳大～人頭大の亜角礫が延長1.9m、幅0.8mの範囲に集積していた(第72図)。木片とともに杓文字(第245図W29)、桶側板のような不明木製品(第274図W269)も出土した。

さらに掘り下げると土器、木器を中心に多様な遺物が出土した（第73図）。出土した遺物には土器のほか布巻具（第244図W24）、容器脚（第248図W53）、桶側板？（W55）、円形曲物蓋（第249図W71、第250図W74）、桶底板？（第252図W87）、蓋板（第253図W91）、斎串（第254図W102、第255図W115・117・118・121、第256図W126・136、第257図W139）、馬形（第260図W160・170）、形代？（第262図W188）、火鑽臼（第263図W195）、建築材（第271図W237）、銅製帯金具の巡方（第279図M5）などがある。また、文字関係資料も目立ち、習書木簡1点（第285図W304）、不明木簡2点（第286図W306・W307）、墨書土器29点（第287図1124～1126、第288図1150、第289図1155など）が出土しており特筆される。底面付近では動物骨が出土した。

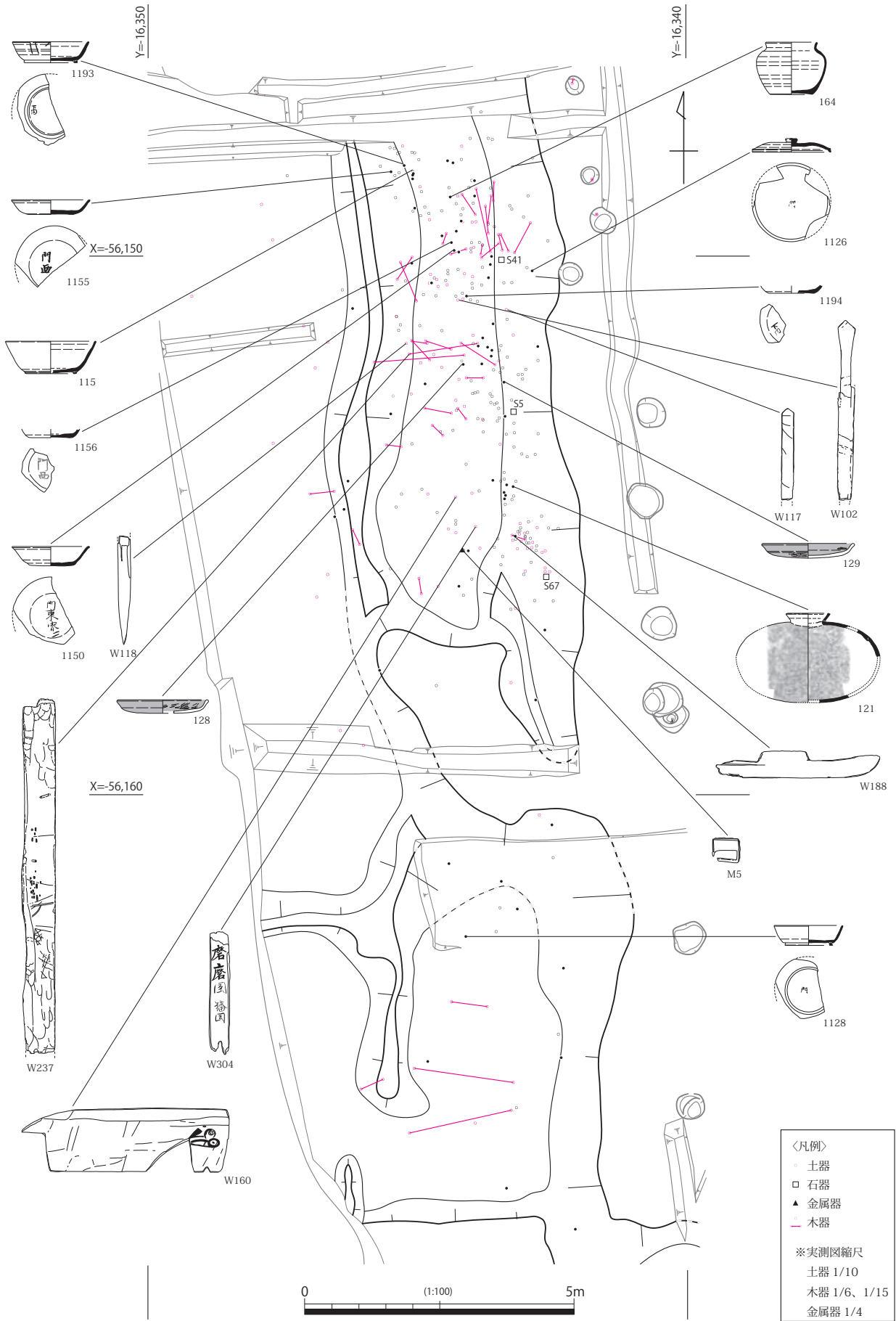
3003溝上層段階は区画溝状に構築する際に木製構造物を伴う盛土を行っている。

**3003溝木製構造物**は上層を掘り下げる過程で検出したもので、延長3.2m、幅1.2mにわたって葉と細枝を取り除いた枝部分あるいは建築材等の端材を平行に敷き並べ、その上に植物遺体を含む黒褐色の極細砂で盛土していた（第74図）。木材の同定は行っていないが、現場で観察した限りでは針葉樹の細枝を利用していると推測する。堆積を観察した結果、上層掘り下げ時に検出してしまったが本来的には下層段階に伴うもので、敷粗朶工法の一つと考える。

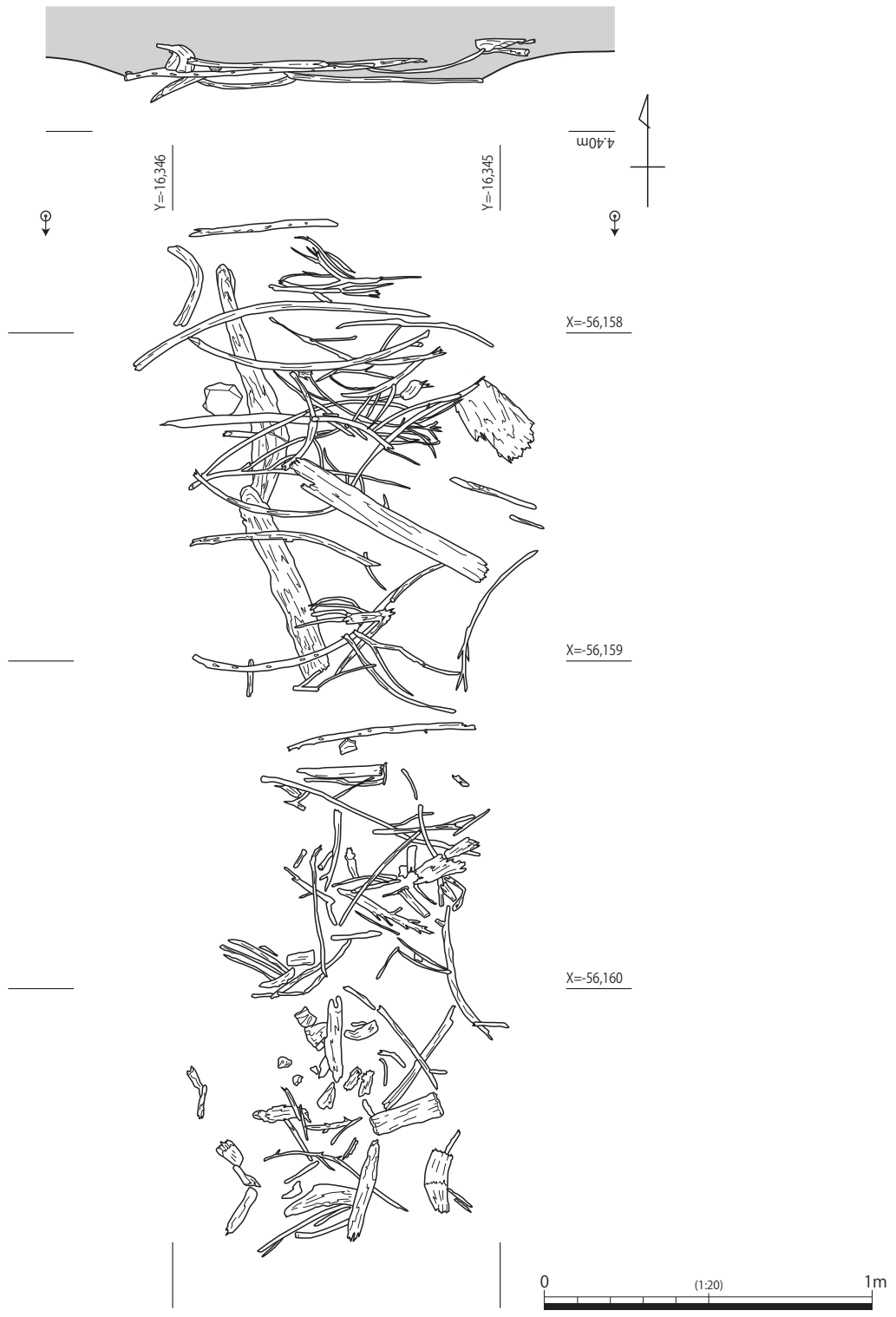
**3413杭群**は3003溝と3006溝の交差点北側で検出した。幅2.5m以上の陸橋状盛土が3003溝と3006溝を区画し、3006溝を流下した水を西へ導水するために構築されており、そこへ直径2～3cmの枝の先端を尖らせた杭が打ち込まれていた。杭の長さは検出した状態で長さ約10～30cm



第72図 3002集石 平面図



第73図 3003溝上層遺物出土位置図



第74図 3003 溝木製構造物 平・断面図



第75図 3413 杭群 平・断面図

を測るが、盛土部分を掘り下げる過程で一部削りってしまったため、本来的にはもっと長かった可能性がある。

3003 溝上層から出土した土器は 7 世紀末～9 世紀前半の須恵器、土師器を主体とするが、土師器坏（第 166 図 122）や墨書土器（第 288 図 1145）など 10 世紀前半に下るものも含まれる。3003 溝の埋没、廃棄の時期は 10 世紀前半以降であろう。

### 3006 溝（第 41～44・55・76～78 図、PL.38～43）

3 区中央で検出した東西に走る溝である。東北東－西南西を主軸とし、検出できた範囲で幅 2.4～4.8 m、検出面からの深さ約 40～50 cm を測る。埋土は調査区西端付近を除き大きく上下 2 層に分かれる。上層は黒褐色の中砂～極粗砂混じり極細砂～シルトを主体とし、炭や分解の進んだ植物遺体を含む。下層は葉理の認められる褐灰色～浅黄色の中砂～細礫で、上流部はこの下層の堆積によって半分以上埋積している。上層は攪拌された砂粒を含む泥質の堆積であり、下半が埋積した後も半乾半湿の開渠となっていたが、10 世紀前半にはほぼ埋没しており溝としての機能は果たしていなかったと考えられる。勾配が緩くなる調査区西端（2D-8e グリッド付近）は溜り状になっており、形代が集中しているので、祭祀場としても利用されている。

3006 溝は前身となる 3438 流路を利用して構築された水路であり、その痕跡が溝の南肩に認められる（第 41・42 図）。また、上流部は後述する 4038 溝であり、4038 溝廃絶後も 3 区部分にあたる下流部は浚渫しながら継続して使用したことがわかる。3006 溝の南肩は第 4 層となる灰色～褐灰色のシルト混じり中砂で盛土成形され、それによって 3006 溝は谷中央部を直線的に走る水路となっている。さらに調査区西端部分でも建築材や田舟（第 242 図 W7）、不要となった端材を芯材として幅 3.5 m ほどの土提を構築しており（第 77 図）、溝の形状や走行方向を調整している。これらの造作によって、3003 溝とともに北側の建物群を L 字に区画する景観を作出している。

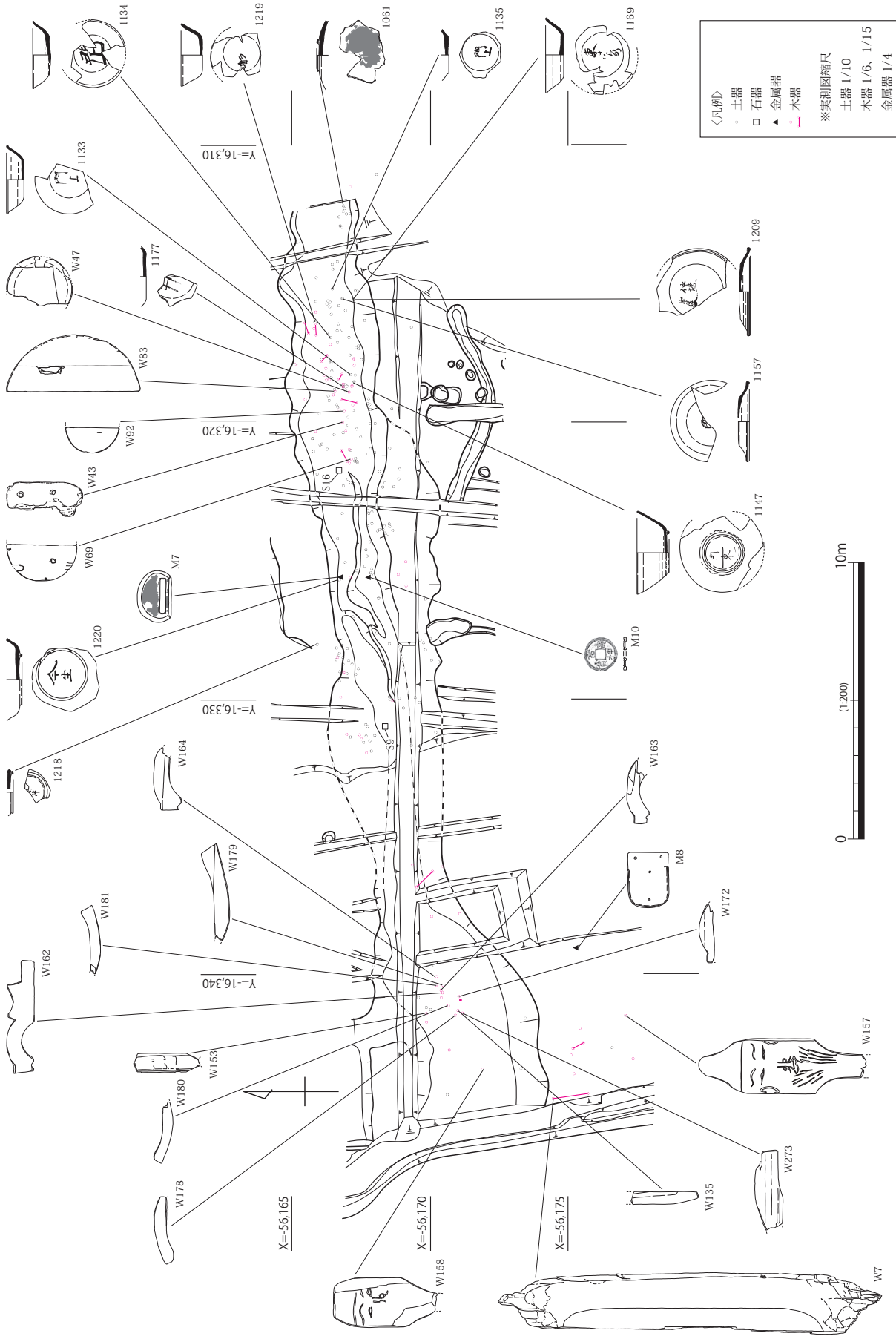
溝の埋土中からは多量かつ多様な遺物が出土した。7 世紀末から 10 世紀前半の須恵器、土師器のほか、木製品では舞羽（認めかけ）（第 244 図 W25）、挽物皿（第 247 図 W44）、円形曲物蓋（第 249 図 W66・69）、円形曲物底板（第 252 図 W85）、斎串（第 254 図 W104・106・107・109、第 255 図 112、第 256 図 135・137・138、第 257 図 141・142）、人形（第 258 図 W152・153、第 259 図 157・158）、馬形（第 260 図 W162～164・172、第 261 図 173・174・178～181、第 262 図 189）、金属器では富壽神寶（第 279 図 M10）、丸柄（M7）、鉞尾（M8）、椀形鍛冶滓（第 281 図 M31・32）などがある。さらに、溜り状となった場所で木簡が 7 点（第 284 図 W298～W301、第 285 図 W303、第 286 図 W305・W308）出土していることも特筆される。

また、埋土下層では 7 世紀末から 9 世紀後半の須恵器を主体とし、木製品では下駄（第 246 図 W43）、挽物・皿（第 247 図 W47）、円形曲物蓋（第 250 図 W76）、円形曲物底板（第 251 図 W83）、蓋板（第 253 図 W88・92）などが出土した。埋土下層の特筆すべき遺物としては、かご（第 278 図 W292）が挙げられる。それ以外に、遺存状況良好な磨製石斧（第 232 図 S9・10）や扁平片刃石斧（S16）といった弥生時代の石器が見られる。

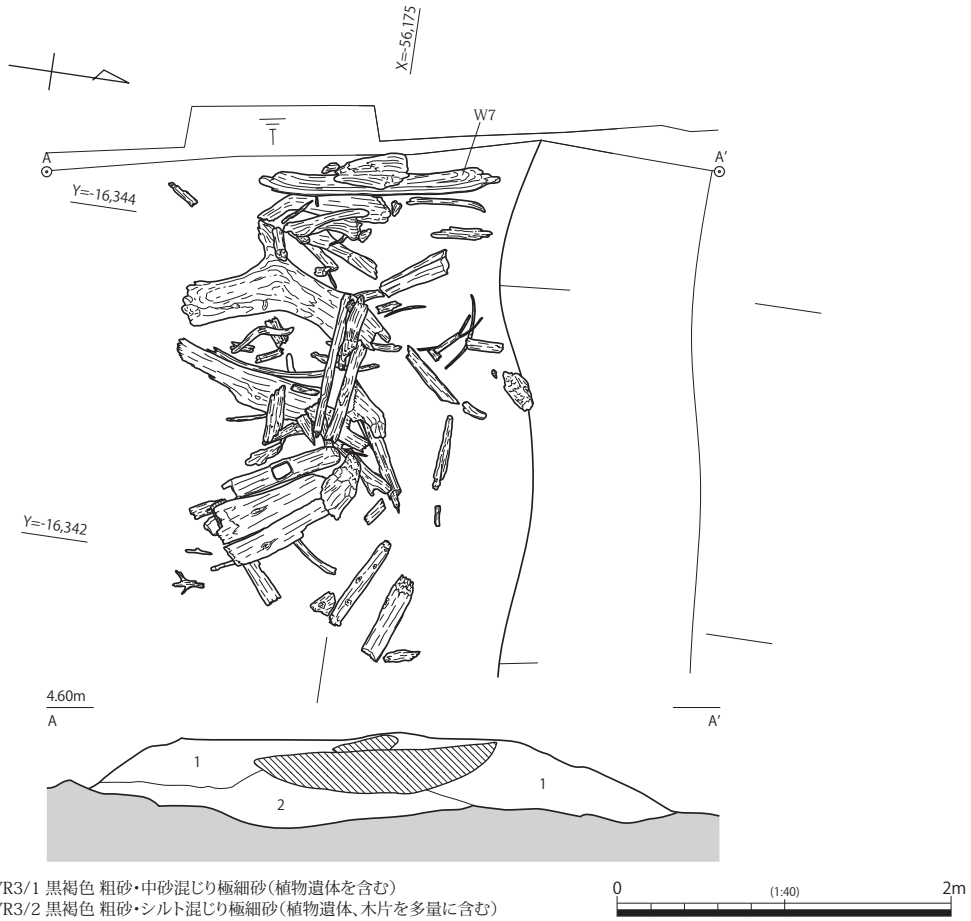
3006 溝では墨書土器も 33 点出土した。特徴的なものとしては、上層では「今主」（第 293 図 1220）、「荒田□〔大カ〕」（第 291 図 1186）、「東大家」（第 290 図 1169）、埋土下層では「門東「一」」（第 288 図 1147）、「船」（第 293 図 1219）がある。

出土遺物からすれば、3006 溝は 10 世紀までは比較的深さを保った状態で使用されていたが、下層





第76図 3006溝遺物出土位置図



第77図 3006 溝木製構造物 平・断面図



第78図 3006 溝最下層 かご出土状況図

の砂礫層で埋積した後は浅くなって排水機能が低くなり、10世紀前半にはほぼ埋没、廃絶していたという変遷が考えられる。その過程で、溝勾配が緩くなり溜り状となった部分は祭祀場としても使用されたようである。

#### 3014 溝 (第 42・55 図)

3区中央で検出した溝で、掘立柱建物2の東、南側を区画するように逆L字状に走る。当溝は下位の第4層下面で検出した3432溝及び3433溝とほぼ重複する位置に存在し、当溝出土遺物の多くが3432溝・3433溝出土遺物と接合することが調査終了後の整理過程で明らかとなった。よって、3014溝は3432溝・3433溝埋没後に掘削された溝で、同じ機能を果たしたものと推測する。

検出した範囲で延長14.1m、幅0.6～3.3m、検出面からの深さ12～24cmを測る。埋土は黒色または黒褐色の中砂・粗砂混じり極細砂を主体とする。

埋土中から8～10世紀前半の須恵器、土師器、製塩土器などが出土している。

#### 3066 溝 (第 55・79 図)

3区北東隅で検出した溝で、北側は調査区外へ延びる。検出できた範囲で、北北西－南南東に主軸をとり、長さ1.6m、幅0.56mを測る。埋土は褐灰色の中砂・粗砂混じりシルトの単層で、炭を含む。遺物はわずかに土器の細片が出土したのみである。

3区調査時は第2層下面で検出したが、3066溝の埋土及び基盤層は隣接する4区北西隅の第4層(第42層)下面で検出した4233～4235・4357溝に近似している。よって、それらと同時期の遺構の可能性はある。

#### 3086 溝 (第 55・79 図、PL.44・45)

3区南側中央で検出した溝である。主軸方向は北北東－南南西で、緩やかに蛇行しながら北へ延びて北端を3287溝に切られる。検出できた範囲で長さ5.9m、幅0.2～0.35mを測る。埋土は褐灰色の中砂・粗砂混じり極細砂の単層である。埋土から8世紀後半の須恵器高台付坏(第191図564)が出土している。

#### 3090 溝 (第 55・79 図、PL.44・45)

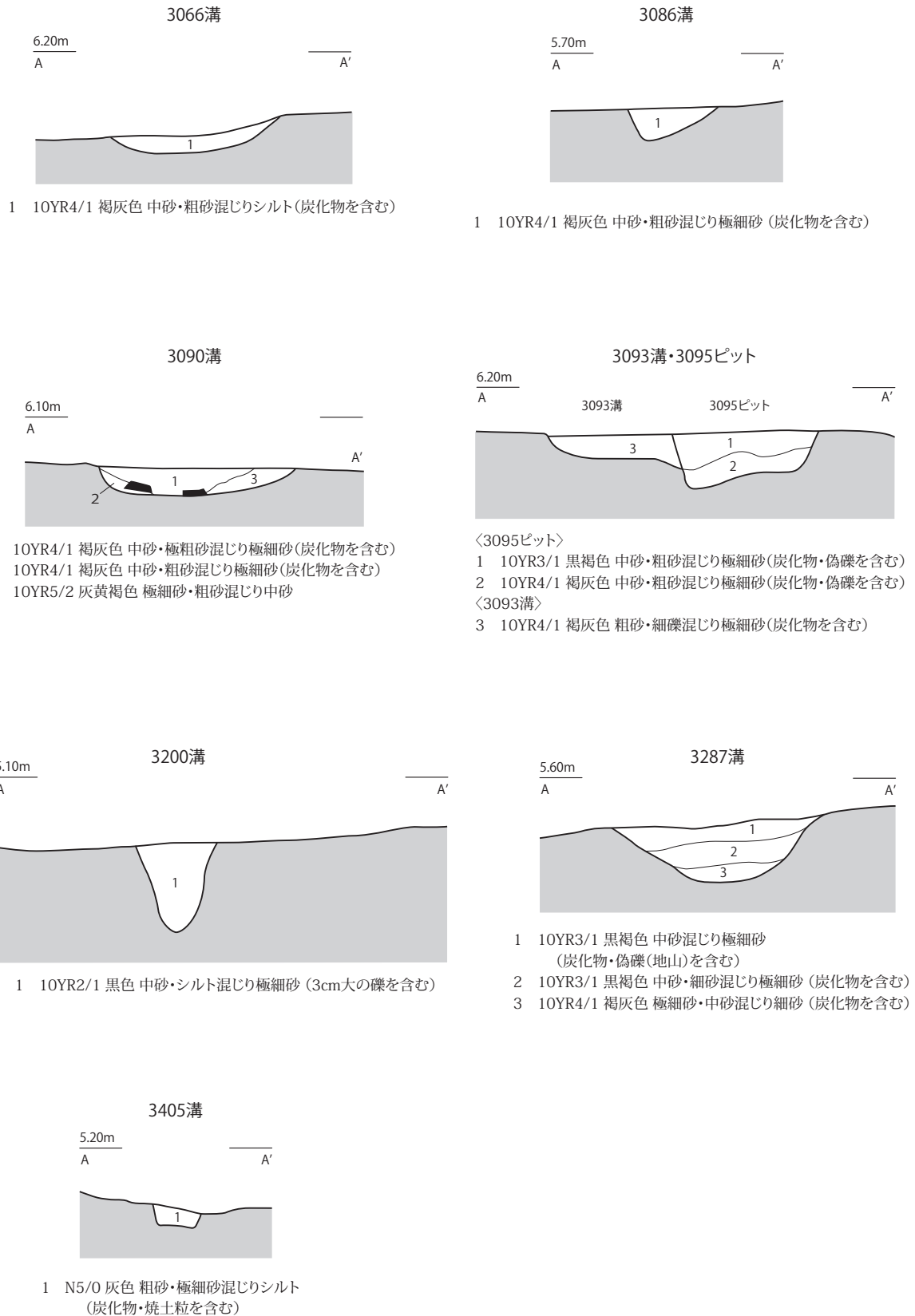
3区南東部で検出した溝で、主軸を概ね東西方向にとりながら弧状に走る。直交する3093溝によって切られる。検出した範囲で長さ7.5m、幅45～75cm、検出面からの深さ10cmを測る。埋土は褐灰色の中砂～極粗砂混じり極細砂を主体とする。埋土中から土師器の甕、高坏(第191図565～567)が出土しているが、時期決定の根拠に乏しい。

#### 3093 溝 (第 55・79 図、PL.44・45)

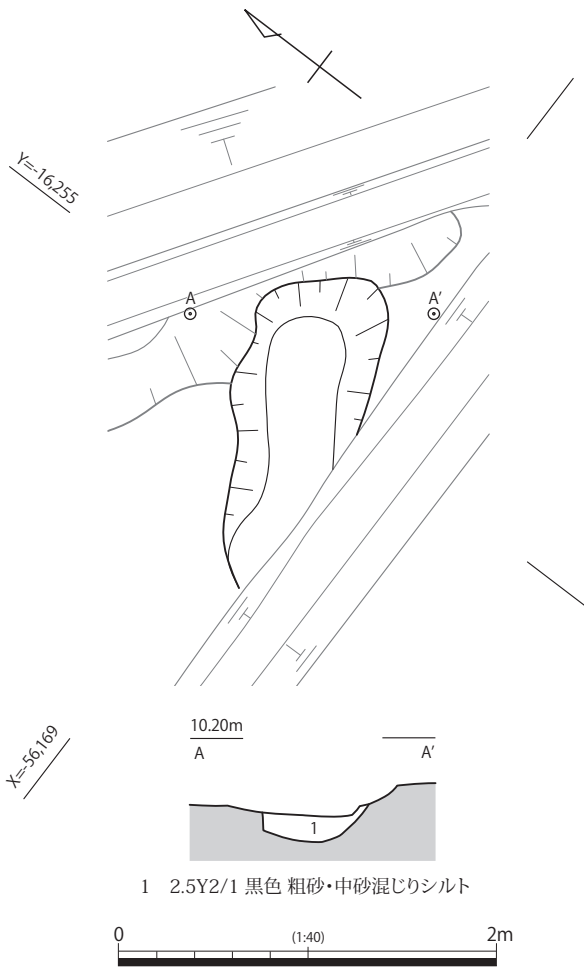
3区南東部で検出した溝で、主軸を南北方向にとり直線的に走る。直交する3090溝を切る。検出した範囲で長さ6.3m、幅30～75cm、検出面からの深さ12cmを測る。埋土は褐灰色の粗砂・細礫混じり極細砂の単層である。埋土中から8世紀の須恵器、土師器(第191図568～570)が出土しており、溝の廃絶時期は8世紀以降と考える。

#### 3200 溝 (第 55・79 図)

3区中央北側で検出した溝である。東西に主軸をとり、弧状を呈すが歪な形である。検出した範囲で長さ1.95m、幅15～35cm、検出面からの深さは30cmを測る。埋土は黒色の中砂・シルト混じり極細砂の単層である。埋土中から須恵器の皿、壺などが出土しているが、これらは基盤層となっている第4層に含まれていたものの混入と考えられる。



第79図 3066・3086・3090・3093・3200・3287・3405溝 断面図



第80図 4007土坑 平・断面図

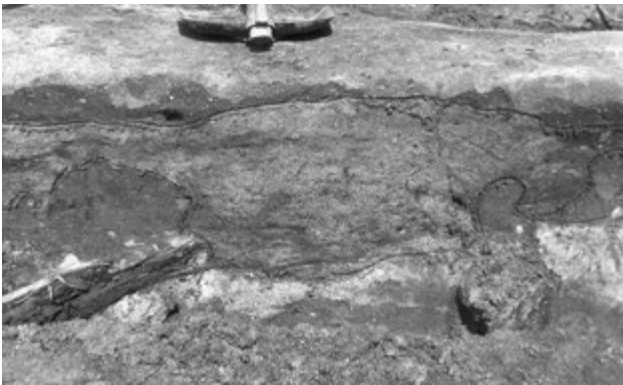


写真4 4023溝断面（近接、西から）

**4023溝（第52・55・81図、写真4、PL.71）**

4区南西部で検出した溝で、西北西－東南東を主軸方位とし、東西両端は攪乱及び圃場整備による削平によって残っていない。やや蛇行しながら走る溝で、検出範囲の長さ11.6m、幅0.2～1.2m、深さ30～72cmを測る。溝の断面形は逆台形を呈し、黒色・黒褐色のシルト混じり中砂と葉理の認められる灰白色の中砂～粗砂による互層状の埋土をもつ。埋土から須恵器の高坏を利用した転用硯(第230図1117)が出土している。

**3287溝（第55・79図、PL.44・45）**

3区中央南側で検出した溝で、北北西－南南東に主軸をとる。北側は3006溝に切られるため、検出できた長さは1.65mである。幅は90cm、検出面からの深さは20cmで、埋土は黒褐色・褐灰色の中砂混じり極細砂～細砂を主体とする。8世紀の須恵器、土師器が出土している。

**3405溝（第55・79図、PL.44）**

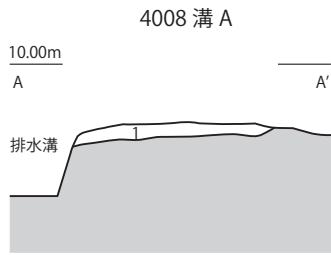
3区北端の掘立柱建物1内側で検出した長さ1m程の溝である。幅15cmで、検出面からの深さは10cmと浅い。埋土は灰色の粗砂・極細砂混じりシルトの単層である。遺物は出土していない。

**4007土坑（第80図、PL.66）**

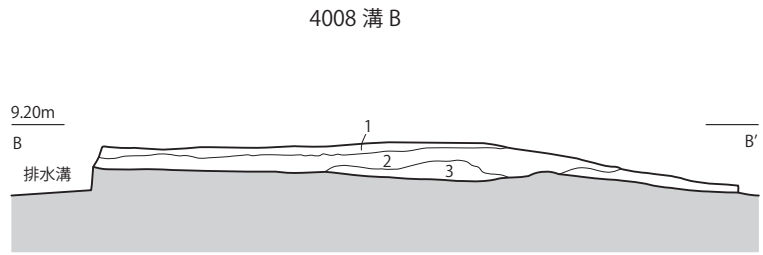
4区北東隅で検出した土坑で、検出した範囲で長さ1.6m、幅76cm、検出面からの深さ20cmを測る。埋土は黒色の粗砂・中砂混じりシルトの単層で、遺物は出土しなかった。

**4008溝（第55・81図、PL.74）**

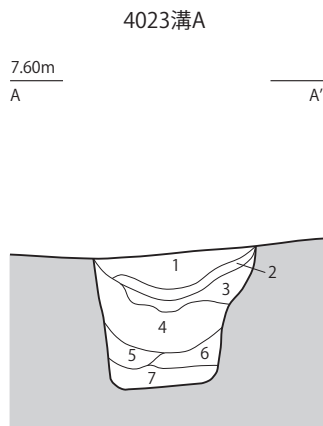
4区北東隅で検出した溝である。東南東－西北西を主軸方位とし、調査区北端に沿ってやや蛇行しながら走る溝で、溝の排出口は4024段に取り付く。検出した範囲で長さ11.4mを測る。調査区外にかかっているため幅は不明であるが、4024段との合流部は窄まって90cm程度になっている。検出面からの深さは10cm程度で、葉理の認められる褐灰色・灰黄褐色中砂～細礫の自然堆積層によって4024段も埋積されていた。この層には植物遺体の薄層が挟在する。埋土からわずかな土器細片と漆器椀（第247図W49）が出土している。



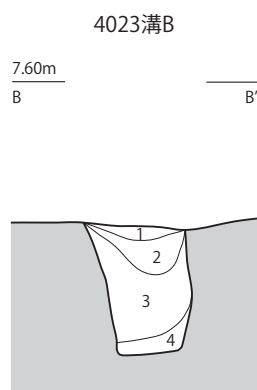
- 1 10YR6/2 灰黄褐色 中砂～極粗砂 (偽礫・植物遺体を含む。)



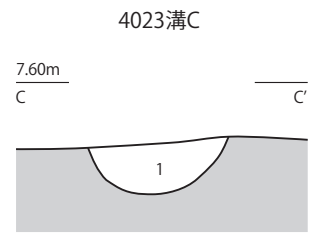
- 1 10YR6/1 褐灰色 中砂～極粗砂 (植物遺体を含む。ラミナあり)
- 2 10YR6/2 灰黄褐色 中砂～細礫 (植物遺体の層が挟在する。ラミナあり)
- 3 2.5Y6/1 黄灰色 中砂～粗砂 (植物遺体を含む)



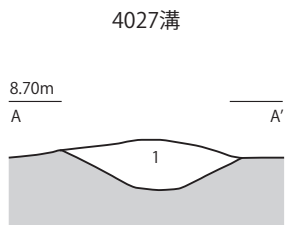
- 1 10YR2/1 黒色 中砂・極粗砂混じりシルト (偽礫を含む)
- 2 7.5YR8/2 灰白色 中砂～粗砂
- 3 10YR3/1 黒褐色 シルト混じり中砂
- 4 10YR2/1 黒色 シルト混じり中砂 (偽礫を含む)
- 5 10YR4/1 褐灰色 シルト混じり中砂
- 6 10YR3/1 黒褐色 シルト混じり中砂 (3～4cm大の偽礫を含む)
- 7 10YR2/2 黒褐色 シルト混じり中砂～粗砂 (植物遺体を含む)



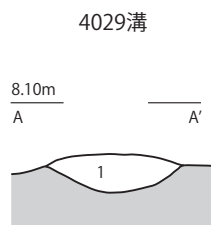
- 1 10YR2/1 黒色 中砂混じりシルト
- 2 7.5YR8/2 灰白色 中砂～粗砂 (細礫を含む)と10YR2/1 黒色中砂 (植物遺体を多量に含む)の互層 (ラミナあり)
- 3 10YR2/2 黒褐色 シルト・粗砂混じり中砂 (植物遺体を多量に含む)
- 4 10YR7/2 にぶい黄橙色 中砂～粗砂 (植物遺体を少量含む)



- 1 7.5YR8/2 灰白色 中砂～粗砂 (細礫を含む)と10YR2/1 黒色中砂 (植物遺体を多量に含む)の互層 (ラミナあり)



- 1 2.5Y6/2 灰黄色 粗砂～中砂 (ラミナあり。植物遺体層が挟在する)



- 1 2.5Y6/2 灰黄色 粗砂～中砂 (ラミナあり。植物遺体層が挟在する)



第 81 図 4008・4023・4027・4029 溝 断面図

4022 擬似畦畔

4023 溝は最終的に中砂～粗砂の自然堆積層によって全体が覆われ、埋没している。その砂は上層である第2-2層耕作時に攪拌されているが、4023 溝に沿うように帯状の高まりとして一部残っており(第52図8層に該当、写真4)、それを4022 擬似畦畔として認識した。

4027 溝・4029 溝 (第55・81図、PL.66)

4区中央～東側で検出した溝である。4027 溝は北東-南西を主軸方位とし、検出した範囲で長さ7.6 m、幅0.5～1 m、検出面からの深さ20 cmを測る。4029 溝は東西を主軸方位とするが、Y=-16,280 ライン付近で南東方向へ折れ、同ライン以東は残っていない。検出した範囲で長さ9.1 m、幅30～40 cm、検出面からの深さ16 cmを測る。

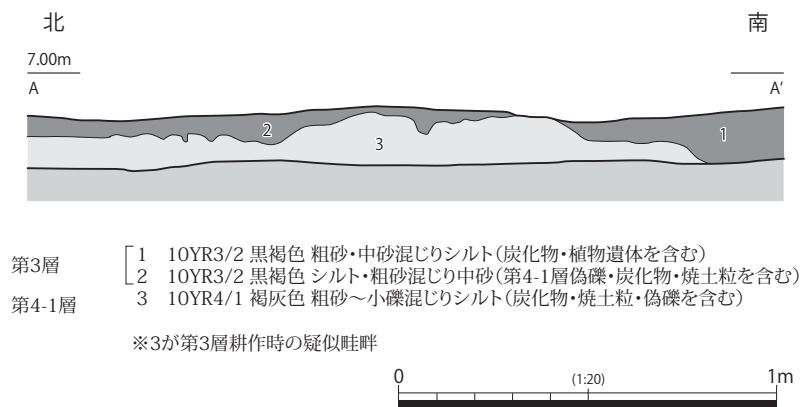
どちらも葉理の認められる灰黄色粗砂～中砂で埋積しており、位置関係からみても本来は同一の溝だったと考える。4027 溝・4029 溝も4023 溝と同様に自然堆積の中砂～粗砂で覆われたが、上層の耕作によって攪拌され残った部分は帯状の砂の高まりとして検出できた。これも擬似畦畔と考えられ、その範囲は4029 溝部分及び4027 溝のうちX=-56,170 ライン付近までである。以上のことから、4023 溝、4027 溝、4029 溝は水田耕作に伴う水路であったが、流出土砂によって埋積し、その後位置や方向を概ね踏襲した畦畔を再構築して水田が営まれたという変遷が想定される。

4024・4030 段、4025・4026・4028・4031 擬似畦畔 (第55・82図、PL.66)

4区で検出された第2-2層に伴う耕作痕跡である。相互の位置関係から見て、複数時期の耕作痕跡を同一面上で検出していると考えられる。4024 段、4030 段は下位の第3層を掘削して形成された耕地段差、4025・4026 擬似畦畔は第3層が高まりとなって検出された擬似畦畔である。4024 段は検出できた範囲で幅8.4 m、高低差20 cmを測り、やや弧を描きながら4025 擬似畦畔へ繋がる。4030 段は検出できた範囲で幅3.9 m、高低差15 cmを測り、南側で4029 溝と接するが同溝を切らない。4025 擬似畦畔は長さ5 m、幅60～90 cmを測り、途中で南へ折れて鉤形を呈する。4026 擬似畦畔は長さ3.3 m、幅90 cmを測るが部分的な高まりで、他との位置関係からみても擬似畦畔ではない可能性がある。

これに対し、4028・4031 擬似畦畔は第3層に第2-2層がアンダープリントされた偶蹄類の足跡が30～60 cm幅で帯状に切れる範囲を検出したものである。

いずれの耕地段差、擬似畦畔も地形に則して等高線に平行あるいは直交している。



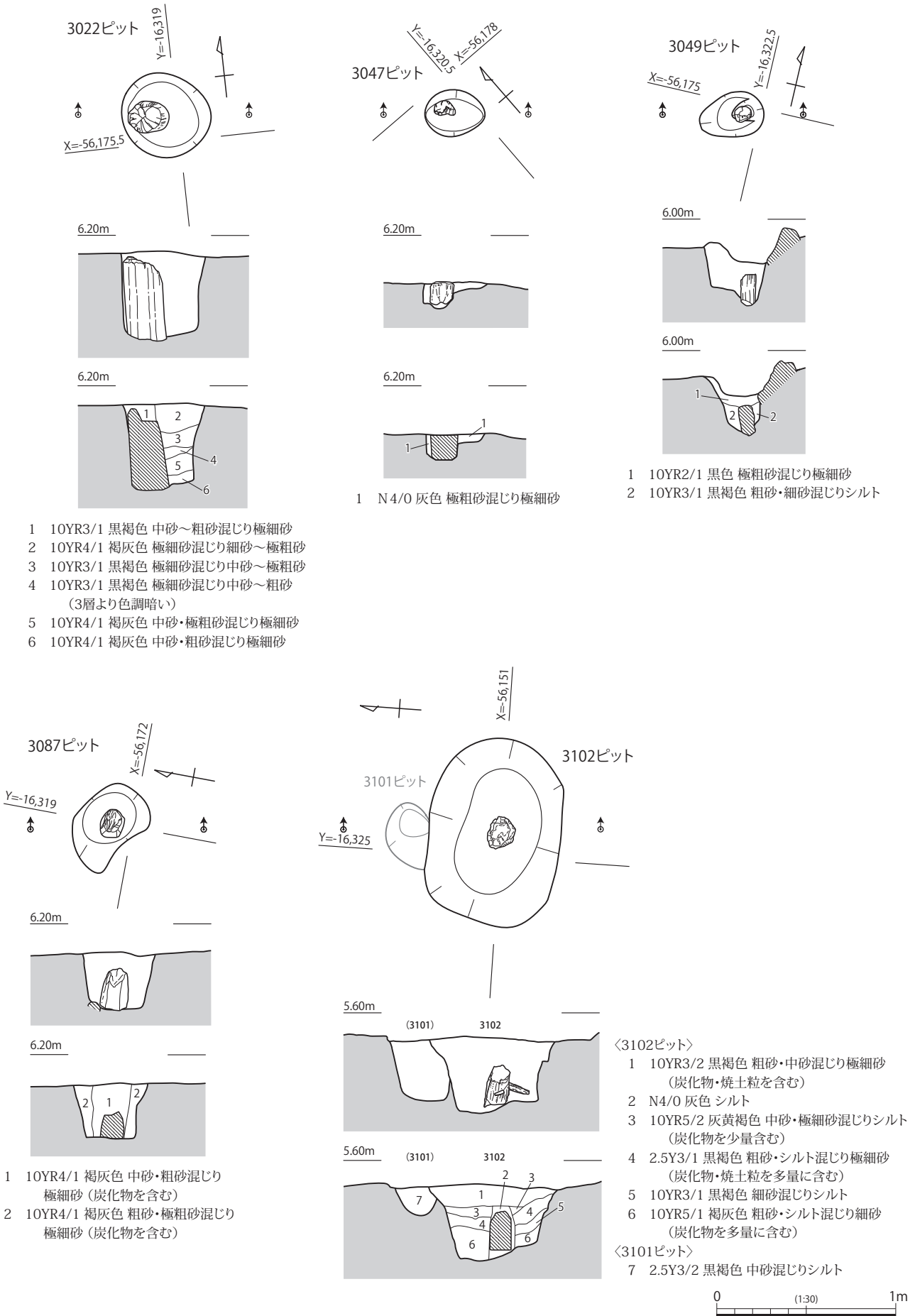
第82図 4032 擬似畦畔 断面図



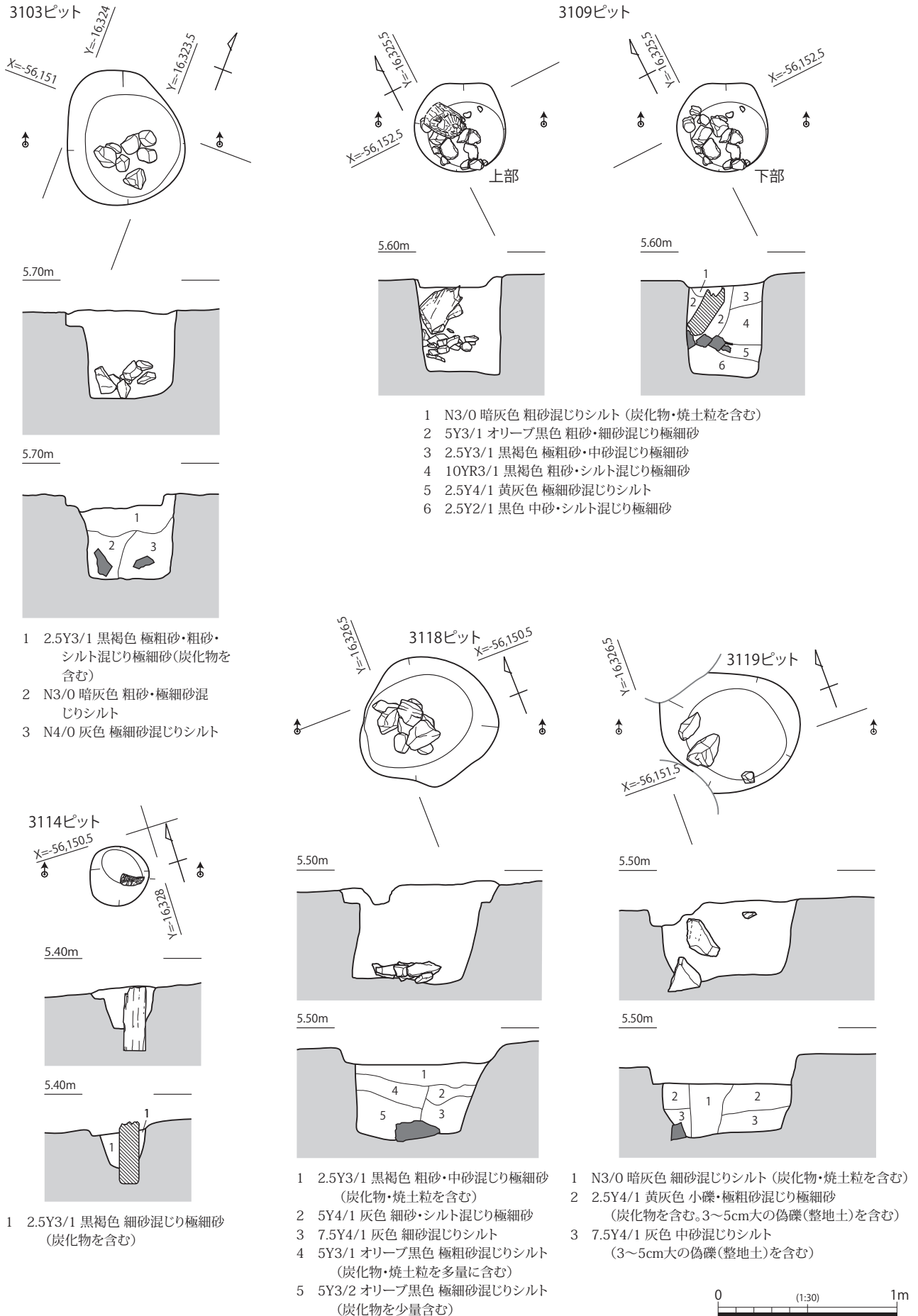
第83図 3区第2層下面ピット 全体図



第VI章 3区・4区の調査成果

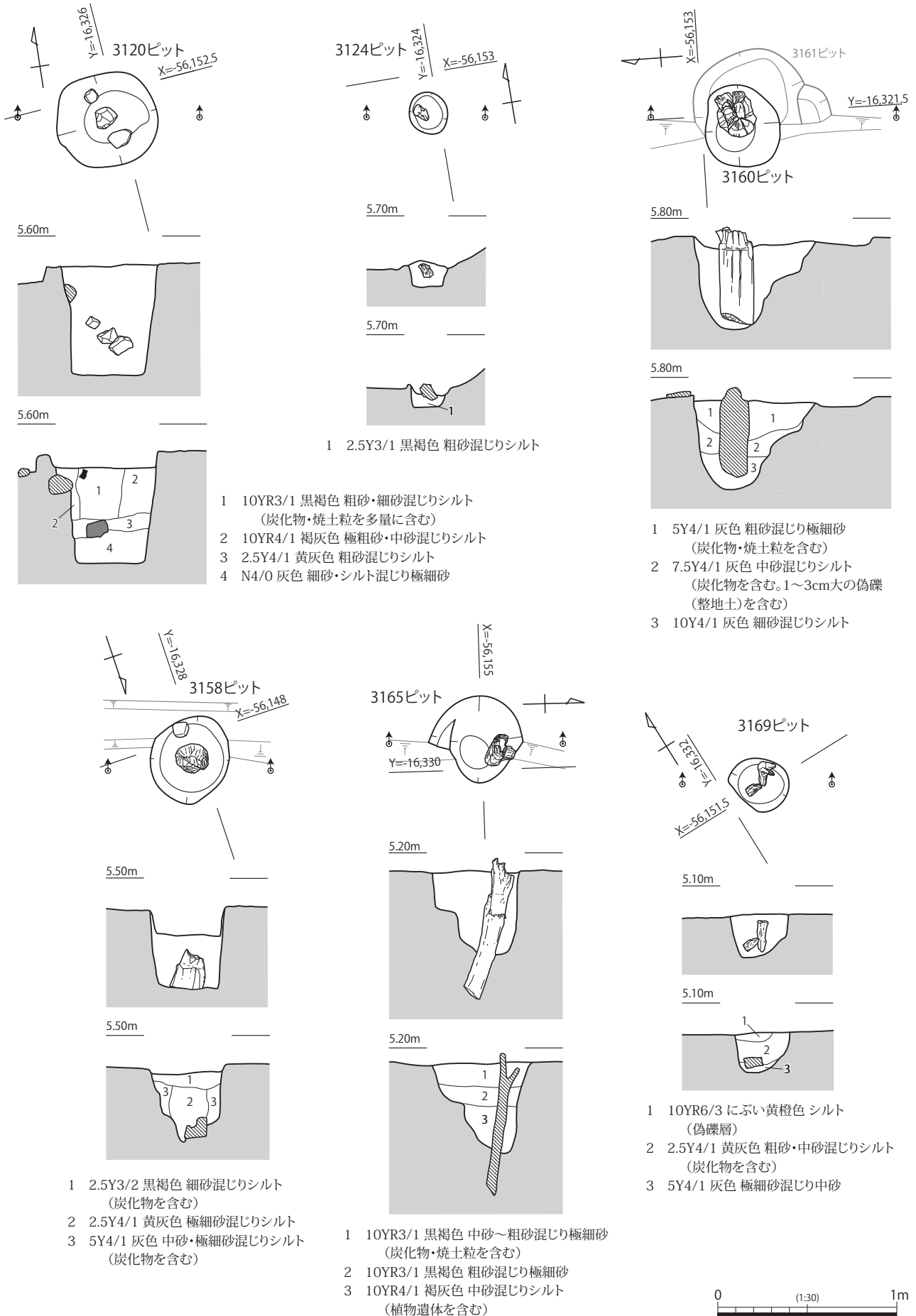


第84図 3区第2層下面ピット 平・断面図(1)

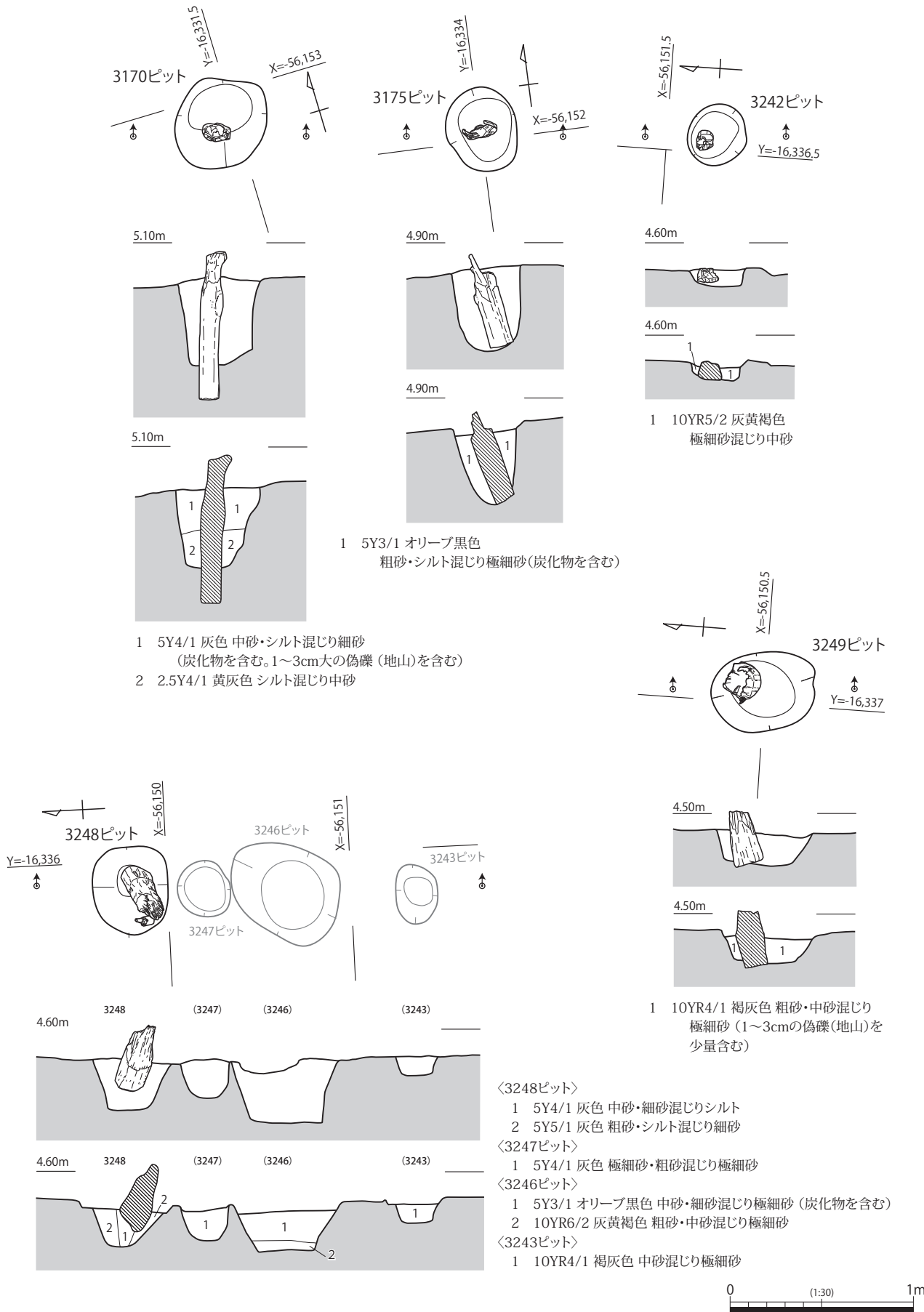


第85図 3区第2層下面ピット 平・断面図(2)

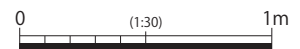
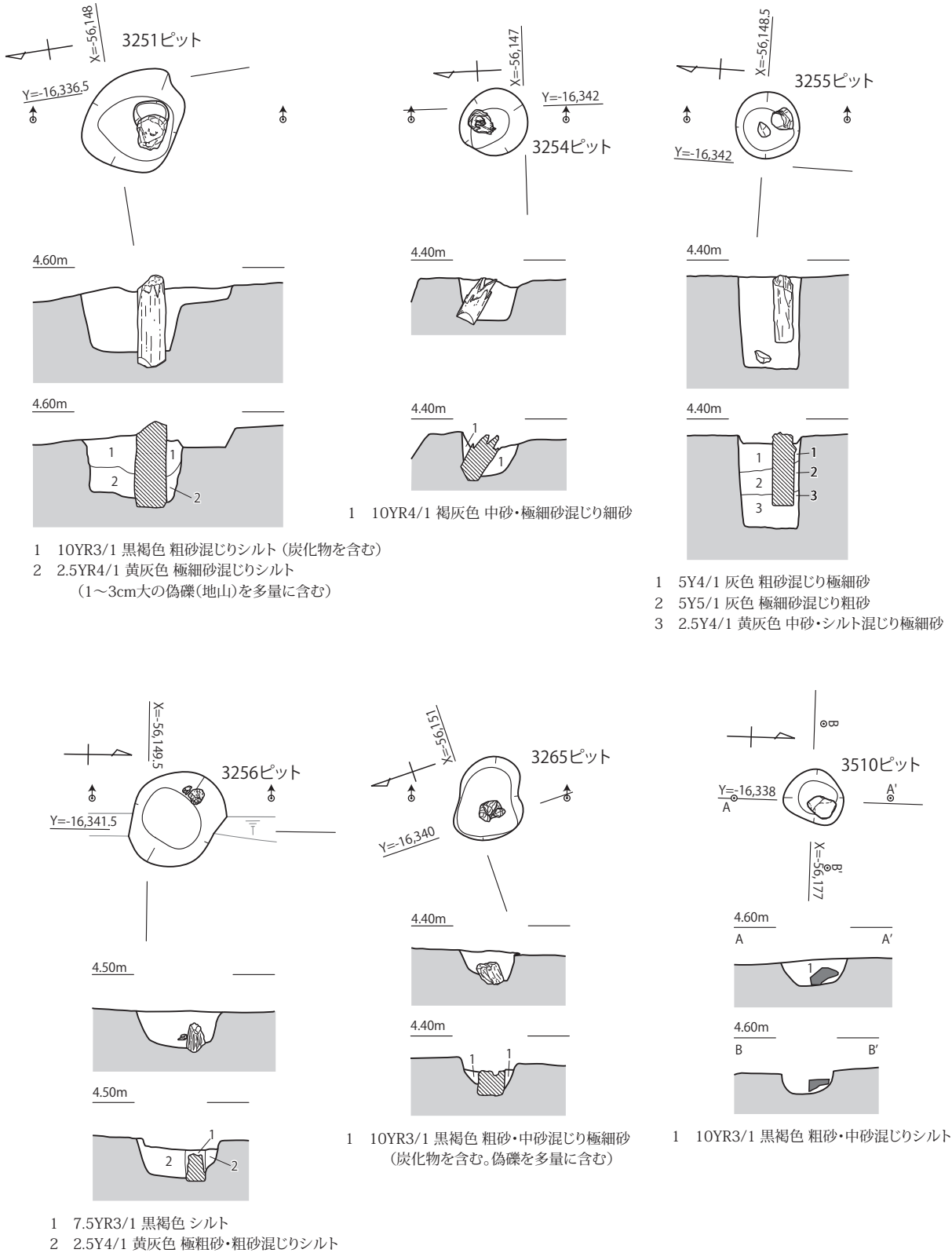
第VI章 3区・4区の調査成果



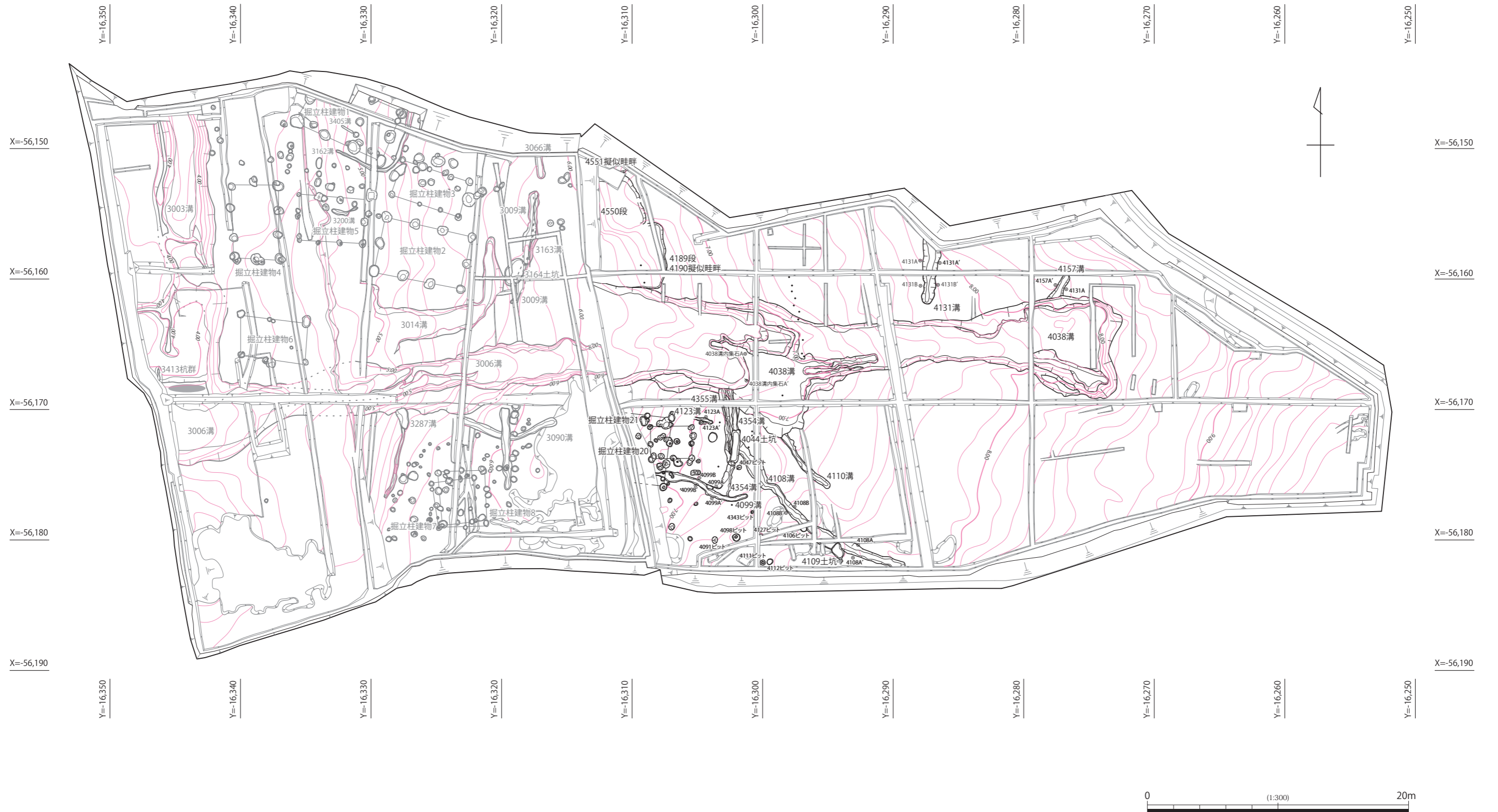
第86図 3区第2層下面ピット 平・断面図(3)



第 87 図 3区第2層下面ピット 平・断面図 (4)



第 88 図 3区第2層下面ピット 平・断面図 (5)



第89図 3区・4区第3層下面 全体図

**4032・4045 擬似畦畔（第55・82図、PL.66）**

4区北西部で検出した擬似畦畔である。4032 擬似畦畔は検出できた長さ3.3 m、幅30～60 cmを測る。4045 擬似畦畔は4032 擬似畦畔に直交するように取り付くもので、検出できた長さ60 cm、幅40 cmを測る。どちらも第3層及び第4層を母材として耕作した際に形成された擬似畦畔で、第2層下面精査時に第4層が带状の高まりとなって検出された。第3層下面で検出した4189 擬似畦畔及び4190 段と一連の耕作痕跡である。

**3区第2層下面検出ピット（第83～88図、PL.53・54）**

3区では、掘立柱建物の柱穴として把握できなかったが柱根や基礎固め（礎盤石、根石）を検出したピットが多数存在し、その主要なものを掲載した。

**3022 ピット**は長軸49 cmの楕円形を呈し、直径20 cmの柱根が残っていた。

**3103 ピット**は長軸74 cm、短軸65 cmを測るピットで、下部に拳大の割石を用いた根石が認められた。断面観察からすれば、柱は抜き取られた可能性がある。

**3109 ピット**は長軸53 cm、短軸51 cmのピットで、最下層である6層の直上に拳大の根石を置き、その上に柱を据えていた。

**3118 ピット・3119 ピット**は直径70 cm前後のピットで、どちらも根石を伴う。3119 ピットには柱痕跡が認めらるが3118 ピットは断面観察によれば柱を抜き取っている可能性がある。

**3160 ピット・3251 ピット・3255 ピット**にはそれぞれ直径18 cm、15 cm、11 cmの柱根が残る。

**3158 ピット**は長軸49 cm、短軸43 cmのピットで、下部に直径18 cmの柱根が残っていたが、断面観察によれば柱の上部は切り取られた可能性がある。

**（3）第3層下面の遺構****掘立柱建物20（第90図、PL.75・76）**

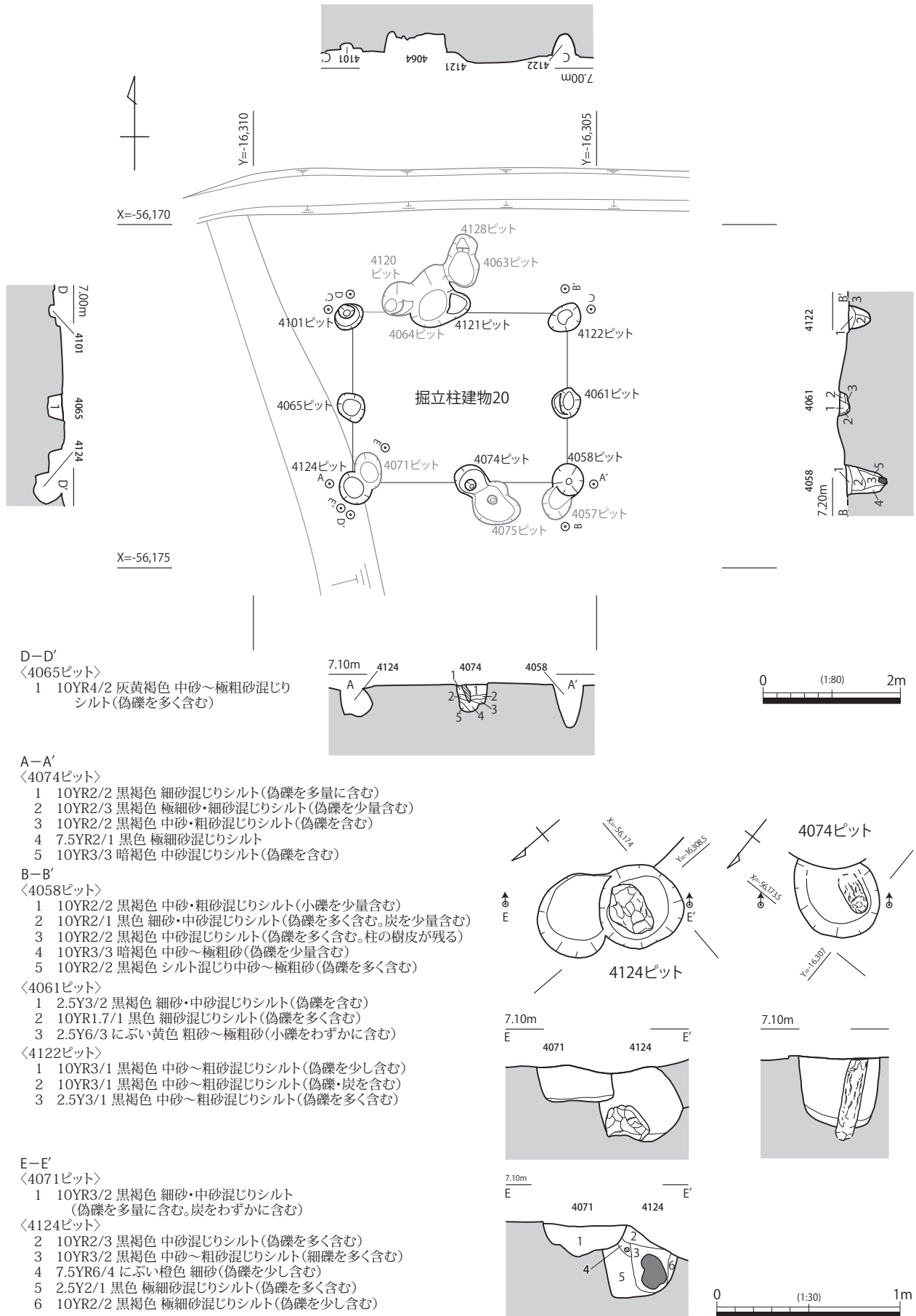
4区南西部で検出した掘立柱建物で、掘立柱建物21と重複し、同建物よりも古い。

梁行2間（2.5 m）、桁行2間（3.1 m）の側柱建物である。平面プランからすれば総柱建物であった可能性もあるが、建物中央部には掘立柱建物21の柱穴があり本来伴う柱穴の有無が不明のため、側柱建物と推測する。主軸方位はN-89°-Wとほぼ東西を向き、身舎の面積は7.8 m<sup>2</sup>である。

柱間寸法は梁行方向が1.1または1.4 m、桁行方向が1.5～1.6 mとそれぞれで揃う。柱穴は長軸約40～90 cm、短軸約30～60 cmの不整形円形を呈す。検出面からの深さは隅柱が約30～50 cmであるのに対し、間柱が約20～40 cmとやや浅い。3006 溝及び4038 溝より南側は丘陵裾が張り出しており元々地形的に少し高く、圃場整備時に削平を受けているようで第4層の広がりもほとんど確認できなかった。

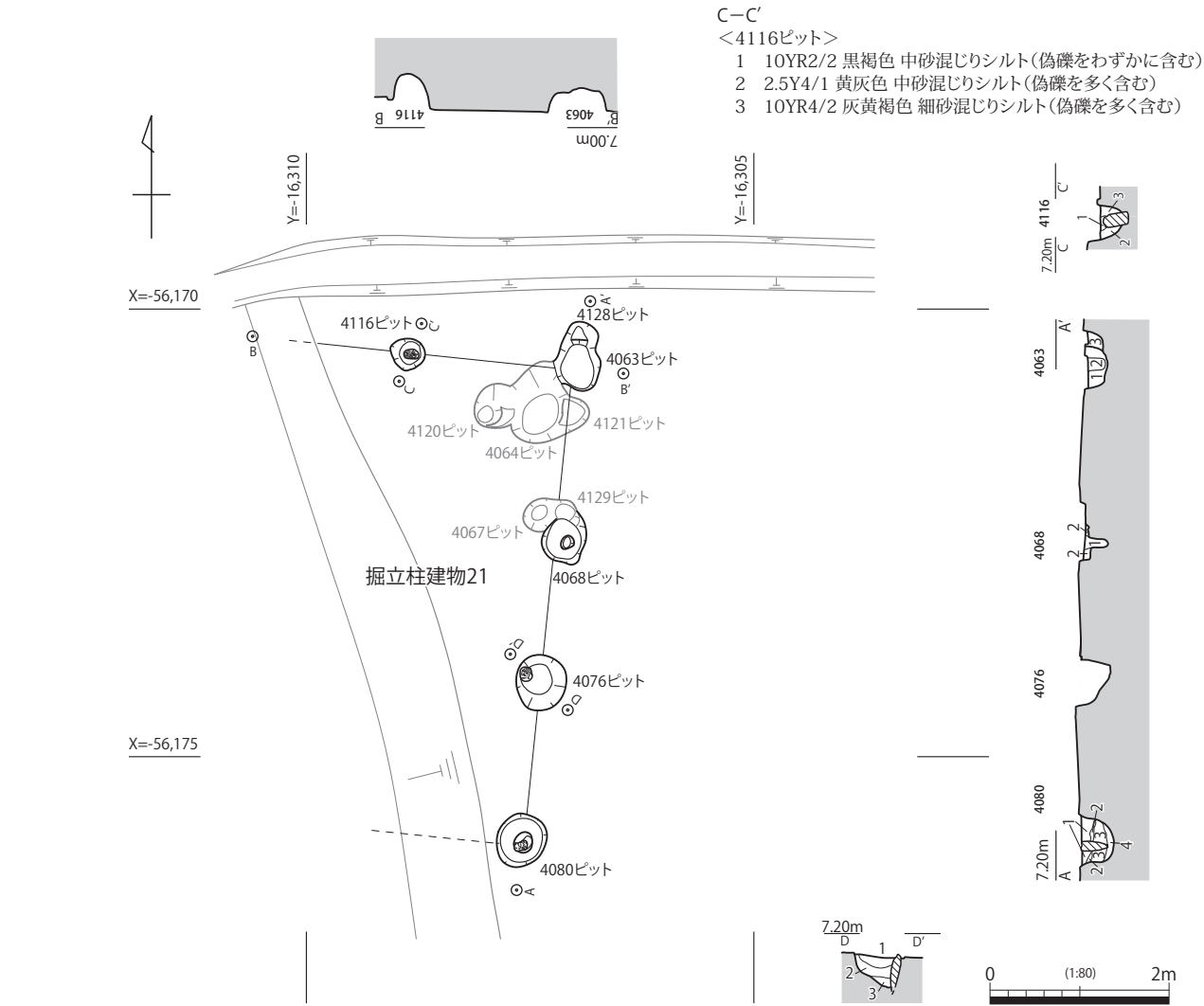
柱掘方埋土は黒褐色の細砂～粗砂混じりシルトを主体とする。4074 ピットでは径12 cmの柱根が残っていたが、上部の形状からすれば柱根は廃絶時に切り取られた可能性が高い。4058 ピットは堆積状況から見て柱が抜き取られたと推測する。4061 ピット、4122 ピットの断面でも同様の状況が看取される。4124 ピットには礎盤石と考えられる人頭大の礫が据え置いてあったが、一部抜き取り時に動かされていた。

柱穴から出土した土器はわずかな細片ばかりで図化できるものはない。周辺の第3層下面検出遺構では8～9世紀の遺物を伴っており、古代の建物跡と考える。



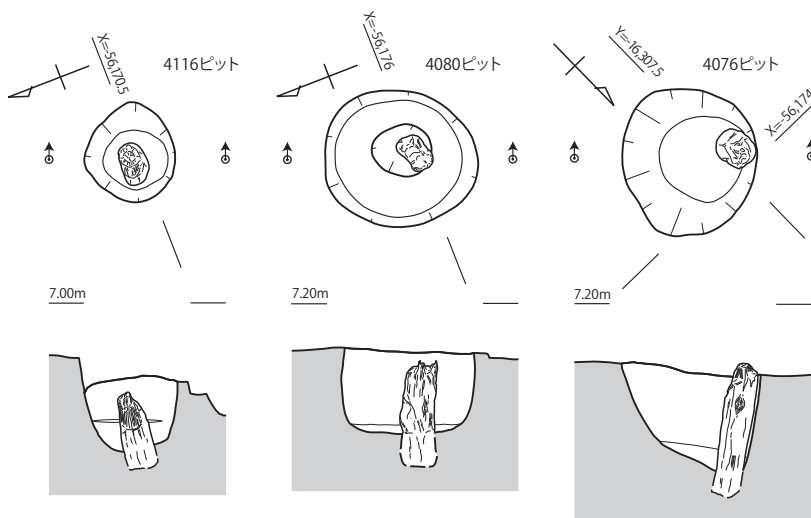
第90図 掘立柱建物 20 平・断面図





- A-A'
- <4080ピット>
- 1 10YR3/3 暗褐色 細砂混じりシルト(偽礫を多く含む)
  - 2 10YR5/2 灰黄褐色 中砂～極粗砂混じりシルト
  - 3 10YR3/1 黒褐色 中砂混じりシルト(偽礫を含む)
  - 4 7.5Y6/1 灰色 中砂～極粗砂混じりシルト

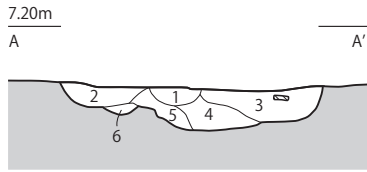
- <4063ピット>
- 1 5Y2/2 オリーブ黒色 中砂～粗砂混じりシルト(炭を含む)
  - 2 10YR3/2 黒褐色 粗砂～極粗砂混じりシルト(偽礫を多く含む)
- <4128ピット>
- 3 10YR2/1 黒色 中砂～極粗砂混じりシルト(偽礫を多く含む)
- <4068ピット>
- 1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 細砂・中砂混じりシルト(細礫・炭を含む)
  - 2 2.5Y3/2 黒褐色 細砂混じりシルト(偽礫を多量に含む)



- D-D'
- <4076ピット>
- 1 10YR2/2 黒褐色 細砂混じりシルト(偽礫・炭を含む)
  - 2 2.5Y5/2 暗灰黄色 中砂混じりシルト
  - 3 10YR2/2 黒褐色 極細砂混じりシルト

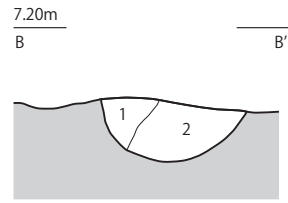
第91図 掘立柱建物21 平・断面図

4099溝 東側



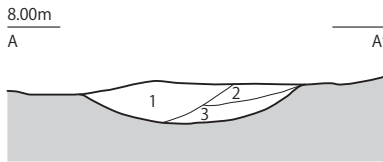
- 1 2.5Y3/2 黒褐色 細砂混じりシルト(中砂～極粗砂がラミナ状に入る)
- 2 2.5Y3/2 黒褐色 中砂混じりシルト(細礫を含む)
- 3 10YR2/3 黒褐色 細砂～粗砂混じりシルト(植物遺体を多量に含む)
- 4 10YR2/3 黒褐色 細砂～粗砂混じりシルト(偽礫を多く含む)
- 5 10YR3/2 黒褐色 中砂混じりシルト(粗砂をラミナ状に含む)
- 6 10YR6/3 にぶい黄褐色 中～粗砂

4099溝 西側



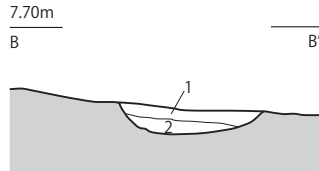
- 1 10YR3/2 黒褐色 細砂混じりシルト(細砂がラミナ状に入る。植物遺体あり)
- 2 10YR3/2 黒褐色 細砂混じりシルト(植物遺体多く含む。炭少量含む)

4108溝 東側



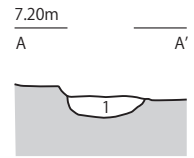
- 1 10YR7/4 にぶい黄褐色 中砂～極粗砂
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色 中砂～極粗砂
- 3 2.5YR3/1 黒褐色 シルト混じり細砂～粗砂(10YR6/4にぶい黄褐色粗砂～細礫、植物遺体を含む)

4108溝 西側



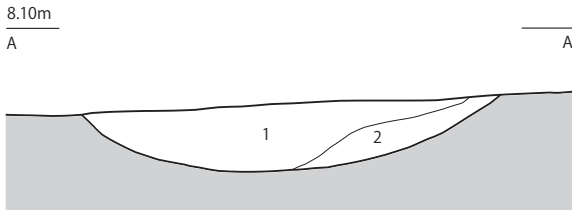
- 1 10YR5/3 にぶい黄褐色 中砂(植物遺体を多量に含む)
- 2 10YR5/2 灰黄褐色 シルト混じり細砂(10YR3/2 黒褐色粗砂混じりシルトを含む)

4123溝

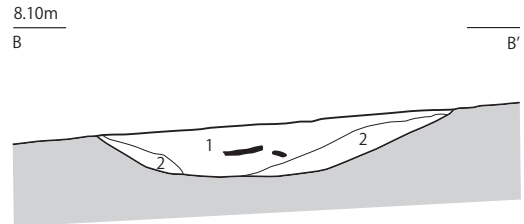


- 1 7.5YR1.7/1 黒色 中砂・極粗砂混じりシルト

4131溝 北側

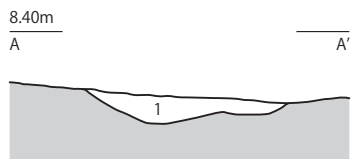


4131溝 南側

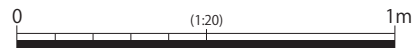


- 1 10YR4/1 褐灰色 シルト・細砂混じり極細砂(炭を含む、部分的に細砂がラミナ状に入る)
- 2 10YR3/1 黒褐色 中砂・細砂混じり極細砂(炭を含む)

4157溝



- 1 7.5YR3/3 暗褐色 極細砂(植物遺体を多量に含む)



第92図 4099・4108・4123・4131・4157溝 断面図

**掘立柱建物 21 (第91図、PL.75・77)**

4区南西部で検出した掘立柱建物で、掘立柱建物 20 と重複し、同建物よりも新しい。

建物西側の大部分を圃場整備の削平によって失っているため、全体の構造や規模は不明である。検出した範囲では、梁行1間以上、桁行3間(5.4 m)の側柱建物と推測する。主軸方位はN-6°-Wで南北軸の建物となろうか。

柱間寸法は確認できるもので梁行方向が1.7 m、桁行方向が1.5～1.9 mである。柱穴は長軸、短軸とも約40～70 cmの不整楕円形を呈す。検出面からの深さは24～31 cmと浅い。

柱掘方埋土は黒褐色や灰黄褐色の中砂～極粗砂混じりシルトを主体とする。4116ピット、4076ピット、4080ピットには直径14 cmの柱根が残っていた。4063ピット、4068ピットは上部をかなり削平されているが、断面に柱痕跡が確認できた。

ピットから遺物は出土していない。4116ピットが8世紀前半の須恵器が出土した4118ピットを切っており、4038溝南肩第4層を掘り込むことから、9世紀頃の建物跡と考える。

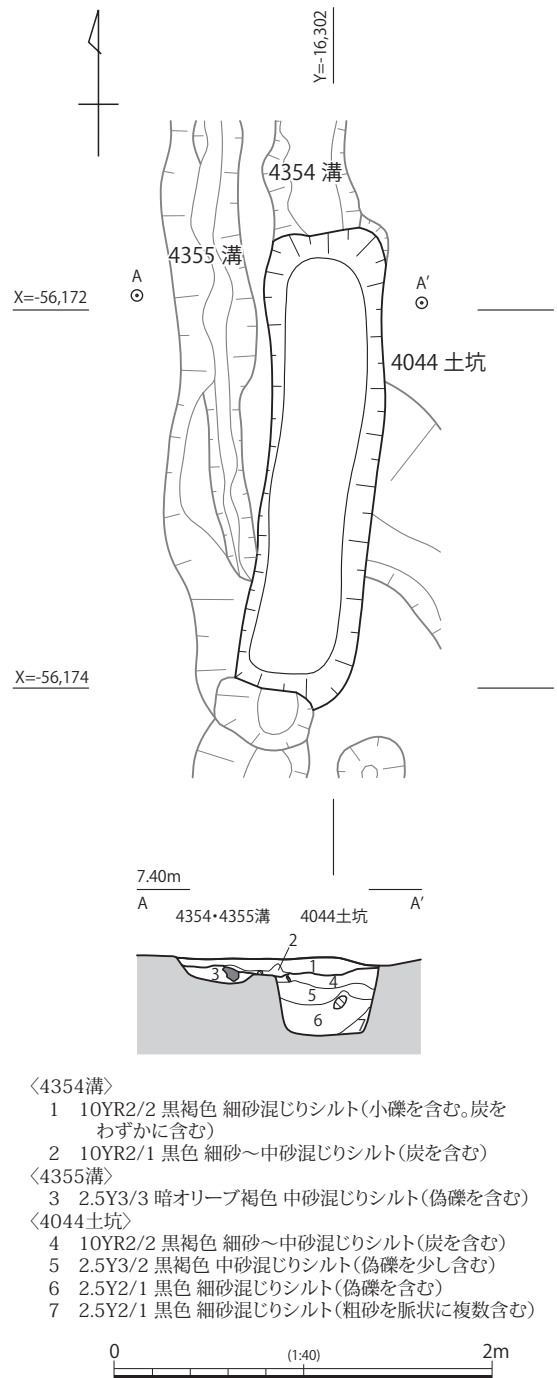
**4099 溝 (第89・92図、PL.67・71)**

4区南西部で検出した溝で、西北西-東南東を主軸とし、緩やかに蛇行する。4354溝の南端を切る。西側が圃場整備で削平されているが、検出できた範囲で長さ7.3 m、幅20～90 cm、検出面からの深さ12～18 cmを測る。埋土は黒褐色の細砂～粗砂混じりシルトを主体とし、部分的に葉理が認められる。埋土から土師器坏(第192図589・590)、下駄(第246図W41)が出土しており、溝の廃絶時期は9世紀後半以降と考える。

**4108 溝・4110 溝 (第89・92図、PL.67・72)**

4区南西部で検出した溝で、並行して走る2条の溝の主軸方向は北西-南東で、両者の間隔は2.4 mである。

4108溝は4044土坑及び4354溝に切られる。4110溝は4038溝と切り合いの先後関係を明確にできていないが、4108溝との関係から見て4038溝より新しい可能性がある。検出できた長さは4108溝が15.9 m、4110溝が5.3 mである。幅は4108溝が0.6～1.2 m、4110溝が30～40 cm、検出面からの深さはどちらも5～12 cm程度と浅い。埋土は植物遺体を含むにぶい黄橙色中砂～極粗砂を主体とする。わずかに9世紀代とみられる須恵器坏の小片(第192図591)が出土している。



第93図 4044土坑 平・断面図

**4123 溝 (第 89・92 図、PL.67・71)**

4区南西部で検出した溝である。主軸方位は西北西－東南東で、長さは1.5 m、幅30 cm、検出面からの深さ6 cmを測る。埋土は黒色の中砂・極細砂混じりシルトの単層である。わずかに9世紀代とみられる須恵器坏の小片(第192図593)が出土している。

**4131 溝 (第 89・92 図、PL.72)**

4区中央北端で検出した溝で、北側は調査区外へと続く。主軸方位は概ね南北で、検出できた範囲で長さ5 m、幅0.9～1.5 m、深さ20 cmを測る。皿状の断面形をしており、埋土は部分的に細砂の葉理が認められる褐灰色のシルト・細砂混じり極細砂を主体とする。

埋土から8世紀後半の須恵器、土師器(第192図594～596)が出土している。

**4157 溝 (第 89・92 図、PL.71)**

4区北東部で検出した溝で、南側は4038溝に切られる。主軸方位は北東－南西で、検出できた範囲で長さ2.4 m、幅0.5～1.0 m、深さ10 cmを測る。

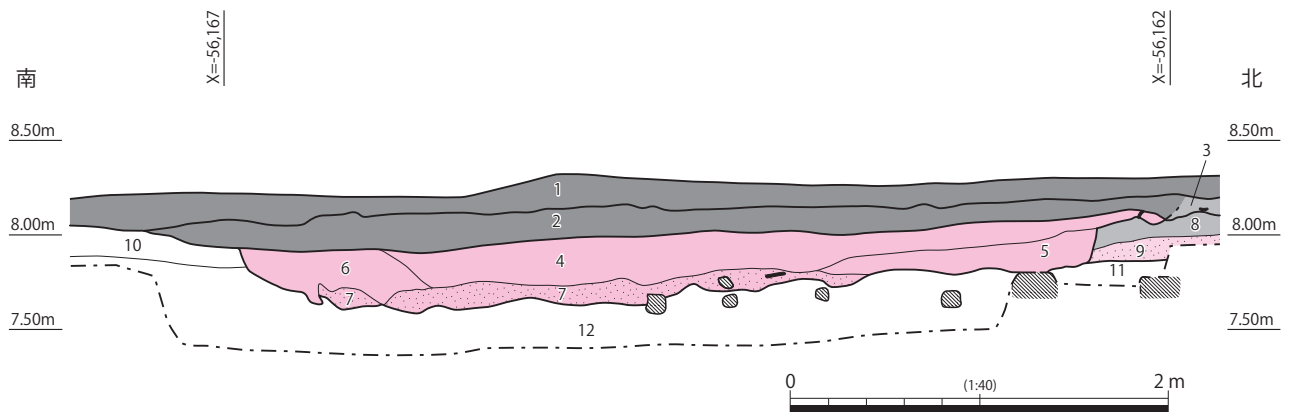
埋土は植物遺体を多量に含む暗褐色極細砂の単層である。遺物は出土していない。

**4044 土坑・4354 溝・4355 溝 (第 89・93 図、PL.67・72)**

南西部で検出した土坑及び溝で、切り合い関係は4044土坑→4355溝→4354溝の順に新しい。

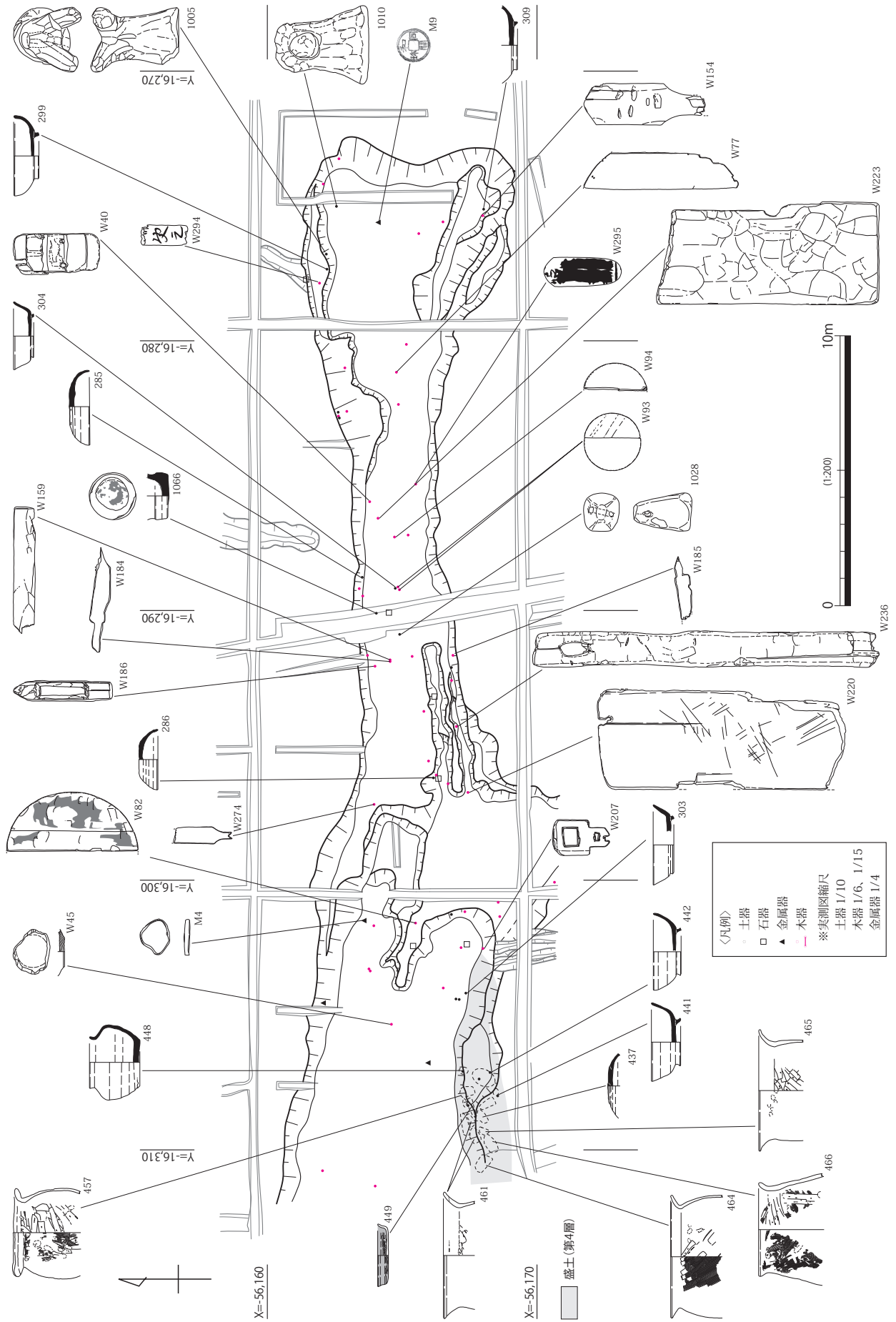
**4044 土坑**は平面形が南北に長い隅丸長方形を呈し、西辺がわずかに湾曲する。長さ2.6 m、幅64 cm、深さ36 cmを測る。断面形は逆台形をしており、埋土は4層に分かれ、下層は黒色の細砂混じりシルト、上層は黒褐色の中砂混じりシルトとなる。埋土から9世紀後半の須恵器が出土している。

**4355 溝**は主軸方位を北北西－南南東として直線的に延びる溝で、南側を4354溝で切られる。北側は4038溝を切る。検出できた範囲で、長さ5.7 m、幅40～50 cm、深さ16 cmを測る。埋土は偽礫を含む暗オリーブ褐色中砂混じりシルトだが、上部を4354溝で削平されており単層だったかどうかは不明である。遺物は出土していない。

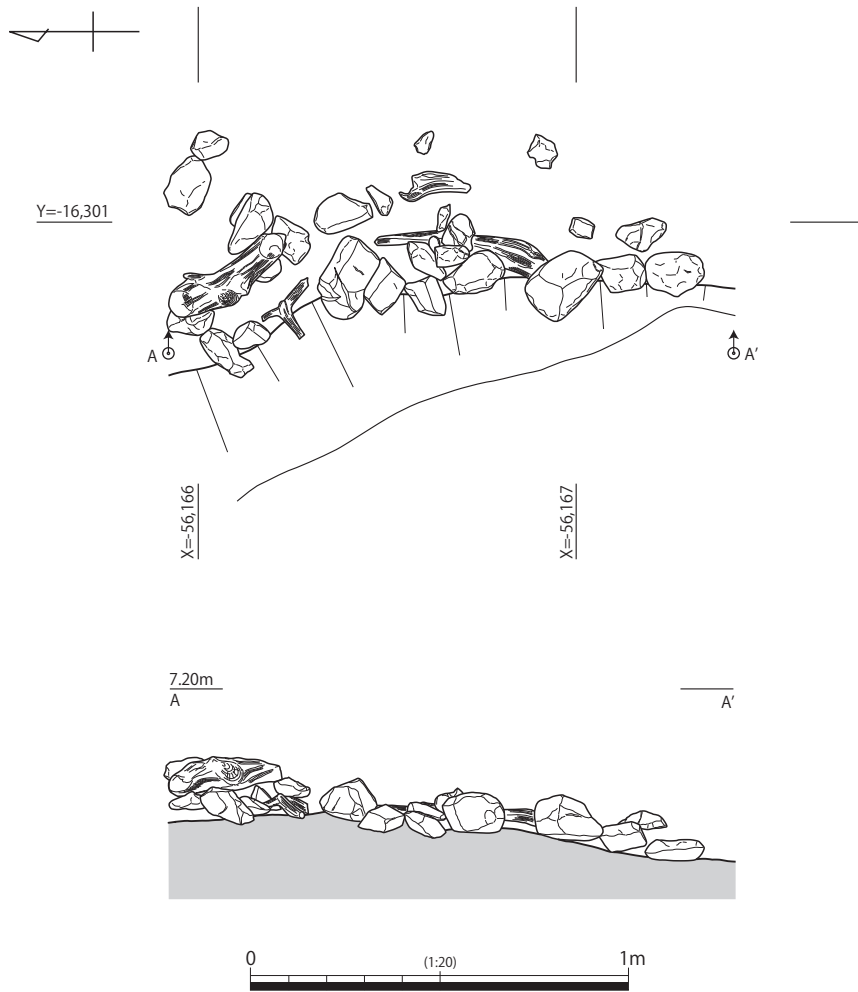


- |       |    |  |
|-------|----|--|
| 第3層   | 1  | 10YR3/2 黒褐色 中砂～極粗砂混じりシルト(炭・木片・植物遺体・中礫を含む)    |
| 第3層?  | 2  | 10YR3/2 黒褐色 細砂～粗砂混じり極細砂(炭・中礫を含む) 4038溝埋土上部か  |
| 第4層   | 3  | 10YR4/1 褐灰色 細砂～粗砂混じりシルト(炭・礫・加工木片等を含む)        |
| 4038溝 | 4  | 10YR3/1 黒褐色 シルト・極粗砂混じり細砂～中砂(炭・木片・植物遺体を含む)    |
|       | 5  | 10YR3/1 黒褐色 シルト・粗砂混じり中砂(8層偽礫を多く含む。炭・木片を含む)   |
|       | 6  | 10YR3/1 黒褐色 極粗砂・シルト混じり中砂(10層偽礫を多く含む。炭・木片を含む) |
| 第4層   | 7  | 2.5Y4/1 黄灰色～2.5Y7/2灰黄色 細砂～極粗砂(ラミナあり) 4038溝下層 |
|       | 8  | 10YR2/2 黒褐色 細砂～中砂混じり泥炭                       |
| 4290溝 | 9  | 2.5Y8/2 灰白色 粗砂～極細砂(逆級化構造、木片を含む)              |
| 第6層   | 10 | 2.5Y6/2 灰黄色 極粗砂混じり中～粗砂(木片、地山由来の偽礫を含む)        |
|       | 11 | 10YR2/1 黒色 極細砂～10YR4/2灰黄褐色シルト                |
|       | 12 | 10YR5/2 灰黄褐色 シルト混じり極粗砂～中砂                    |

第94図 4区 Y=-16,280 ライン 4038 溝断面図



第95図 4038溝及び南肩盛土遺物出土位置図



第96図 4038溝内集石 平・断面図

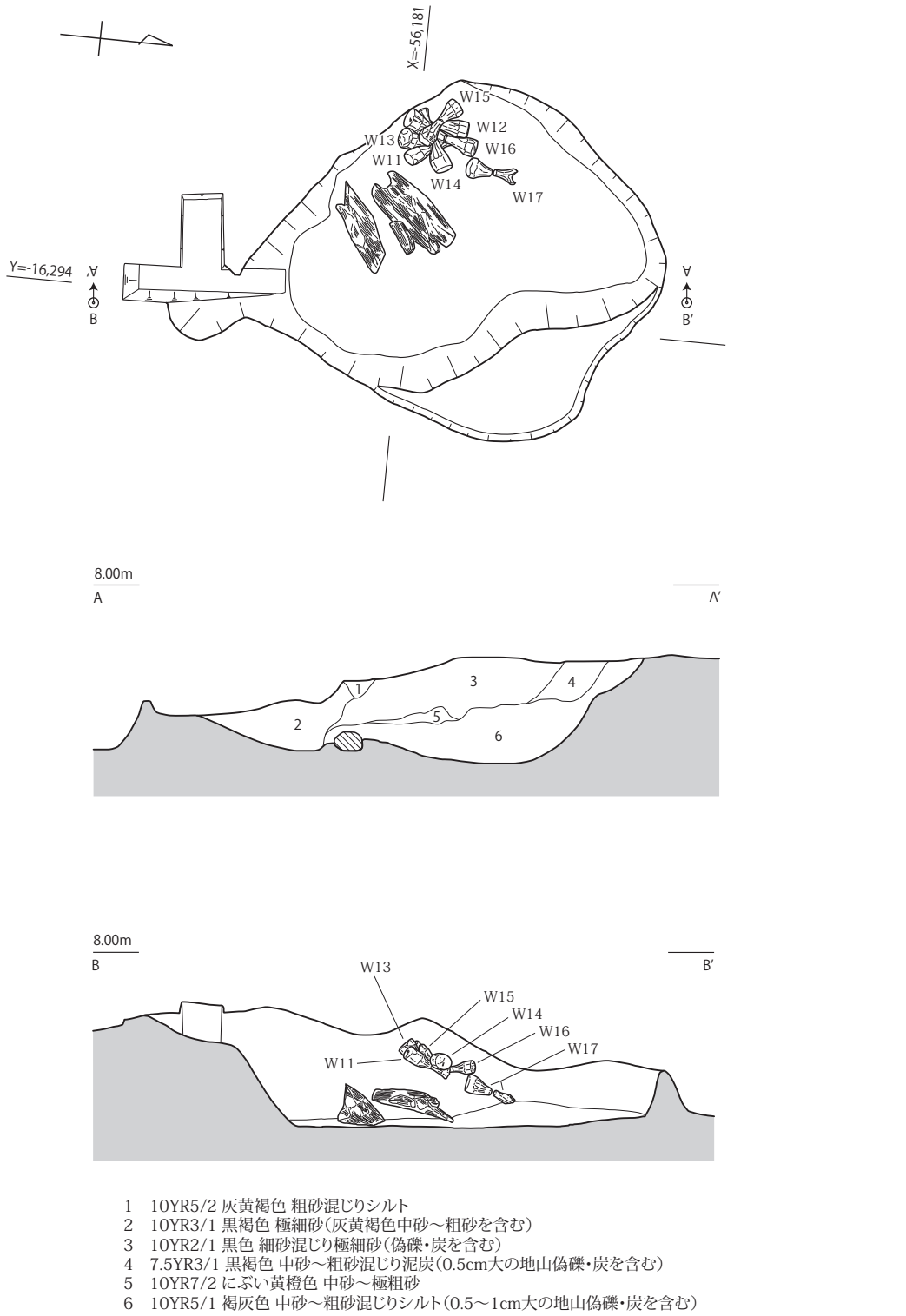
**4354溝**は南北辺が弧状に張り出す逆L字形を呈す。南側を4099溝に切られ、北側は4038溝を切る。検出できた範囲で、長さ8.1m、幅30～75cm、深さ10cmを測る。埋土は炭や小礫を含む黒褐色細砂混じりシルトを主体とする。遺物は出土していない。

**4038溝 (第51・52・89・94～96図、PL.67～70)**

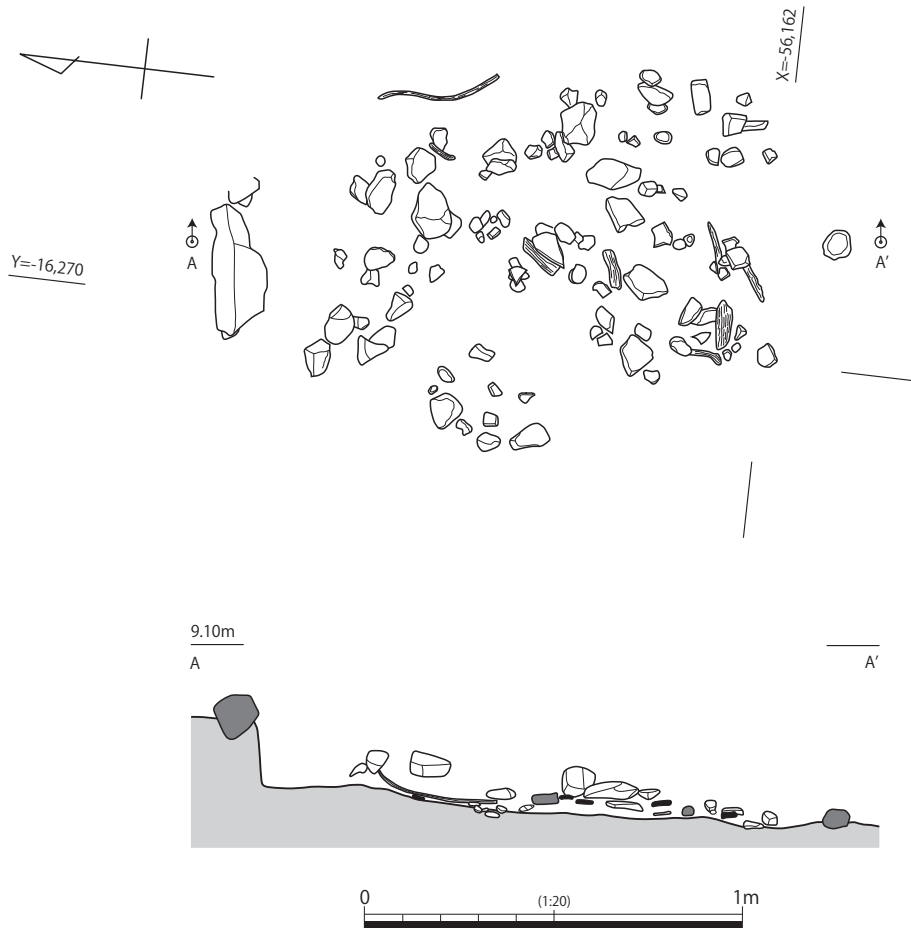
4区中央で検出した東西に走る溝で、検出長約40mを測る。溝幅は基本的に約3～5mであるが、溝の東端は幅約8mに広がりY=-16,270ライン付近で溜池状を呈し収束する。西側は3区3006溝へ繋がり、検出面が異なるものの本来的には同一の溝である。検出面からの深さは約30～65cmを測る。溝の底面形状は、Y=-16,290ライン以西で溝状の掘削痕が残っていたり、Y=-16,300ライン付近から下流部に向けて一段低くなるなど、再掘削による改変が行われたことを示唆している。

埋土は大きく3層に大別できる(第51・52・94図)。埋土は基本的に炭や木片、植物遺体を含む黒褐色の粗砂・極粗砂混じり極細砂～中砂を主体とし、土器や木器などの多量の遺物を伴う。一方、溝南西部(Y=-16,300ライン付近)に見られる埋土中層は、葉理が認められる灰黄褐色の中砂～粗砂を主体とする。さらに埋土下層部分は木片や中礫が混じる中砂～粗砂を主体とするが、第4層下面段階で検出しているため後述する。

4038溝では多量の遺物が出土した。埋土上層(調査時は「埋土」として記録、取上げ)からは7～9世紀前半の須恵器、土師器のほか、箸(第245図W30)、下駄(第246図W40)、皿(第247図



第 97 図 4109 土坑 平・断面図



第98図 4046 礫群 平・断面図

W45)、槽 (第248図 W57)、円形曲物蓋 (第249図 W58・60～63・67・68、第250図 73・77)、同底板 (第251図 W82)、長方形曲物底板 (第252図 W84)、蓋板 (第253図 W93・94)、斎串 (第254図 W98ほか)、人形 (第258図 W154・155)、馬形 (第260図 W159、第261図 177)、舟形 (第262図 W186)、栓 (第265図 W207)、板材 (第267図 W223)、建築材 (第271図 W236)、砥石 (第235図 S34～36、第236図 S37・38)、環状銅製品 (第279図 M4)、そして和同開珎 (M9) などが出土している。また、文字関係資料として、木簡3点 (第282図 W294～W296)、墨書土器4点 (第292図 1215、第293図 1224、第295図 1265、第296図 1289) も含まれる。

埋土中層では7世紀後葉から8世紀後半の須恵器、土師器のほか、人形も出土した。

4038溝は検出した平面形状及び堆積状況、出土遺物から、大きく以下の変遷が想定できる。

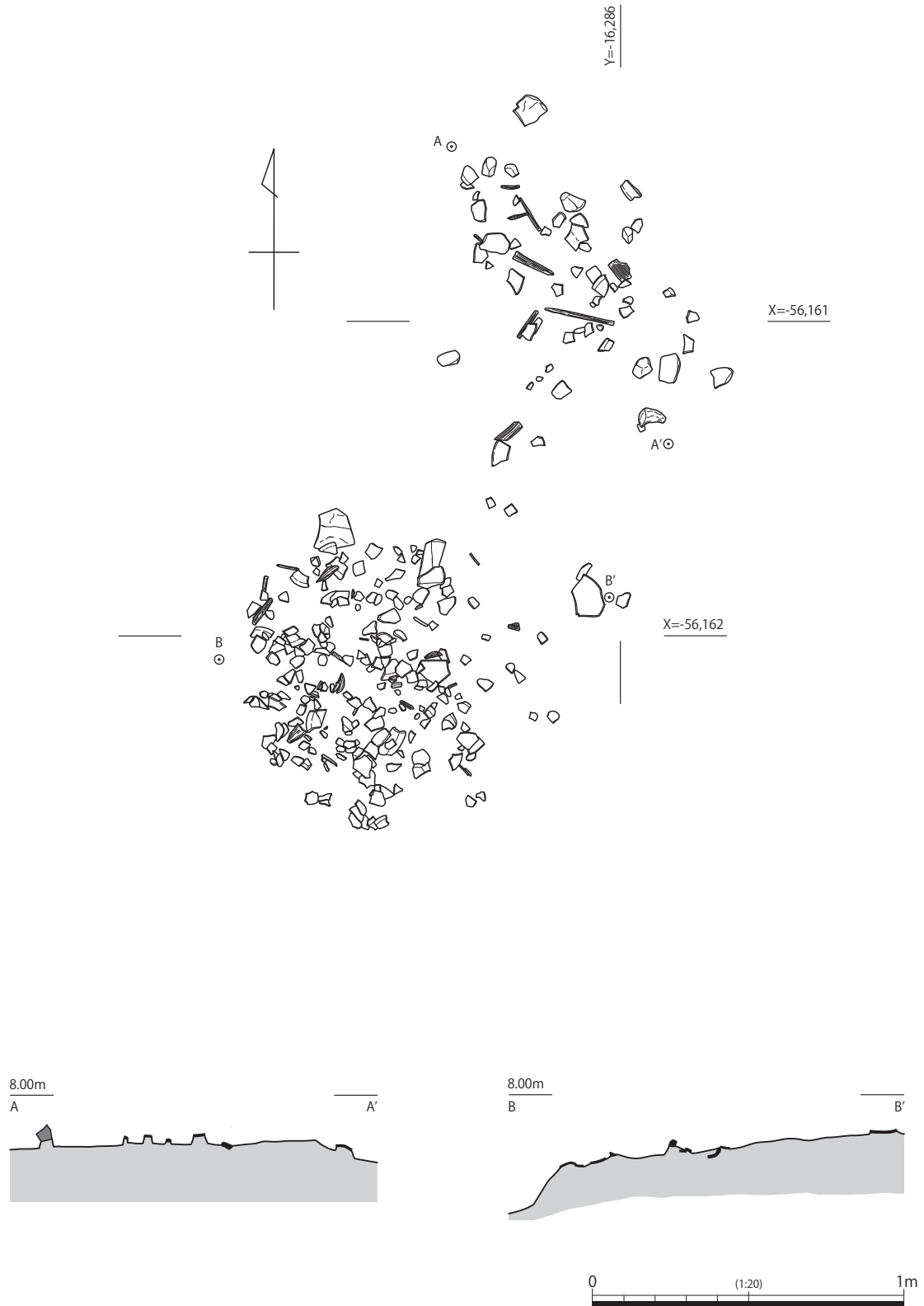
①後述する中・下層が埋積した後に第4層によって溝南肩を新たに造成し、3006溝とほぼ同じ幅となる直線的な水路として機能していた段階。

②埋土上層の堆積が進んだ後、Y=-16,300ライン付近以西を再掘削した段階。

①については、南肩第4層出土土器から9世紀頃と推測する。

②については、その中でもさらに2段階の変遷が辿れそうで、底面は南北で二股に分かれる形状をしている。北側で掘立柱建物19の柱穴を含むピットが多数検出されたのに対し、南側は他の遺構が存在しない。また、南側は一段低くなる東端部に集石を伴う (第96図)。この集石は、人頭大の礫を長さ1.4m、幅0.6mにわたって列状に配したもので、間に端材を挟んでいる。該当部分の埋土は第





第99図 2C-7i グリッド 土器出土状況図

4層の偽礫を多分に含んでおり（第52図17・19層）、第4層下面での遺構分布状況と対照すれば、北側は建物廃絶後に基盤となっている整地層を掘削して新たに形成された溝と考えられる。延長部分にあたる3区西端では4038溝埋土と評価できる堆積（第39図5～11層）も確認しており、その場合、3009溝や3164土坑、3014溝といった10世紀前半頃の遺構よりも古くなる。したがって、②の時期



第100図 4区第3層下面ピット 全体図

は9世紀以降、10世紀以前と想定する。

#### 4109土坑（第97図、PL.67・73）

4区中央南端で検出した土坑で、長軸1.5m、短軸1.1m、検出面からの深さ36cmを測る。不整隅丸方形プランの南端が円形に突き出る歪な形状で、北半が4108溝を切る。

埋土は上層が黒色の極細砂、下層が褐灰色の中砂～粗砂混じりシルトである。土坑南西部で埋土下層に伴って木錘が7点まとまって出土した（第243図W11～W17）。すべて広葉樹の芯持材を用いて製作されており、そのうち樹種同定を行った1点はヤブツバキであった。その他、7世紀末～8世紀初めの須恵器蓋（第192図592）が出土しているが、4108溝を切ることから9世紀以降の土坑であろう。

#### 4046礫群・2C-7iグリッド土器群（第98・99図、PL.73）

4区東側、2C-7hグリッド北東隅で5～40cm程度の礫が1.7m×0.9mの範囲に集中していた。古代の須恵器、土師器の細片も伴うが時期や性格は不明である。

また、2C-7iグリッドの4038溝北側肩で古代の須恵器、土師器の小片が集中する箇所を検出した。検出範囲は2.4m×1.1mを測り、南西部で特に土器が集中する。第3層下面精査中に検出したものだが、第4層に伴うものと考ええる。

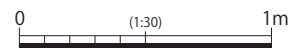
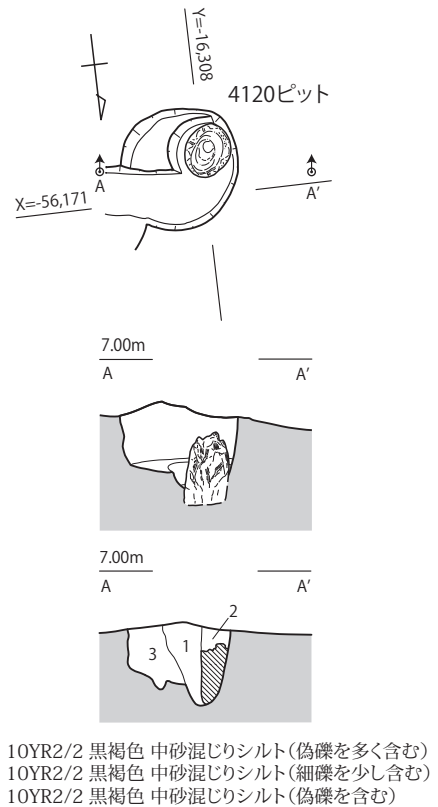
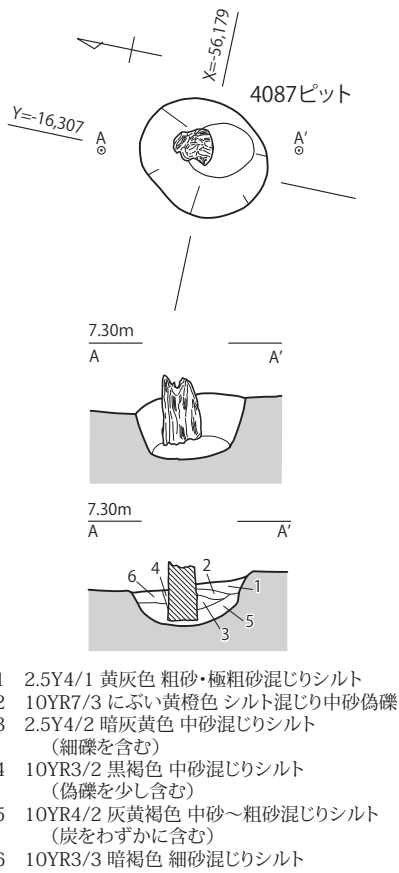
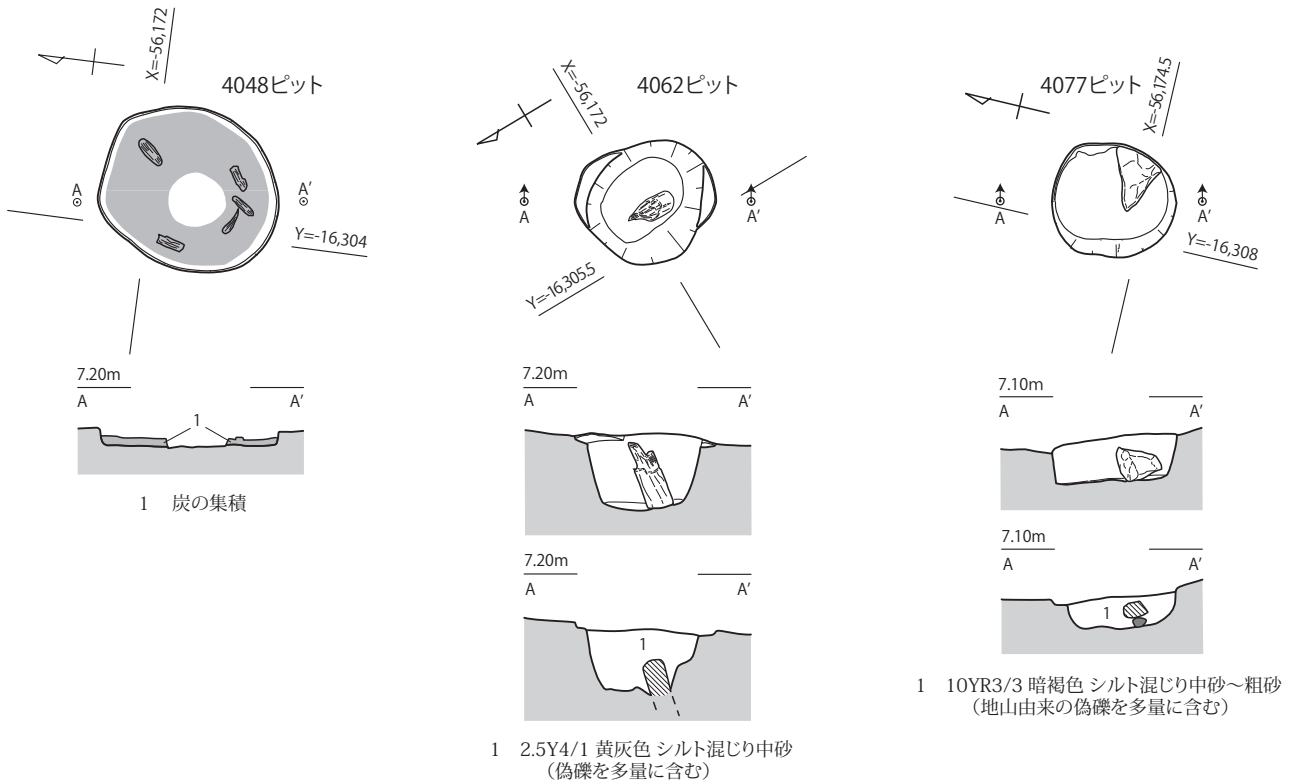
#### 4区第3層下面検出ピット（第100～101図、PL.94）

第3層下面では、2D-8aグリッドでのみピットを検出している。

4048ピットは長軸75cm、短軸67cm、深さ8cmを測る浅い皿状のピットで、炭の集積によって埋没していた。

4062ピット・4087ピット・4120ピットには直径10～15cmの柱根が残っていた。4077ピットは底面東側で礎盤石を検出した。埋土は地山由来の偽礫を多量に含む暗褐色シルト混じり中砂～粗砂の単層で、埋め戻し土の可能性はある。

いずれも時期比定可能な遺物は出土しなかった。



第101図 4区第3層下面ピット 平・断面図

**4189 段・4190 擬似畦畔・4550 段・4551 擬似畦畔（第 46・89 図、PL.89）**

4区北西隅で検出した耕作痕跡で、第4層掘り下げ中に検出したものである。第4-2層を攪拌したような黄灰色の粗砂・中砂混じりシルトの広がり（第46図25・26層、第4-1層に相当）を幅9mに渡って確認した。中央で分かれており、南側を4189段、北側を4550段とした。さらに第4-2層が幅約40cmの帯状の高まりとして検出できたことから、それぞれ水田の耕地段差とそれに伴う擬似畦畔と認識した。耕地段差の高低差は検出できた範囲で最大約30cmである。

本来的には第3層に伴う耕作痕跡である。第2層下面で検出した4032擬似畦畔も一連の遺構として捉えられよう。

**（4）第4層下面の遺構**

**掘立柱建物9（第103・104図、PL.25～27）**

3区中央部北側で検出した掘立柱建物である。当建物の3450ピット及び3501ピットは第2層下面で検出した掘立柱建物2の3143ピット、3137ピットにそれぞれ切られる。また、3386ピットは同じ第4層下面で検出した掘立柱建物13の3385ピットに切られる。梁行2間（4.6m）、桁行3間（7.2m）の床束建物で、主軸はN-6°-E、身舎の面積は33.1m<sup>2</sup>である。

梁行方向の柱間寸法は東側が1.8～1.9m、西側が2.6～2.7mとやや広い。桁行方向の柱間寸法は2.0～2.8mで、南側が狭く北側が広い。側柱の柱穴は長軸約50～70cm、短軸約30～50cmの不整楕円形を呈し、検出面からの深さは3391ピットが10cmと浅いが他は21～67cmを測る。柱筋の交点に設けられた3501ピットと3379ピットは、長軸33～45cmで側柱より一回り小さい不整楕円形を呈し床束と考えられ、深さも20cm、16cmと浅い。3379ピットには根石をもつ。掘立柱建物2も含め、建物が構築された一帯はスギの根が放射状に張っている。柱穴を掘削する際には根を切断する必要があり、ピット壁面にはその痕跡が認められる（PL.25）。3452ピットと3391ピットが浅いのは、第6層中に含まれていた倒木によって掘削が難しかったことに起因する可能性もあるだろう。

柱掘方埋土は上層が褐灰色または黄灰色の中砂・粗砂混じりシルト、下層は黒褐色の中砂・粗砂混じりシルト～極細砂を主体とする。3442ピット、3375ピット、3383ピットの下部に柱痕跡の可能性のある堆積が認められたが、上部には異なる土が堆積しており、ピットは柱を抜き取った後に埋め戻されたと考える。

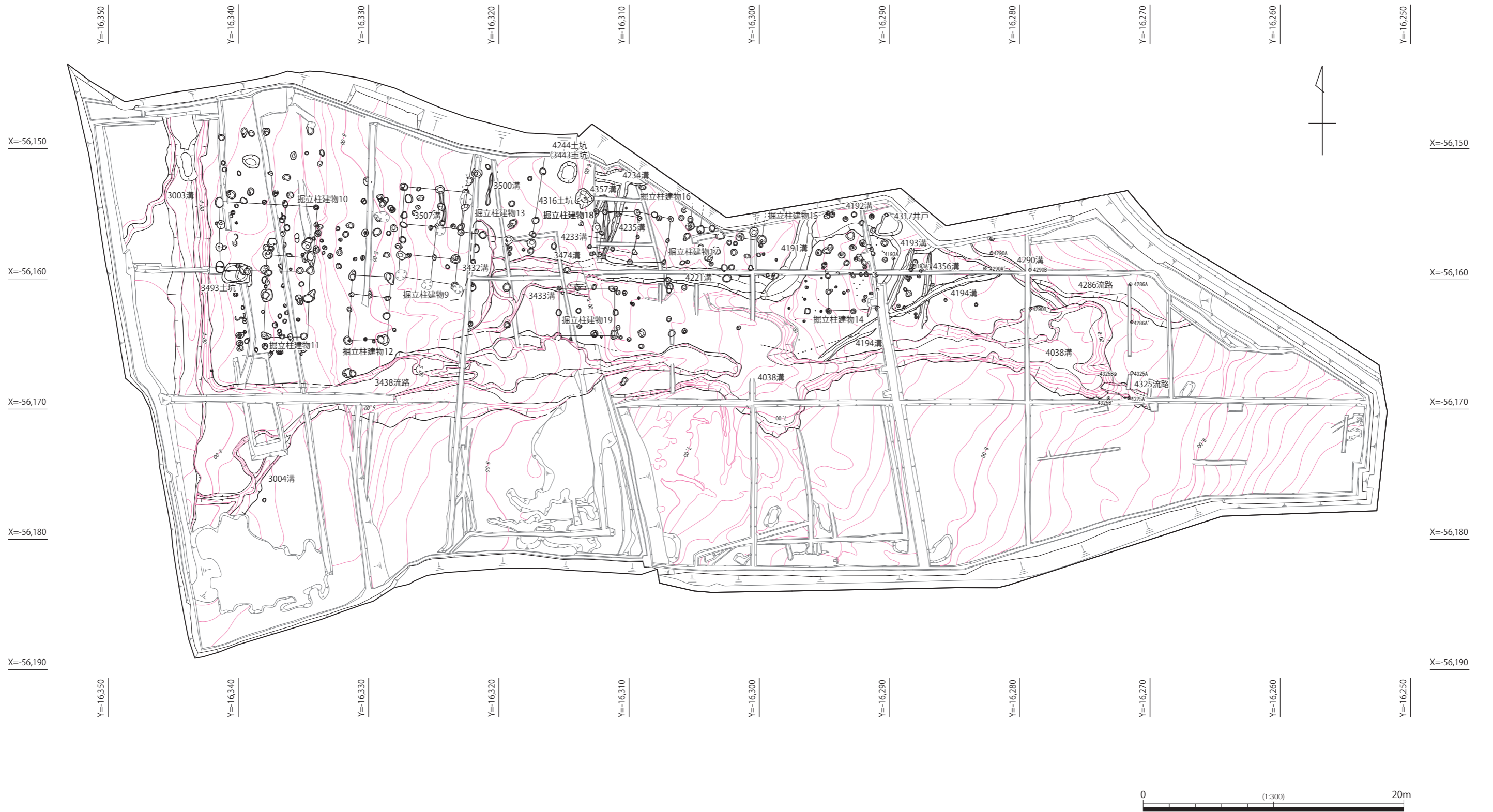
ピットから出土した土器は9世紀後半の須恵器を主体とする。重複する掘立柱建物2より古いため、建物の時期は9世紀後半と考える。また、隅柱となる3450ピット掘方埋土下層から記録木簡（第283図W297）が出土している。

**掘立柱建物10（第105・106図、PL.19・22）**

3区北西部で検出した掘立柱建物で、当建物の3212ピットが掘立柱建物11の3217ピットを切る。また、第2層下面で検出した掘立柱建物4が当建物と重複する位置にある。

南辺に対し北辺がやや長い平面形をもつ梁行3間（5.3m）、桁行4間（7.3m）の側柱建物である。建物中央東側に2本の側通し柱（3225ピット、3222ピット）をもつ。主軸方位はN-88°-Wで、身舎の面積は39.5m<sup>2</sup>を測る。

梁行方向の柱間寸法は1.6～1.8m、桁行方向の柱間寸法は概ね1.4～1.8mだが東側の1間分が2.9m、2.1mと広がる。柱穴は規模にややばらつきがあり、小さいものは3372ピットや3187ピット



第102図 3区・4区第4層下面 全体図

など長軸・短軸とも約 40 cm 程度だが、他は長軸約 60～80 cm、短軸約 40～60 cm を測る。検出面からの深さは約 30～50 cm で、西・南側が総じて浅いのは第 4 層を除去したためである。間柱となる 3225 ピット、3222 ピットは 15 cm 程度と浅い。

掘方埋土は褐灰色または黒褐色の中砂・粗砂混じりシルトを主体とする。北辺の 3186 ピット、西辺の 3288 ピット、3295 ピットには柱痕跡が確認できた。一方で、南辺の柱穴は柱抜取穴と考えられるピット（3298 ピット、3303 ピット、3359 ピット）が重複するほか、3271 ピットのように柱を抜き取ったと推測できる堆積を示すものもある。3187 ピットには直径 15 cm の柱根が残っていた。3212 ピットは厚さが約 20 cm ある柱掘方下層の上に人頭大の礎盤石を据え置いている。

ピットから出土した土器は 8 世紀末～9 世紀代前半の須恵器を主体とする。3187 ピットで出土した柱根の樹種同定とウイグルマッチングによる年代測定を行ったところ、樹種はスギで、最外年輪は calAD741-761 という結果が得られた（第Ⅶ章第 2 節参照）。年代測定結果がやや古い値を示すが、出土土器から 8 世紀末～9 世紀前半の建物と考える。

#### 掘立柱建物 11（第 107・108 図、PL19・23）

3 区中央西側で検出した掘立柱建物である。当建物の 3217 ピットが掘立柱建物 10 の 3212 ピットに切られる。

梁行 1 間（3.4 m）、桁行 2 間（6.4 m）の側柱建物で、主軸方位は N-2°E とほぼ真北にとり、身舎の面積は 21.8 m<sup>2</sup> を測る。柱間寸法は梁行方向 3.0～3.4 m、桁行方向 3.1～3.4 m と広い。柱穴は南辺の 3 基が小さく長軸約 50～60 cm の不整楕円形で、他の 4 基は長軸が 70～113 cm の不整楕円形あるいは不整円形を呈す。掘方の深さも比例し、検出面からの深さが南辺の 3 基は 28～37 cm であるのに対し、他の 4 基は 50～64 cm を測る。

掘方埋土は黒褐色の中砂・粗砂混じりシルト～極細砂を主体とし、第 6 層由来の偽礫を含む。柱根および柱痕跡は認められなかったが、北半の 4 基すべてに礎盤石が残っていた。20～40 cm 大の角礫を主体とし、中には礫を積み上げたもの（3367 ピット）もある。ただ、堆積状況からすれば原位置を保っている礫は下層に伴うもので、上層に伴う礫は柱を抜き取り埋め戻す際に入れられた可能性があると考ええる。

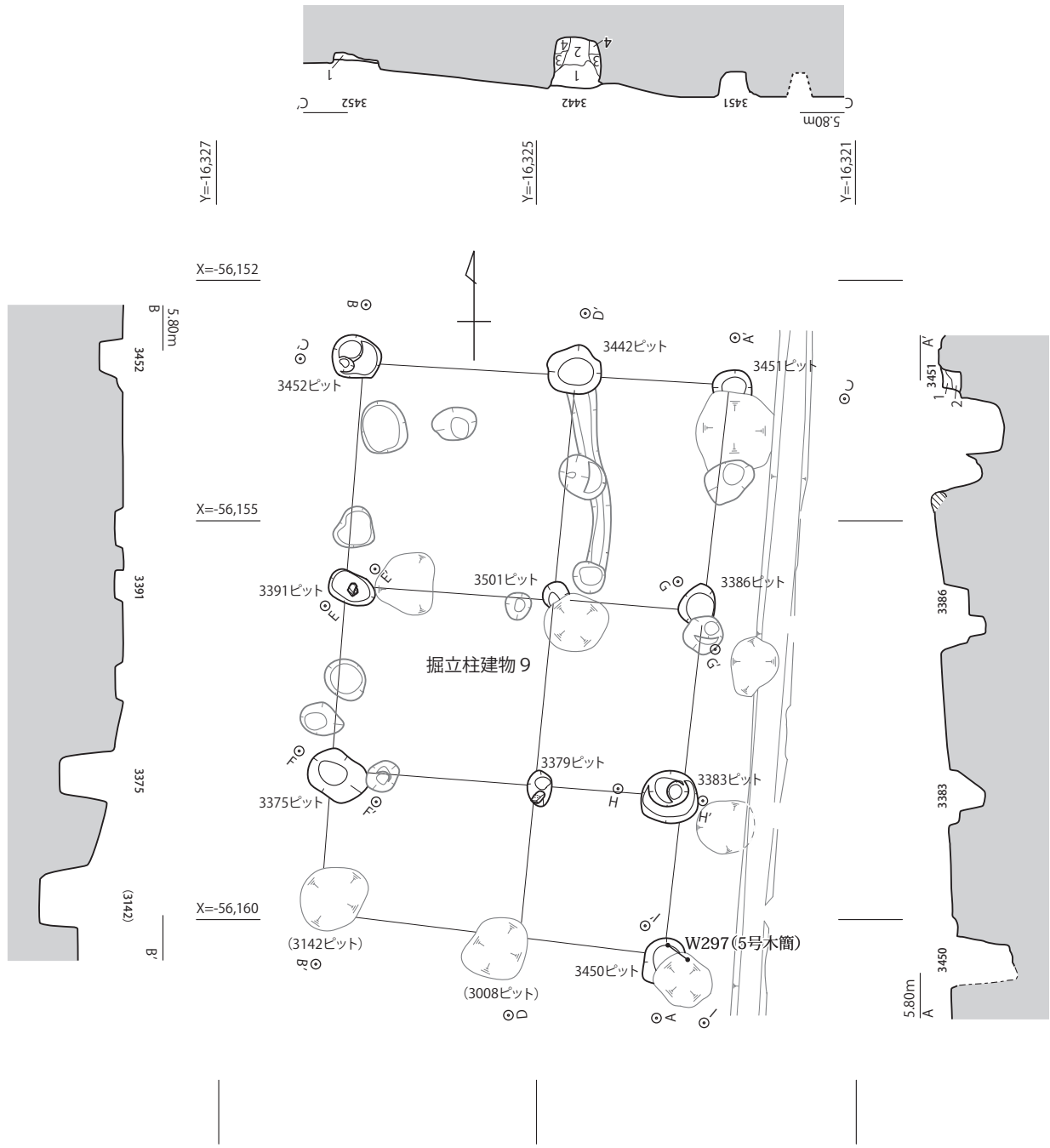
3355 ピットでわずかに土師器甕が出土したが、時期決定の根拠に乏しい。掘立柱建物 10 に切られるため、9 世紀代前半頃の建物であろう。

#### 掘立柱建物 12（第 109・110 図、PL.25・27）

3 区中央で検出した梁行 1 間（2.8 m）、桁行 3 間（4.8 m）の床東建物で、主軸方位は N-5°E だが柱筋は直交せずいびつな平面形をもち、身舎の面積は 13.5 m<sup>2</sup> を測る。

柱間寸法は梁行方向が 2.6～2.8 m、桁行方向が東西で不揃いとなり 1.1～2.3 m である。南側の妻柱 3407 ピット及び 3441 ピットの柱筋中間と、側柱 3424 ピット及び 3439 ピットの柱筋中間にもそれぞれ床東と考えられる柱穴（3449 ピット、3482 ピット）を伴う。その柱間寸法は西側が 1.4 m、東側が 1.2 m と揃っている。

柱穴は隅柱となる 4 基が大きく、最も大きい 3373 ピットは長軸 103 cm、短軸 62 cm、検出面からの深さ 50 cm、他は長軸 56～82 cm、短軸 49～59 cm、検出面からの深さ 24～50 cm を測る。側柱のうち中間の 4 基（3424 ピット、3406 ピット、3439 ピット、3485 ピット）と床東の 2 基は長軸 27～57 cm、短軸 25～53 cm と一回り小さい。



A-A'

<3451ピット>

- 1 10YR4/1 褐灰色 中砂混じりシルト (炭化物・焼土粒を含む)
- 2 10YR3/1 黒褐色 中砂・粗砂混じりシルト (炭化物を含む)

C-C'

<3442ピット>

- 1 10YR4/1 褐灰色 中砂混じりシルト  
(1~2cm大の偽礫(地山)・炭化物を多量に含む)
- 2 2.5Y3/2 黒褐色 粗砂混じりシルト  
(0.5cm大の偽礫(地山)・炭化物を含む)
- 3 2.5Y4/1 黄灰色 細砂・中砂混じりシルト (炭化物を含む)
- 4 2.5Y3/1 黒褐色 中砂混じりシルト  
(2cm大の偽礫(地山)を含む)

<3452ピット>

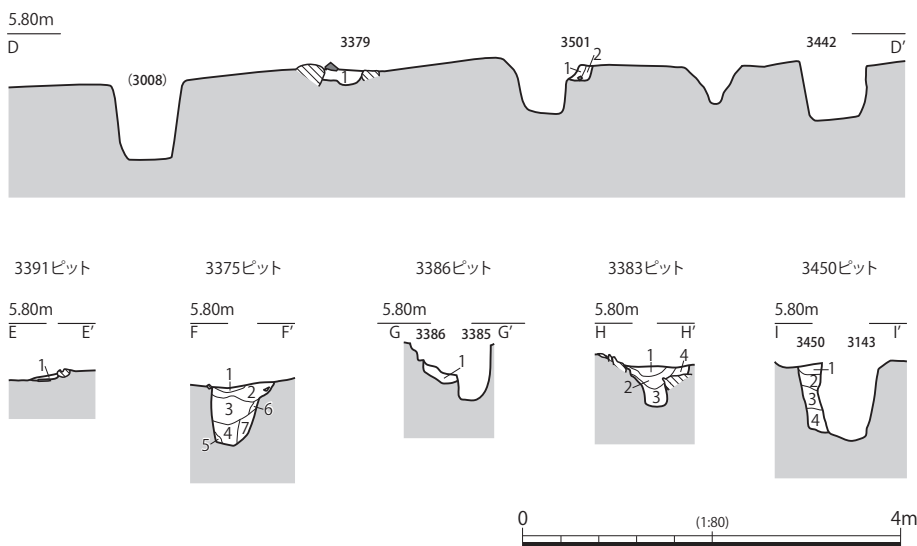
- 1 10YR3/1 黒褐色 中砂・細砂混じりシルト

D-D'

<3501ピット>

- 1 10YR3/1 黒褐色 中砂混じりシルト (炭化物を含む)
  - 2 10YR4/1 褐灰色 中砂・粗砂混じりシルト
- <3379ピット>
- 1 10YR4/1 褐灰色 粗砂・シルト混じり中砂  
(炭化物・焼土粒を含む)

第103図 掘立柱建物9 平面図、断面図(1)



- E-E'  
 <3391ピット>  
 1 10YR2/2 黒褐色 中砂・粗砂混じり極細砂  
 (炭化物を含む)
- F-F'  
 <3375ピット>  
 1 10YR2/2 黒褐色 極細砂  
 (植物遺体・木片を多量に含む)  
 2 2.5Y4/1 黄灰色 極粗砂・中砂混じり極細砂  
 (1~3cm大の偽礫(地山)・炭化物を含む)  
 3 2.5Y4/1 黄灰色 極粗砂・中砂混じりシルト  
 (1cm大の偽礫(地山)・炭化物を多量に含む)  
 4 2.5Y3/1 黒褐色 中砂混じりシルト  
 5 2.5Y3/2 黒褐色 粗砂混じり極細砂  
 6 2.5Y2/1 黒色 中砂混じりシルト  
 7 2.5Y3/1 黒褐色 細砂混じりシルト  
 (2cm大の偽礫(地山)を含む)
- G-G'  
 <3386ピット>  
 1 2.5Y4/1 黄灰色 細砂・粗砂混じりシルト  
 (炭化物を含む)

- H-H'  
 <3383ピット>  
 1 10YR4/1 褐灰色 粗砂混じりシルト  
 (1cm大の偽礫(地山)を含む)  
 2 10YR3/1 黒褐色 中砂・粗砂混じりシルト  
 (炭化物を含む)  
 3 10YR3/1 黒褐色 中砂混じりシルト  
 4 10YR3/1 黒褐色 中砂混じりシルト
- I-I'  
 <3450ピット>  
 1 10YR2/1 黒色 細砂混じりシルト  
 (1~3cm大の偽礫(地山)を多量に含む)  
 2 10YR3/2 黒褐色 中砂混じりシルト  
 (1~3cm大の偽礫(地山)を多量に含む)  
 3 10YR3/1 黒褐色 シルト・粗砂混じり中砂  
 (2~5cm大の偽礫(地山)を含む)  
 4 10YR3/1 黒褐色 シルト・中砂混じり粗砂  
 (3cm大の偽礫(地山)を含む)

第104図 掘立柱建物9 断面図(2)

柱掘方埋土は第6層の偽礫を多量に含む黒褐色シルト～粗砂混じり中砂を主体とする。3373ピットには直径20cmの柱根と、その下部を取り巻くように据え置かれた拳大の根石が残っていた。3482ピットにも柱根が残っていたが、こちらは直径15cmと側柱に比してやや細い。3206ピット、3439ピット、3485ピット、3441ピット、3407ピットには礎盤石が残る。3407ピットのみ頂部を平坦に加工した約30cmの垂角礫を使用していたが、他は約10~30cmの割石を重ねて礎盤石としていた。さらに3485ピットは底部に礎盤も敷かれていた。また、礎盤石を伴う3436ピットは3441ピットを切っており、この隅柱は建て替えられた可能性がある。

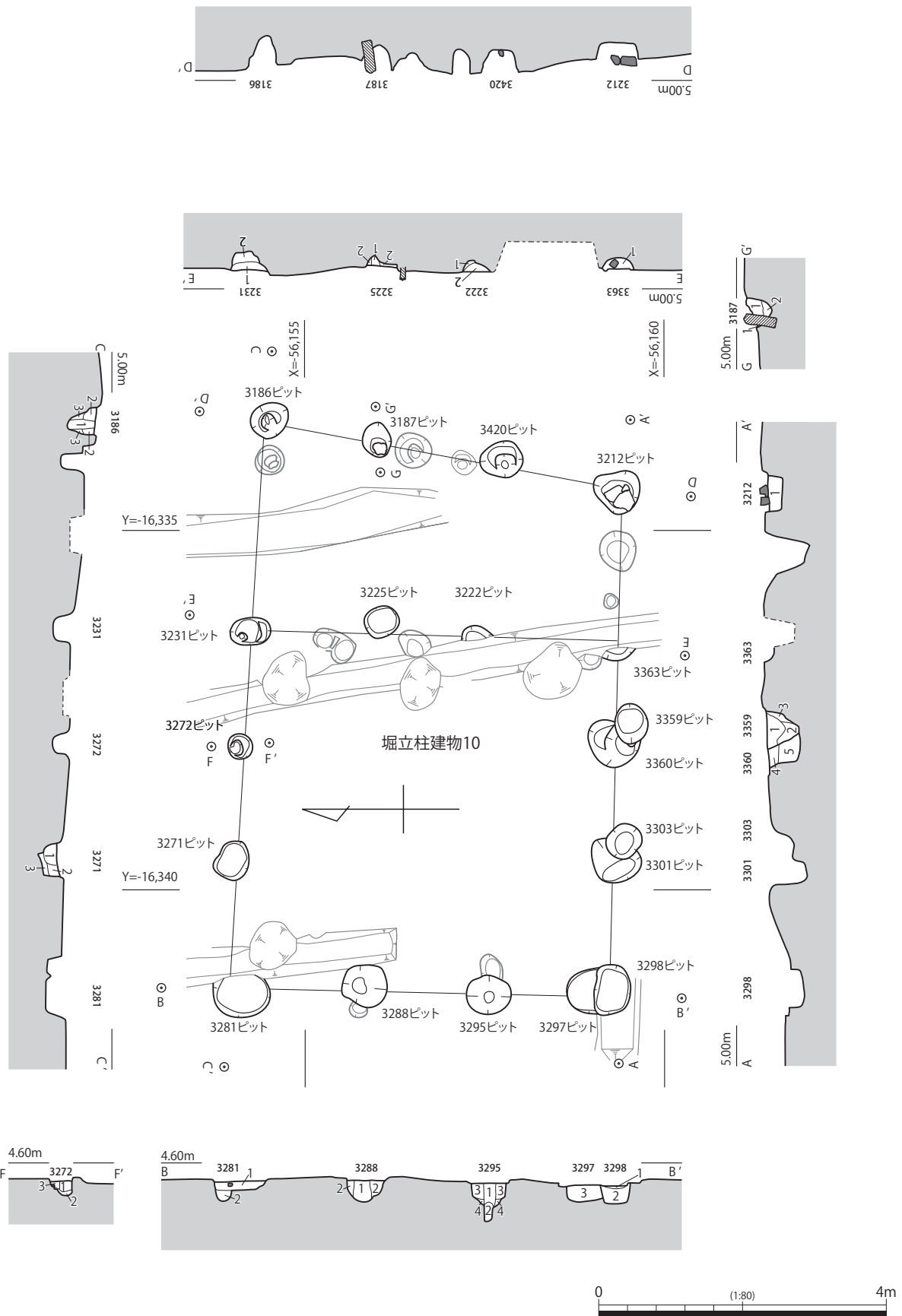
3373ピットで出土した土師器甕(第163図99)を図化した。古代の建物跡であろうが、他に時期を比定しうる土器は出土していない。

掘立柱建物13(第111図、PL.28・29)

3区北東部で検出した梁行3間(5.4m)の側柱建物で、桁行は2間(5.5m)以上と考えられるが調査区外へと続いており不明である。主軸方位はN-9°-Eにとる。当建物の3385ピットが掘立柱建物9の3386ピットを切り、また3445ピットが第2層下面で検出した3282ピットを切っているため、当建物の方が新しい。

柱間寸法は全体が検出できた南辺で1.6~2.0mを測る。平側は柱穴の相対的な配置が揃わず、西

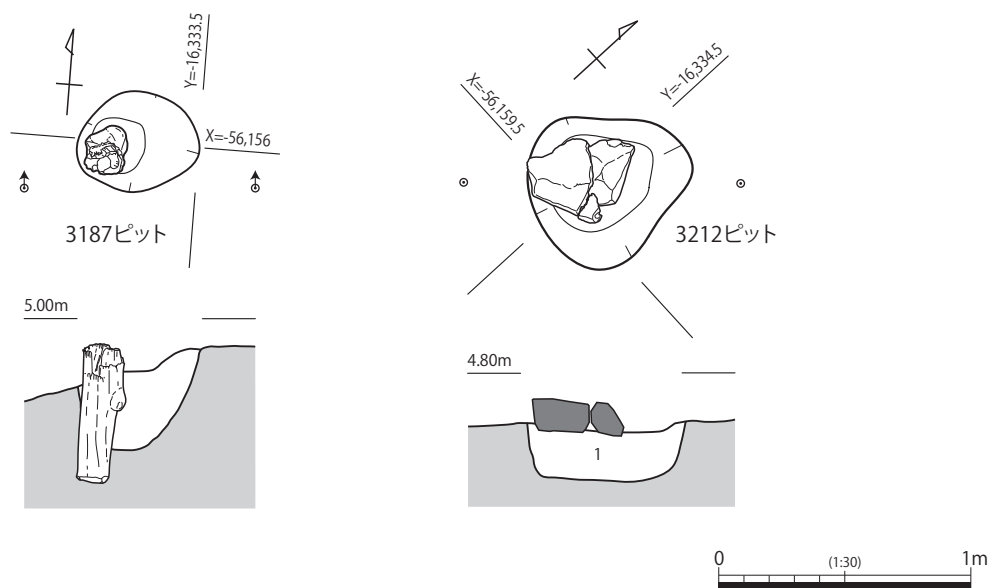




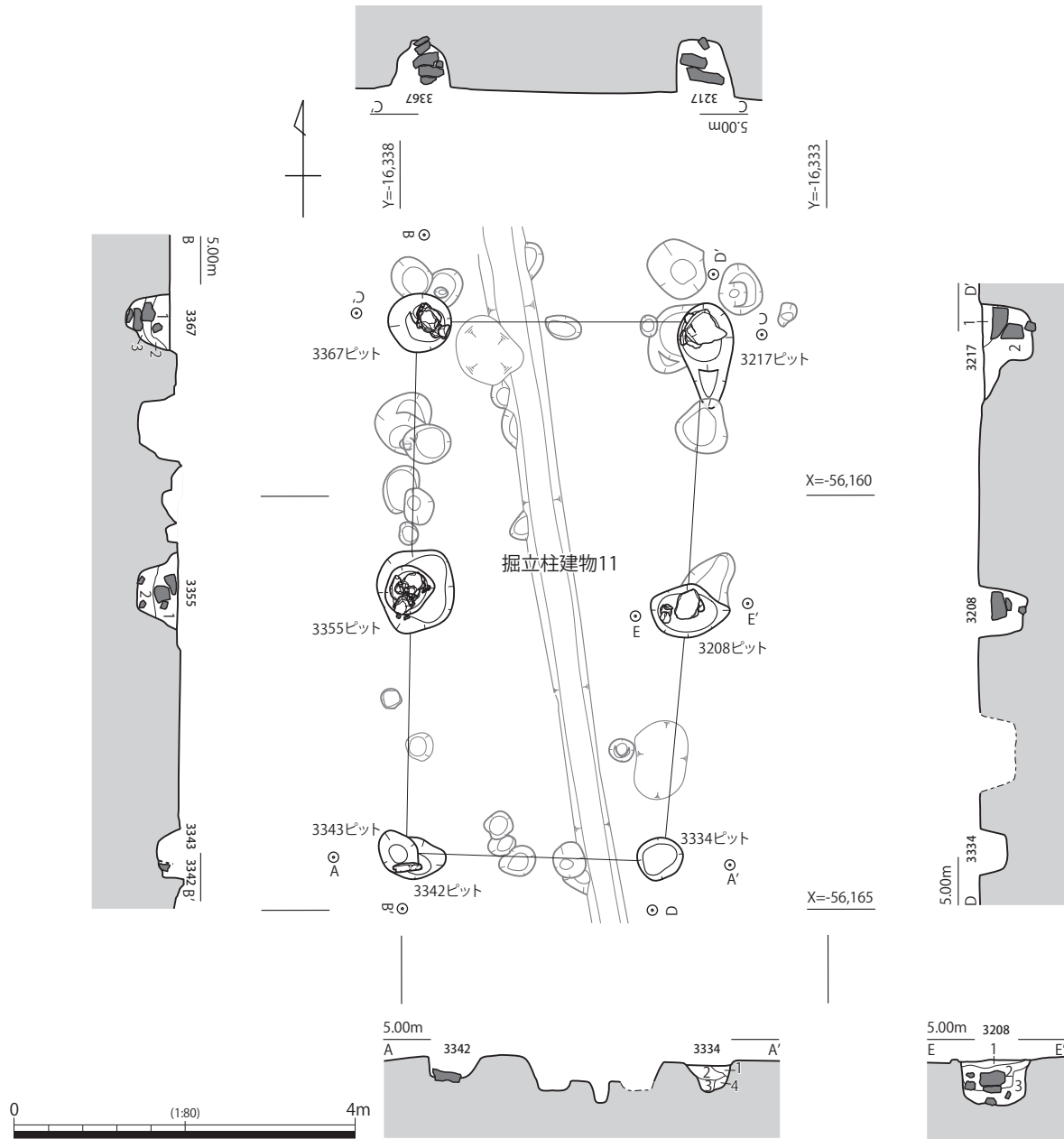
第105図 掘立柱建物10 平・断面図(1)

- A-A'  
 <3212ピット>  
 1 10YR3/1 黒褐色 中砂・粗砂混じりシルト (炭化物を含む)  
 <3359ピット>  
 1 2.5Y4/1 黄灰色 極粗砂・中砂混じり極細砂 (炭化物・植物遺体を含む)  
 2 5Y4/1 灰色 粗砂・細砂混じり極細砂 (炭化物・1cm大の偽礫を含む)  
 3 7.5YR4/1 灰色 中砂混じりシルト  
 <3360ピット>  
 4 2.5Y4/2 暗灰黄色 粗砂混じり極細砂 (炭化物を含む)  
 5 10YR4/1 褐灰色 粗砂・中砂混じりシルト (2cm大の偽礫(地山)を多量に含む)
- B-B'  
 <3281ピット>  
 1 10YR4/1 褐灰色 中砂・極粗砂混じりシルト (2cm大の偽礫(地山)・炭化物・焼土粒を含む)  
 2 10YR3/2 黒褐色 シルト (2cm大の偽礫(地山)を含む)  
 <3288ピット>  
 1 10YR4/1 褐灰色 中砂・極粗砂混じりシルト (1cm大の偽礫(地山)・炭化物を含む)  
 2 10YR3/2 黒褐色 粗砂・中砂混じりシルト (1cm大の偽礫(地山)を多量に含む)  
 <3295ピット>  
 1 5Y3/1 オリーブ黒色 粗砂混じり極細砂 (3~5cm大の偽礫(地山)を含む)  
 2 2.5Y4/1 黄灰色 細砂混じり極細砂  
 3 10YR4/1 褐灰色 中砂・細砂混じり極細砂 (3~10cm大の偽礫(地山)を含む)  
 4 10YR4/2 灰黄褐色 細砂混じりシルト  
 <3298ピット>  
 1 10YR4/1 褐灰色 細砂混じりシルト  
 2 10YR4/1 褐灰色 中砂混じりシルト (1~2cm大の偽礫(地山)・炭化物を含む)  
 <3297ピット>  
 3 10YR4/1 褐灰色 中砂混じりシルト (1~2cm大の偽礫(地山)・炭化物を含む)

- C-C'  
 <3186ピット>  
 1 10YR4/1 褐灰色 中砂混じりシルト  
 2 10YR4/1 褐灰色 中砂・粗砂混じりシルト (炭化物・偽礫(地山)を含む)  
 3 10YR4/1 褐灰色 粗砂・中砂混じり極細砂  
 <3271ピット>  
 1 2.5Y4/1 黄灰色 極粗砂・シルト混じり中砂 (炭化物を含む)  
 2 10YR5/1 褐灰色 極粗砂・細砂混じり中砂 (炭化物を含む。1cm大の偽礫(地山)を含む)  
 3 10YR3/1 黒褐色 シルト混じり極細砂
- E-E'  
 <3363ピット>  
 1 10Y3/2 黒褐色 粗砂・シルト混じり中砂  
 <3222ピット>  
 1 10YR4/1 褐灰色 シルト・極粗砂混じり中砂  
 2 10YR3/1 黒褐色 粗砂混じり中砂  
 <3225ピット>  
 1 10YR4/1 褐灰色 粗砂・中砂混じりシルト  
 2 10YR4/1 褐灰色 シルト・粗砂混じり細砂 (2cm大の偽礫(地山)を含む)  
 <3231ピット>  
 1 10YR3/1 黒褐色 中砂・細砂混じり極細砂 (1cm大の偽礫(地山)を含む)  
 2 10YR3/1 黒褐色 粗砂・中砂混じりシルト
- F-F'  
 <3272ピット>  
 1 10YR4/1 褐灰色 中砂・細砂混じりシルト (炭化物を含む)  
 2 10YR4/1 褐灰色 シルト混じり中砂~細砂  
 3 10YR3/1 黒褐色 中砂~細砂
- G-G'  
 <3187ピット>  
 1 5Y4/1 灰色 粗砂・シルト混じり細砂 (炭化物・植物遺体を含む)  
 2 2.5Y4/1 黄灰色 中砂・シルト混じり極細砂



第106図 掘立柱建物10 平・断面図(2)



B-B'

〈3367ピット〉

- 1 7.5YR3/1 黒褐色 中砂・シルト混じり極細砂  
(1cm大の偽礫(地山)を含む)
- 2 10YR3/1 黒褐色 中砂混じりシルト  
(1cm大の偽礫(地山)を含む)
- 3 10YR2/1 黒色 粗砂混じりシルト  
(1~2cm大の偽礫(地山)を含む)

〈3355ピット〉

- 1 10YR3/2 黒褐色 粗砂・中砂混じり極細砂  
(2~3cm大の偽礫(地山)を含む)
- 2 10YR3/1 黒褐色 シルト・中砂混じり極細砂  
(2~3cm大の偽礫(地山)を含む) 褐色 粗砂・中砂混じり

A-A'

〈3334ピット〉

- 1 10YR3/2 黒褐色 中砂混じり細砂  
(3cm大の偽礫(地山)を含む)
- 2 10YR4/1 褐灰色 中砂混じり極細砂  
(1~2cm大の偽礫(地山)を含む)
- 3 10YR4/1 褐灰色 シルト混じり中砂
- 4 10YR3/1 黒褐色 シルト混じり中砂

D-D'

〈3217ピット〉

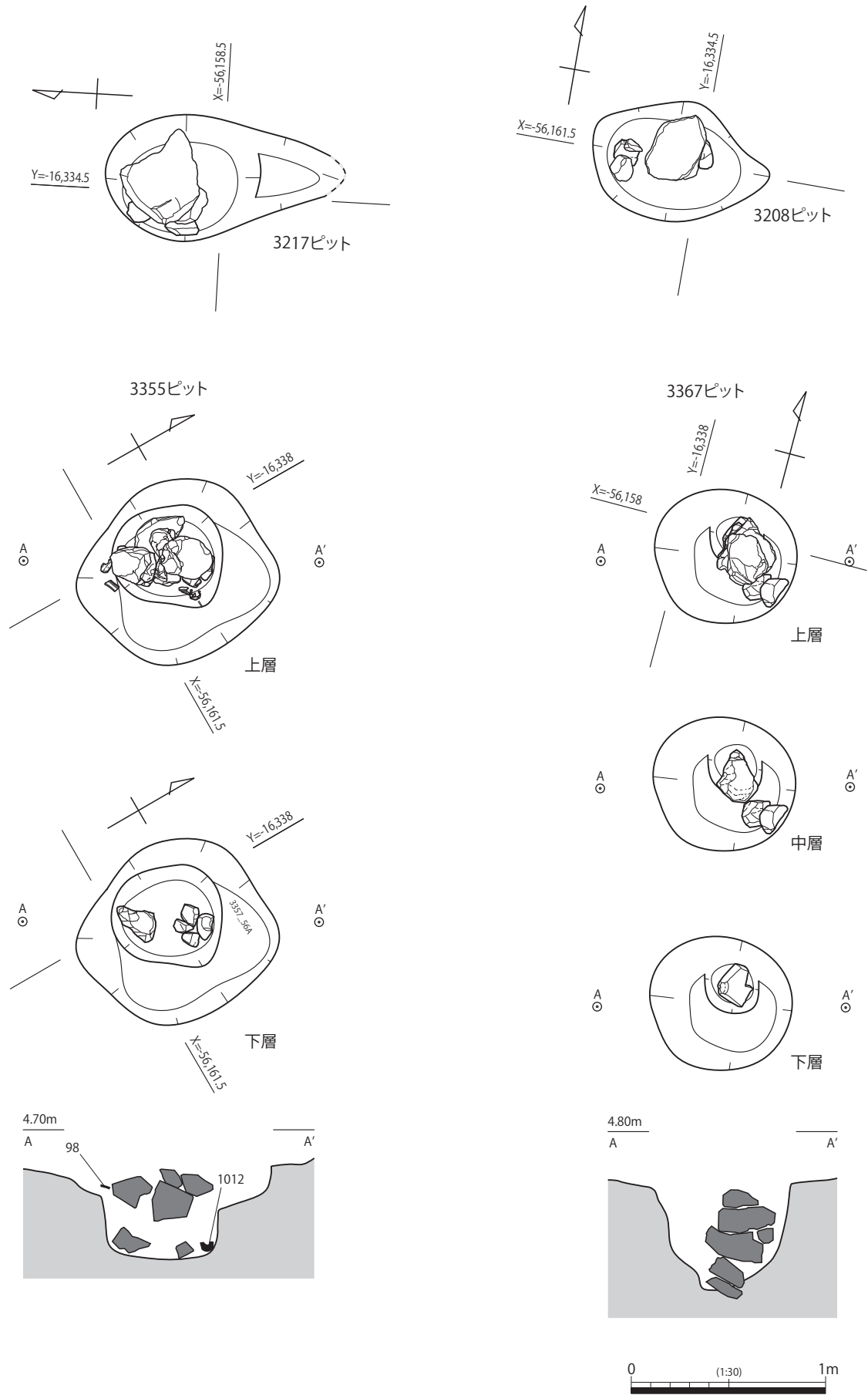
- 1 10YR3/1 黒褐色 粗砂・中砂混じりシルト
- 2 10YR3/1 黒褐色 粗砂・中砂混じりシルト  
(1~5cm大の偽礫(地山)を多量に含む)

E-E'

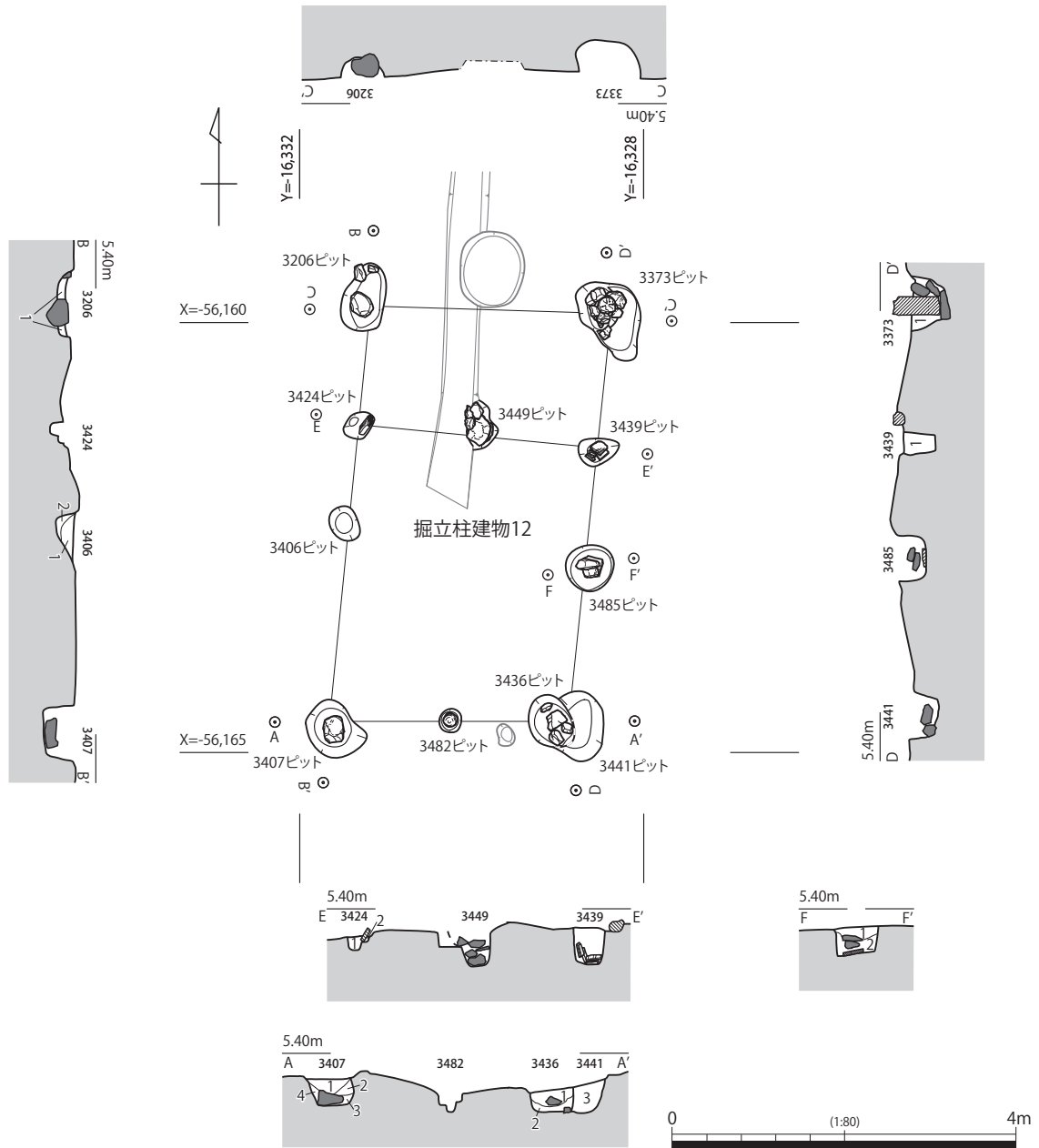
〈3208ピット〉

- 1 10YR3/2 黒褐色 中砂・シルト混じり細砂
- 2 10YR3/1 黒褐色 中砂混じり極細砂  
(2~3cm大の偽礫(地山)を多量に含む)
- 3 10YR3/1 黒褐色 中砂混じりシルト  
(2cm大の偽礫(地山)を多量に含む)

第 107 図 掘立柱建物 11 平・断面図 (1)



第108図 掘立柱建物11 平・断面図(2)



A-A'

〈3407ピット〉

- 1 10YR3/1 黒褐色 シルト・粗砂混じり中砂  
(1~3cm大の偽礫(地山)を多量に含む)
- 2 10YR3/2 黒褐色 シルト混じり中砂  
(1~3cm大の偽礫(地山)を含む)
- 3 10YR3/2 黒褐色 粗砂・シルト混じり中砂  
(1cm大の偽礫(地山)を含む)
- 4 10YR3/1 黒褐色 シルト・粗砂混じり中砂

〈3436ピット〉

- 1 10YR3/1 黒褐色 中砂・粗砂混じり極細砂  
(2cm大の偽礫(地山)を含む)
- 2 10YR3/1 黒褐色 粗砂・極細砂混じり中砂

〈3441ピット〉

- 3 10YR3/1 黒褐色 中砂・粗砂混じり極細砂  
(3~4cm大の偽礫(地山)を多量に含む)

B-B'

〈3206ピット〉

- 1 7.5YR3/1 黒褐色 極細砂・粗砂混じり中砂

〈3406ピット〉

- 1 10YR2/2 黒褐色 シルト・粗砂混じり中砂  
(3~4cm大の偽礫(地山)を多量に含む)
- 2 10YR2/2 黒褐色 シルト・中砂混じり粗砂

D-D'

〈3439ピット〉

- 1 10YR3/1 黒褐色 粗砂・中砂混じりシルト  
(2cm大の偽礫(地山)を含む)

〈3373ピット〉

- 1 10YR3/1 黒褐色 中砂・極粗砂混じり極細砂  
(1cm大の偽礫(地山)を含む)

E-E'

〈3424ピット〉

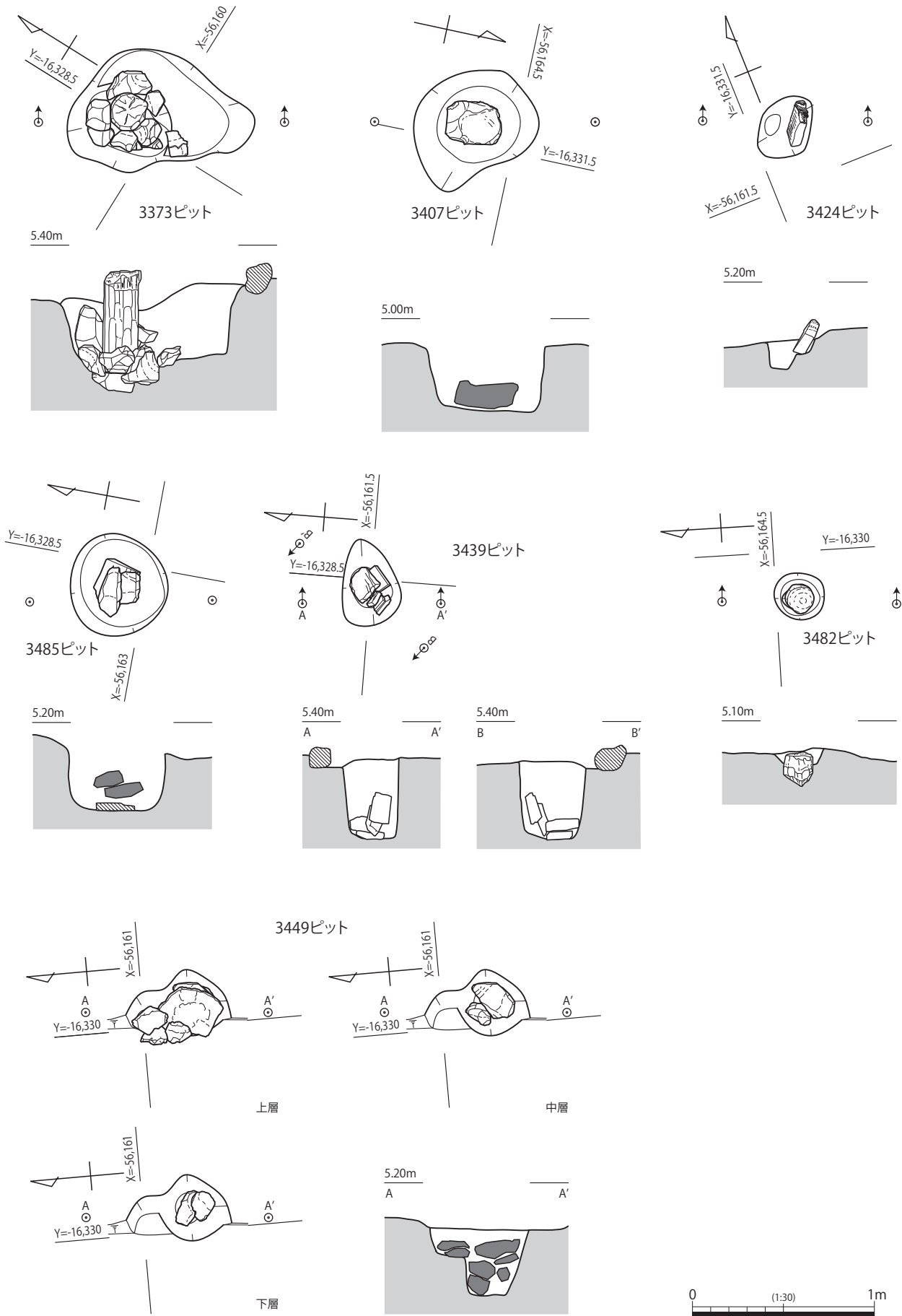
- 1 10YR3/1 黒褐色 粗砂・シルト混じり中砂  
(3cm大の偽礫(地山)を含む)
- 2 10YR4/2 灰黄褐色 粗砂・極細砂混じり中砂

F-F'

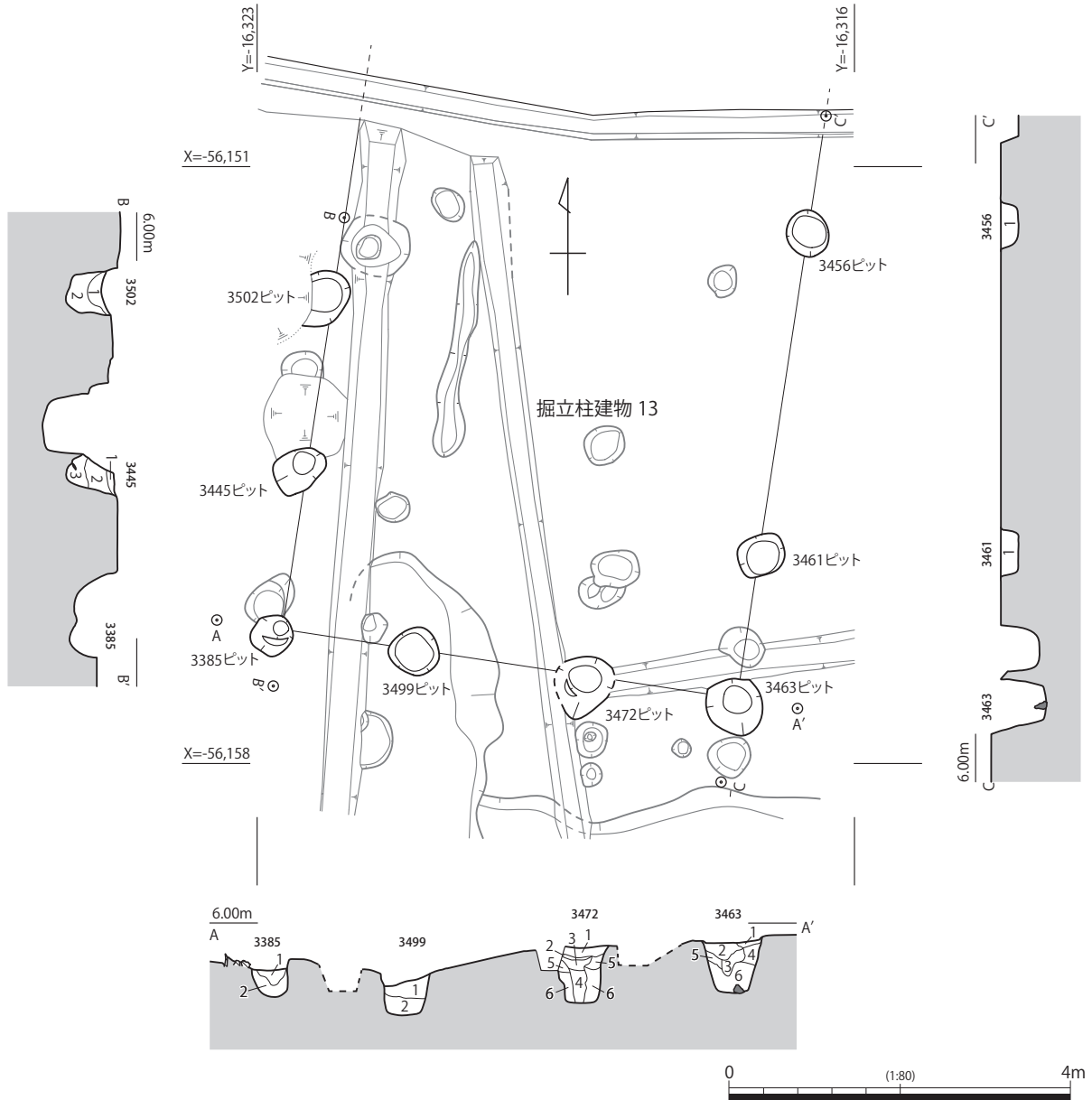
〈3485ピット〉

- 1 10YR3/1 黒褐色 シルト混じり中砂  
(1~2cm大の偽礫(地山)を含む)
- 2 10YR3/1 黒褐色 粗砂混じりシルト

第109図 掘立柱建物12 平・断面図(1)



第110図 掘立柱建物12 平・断面図(2)



- A-A'
- <3385ピット>
- 1 10YR3/1 黒褐色 極粗砂・中砂混じりシルト (炭化物を含む)
  - 2 10YR3/1 黒褐色 中砂・極粗砂混じりシルト
- <3499ピット>
- 1 2.5Y4/1 黄灰色 細砂混じりシルト
  - 2 10YR2/1 黒色 細砂・中砂混じりシルト
- <3472ピット>
- 1 10YR4/1 褐灰色 中砂混じりシルト (炭化物を含む)
  - 2 10YR3/1 黒褐色 中砂混じりシルト
  - 3 10YR4/1 褐灰色 中砂混じりシルト (炭化物・1~2cm大の偽礫(地山)を多量に含む)
  - 4 10YR3/1 黒褐色 中砂・粗砂混じりシルト (炭化物・1cm大の偽礫(地山)を多量に含む)
  - 5 10YR3/1 黒褐色 中砂混じり極細砂
  - 6 10YR3/1 黒褐色 シルト・細砂混じり中砂 (炭化物を含む)
- <3463ピット>
- 1 10YR3/1 黒褐色 中砂混じり極細砂
  - 2 10YR3/1 黒褐色 粗砂・中砂混じりシルト (1~2cm大の偽礫(地山)・炭化物を多量に含む)
  - 3 10YR3/2 黒褐色 粗砂・中砂混じりシルト (1~2cm大の偽礫(地山)・炭化物を含む)
  - 4 10YR3/1 黒褐色 中砂混じりシルト
  - 5 10YR2/1 黒色 粗砂・中砂混じりシルト
  - 6 10YR2/2 黒褐色 中砂混じりシルト

- B-B'
- <3502ピット>
- 1 10YR4/1 褐灰色 粗砂・中砂混じりシルト (2~3cm大の偽礫(地山)を含む)
  - 2 10YR3/1 黒褐色 粗砂混じりシルト (1~3cm大の偽礫(地山)を多量に含む)
- <3445ピット>
- 1 10YR3/2 黒褐色 粗砂・極粗砂混じり極細砂 (1~5cm大の偽礫(地山)を含む)
  - 2 10YR3/1 黒褐色 中砂・極粗砂混じりシルト (1cm大の偽礫(地山)・炭化物を多量に含む)
  - 3 10YR3/1 黒褐色 中砂混じりシルト (5cm大の偽礫(地山)を含む)
- C-C'
- <3461ピット>
- 1 10YR3/1 黒褐色 極粗砂・粗砂混じり極細砂 (1~3cm大の偽礫(地山)を含む)
- <3456ピット>
- 1 10YR3/1 黒褐色 中砂混じりシルト (1~2cm大の偽礫(地山)を含む)

第 111 図 掘立柱建物 13 平・断面図

辺で1.9～2.0 m、東辺で1.7～3.8 mとなっている。西辺については3456ピットに相対する位置に3444溝が存在し、本来は存在するピットを検出できないまま掘り下げてしまった可能性がある。柱穴は長軸約50～70 cm、短軸約40～60 cmの不整円形または楕円形を呈す。検出面からの深さは東辺の3456ピットと3461ピットが31 cm、28 cmと浅いが、その他は47～66 cmあり底面レベルもほぼ揃っている。

埋土は偽礫を多量に含む黒褐色の粗砂・中砂混じりシルトを主体とする。3472ピットには柱痕跡が認められた。

3445ピットから8世紀末～9世紀前半の墨書土器1182が出土しているが、掘立柱建物9との切り合い関係から見て9世紀後半以降の建物と考える。

### 3003 溝下層～最下層段階（第39・41・44・45・112・113図、PL.31・37）

3003溝の上層段階については「(2) 第2層下面の遺構」に記載しており、本項では下層、最下層段階の様相を詳述する。

#### 3003 溝下層段階

上層段階における溝の東側肩は第4層、第5層によって構築されており、それらを除去した下層段階の東側肩は0.6～1.5 mほど西にずれる。ただ、溝の主軸方位は北北東－南南西にとるため、調査区北端付近では上層段階の走行方向と交差しており、逆に0.5 m東へずれる。溝の東肩は直線的であるのに対し、西肩は調査区北端から「ハ」字状に緩やかに広がり調査区外へと続く。溝の幅は、検出した範囲で最大幅6.6 m、調査区北端付近で窄まり3.6 m、検出面からの深さは25～55 cmを測る。

埋土下層は、炭や偽礫を含む褐灰色粗砂・シルト混じり中砂または黒褐色中砂混じり極細砂と、葉理の認められるにぶい黄橙色極細砂混じり中砂～粗砂に大別され、それらが互層となっている。

埋土下層段階に伴う遺物は、8世紀後半の須恵器、土師器のほか、円形曲物蓋板（第249図W59）、同底板（第251図W79）、馬形（第260図W167～169）、火鑽臼（第263図W194）、滑車（第264図W197）などがある。また、文書木簡（第285図W302）、墨書土器（第287図1124）、転用硯（第229図1106）といった文字関係資料も出土している。

#### 3003 溝最下層段階

3003溝最下層段階は主軸方位をほぼ南北にとる直線的な溝となっており、検出した範囲での幅は2～3.1 m、東側肩から底面までの高低差40～55 cm、埋土下層段階底面との高低差は10～15 cmを測る。

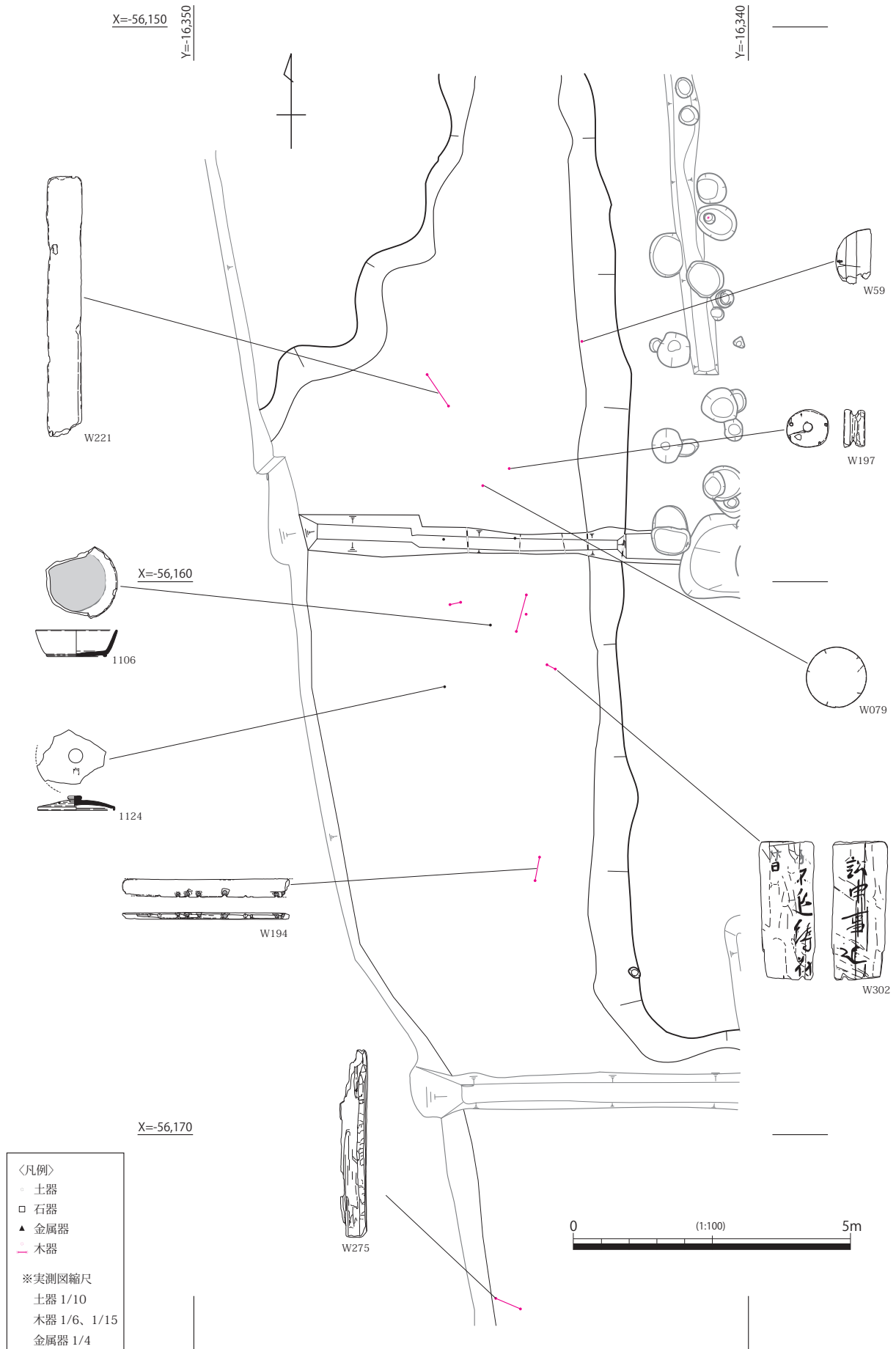
埋土最下層はにぶい黄橙色の極粗砂～中礫で、一気に埋積したことが窺えた。第6層である泥炭質のシルト層を掘削して溝を構築しているため、底面には最下層の堆積時に凹凸ができ、礫が食い込んでいた。

埋土最下層に伴う遺物は、7世紀後葉から8世紀前半の須恵器、土師器のほか、アカトリ（第244図W22）、蓋板？（第251図W78）、人形（第258図W156）がある。堆積状況から判断して、3003溝最下層段階は8世紀前半に埋没したと考えられる。

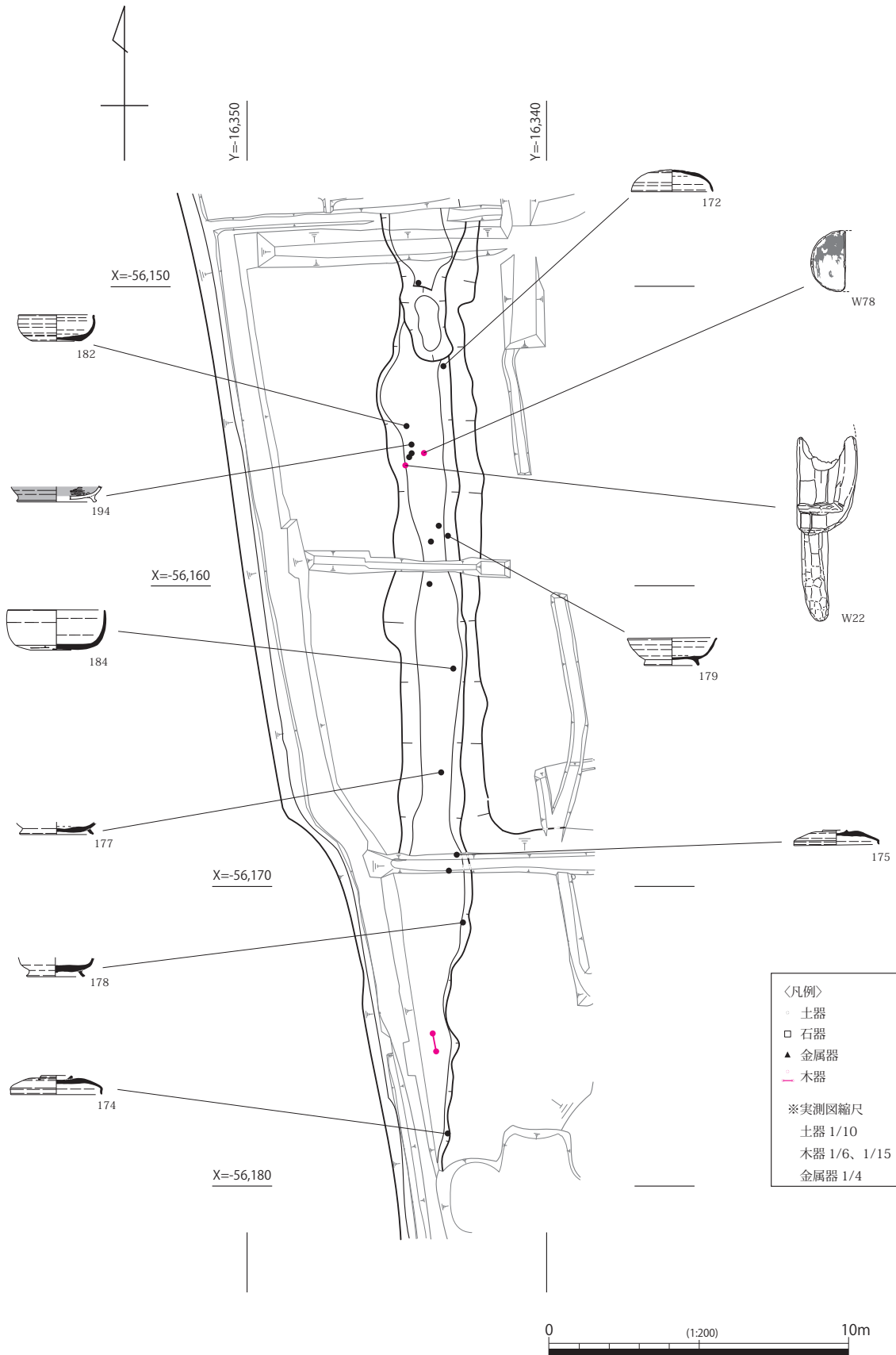
### 3438 流路（第41・42・44・102図、PL.43）

3006溝の南肩を形成している第4層の盛土を除去して検出した。3区調査時は3006溝の前身流路と想定して名称を付し調査したが、4区の調査によって続く4038溝を検出したため、盛土によって直線的な溝が構築される前の素掘り段階の溝と考えられる。

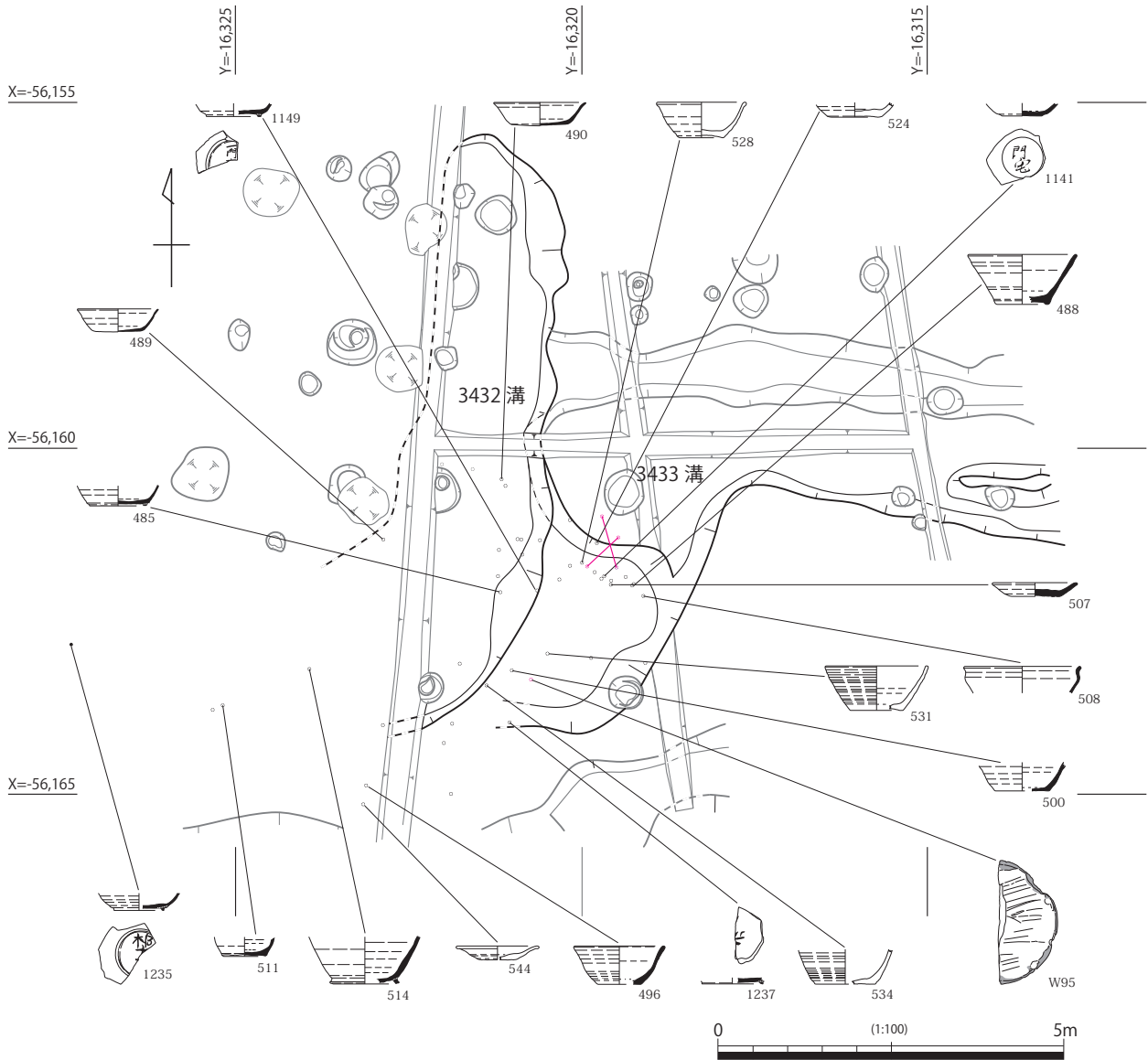




第 112 図 3003 溝下層遺物出土位置図



第 113 図 3003 溝最下層遺物出土位置図



第 114 図 3432 溝・3433 溝遺物出土位置図

第4層を除去した後の幅は2～6.6 m、溝の肩から底面までの高低差は最大で50 cmを測る。埋土にはぶい黄橙色あるいは灰褐色の中砂～極粗砂を主体とし、葉理が認められ植物遺体を含む。

埋土から7世紀末～9世紀前半の須恵器、土師器のほか建築材（第272図W238）が出土した。

**3432 溝・3433 溝（第42・102・114図、PL.46）**

3区東側で検出した溝で、当初は別の遺構として認識していたが堆積の状況及び出土遺物の整理結果から一連の遺構であると判断した。

調査区東端から西へ延びる3433溝は北から南へ延びる3432溝と合流し、緩やかに湾曲しながら西南西へ向かうが、Y=-16,325付近以西は検出できなかった。上位の3014溝によって削られている可能性がある。2つの溝の検出長は全体で約11 m、西側の肩が残っていないが幅は約2～4 m、検出面から底面までの高低差は約30～40 cmを測る。

埋土は炭化物や植物遺体を含む黒褐色の中砂・粗砂混じりシルトと、ぶい黄橙色中砂～極粗砂に大別される。前者は主に3432溝に沿って堆積しているのに対し、後者は埋土最下層と最上層に見られ、3433溝検出範囲に集中する。

出土した土器は10世紀前半の土師器、須恵器が主体となる。その他、田舟（第242図W6）、蓋板（第253図W95・96）などの木製品や墨書土器（第288図1141、第289図1158、第291図1185、第293図1216など）も出土した。

**3493土坑（第115図、PL.47）**

3区西側で検出した東西を主軸方位とする土坑で、長軸2.4m、短軸1.6m、検出面からの深さ56cmを測る不整隅丸長方形を呈す。底面西側は楕円形にさらに落ち込む。埋土は2層に分かれる。色調は異なるがどちらも第6層に由来する3～5cm大の偽礫を多量に含む。第5層によって埋め戻された土坑と考えられる。

埋土から8世紀中葉の須恵器が出土しており、それ以降の埋没と推測する。

**3区第4層下面検出ピット（第102図、PL.54～56）**

3区第4層下面では掘立柱建物を構成する柱穴とは認識できなかったが柱根や礎盤石、根石を伴うピットを多数検出した。

**3127ピット**は長軸36cm、短軸32cm、深さ40cmを測り、直径17cmの柱根が残っていた。

**3199ピット**は長軸49cm、短軸43cm、深さ37cmを測り、断面で柱痕跡が確認できた。柱掘方の底面からやや浮いた位置に礫と端材が固め置いてあり、柱基礎とも考えられる。

**3204ピット**は長軸46cm、短軸43cm、深さ56cmを測り、直径15cmの柱根が残っていた。

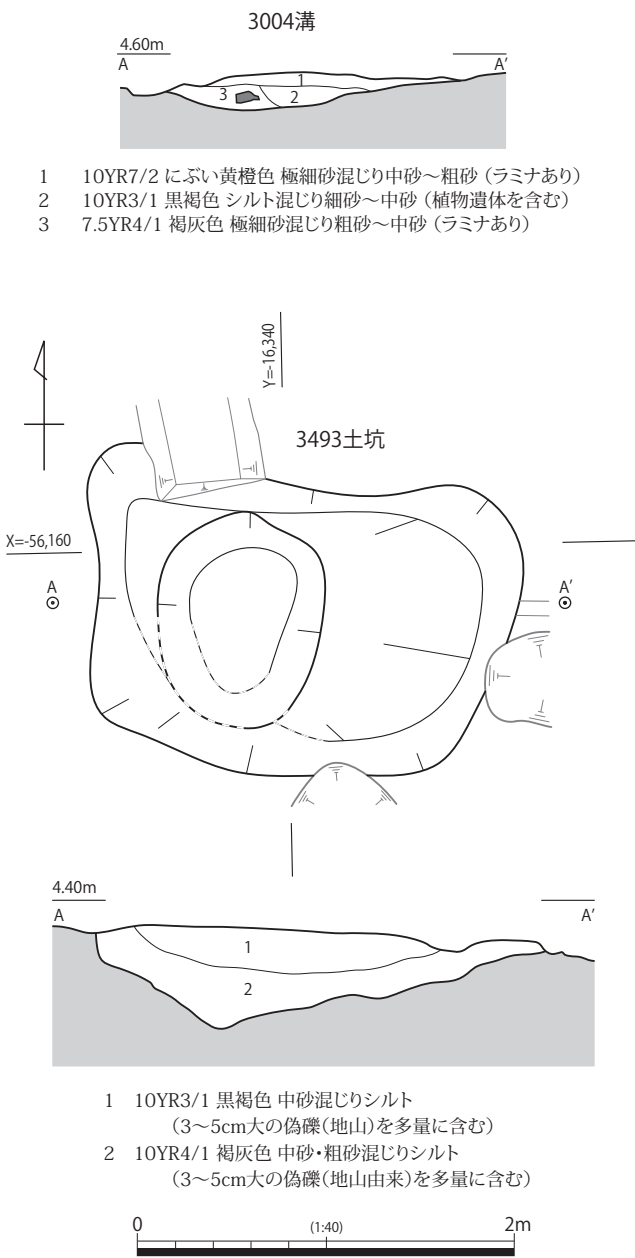
**3209ピット**は長軸53cm、短軸44cm、深さ31cmを測る。ピット下部に拳大の礫による根石と端材が据え置かれてあり、3層に分かれる埋土のうち2層と3層が柱掘方埋土、1層は柱拔取埋土と考えられる。

**3227ピット**は長軸60cm、短軸33cm、深さ35cm、**3238ピット**は長軸37cm以上、短軸34cm、深さ30cmを測るピットで、どちらにも径10cm程度の柱根が残る。径が細く、先端を尖らせているものもあり、柵などになるうか。

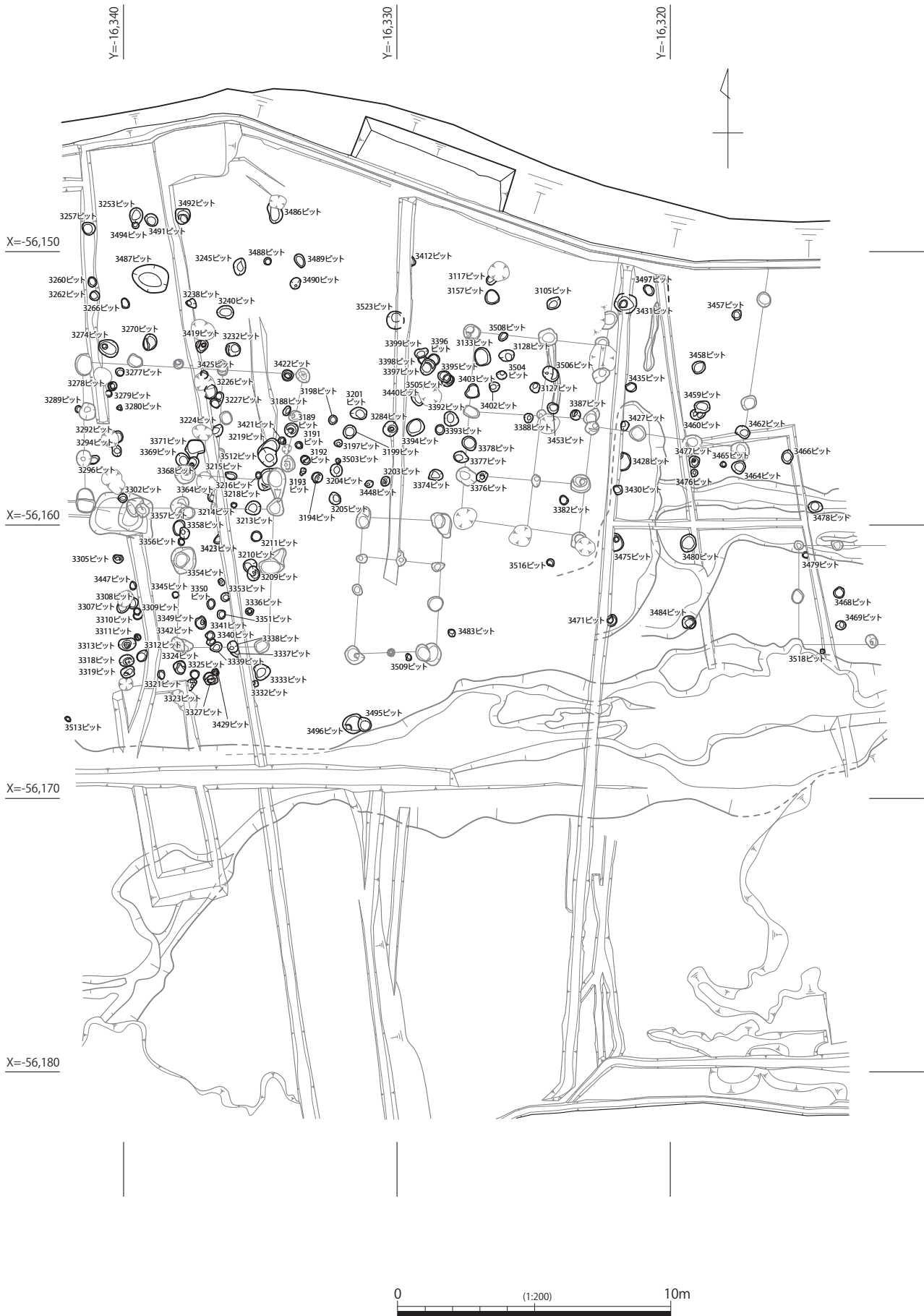
**3274ピット**は長軸74cm、短軸60cm、深さ27cmを測り、直径18cmの柱根が残っていた。

**3277ピット**は直径30cmの不整円形を呈すピットで、直径10cmの柱根が残っていた。先端部を尖らせてはいないが、掘方底面よりも30cm以上下がっていた。

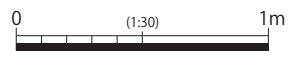
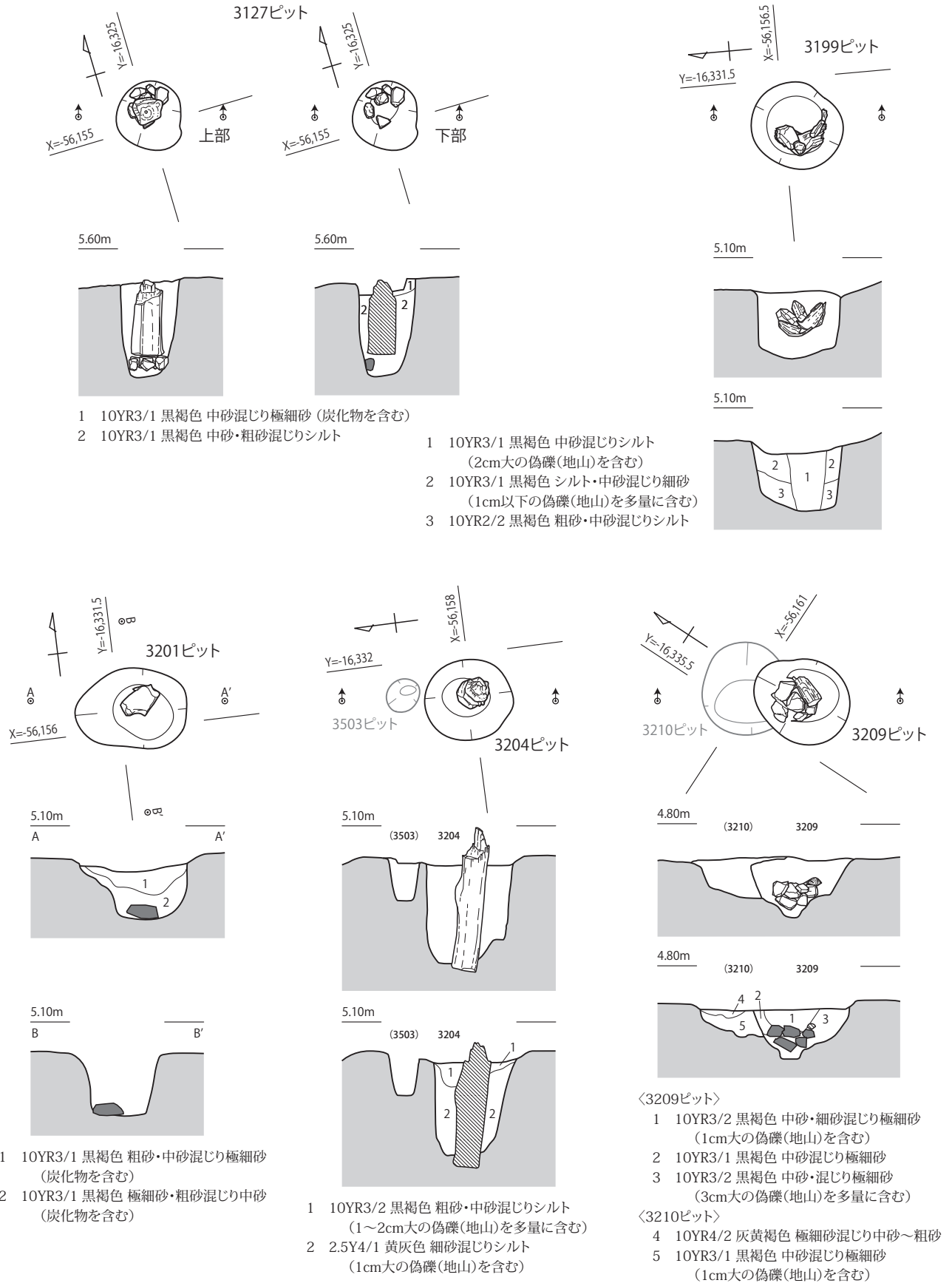
**3284ピット**は長軸50cm、短軸40cm以上、深さ53cmを測り、3277ピットと同様に先端を平坦



第115図 3004溝 断面図、3493土坑 平・断面図

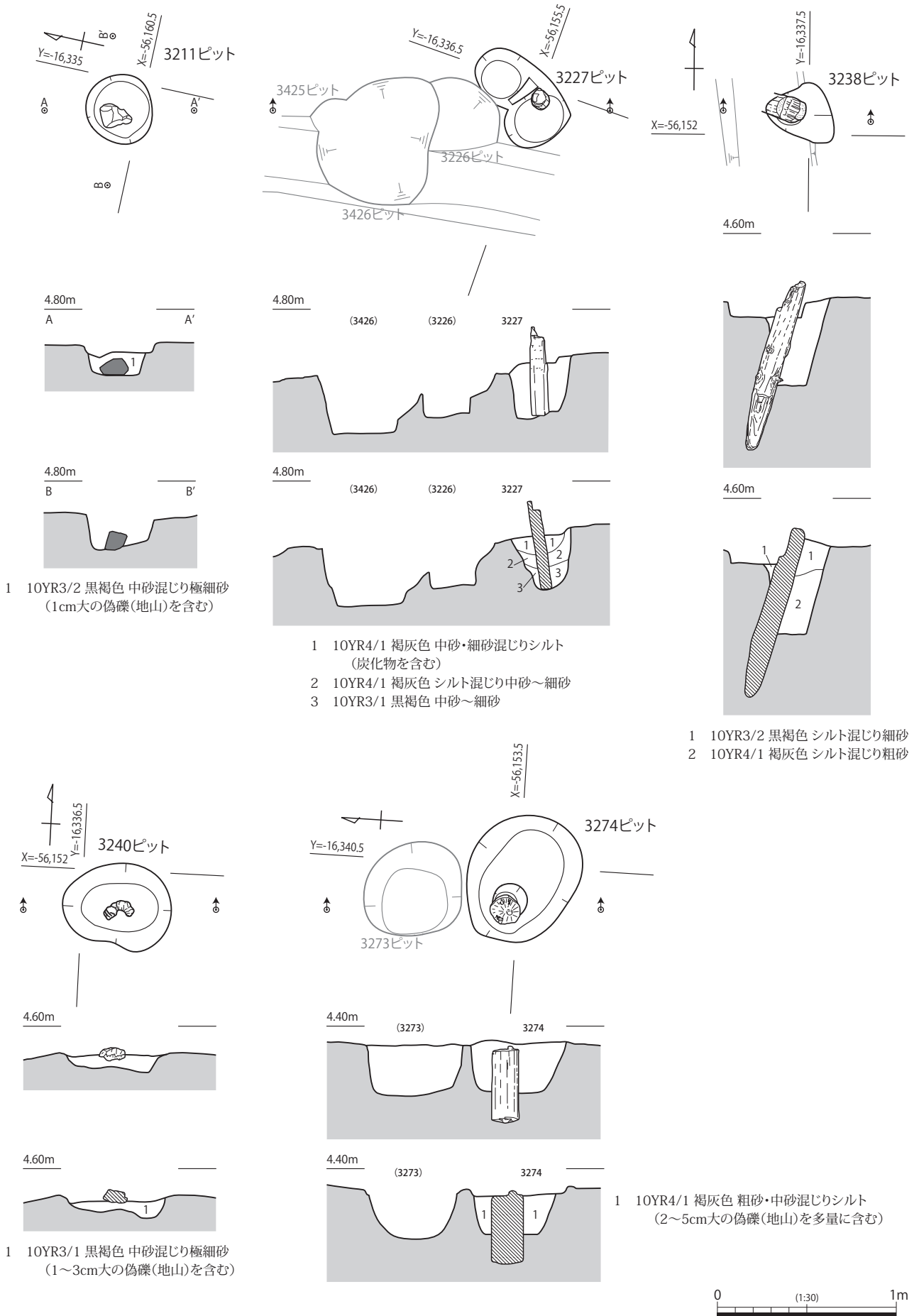


第116図 3区第4層下面検出ピット 全体図

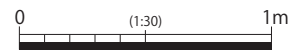
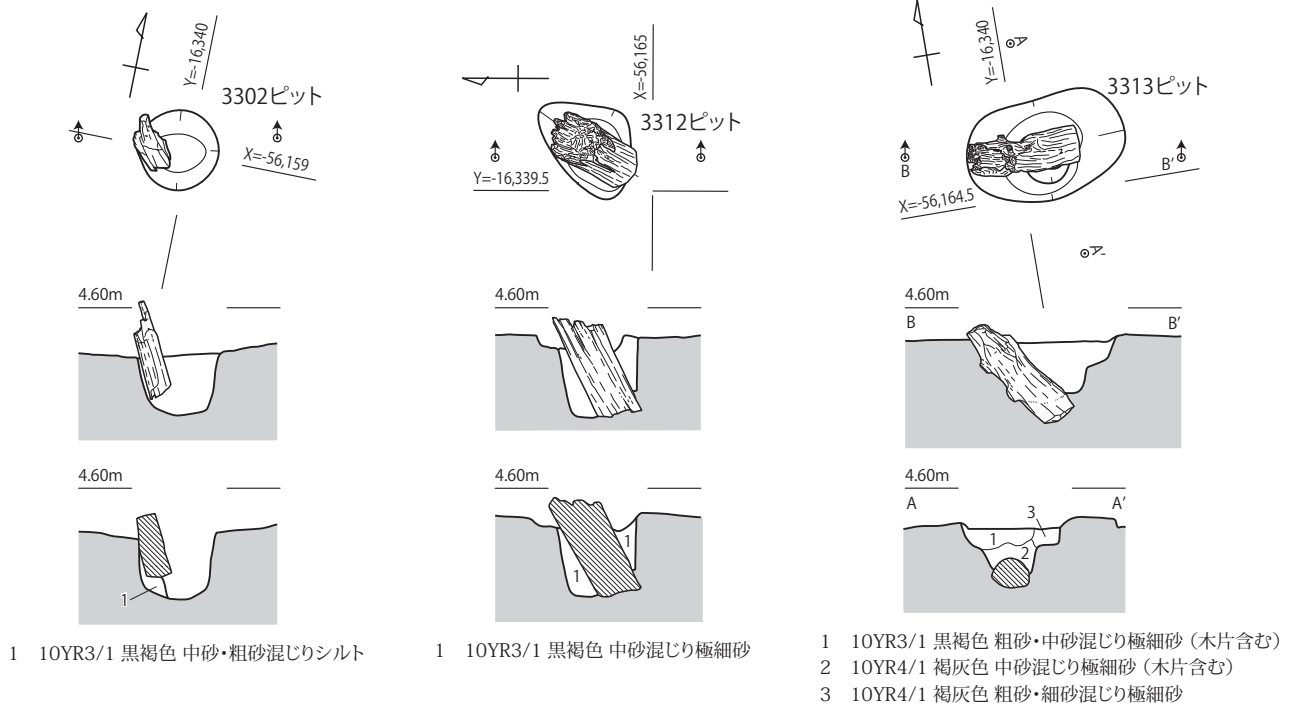
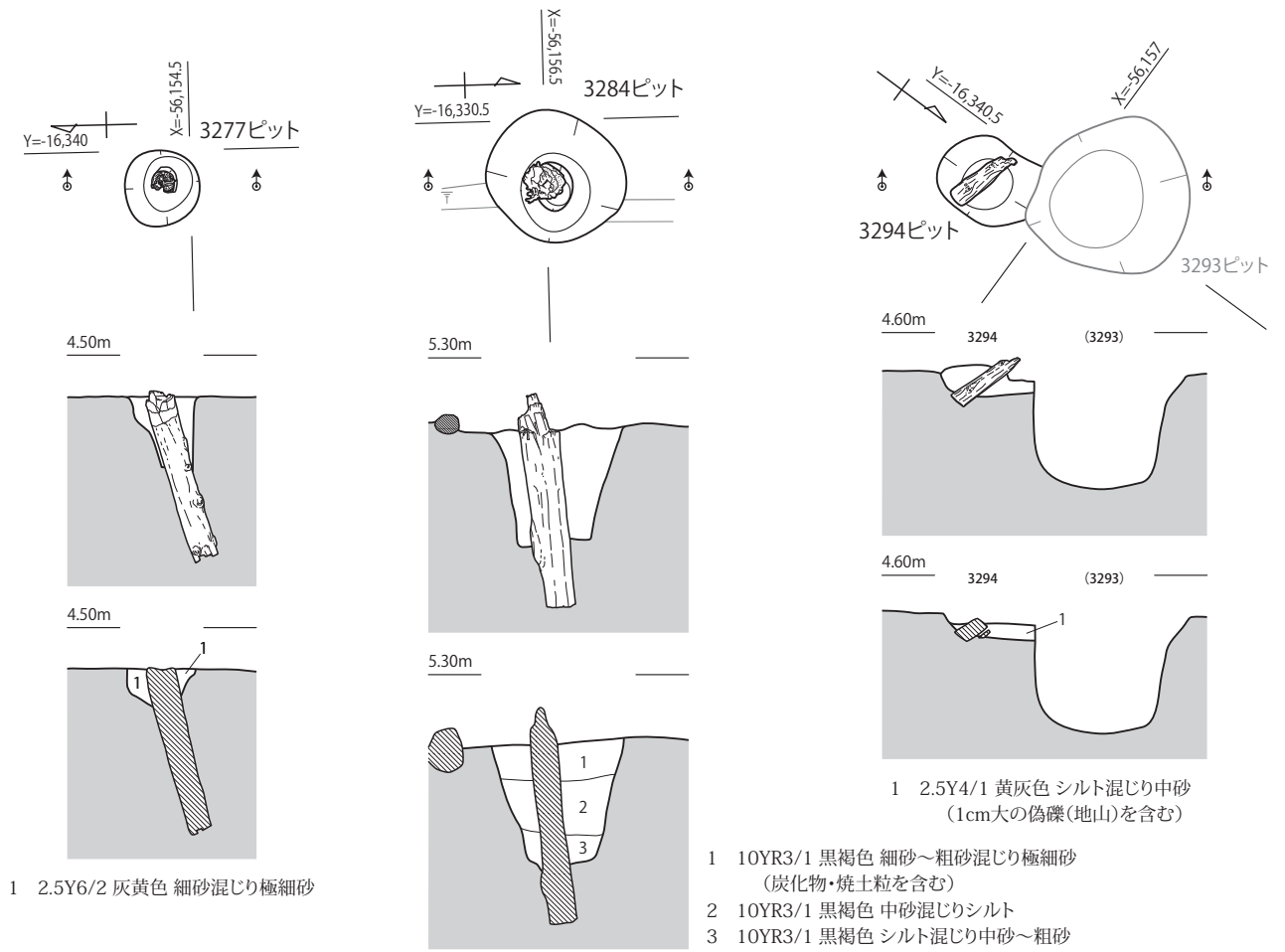


第117図 3区第4層下面ピット 平・断面図(1)

第VI章 3区・4区の調査成果

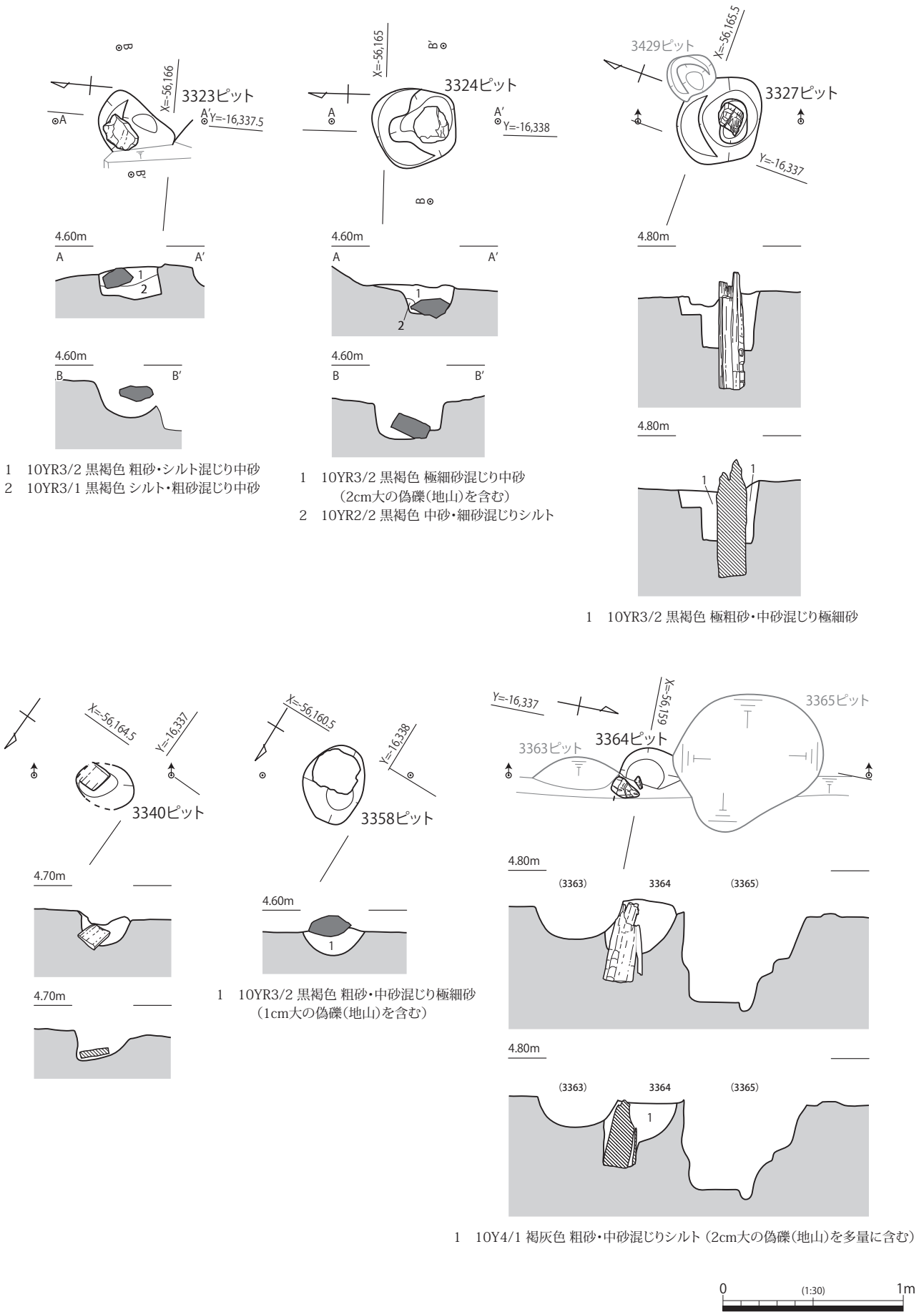


第118図 3区第4層下面ピット 平・断面図(2)

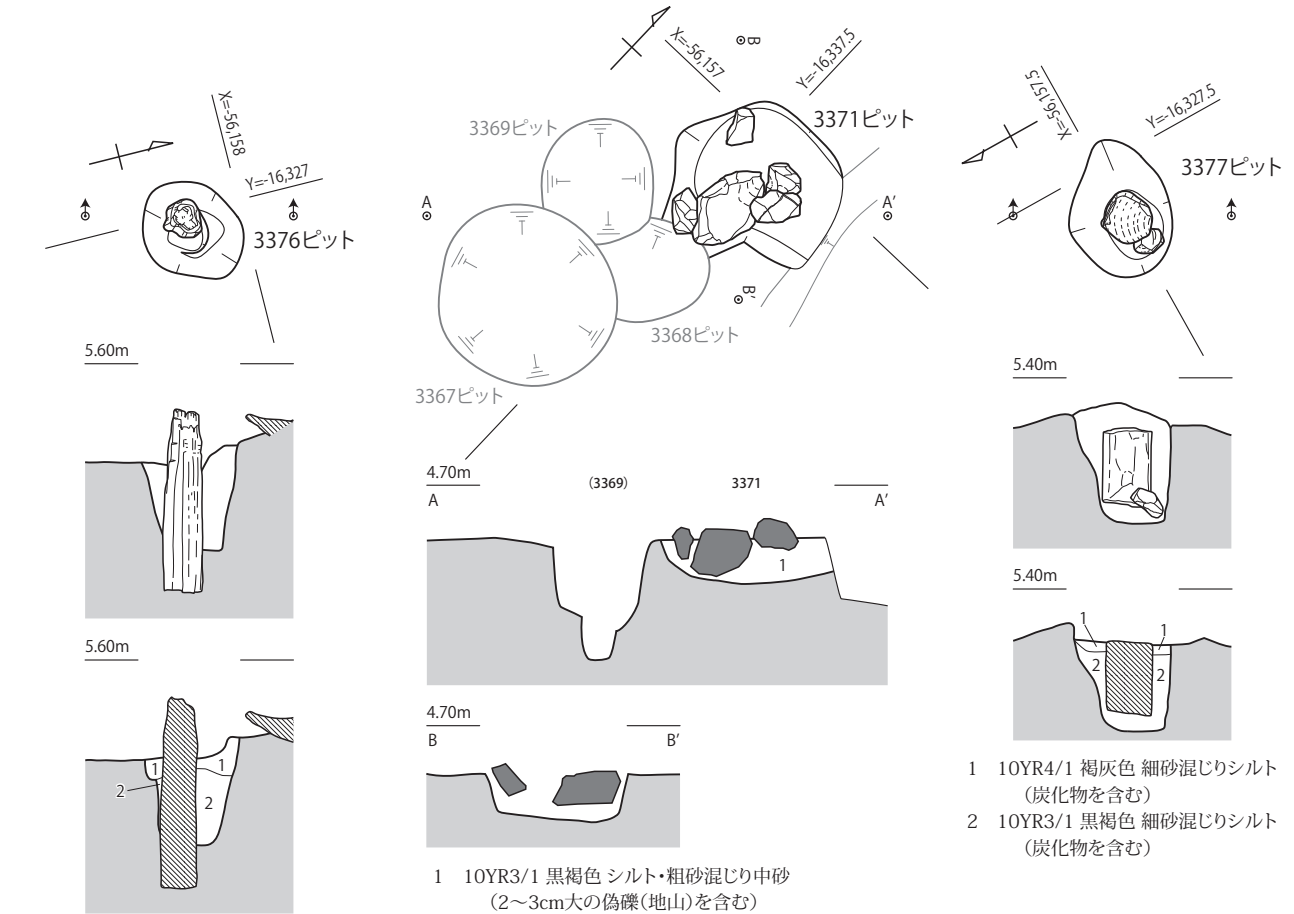


第119図 3区第4層下面ピット 平・断面図 (3)

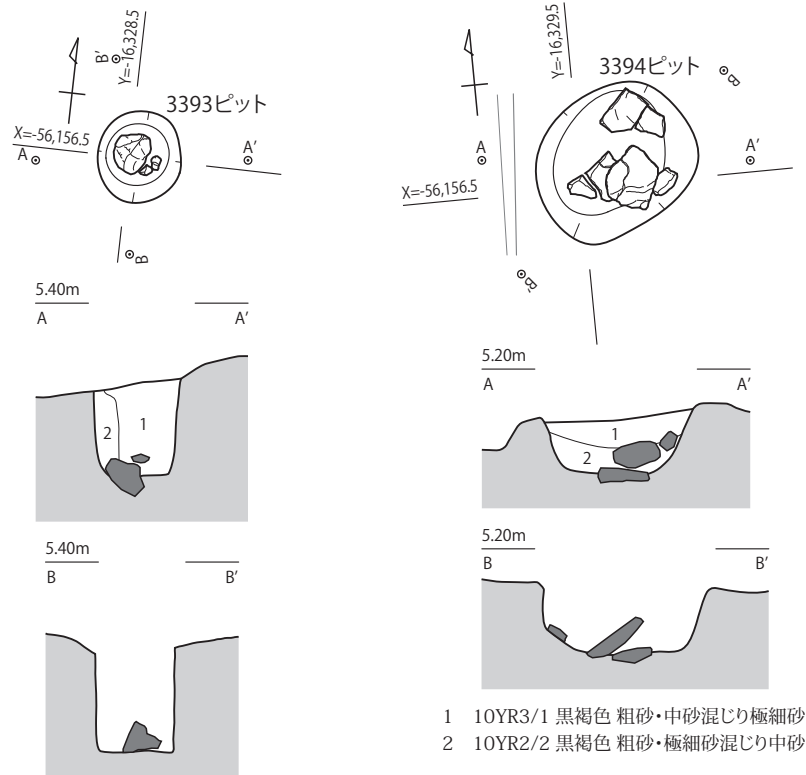




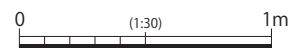
第120図 3区第4層下面ピット 平・断面図(4)



- 1 10YR3/1 黒褐色 中砂混じりシルト  
2 10YR2/2 黒褐色 細砂・中砂混じりシルト

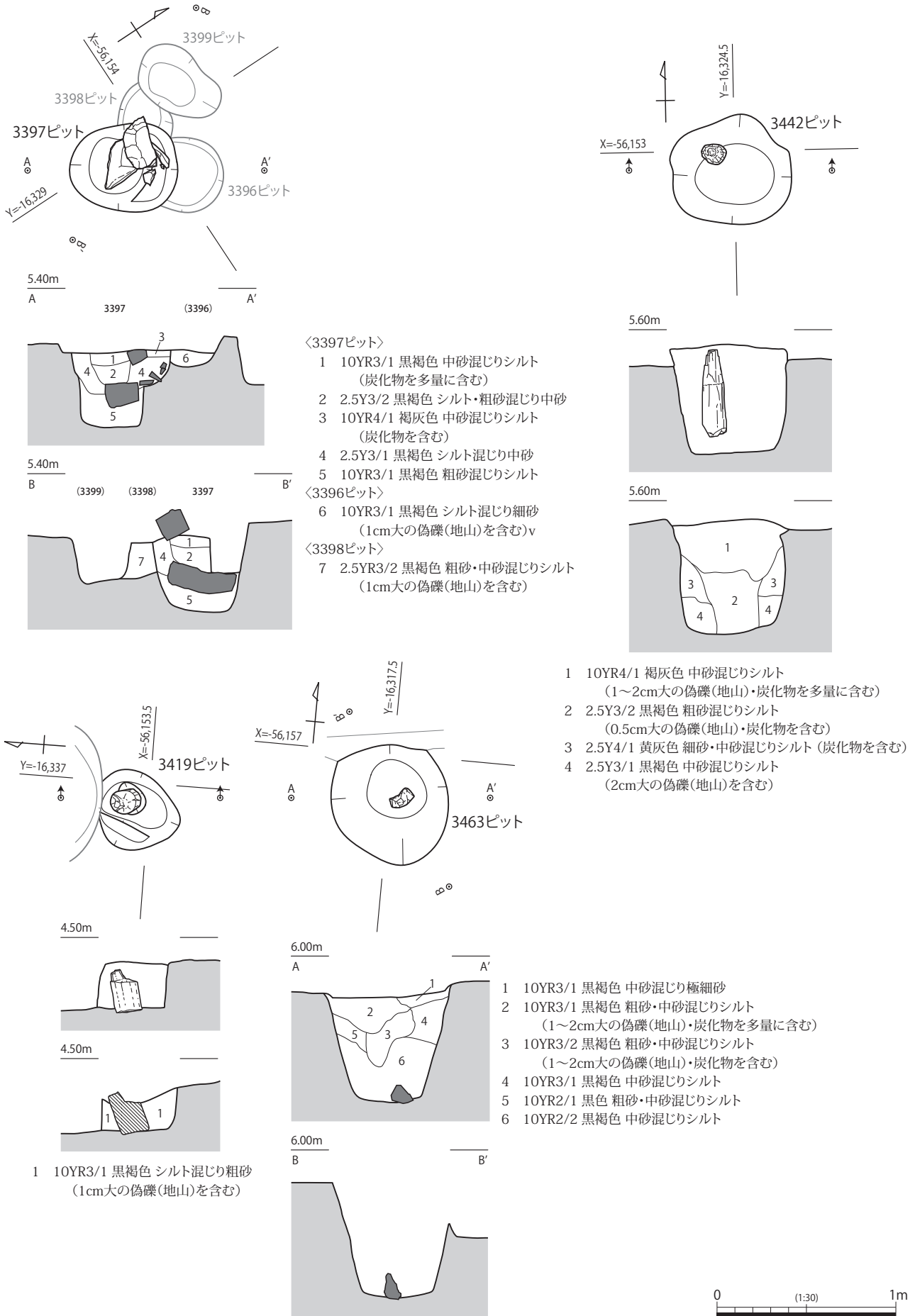


- 1 10YR3/1 黒褐色 中砂・極粗砂混じりシルト  
2 10YR4/1 褐灰色 粗砂・極細砂混じり中砂

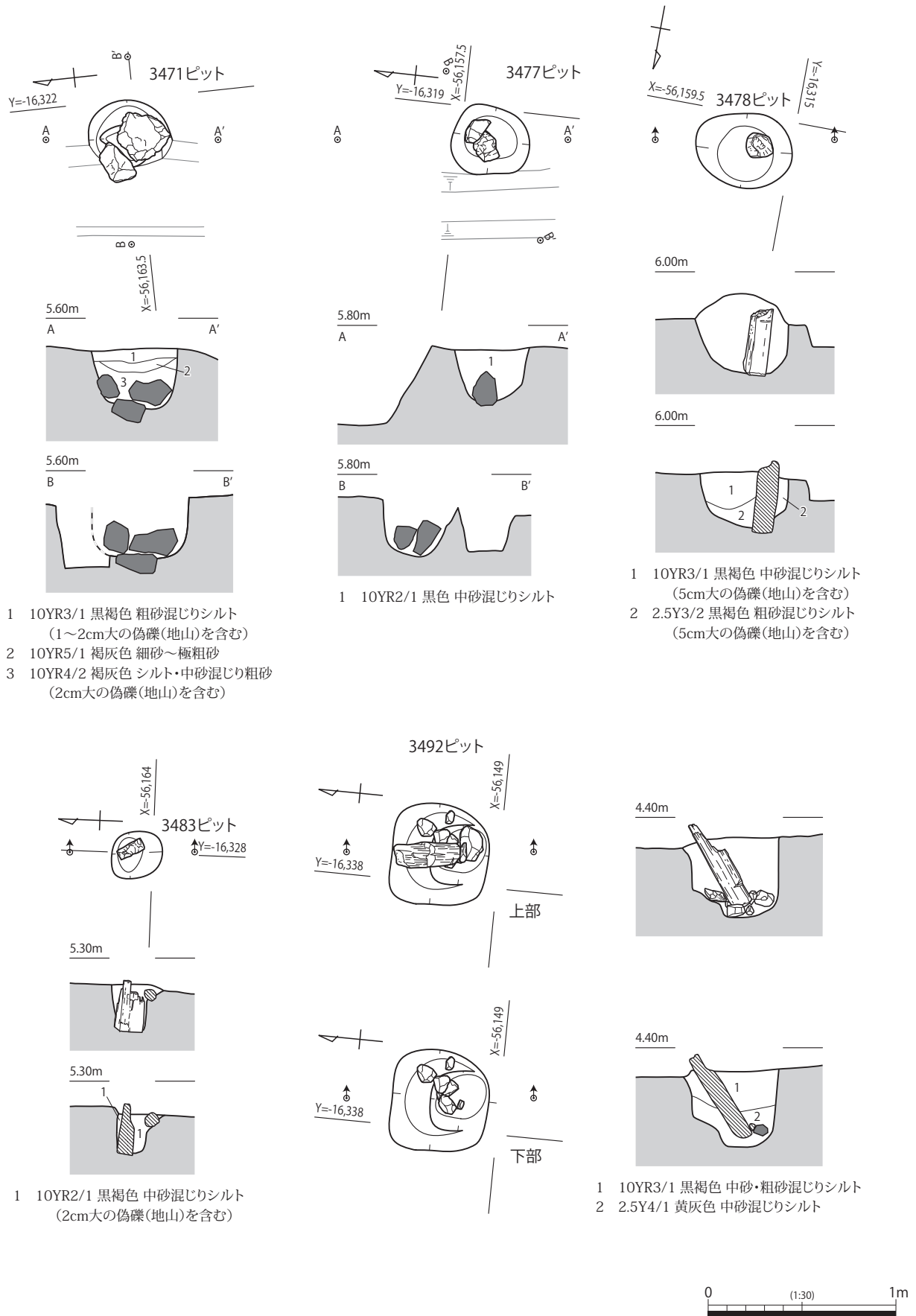


第 121 図 3区第4層下面ピット 平・断面図 (5)

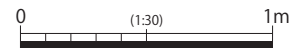
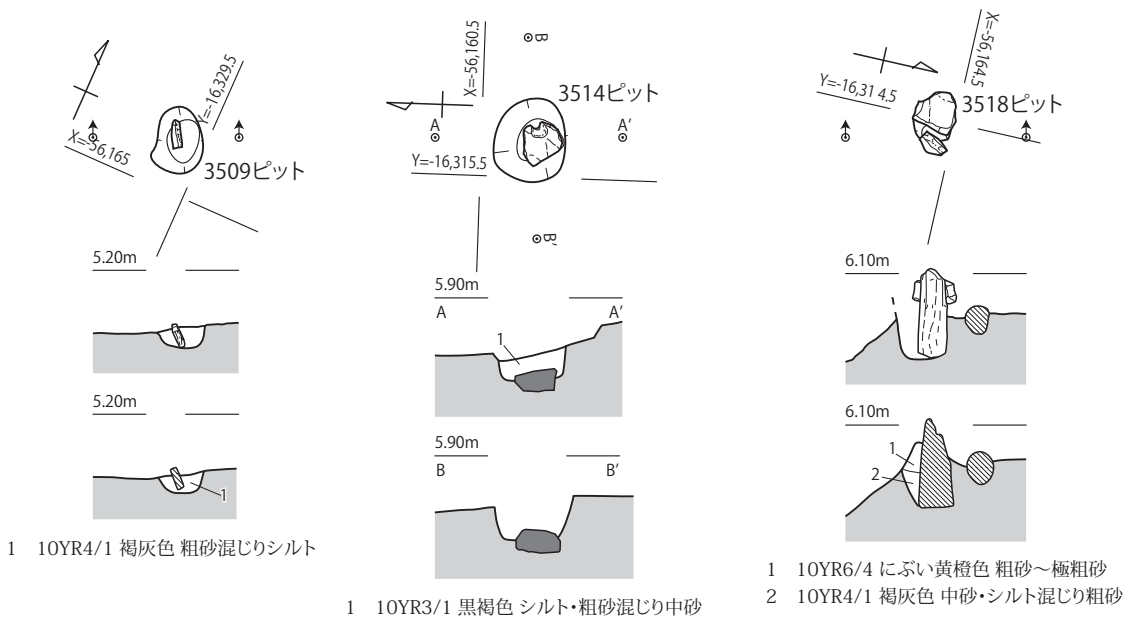
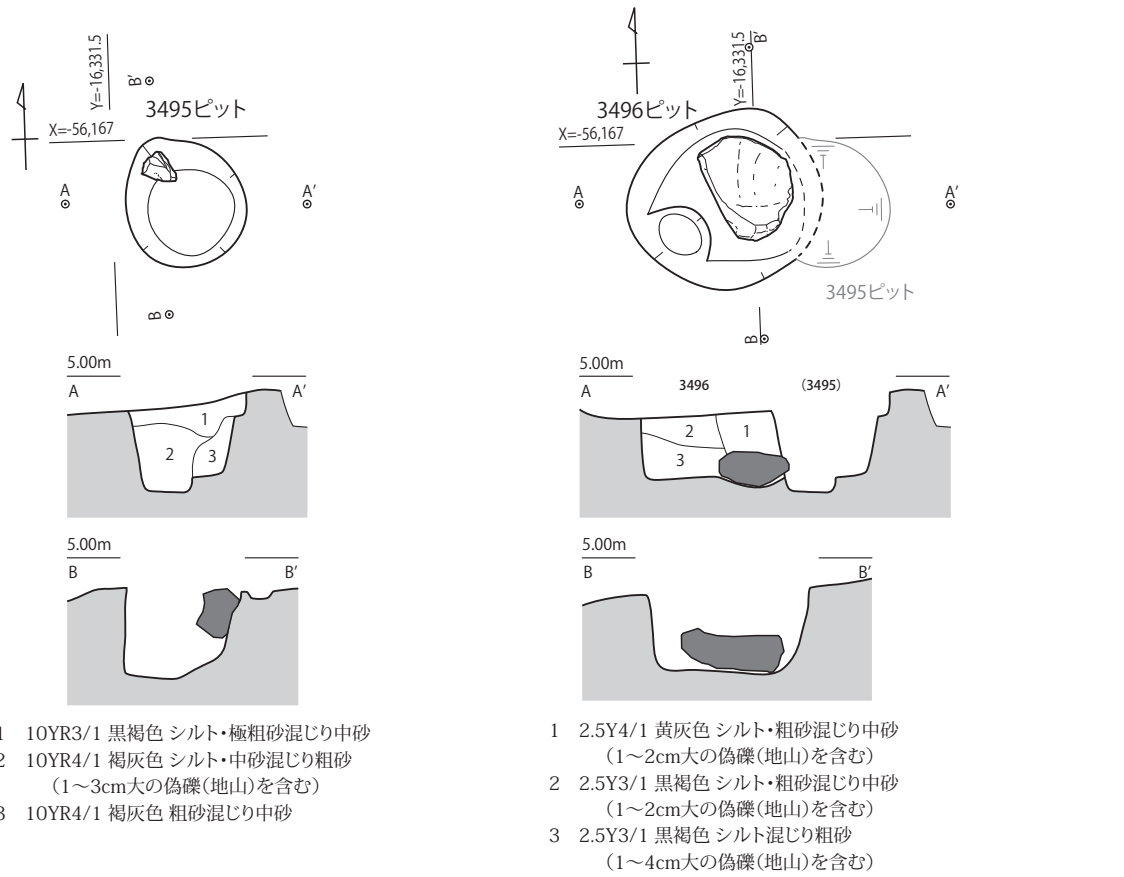
第VI章 3区・4区の調査成果



第122図 3区第4層下面ピット 平・断面図(6)



第123図 3区第4層下面ピット 平・断面図(7)



第124図 3区第4層下面ピット 平・断面図 (8)

に加工した直径 14 cm の柱根が残っていた。柱根底部は 20 cm 程度沈下している。

**3302** ピットは直径 32 cm の不整円形を呈し、深さ 27 cm を測る。柱根が残っていたが直径 10 cm に満たないので杭のようなものか。

**3312** ピットと **3313** ピットはそれぞれ長軸 47 cm、63 cm を測る不整楕円形のピットで、どちらにも直径 15 cm 程度の柱根が残っていた。後世の攪乱による影響を受けてか、柱はかなり傾いている。

**3323** ピットは長軸 34 cm 以上、短軸 30 cm、深さ 20 cm を測り、上層で礎盤石と見られる 20 cm 程度の礫が出土したが本来の位置は留めていない。

**3324** ピットは長軸 47 cm、短軸 43 cm、深さ 20 cm を測り、底面に礎盤石が残る。埋土 1 層は第 6 層由来の偽礫を多量に含む土で、柱抜取埋土の可能性はある。

**3327** ピットは直径 46 cm の不整円形を呈すピットで、深さは 21 cm を測る。直径 16 cm の柱根が残っており、底部は 20 cm 程度沈下している。

**3340** ピットは長軸 31 cm、短軸 19 cm 以上を測る。精査の過程で周辺を一段掘り下げたため、検出面からの深さは 13 cm となる。底面に礎盤の可能性のある長さ 15 cm の板材が敷かれていた。

**3371** ピットは長軸 65 cm 以上、短軸 57 cm、深さ 19 cm を測り、底面付近に拳大～人頭大の礫を集積して礎盤石としていた。

**3376** ピットは長軸 44 cm、短軸 37 cm、深さ 43 cm を測り、直径 15 cm の柱根が残っていた。柱底部は 20 cm 程度沈下している。

**3377** ピットは長軸 55 cm、短軸 42 cm、深さ 34 cm を測り、直径 19 cm の柱根と拳大の礫による根石が残っていた。柱は針葉樹の芯去材を用いており、上端が平坦になっているため、建物廃絶時に切り取られた可能性がある。

**3393** ピットは長軸 37 cm、短軸 33 cm、深さ 42 cm を測り、底部に人頭大の礫を用いた礎盤石が残る。断面に柱痕跡も確認できた。

**3394** ピットは長軸 67 cm、短軸 55 cm、深さ 28 cm を測るピットで、下部に拳大～人頭大の礫を用いた礎盤石が見られた。

**3397** ピットは長軸 60 cm、短軸 47 cm、深さ 50 cm を測り、北東部に三日月状の平坦面をもつ 2 段掘りとなる。そこに人頭大の角礫を据えて埋土 5 層で固定し、礎盤石としている。埋土 1 層及び 2 層は上部から転落したような礫が被っており、柱痕跡ではなく柱抜取埋土の可能性はある。

**3419** ピットは長軸 45 cm 以上、短軸 43 cm、深さ 23 cm を測るピットで、直径 16 cm の柱根が残っていた。柱根の上部は切り取られた可能性がある。

**3442** ピットは長軸 67 cm、短軸 62 cm、深さ 64 cm を測り、柱掘方北側に寄せて据えられた直径 13 cm の柱根が残っていた。

**3471** ピットは長軸 44 cm、短軸 35 cm 以上、深さ 33 cm を測り、底部に人頭大の礫を集積した礎盤石が残っていた。埋土上層である 1 層及び 2 層は柱抜取埋土の可能性はある。

**3477** ピットは長軸 41 cm、短軸 35 cm 以上、深さ 30 cm を測り、底面に人頭大の礫を 2 つ寄せ置いて礎板石としている。

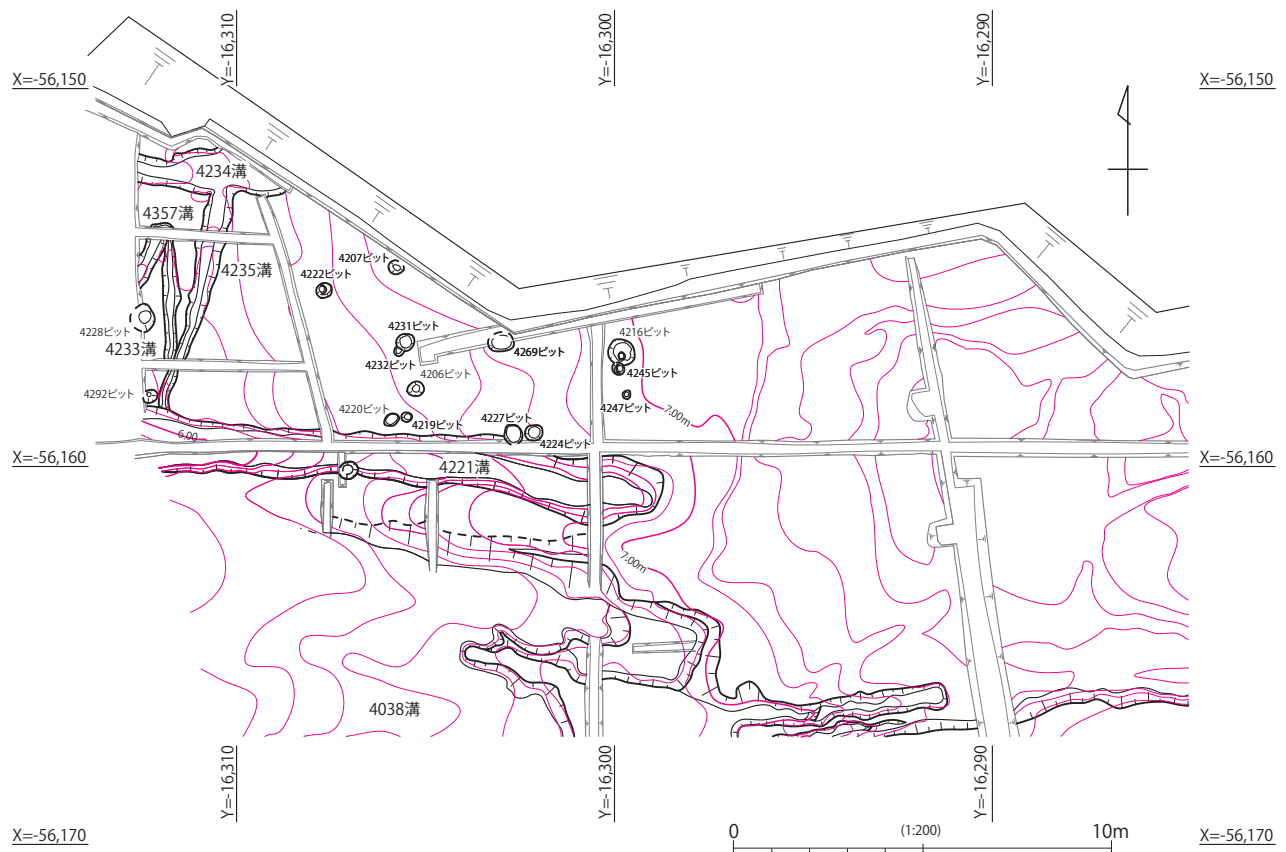
**3478** ピットは長軸 51 cm、短軸 40 cm、深さ 30 cm を測り、直径 15 cm の柱根が残っていた。

**3492** ピットは長軸 55 cm、短軸 53 cm 以上、深さ 41 cm を測る不整隅丸方形のピットで、直径 12 cm の柱根と、その底部に拳大の角礫による根石が残っていた。

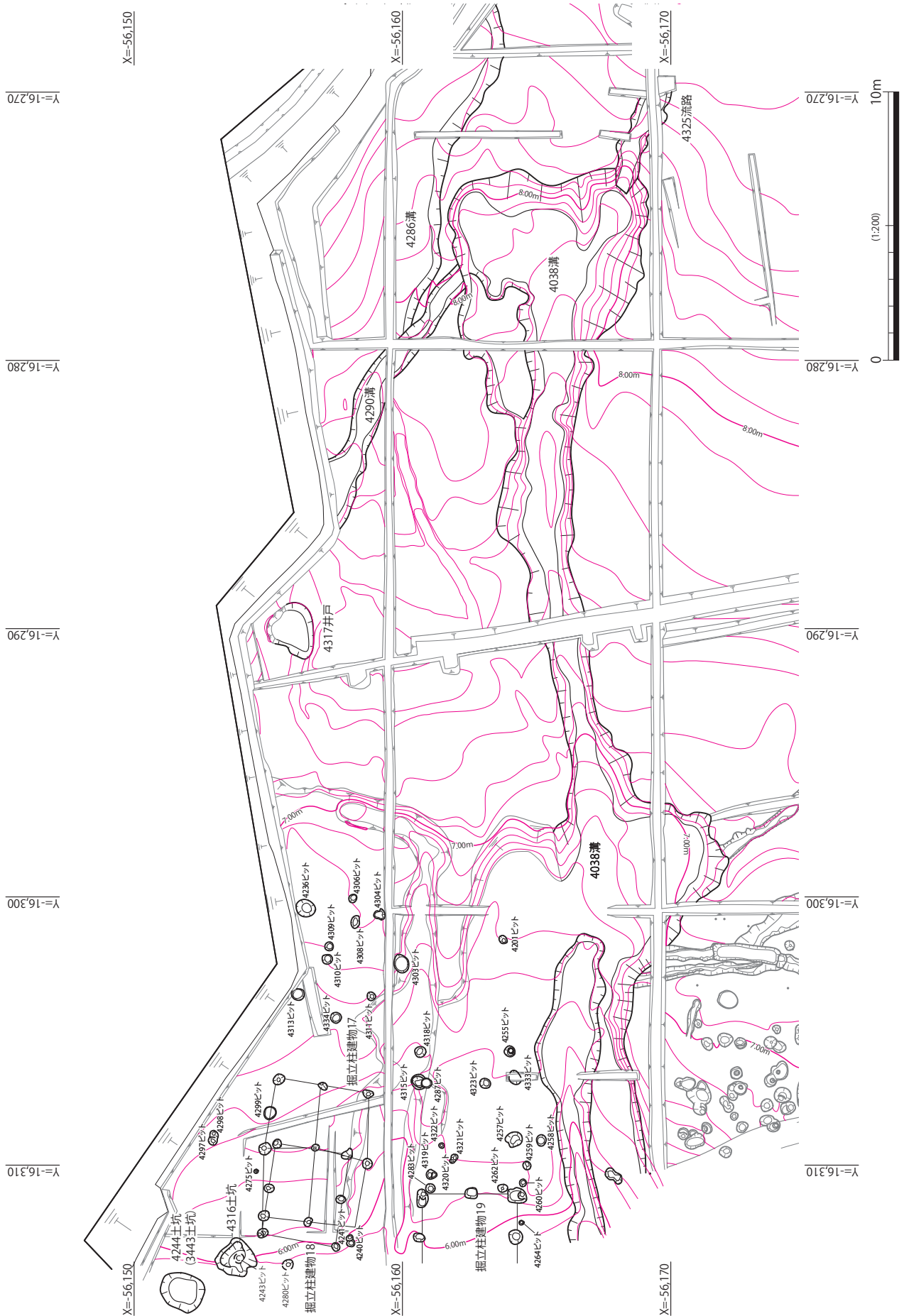
第VI章 3区・4区の調査成果



第125図 4区第4-1層下面 全体図

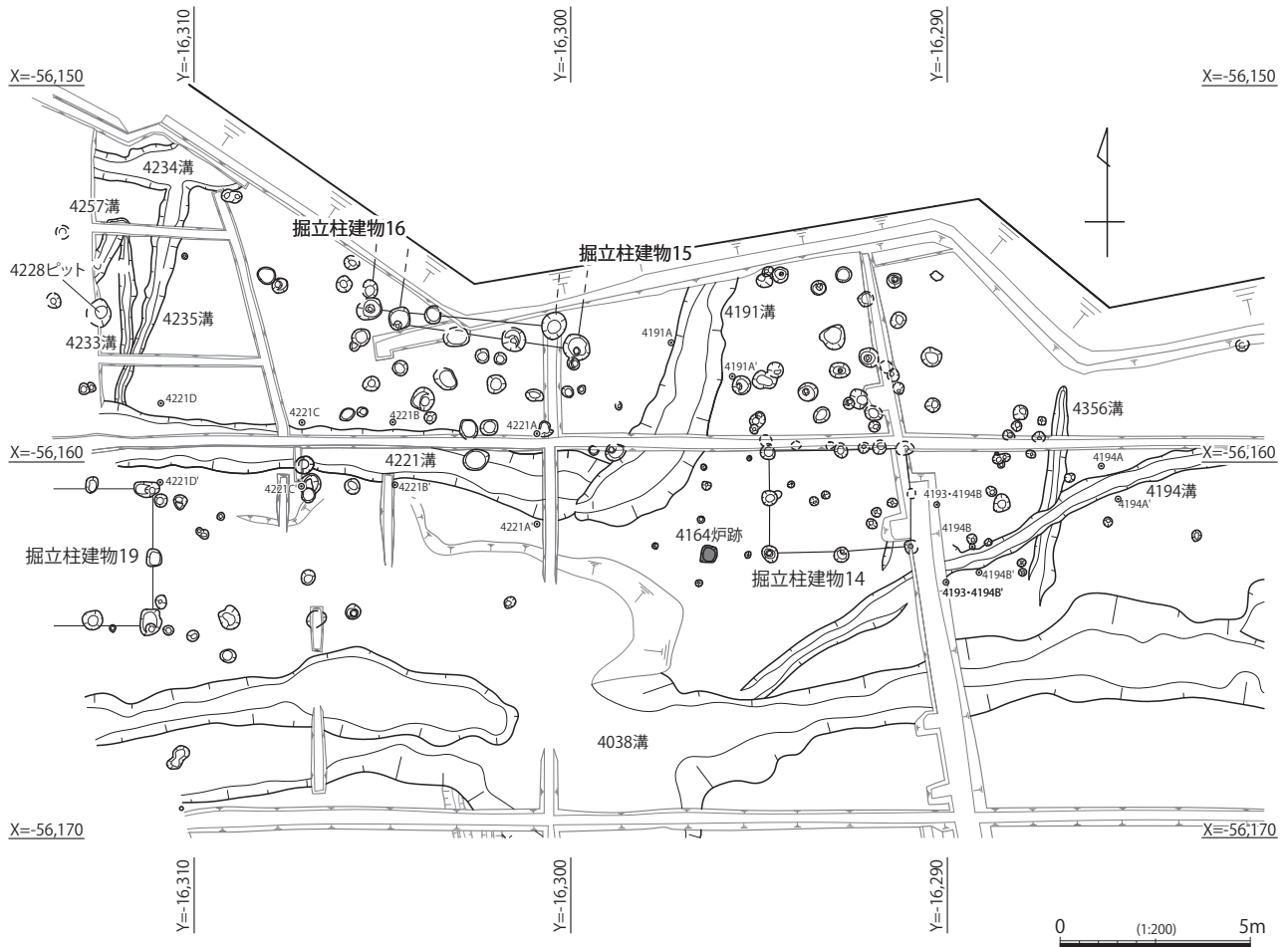


第126図 4区第4-2層下面 全体図



第127図 4区第4-3層下面 全体図





第128図 4区第4層下面 主要遺構図

3496ピットは長軸74cm、短軸67cm、深さ35cmを測る不整楕円形のピットで、人頭大の垂角礫による礎盤石を底面に据えていた。柱が載る礎盤石の上面は一段低く平坦になっており、礎盤石とするために加工調整された可能性がある。

3518ピットは3438流路北側肩で検出したピットで、掘方は底部付近しか検出できていない。直径12cmのやや扁平な柱根と根石と見られる板状の礫が残っていた。

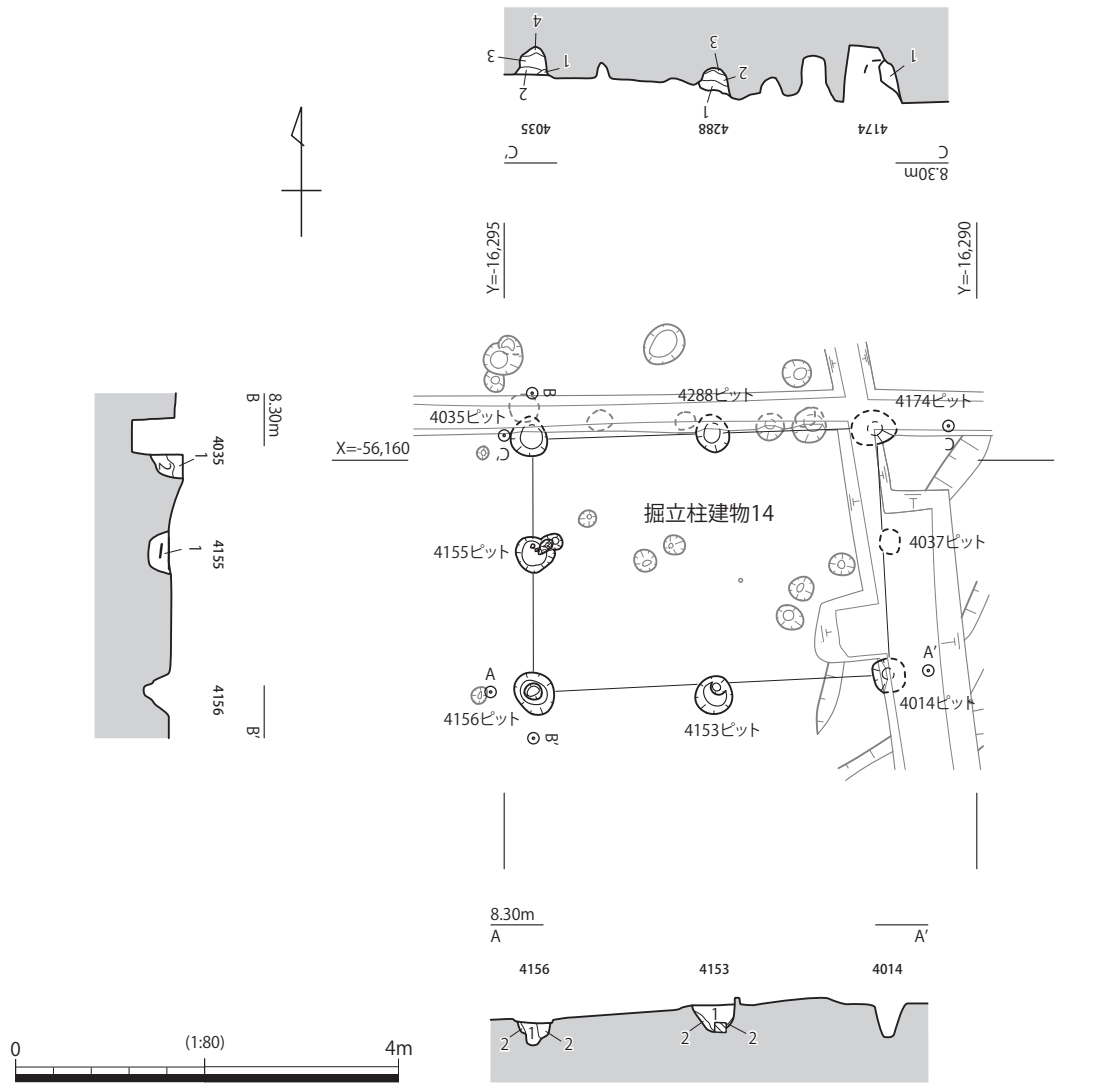
#### 掘立柱建物14 (第125・128・129図、PL.78・79)

4区北側中央、第4-1層下面で検出した梁行2間(2.7m)、桁行2間(3.7m)の側柱建物で、主軸方位はN-87°-Eにとりほぼ東西を向く。身舎の面積は10m<sup>2</sup>である。

4035ピット、4153ピット、4014ピットは第4-1層の掘り下げ中に検出しているが、他は第4-1層下面(第6層上面)まで下げて確認した。4037ピットと4174ピットは、X=-56,160ライン及びY=-16,290ラインの堆積確認用トレンチの掘削によって柱掘方の大部分を検出できなかった。

柱間寸法は梁行方向が1.2～1.5m、桁行方向が1.8～1.9mで、梁行桁行同間数ながら桁行柱間の方が広く取られている。柱穴は長軸39～55cm、短軸39～41cm、検出面からの深さは24～52cmを測る。

埋土は炭、浅黄色～にぶい黄橙色の細砂～極粗砂偽礫(=第6層の偽礫)を多量に含む黒褐色中砂・粗砂混じりシルトを主体とする。各ピットに柱痕跡は認められなかった。4153ピットでは礎盤の可能性のある板材が底面で出土した。

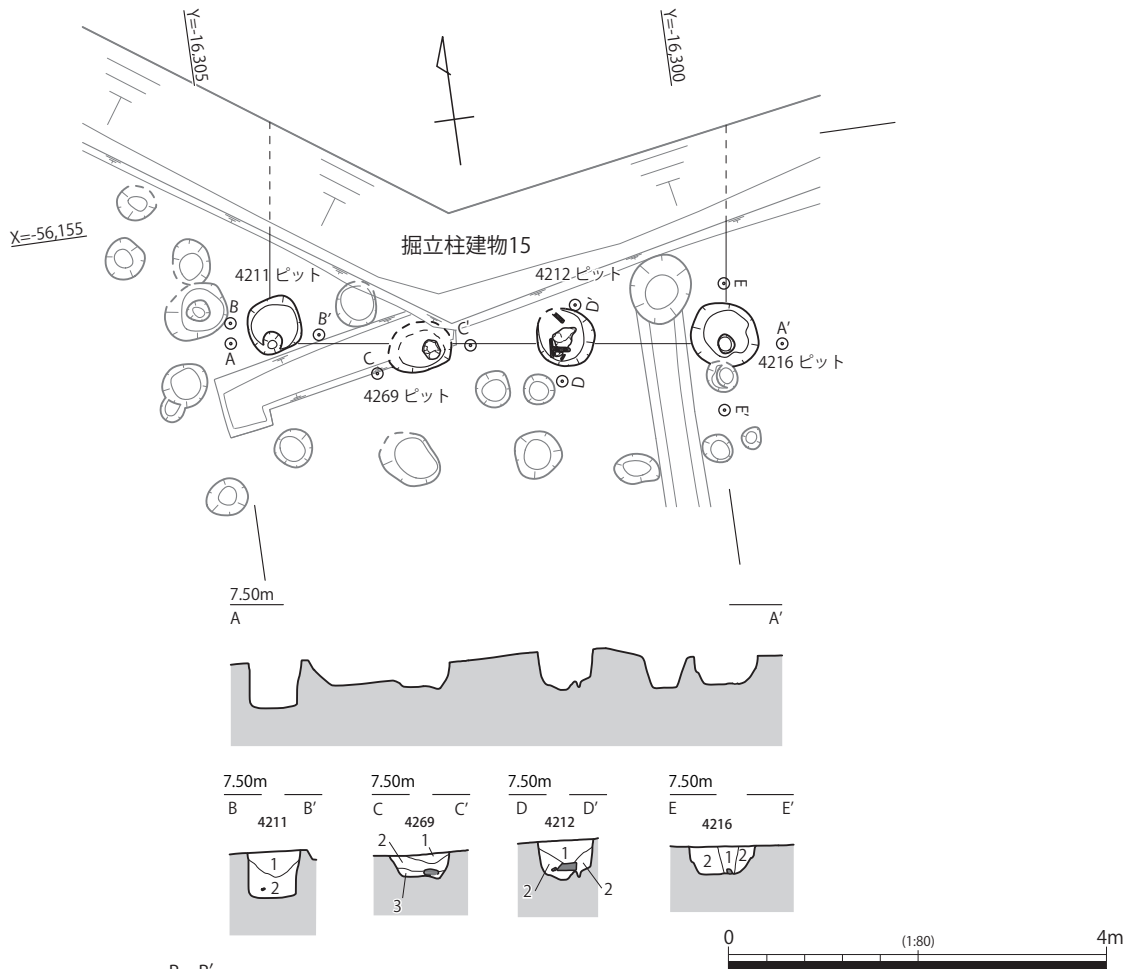


- B-B'
- <4035ピット>
- 1 10YR3/2 黒褐色 粗砂混じりシルト  
(炭・1~5cm大の第6層偽礫を含む)
  - 2 2.5Y3/2 黒褐色 シルト  
(木片・1~5cm大の第6層偽礫を含む)
- <4155ピット>
- 1 10YR3/1 黒褐色 中砂混じりシルト  
(炭・1cm大の第6層偽礫を多量に含む)

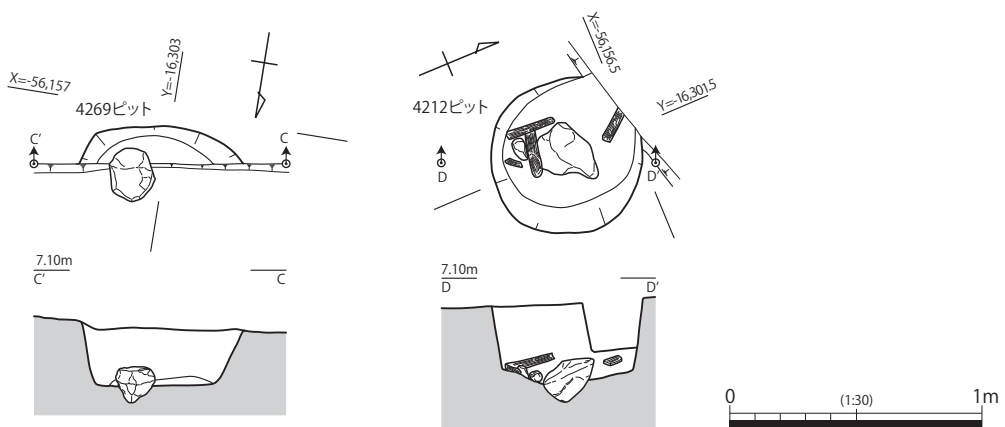
- A-A'
- <4156ピット>
- 1 2.5Y3/2 黒褐色 中砂混じりシルト(柱痕跡)
  - 2 10YR2/1 黒色 中砂・粗砂混じり極細砂  
(2~3cm大の第6層偽礫を多量に含む)
- <4153ピット>
- 1 10YR3/1 黒褐色 中砂・粗砂混じり極細砂  
(1~5cm大の第6層偽礫を多量に含む)
  - 2 10YR2/2 黒褐色 中砂混じり極細砂(泥炭質)

- C-C'
- <4174ピット>
- 1 10YR4/2 灰黄褐色 中砂混じり極細砂  
(1~5cm大の第6層偽礫を多量に含む)
- <4288ピット>
- 1 10YR2/2 黒褐色 極細砂 (炭・1~5cm大の第6層偽礫を多量に含む)
  - 2 第6層偽礫
  - 3 10YR2/2 黒褐色 極細砂 (炭・1~5cm大の第6層偽礫を含む)
- <4035ピット>
- 1 第6層偽礫
  - 2 10YR3/2 黒褐色 粗砂混じりシルト (炭・1~5cm大の第6層偽礫を含む)
  - 3 2.5Y3/2 黒褐色 シルト (木片・1~5cm大の第6層偽礫を含む)
  - 4 10YR5/2 灰黄褐色 シルト混じり中砂(1~2cm大の第6層偽礫を含む)

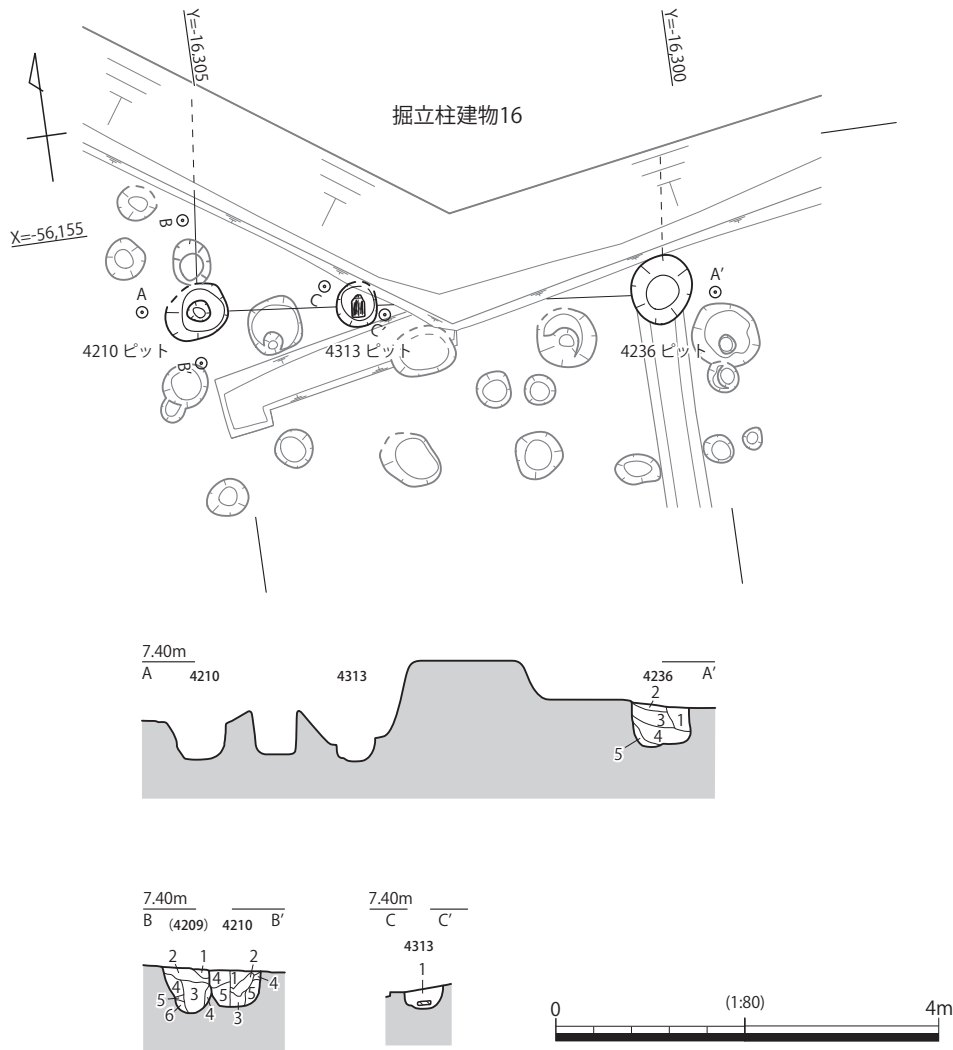
第 129 図 掘立柱建物 14 平・断面図



- B-B'
- <4211 ピット>
- 1 7.5YR4/1 褐灰色 中砂混じりシルト(炭・1~2cm大の地山粘土偽礫を多量に含む)
  - 2 10YR3/1 黒褐色 粗砂混じりシルト(炭・1~3cm大の地山粘土偽礫・第6層偽礫を多量に含む)
- C-C'
- <4269 ピット>
- 1 10YR3/2 黒褐色 中砂混じりシルト(炭・細礫・1~3cm大の地山粘土偽礫を多量に含む)
  - 2 2.5Y5/1 黄灰色 中砂・粗砂混じりシルト(炭・細礫・1~3cm大の地山粘土偽礫を多量に含む)
  - 3 10YR3/1 黒褐色 中砂混じりシルト(2cm大の第6層偽礫を含む)
- D-D'
- <4212 ピット>
- 1 10YR4/1 褐灰色 粗砂・中砂混じりシルト(炭・1~2cm大のにぶい黄色シルト偽礫を多量に含む)
  - 2 10YR3/1 黒褐色 細砂・中砂混じりシルト(炭・1~2cm大の第6層偽礫を含む)
- E-E'
- <4216 ピット>
- 1 10YR4/1 褐灰色 中砂混じりシルト(炭・1cm大の粘土偽礫を含む。しまりなし) 柱痕跡
  - 2 10YR4/1 褐灰色 細砂混じりシルト(炭・2~5cm大の粘土偽礫を多量に含む)



第130図 掘立柱建物15 平・断面図



B-B'

〈4209ピット〉

- 1 10YR5/2 灰黄褐色 シルト混じり中砂～細砂
- 2 2.5Y4/1 黄灰色 中砂混じりシルト  
(炭・細礫・2cm大の地山粘土偽礫を含む)
- 3 2.5Y3/1 黒褐色 泥炭混じりシルト  
(炭・2～3cm大の第6層偽礫を含む)
- 4 2.5Y4/1 黄灰色 粗砂混じりシルト  
(炭・0.5cm大の地山粘土・第6層偽礫を含む)
- 5 2.5Y3/1 黒褐色 中砂混じりシルト  
(炭・1cm大の第6層偽礫(砂と泥炭)を含む)
- 6 10YR3/1 黒褐色 泥炭混じりシルト

〈4210ピット〉

- 1 10YR4/2 灰黄褐色 粗砂・極粗砂混じりシルト  
(炭・0.5～2cm大の地山粘土偽礫を多量に含む)
- 2 10YR7/6 明黄褐色 粗砂混じり粘土  
(灰を含む)
- 3 10YR4/1 褐灰色 中砂混じりシルト  
(炭・1～2cm大の灰黄褐色シルト・地山粘土偽礫を多量に含む)
- 4 2.5Y4/1 黄灰色 粗砂・極粗砂混じりシルト  
(炭・0.5cm大の地山粘土偽礫を含む)
- 5 2.5Y3/1 黒褐色 中砂混じりシルト  
(炭・2cm大の第6層偽礫を含む)

C-C'

〈4313ピット〉

- 1 10YR3/2 黒褐色 中砂混じりシルト  
(炭・0.5～2cm大の地山粘土および第6層偽礫を含む)

A-A'

〈4236ピット〉

- 1 10YR3/2 黒褐色 中砂混じりシルト  
(炭・1～5cm大の地山粘土偽礫を多量に含む)
- 2 10YR3/1 黒褐色 中砂混じりシルト  
(炭を含む)
- 3 10YR3/1 黒褐色 粗砂混じりシルト  
(炭・細礫・1cm大の地山粘土偽礫を含む)
- 4 7.5YR3/1 黒褐色 中砂混じりシルト  
(炭・細礫・2～3cm大の地山粘土偽礫・第6層偽礫を含む)
- 5 10YR3/2 黒褐色 シルト混じり中砂  
(2～3cm大の地山粘土偽礫を含む)

第131図 掘立柱建物16 平・断面図

各ピットから古代の須恵器、土師器の細片が出土したが、図化、時期比定できるものは無い。

#### 掘立柱建物 15 (第 125 ~ 128・130 図、PL.80)

4区北西部で検出した掘立柱建物である。長軸 55 ~ 71 cm、短軸 55 ~ 60 cm を測る不整円形及び楕円形のピット 4 基が直線的に並び、そのうち 2 基に礎盤石を伴うので掘立柱建物の柱列と判断した。

建物の大部分が調査区外へ続くため、建物構造や規模は明らかでない。検出できた柱列での柱間寸法は 1.4 ~ 1.8 m であった。また 4211 ピットと 4212 ピットは第 4-1 層下面、4269 ピットと 4216 ピットは第 4-2 層下面で検出しているため(第 125・126 図)、ピット個々の検出面からの深さは差異があり、浅いもので 28 cm (4269 ピット)、深いもので 51 cm (4211 ピット) を測る。

埋土は黒褐色または褐灰色の中砂・粗砂混じりシルトを主体とし、炭、第 4-2 層及び第 6 層偽礫を多量に含む。4216 ピットでは断面で柱痕跡を確認し、底面に直径 15 cm 程度の柱当たりが残っていた。また、4269 ピットには直径 20 cm 程度の礎盤石が残っており、礎盤石底部は荷重によって第 6 層に沈み込んでいた。

ピットから甗、ミニチュア土器が出土している。第 4-2 層を掘り込んで構築されているので、8 世紀前半頃の建物と考える。

#### 掘立柱建物 16 (第 125 ~ 128・131 図、PL.81)

4区北西部で検出した掘立柱建物である。長軸 65 ~ 73 cm、短軸 42 ~ 62 cm を測る不整円形及び楕円形のピット 3 基が直線的に並び、1 基に礎板を伴うことから掘立柱建物の柱列と判断した。

建物の大部分が調査区外へ続くため、建物構造や規模は明らかでない。検出できた柱列での柱間寸法は 4210 ピット - 4313 ピット間が 1.7 m で、4313 ピット - 4236 ピット間は 3.3 m を測るが本来中間にもう 1 基柱穴が存在すると想定される。4210 ピットは第 4-1 層下面、4236 ピットと 4313 ピットは第 4-3 層下面で検出しているため、ピット個々の検出面からの深さは差異があり、浅いもので 25 cm (4313 ピット)、深いもので 50 cm (4236 ピット) を測る。

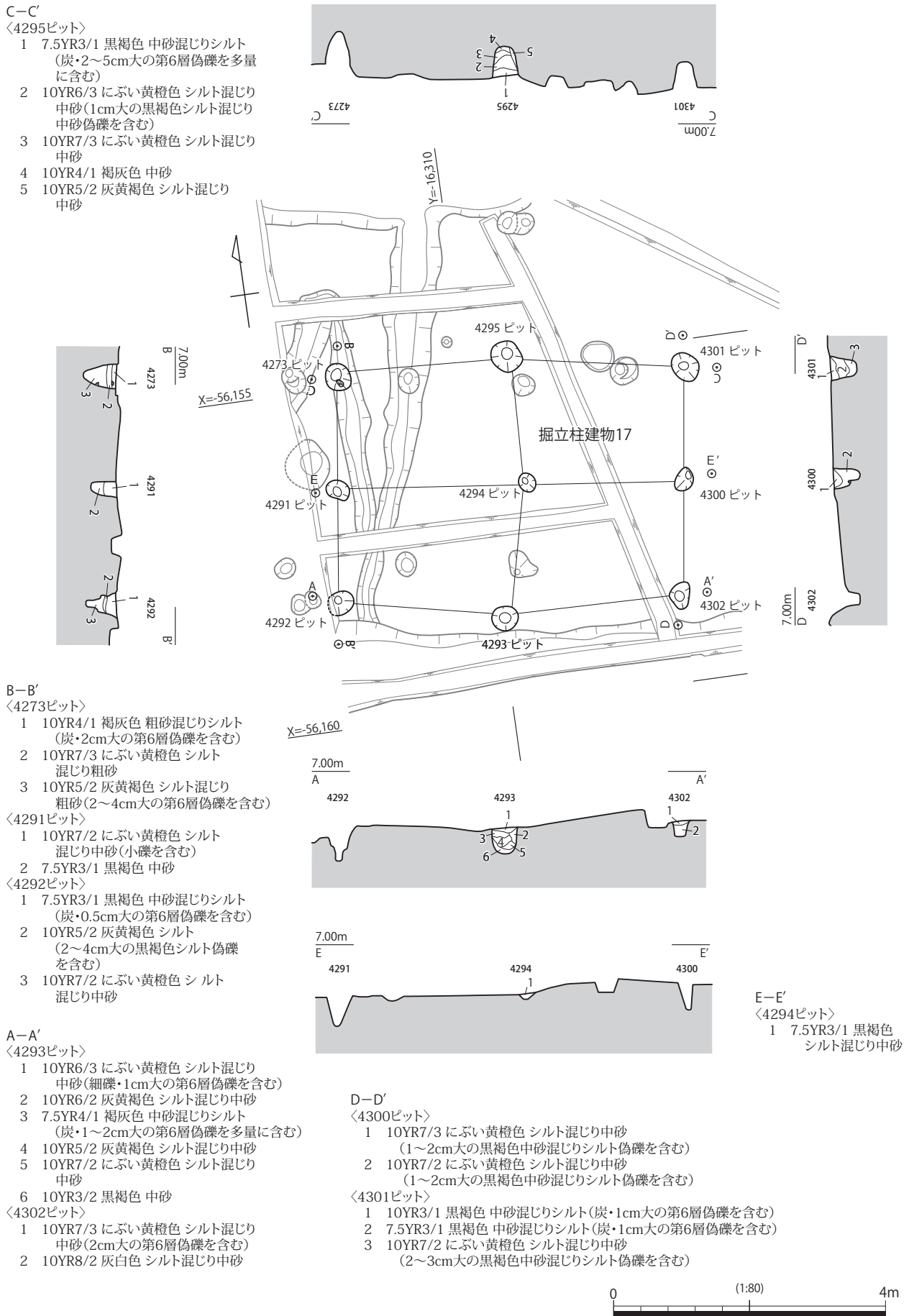
埋土は黒褐色または黄灰色の中砂・粗砂混じりシルトを主体とし、炭、第 4-2 層及び第 6 層偽礫を多量に含む。4210 ピットは隣り合う 4209 ピットと切っており、どちらの断面にも下部に柱痕跡、上部に柱抜取埋土と考えられる堆積が確認できた。4313 ピット底面付近で礎盤と見られる 20 × 16 cm の板材が出土している。

各ピットから古代の須恵器、土師器の細片が出土したが、図化、時期比定できるものは無い。第 4-2 層を掘り込んで構築されているので、8 世紀前半頃の建物と考える。ピット同士の切り合いはなく先後関係が不明ながら、重複する位置にあり同規模の柱穴及び柱間寸法をもつ掘立柱建物 15 とは建て替え関係にあると推測する。

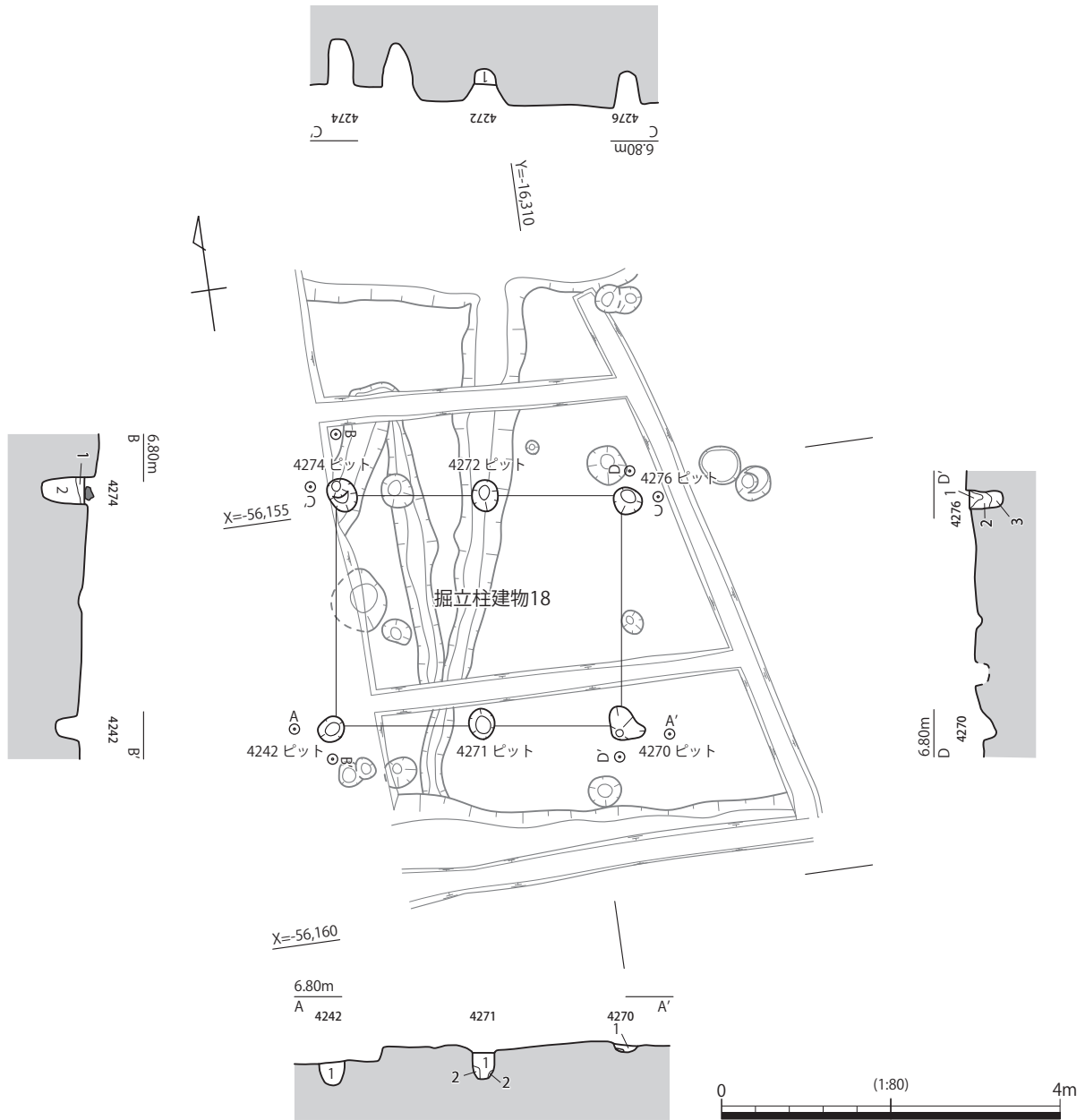
#### 掘立柱建物 17 (第 126・127・132 図、PL.82)

4区北西隅で検出した梁行 2 間 (3.4 m)、桁行 2 間 (5.2 m) の床東建物である。4292 ピットのみ第 4-2 層下面で検出し、他はすべて第 4-3 層下面で検出した。主軸方位は N-83°-W にとり、身舎の面積は 17.7 m<sup>2</sup> である。

平側中央の柱穴が南北に少し張り出すため柱筋の通りが良くないが、柱間寸法は梁行方向が 1.6 ~ 1.8 m、桁行方向が 2.5 ~ 2.6 m とほぼ揃う。側柱の柱穴は長軸 32 ~ 47 cm、短軸 25 ~ 41 cm、検出面からの深さは 39 ~ 52 cm を測る。建物の中央に長軸 29 cm、短軸 24 cm、深さ 15 cm のピットが

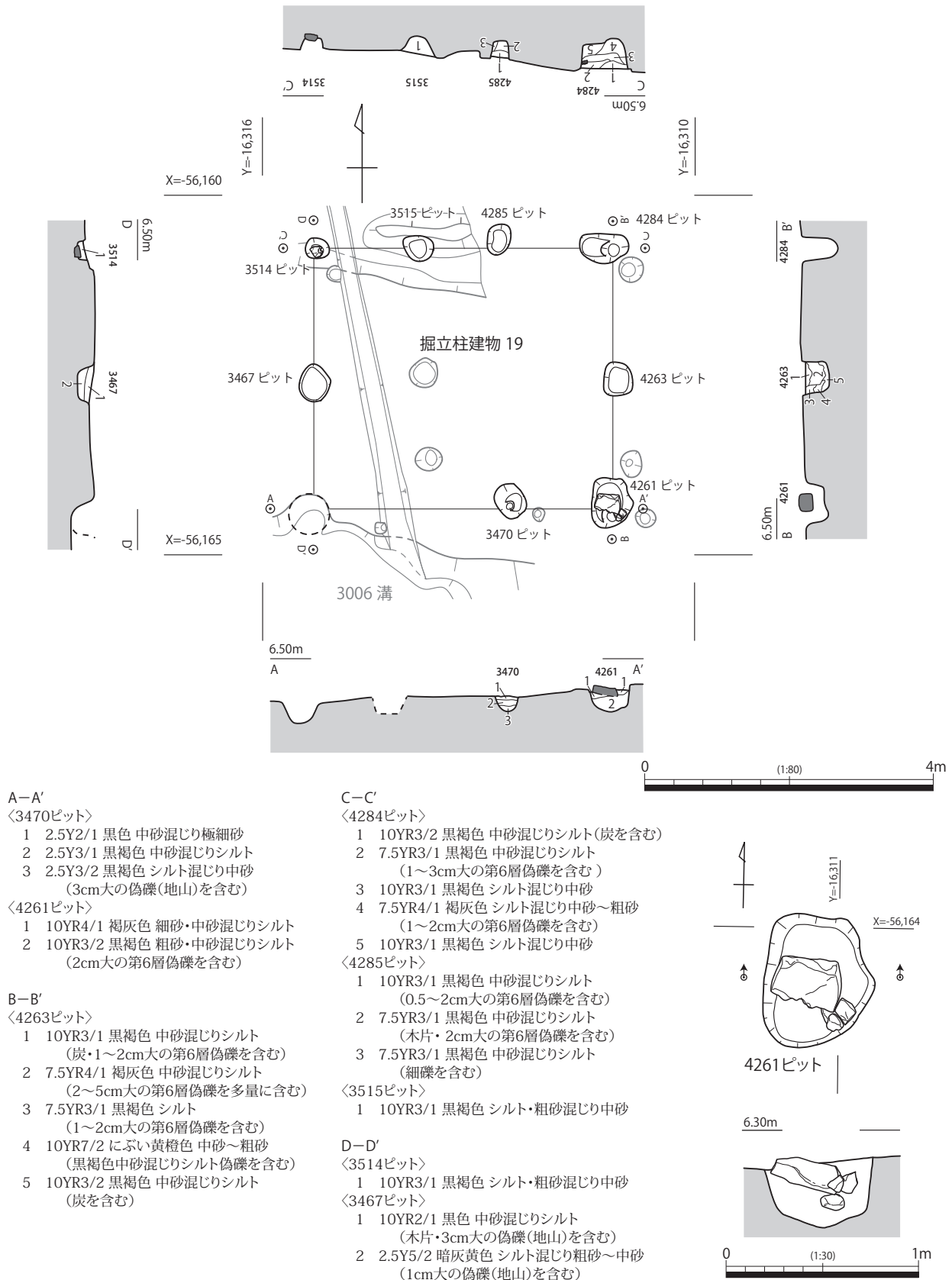


第 132 図 掘立柱建物 17 平・断面図



- A-A'  
 <4242ピット>  
 1 10YR3/1 黒褐色 シルト混じり中砂(炭を含む)  
 <4271ピット>  
 1 10YR3/1 黒褐色 中砂混じりシルト(炭を含む)  
 2 7.5YR3/1 黒褐色 シルト混じり粗砂  
 <4270ピット>  
 1 7.5YR3/1 黒褐色 中砂混じりシルト(泥炭質)  
 B-B'  
 <4274ピット>  
 1 2.5Y3/1 黒褐色 中砂混じりシルト  
 2 7.5YR3/1 黒褐色 シルト混じり粗砂~中砂(2cm大の第6層偽礫を含む)  
 C-C'  
 <4272ピット>  
 1 10YR3/2 黒褐色 中砂混じりシルト(1~2cm大の第6層偽礫を含む)  
 D-D'  
 <4276ピット>  
 1 10YR3/1 黒褐色 中砂混じりシルト(1~3cm大の地山粘土偽礫を含む)  
 2 10YR2/2 黒褐色 中砂混じりシルト(2~3cm大の第6層偽礫を含む)  
 3 10YR5/2 灰黄褐色 シルト混じり中砂~粗砂

第133図 掘立柱建物18 平・断面図



第134図 掘立柱建物19 平・断面図



存在し、柱穴規模から床束と考える。

埋土は特徴的で、一部黒褐色または灰黄褐色の中砂混じりシルトが間に入るが、にぶい黄橙色シルト混じり中砂～粗砂を主体とする。柱抜き取り後に柱穴を埋め戻したのであろう。

4273 ピットから古墳時代中期の甕（第 164 図 100）が出土しており、その頃の建物と考える。

**掘立柱建物 18（第 127・133 図、PL.83）**

4区北西隅、第4層掘り下げ中及び同層下面で検出した梁行1間（2.8m）、桁行2間（3.5m）の側柱建物である。掘立柱建物17とは先後関係にある。4274ピットは4357溝の底面で、4272ピットは4235溝の底面で検出した。主軸方位はN-83°-Wにとり、身舎の面積は9.8m<sup>2</sup>である。

柱間寸法は梁行方向が2.8m、桁行方向が1.6～1.8mである。柱穴は長軸32～41cm、短軸28～39cm、検出面からの深さは25～56cmを測る。

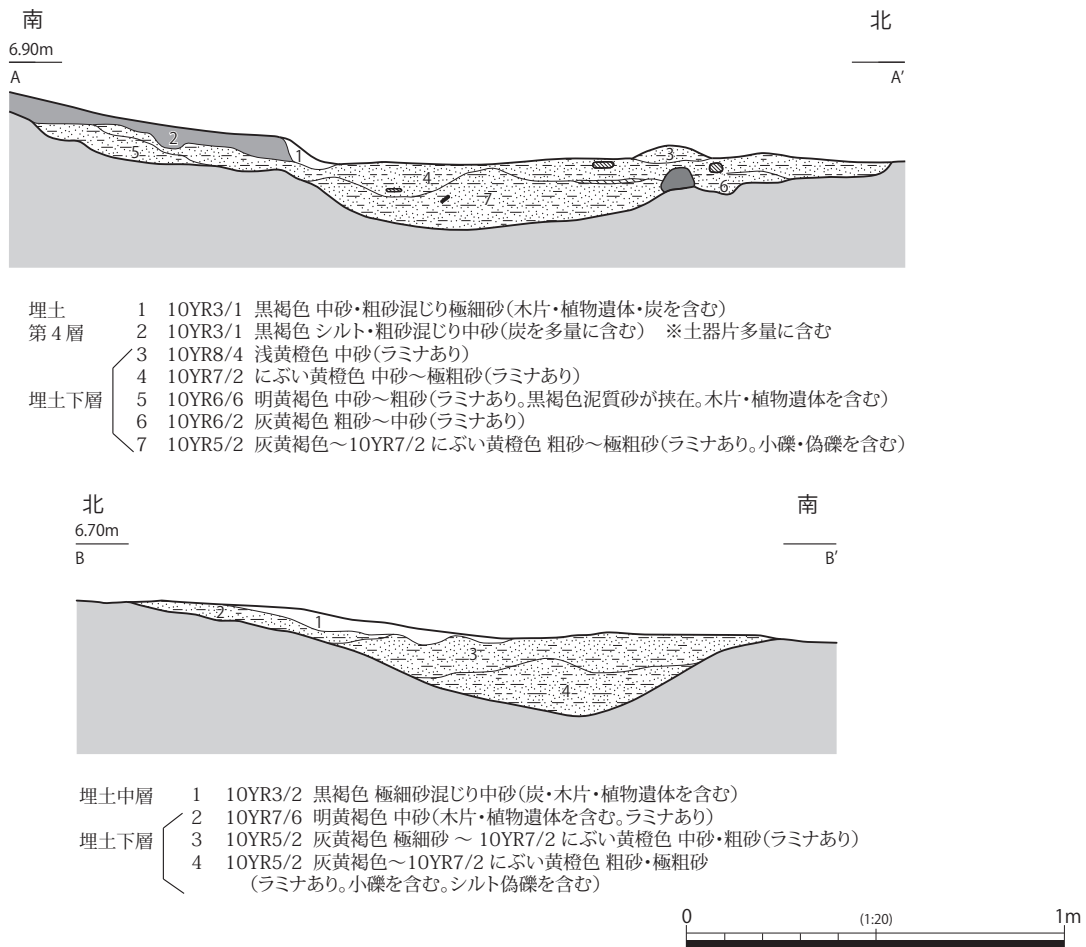
埋土は黒褐色の中砂混じりシルトを主体とする。柱痕跡などは認められなかった。

ピットから古墳時代中期の土師器小片が出土しており、その頃の建物と考える。

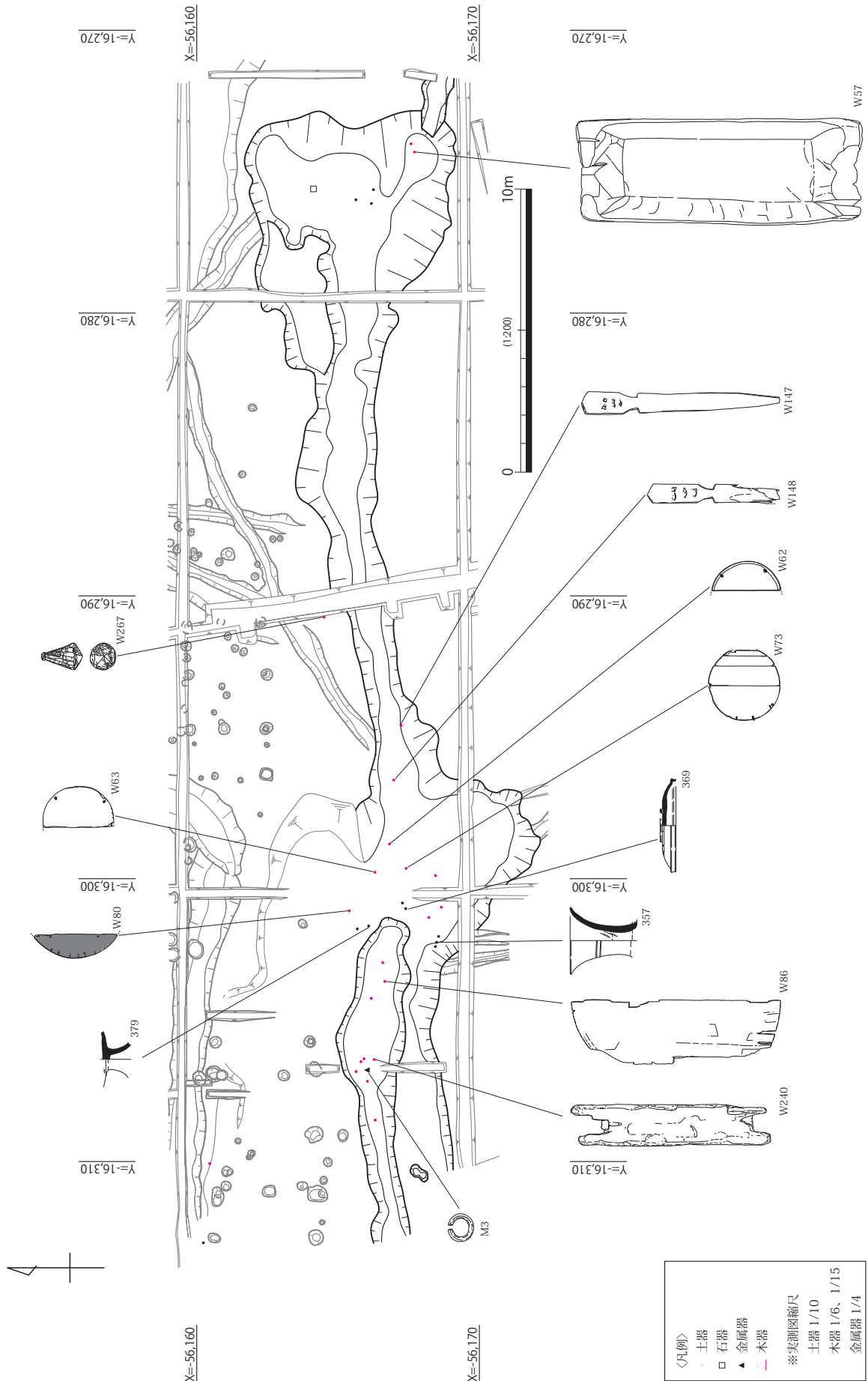
**掘立柱建物 19（第 127・128・134 図、PL.97）**

3区と4区に跨る位置で確認した梁行2間（3.7m）、桁行3間（4.2m）の側柱建物である。主軸方位はN-90°-Eで、東西方位にのる。身舎の面積は15.6m<sup>2</sup>である。

3区調査時は認識できなかったが、4区第4層下面で検出した4基のピットと組み合うピットが存在するため新たに認識した。なお、南西の隅柱となるピットは検出できていないが、3438流路北



第 135 図 4038 溝中～下層 断面図



第 136 図 4038 溝中～下層遺物出土位置図

側肩で不整円形のピット状に切れる箇所を3区調査時に確認、記録しており、建物南辺の柱筋の通りも悪くないので、その場所に柱穴が存在していたと判断した。4区のピットは第4-3層下面の4038溝底面で検出したが埋土に第4-2層に由来する偽礫なども含まれていることから、元はピットが分布する範囲まで整地が行われており、4038溝の再掘削で柱掘方上部がすべて削平されたと推測する。

柱間寸法は検出できた範囲で梁行方向が1.8～1.9 m、桁行方向が1.1～1.6 mである。建物を構成する柱穴は長軸33～69 cm、短軸33～57 cm、検出面からの深さは20～46 cmを測る。

埋土は木片や第6層偽礫を含む黒褐色の中砂・粗砂混じりシルトを主体とする。断面の観察で柱痕跡は認められず、4285ピット、4284ピット、4263ピットなどの堆積状況からすれば柱は抜き取られた可能性がある。3514ピット底面には20 cm大の礫が、4261ピットには底面から少し浮いた位置に40 cm大の礫が礎盤石として据え置かれていた。

4263ピットで7世紀後葉の須恵器坏身（第164図103）が出土しているが、前述のとおり柱掘方上部が削平されていると考えれば、8世紀以降の建物であろう。

#### 4038 溝中層～下層段階（第135・136図、PL.68～70）

4038 溝中層～下層段階は第4層によって盛土構築された南側肩を除去して検出した。そのため、溝の南肩は0.6～1 mほど南へずれる。一方、2C-7j～2D-7bグリッド付近では後の再掘削によって北側の肩が残っていない。

埋土中層は葉理の認められる灰黄褐色のシルト・極細砂混じり細砂～粗砂である。炭や木片、種皮、偽礫などを含む層が葉理の通る細砂～粗砂層と互層になっており、埋積の進行が進む時期もあったことが窺える。

埋土下層は葉理の認められるにぶい黄橙色または灰黄褐色の中砂～極粗砂で、流水によって運ばれた砂礫によって次第に埋積している。上部は層中に植物遺体や黒褐色泥質砂の薄層が挟在するため、埋土中層と同様に埋積が進んで流れが停滞した時期もあったと推測する。また、流心部分が第6層を侵食して一段低くなっており、その幅は0.9～2.4 mを測る。溝の肩から底面までの高低差は最大30 cmを測る。

埋土中層からは7世紀後葉～8世紀前半の須恵器、土師器、人形（第258図W147・148）などが出土した。埋土下層からは7世紀後葉～8世紀前半の須恵器、土師器、槽（第248図W57）、円形曲物蓋（第249図W58・62・63、第250図W73）、同底板（第251図W80）、楕円形曲物底板？（第252図W86）、斎串（第256図W124）、耳環（第279図M3）などが出土した（第136図）。

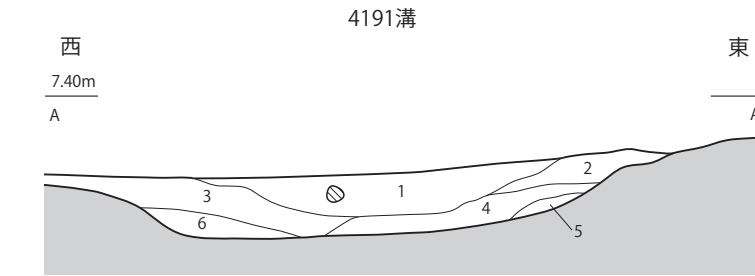
#### 4191 溝（第102・125・128・137図、PL.86～88）

4区北端中央で検出した溝である。主軸方位は北北西－南南東で、北側は調査区外へ続き、南側は4221溝と繋がる。検出した範囲で長さ7.8 m、幅1～1.8 m、検出面からの深さは20 cmを測る。埋土は6層に分かれ、黒褐色の細砂混じりシルト～極細砂、部分的に葉理が認められる暗灰黄色極細砂混じり細砂～中砂を主体とする。

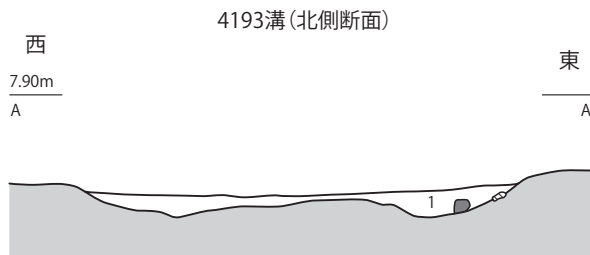
埋土中から7世紀後葉～8世紀前半の須恵器、土師器のほか、木錘（第243図W20）、火鑽臼（第263図W190）、部材（第266図W210第26図W222）、把手（第275図W279）が出土した。

#### 4192 溝（第102・125・137図、PL.86～88）

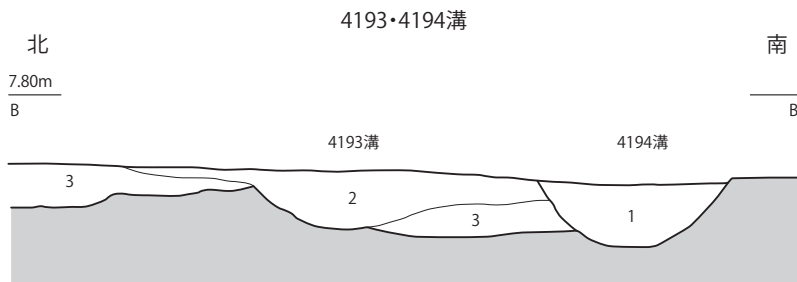
4区北端中央で検出した溝で、北側の肩が調査区外にあるため幅は不明である。西側は4191溝に切られ、南東部で4193溝と繋がる。主軸方位は西北西－東南東で、検出できた範囲で長さ9.6 m、



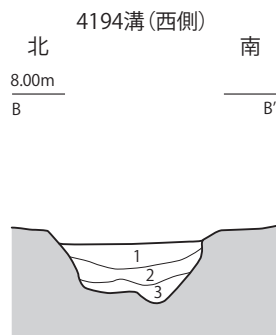
- 1 10YR3/1 黒褐色 細砂～粗砂混じり極細砂(木片・植物遺体・炭を含む)
- 2 10YR5/1 褐灰色 粗砂混じり中砂(炭を含む)
- 3 2.5Y3/1 黒褐色 細砂混じりシルト
- 4 2.5Y5/2 暗灰黄色 極細砂混じり細砂～中砂(部分的にラミナあり)
- 5 2.5Y6/2 灰黄色 細砂～中砂
- 6 2.5Y3/1 黒褐色 中砂混じりシルト



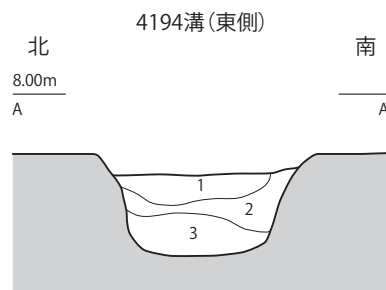
- 1 10YR2/2 黒褐色 細砂混じりシルト(泥質。炭・0.5cm大の第6層偽礫を含む)



- <4194溝>
- 1 7.5YR3/2 黒褐色 シルト混じり中砂(炭・木片・植物遺体・細礫・1cm大の第6層偽礫を含む)
- <4193溝>
- 2 10YR2/2 黒褐色 細砂混じりシルト(泥質。炭・2～5cm大の第6層偽礫を含む)
  - 3 7.5YR2/2 黒褐色 シルト混じり細砂～中砂(泥質。炭・0.5～5cm大の第6層偽礫を含む)



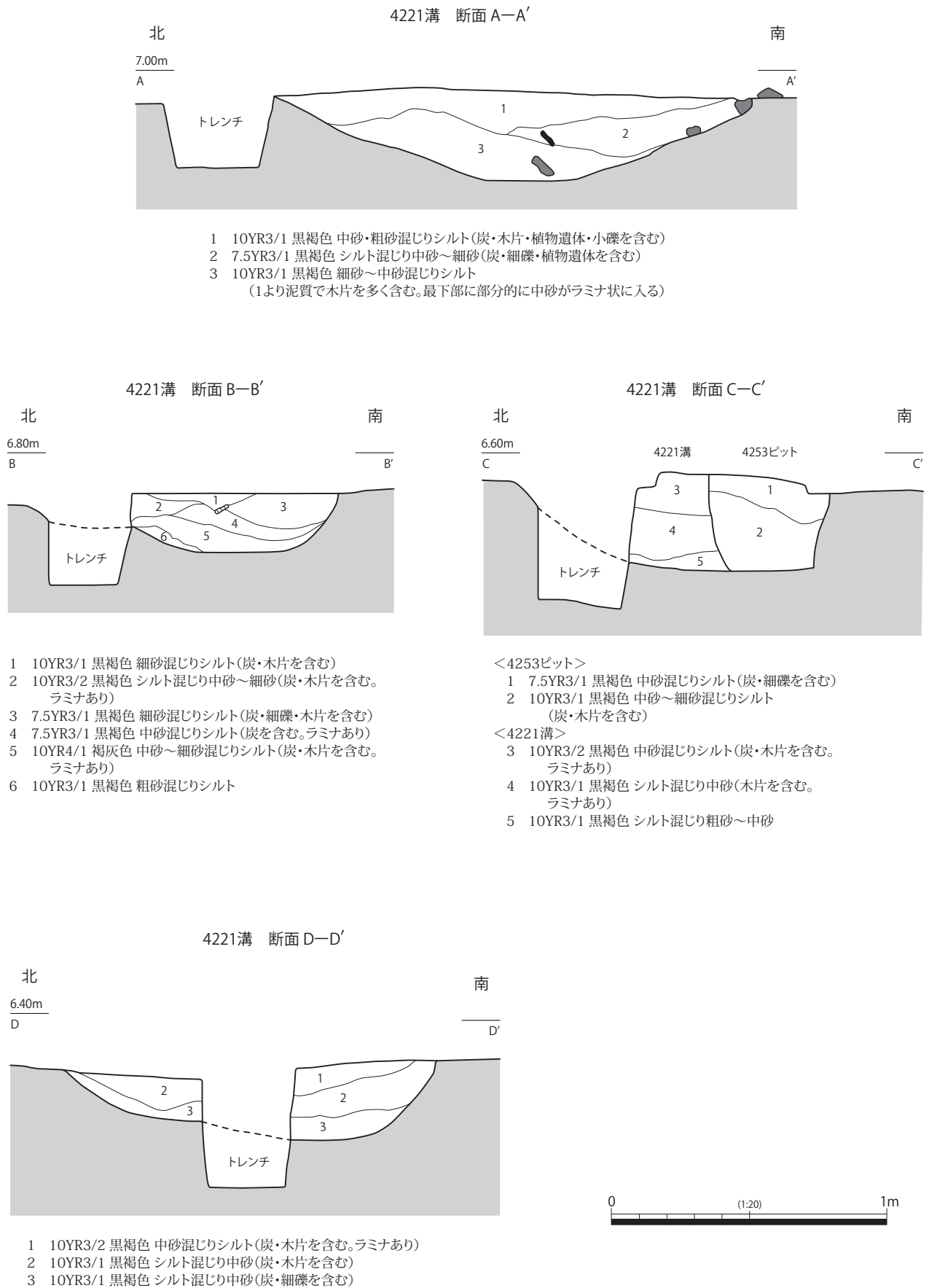
- 1 10YR3/2 黒褐色 シルト混じり中砂  
(炭・1cm大の第6層偽礫・木片を含む)
- 2 10YR7/2 にぶい黄橙色 中砂
- 3 10YR4/2 灰黄褐色 シルト混じり中砂  
(木片・1cm大の第6層偽礫を含む)



- 1 7.5YR3/1 黒褐色 シルト混じり中砂～粗砂  
(炭・1～5cm大の第6層偽礫を含む)
- 2 7.5YR2/1 黒色 シルト(泥質。壁面付近に中砂が流入)
- 3 10YR3/1 黒褐色 シルト混じり中砂  
(炭・1cm大の第6層偽礫・木片を含む)



第137図 4191・4193・4194溝 断面図



第138図 4221溝 断面図

幅2.8 m、検出面からの深さ20 cmを測る。埋土は4193溝と同じく泥質で黒褐色の細砂混じりシルトである。

埋土から古墳時代中期の土師器とともに7世紀後葉の須恵器が出土している。木製品も槽（第248図W56）、斎串（第255図W119）、馬形（第260図W171）、火鑽臼（第263図W192）、案（第265図W203）、建築材？（第266図W218）、部材（第274図W261）が出土した。

**4193溝（第102・125・137図、PL.84）**

4区中央北側で検出した溝で、4192溝から分岐して南西に延び、南端は4194溝に切られる。検出した長さ6 m、幅1.1～1.5 m、検出面からの深さ17 cmを測る。埋土は第6層偽礫を含む泥質の黒褐色細砂混じりシルトを主体とする。7世紀後葉の須恵器や木錘（第243図W18）、斎串？（第256図W133）が出土した。

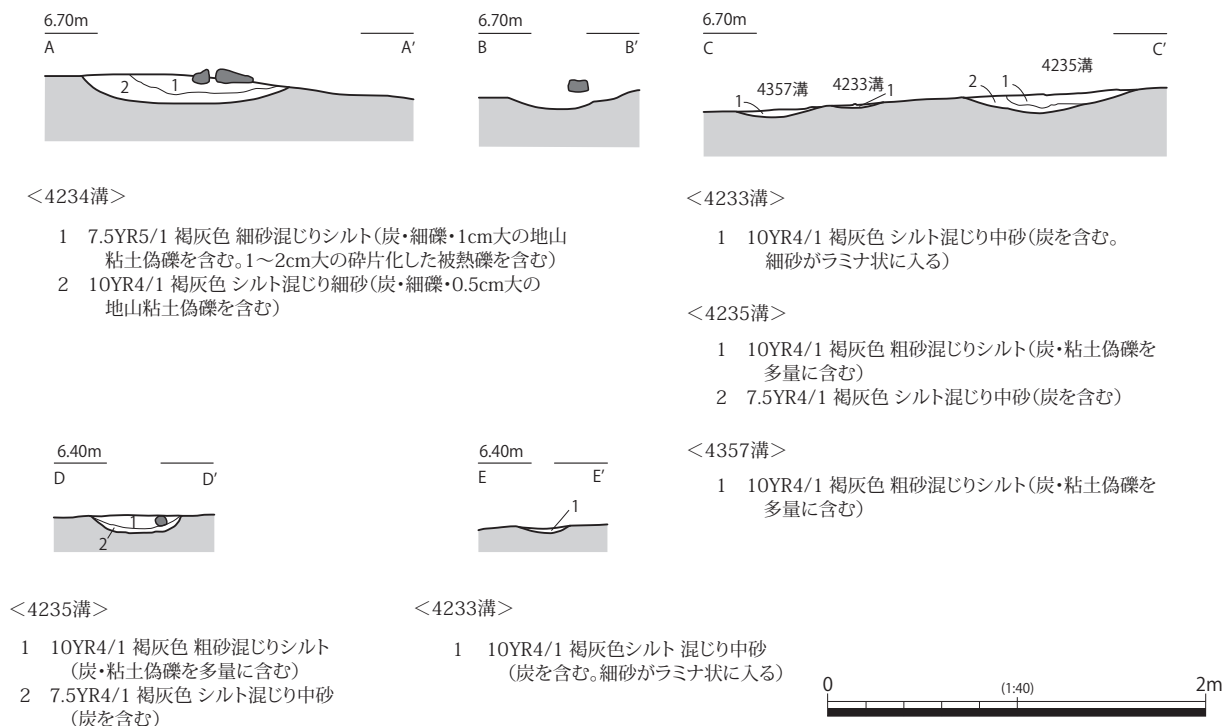
**4194溝（第102・125・128・137図、PL.84）**

4区中央北側で検出した溝である。主軸方位は北東－南西にとり、検出した長さ15.4 m、幅40～80 cm、検出面からの深さ28 cmを測る。4193溝を切り、南西側で4038溝に繋がる。4193溝との切り合い部分周辺を除き埋土は3層に分かれ、炭、木片、植物遺体を含む黒褐色シルト混じり中砂を主体とする。

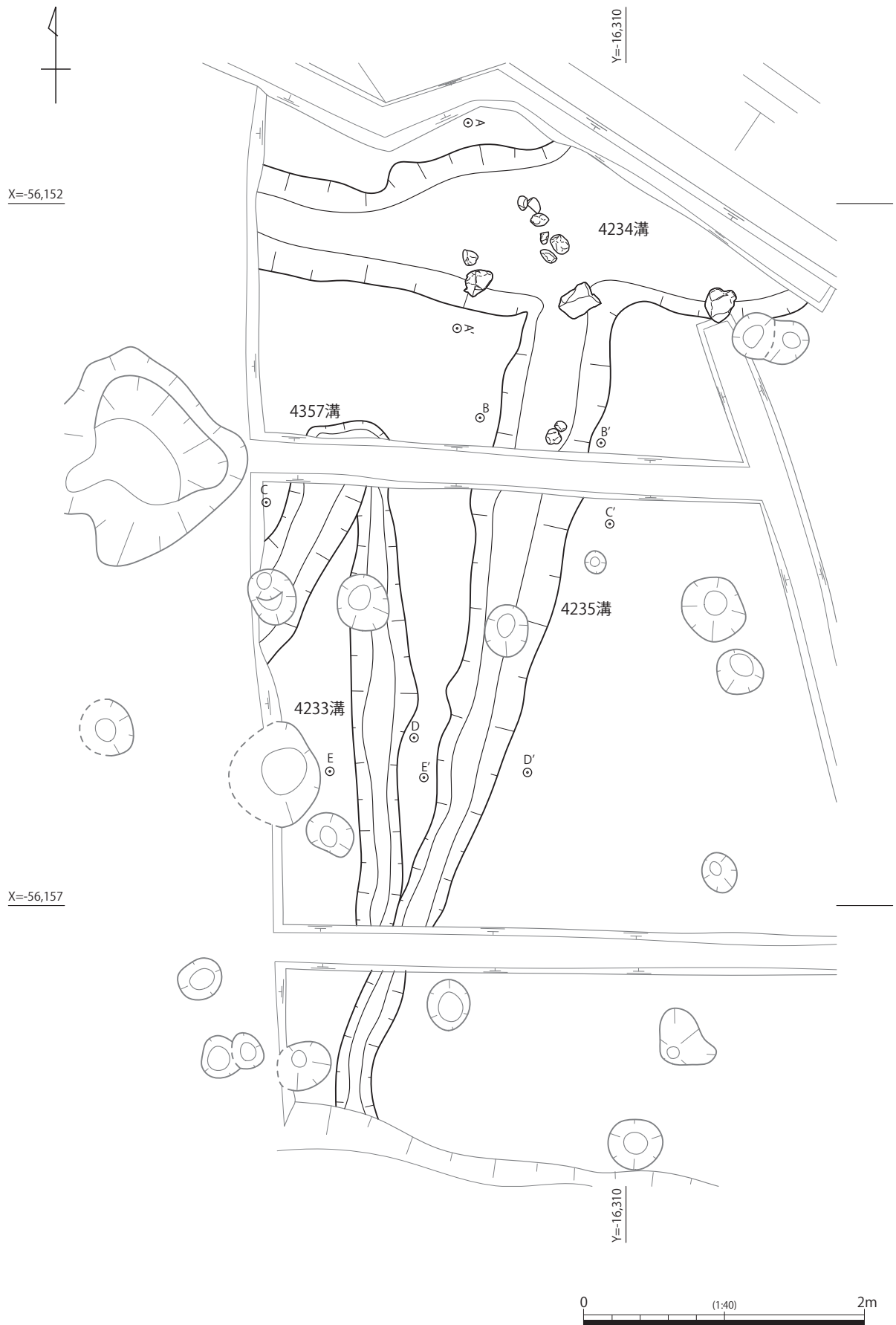
7世紀末～8世紀初頭の須恵器、土師器とともに留針（第246図W38）、蓋板（第253図W90）、馬形（第260図W166）、剣形（第261図W182）、棒材（第266図W215）が出土した。

**4356溝（第102・125・128図、PL.84）**

4区中央北側で検出した溝である。主軸方位は北北東－南南西にとり、検出した長さ6 m、幅20～70 cm、検出面からの深さ5～12 cmを測る。4194溝に切られる。埋土は4193溝と同様で、泥質の黒褐色細砂混じりシルトを主体とする。遺物は出土していない。



第139図 4233～4235・4357溝 断面図



第140図 4233～4235・4357溝 平面図

**4221 溝 (第 102・126・128・138 図、PL.85～88)**

4区西端中央で検出した溝で、東南東－西北西を主軸方位とし直線的に延びる。検出した長さ13.6 m、幅1.1～2 m、検出面からの深さ32 cmを測る。東端で4191溝に切られる。また、延長方向で検出した3区3474溝は同一の溝と考える。埋土は3～6層に分かれ、炭や木片を含む黒褐色の中砂・細砂混じりシルトを主体とする。全体的に泥質な堆積であるが、部分的に葉理も認められる。

埋土から7世紀末～8世紀初頭の須恵器、土師器と砥石(第236図S38)、木錘(第243図W19)、斎串(第257図W143)、馬形?(第261図W175・176)、不明木製品(第273図W247、第276図W287)が出土した。

**4233～4235・4357 溝 (第 126・128・139・140 図、PL.86・88)**

4区北西部で検出した溝群である。4234溝は東西方向に主軸をとり、中央部で4235溝が分岐して南南西へ延びる。4235溝の西側に位置する4357溝と4233溝は北端で切り合い、それぞれ南西、南南東へ延びる。4233溝は4235溝に切られる。

4234溝は検出長4 m、幅0.6～1.2 m、検出面からの深さ16 cmを測る。被熱した拳大～人頭大の礫が検出面で出土した。4235溝は検出長5.9 m、幅24～80 cm、検出面からの深さ10 cmを測る。4234溝と同じく被熱した礫が検出面で出土した。4357溝は検出長1.9 m、幅44～56 cm、検出面からの深さ5 cmを測る。4233溝は検出長3.1 m、幅24～48 cm、検出面からの深さ3 cmを測る。埋土はいずれも炭や粘土偽礫を含む褐灰色シルト混じり中砂～細砂を主体とし、一連のものか。

出土した古代の須恵器、土師器は細片で時期比定はできないが、第4-2層下面で検出しており8世紀頃の溝と考える。

**4286 流路 (第 102・127・141 図、PL.93)**

4区北東部で検出した流路である。調査区北東部の壁に亀裂が入り崩落の恐れがあったため、該当範囲の掘削を中止したので全体を検出できていない。

主軸方位は東南東－西北西にとり、検出できた範囲で長さ13 m、幅2.8 m以上、検出面からの深さ5～12 cmを測る。埋土は3層に分かれ、葉理の認められる黄灰色または灰色の中砂～粗砂を主体とする。埋土から8世紀中葉の長頸壺(第195図627)が出土した。

**4290 溝 (第 102・127・141 図、PL.87・88)**

4区北東部で検出した溝で、主軸方位は北西－南東、南側は4038溝と切り合い関係にあり北側は調査区外へと続く。検出した範囲で長さ10.6 m、幅0.6～1.6 m、深さは24 cmを測る。埋土は3層に分かれたが大きくは黒褐色の泥炭・シルト混じり中砂と、その下位に葉理が認められる灰黄褐色または黄灰色の粗砂～中砂の2つに大別できる。断面Bラインによれば、溝は第4-4層を掘り込んで形成されている。埋土から古代の土師器甕が出土している。

**4325 流路 (第 102・127・141 図、PL.93)**

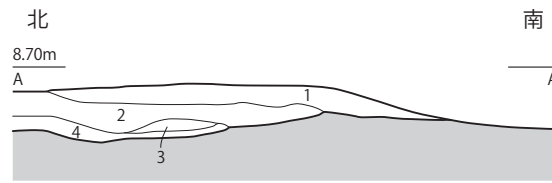
樹根が張り出す4038溝南東部に向かって第6層を侵食しながら注ぎ込む流路で、4038溝とは一連のものである。主軸方位は東南東－西北西で、検出長4.2 m、幅0.7～1.2 m、検出面からの深さ12～32 cmを測る。埋土は葉理が認められる黒褐色中砂混じりシルトを主体とする。埋土から古代の土師器皿(第178図335)、須恵器小片が出土している。

**4164 炉跡 (第 125・128・142 図、PL.90)**

4区中央部で約50 cm四方に広がる炭の集積を検出し、その下部に基盤層となる第6層が被熱、

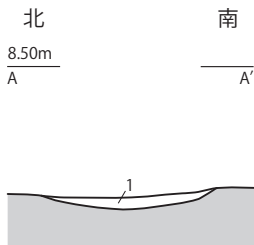


4286流路 断面図



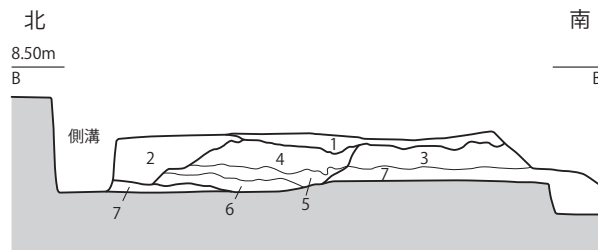
- 1 10YR3/2 黒褐色 中砂・粗砂混じり泥炭(植物遺体を含む) 第3層相当
- 2 2.5Y5/1 黄灰色 中砂～粗砂(ラミナあり)
- 3 2.5Y5/1 黄灰色 シルト混じり粗砂～極粗砂(ラミナあり)
- 4 5YR4/1 灰色 粗砂～中砂(ラミナあり)

4290溝 断面A-A'



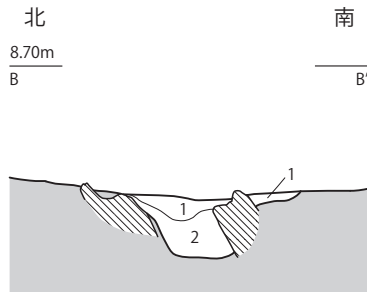
- 1 7.5YR3/1 黒褐色 中砂混じりシルト (0.5cm大の第6層偽礫を含む)

4290溝 断面B-B'



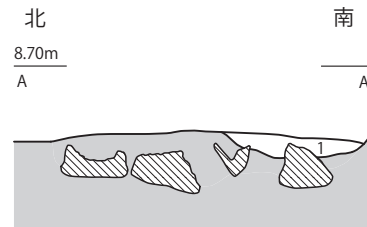
- 第4層 { 1 7.5YR3/1 黒褐色 細砂・中砂混じりシルト (炭・植物遺体・木片を含む)
- 2 10YR3/1 黒褐色 中砂混じりシルト (炭・植物遺体・木片・中礫を含む)
- 第4-4層 3 7.5YR2/2 黒褐色 中砂混じり泥炭 (植物遺体・木片・小礫を含む)
- 4 10YR3/1 黒褐色 泥炭・シルト混じり中砂 (植物遺体・木片を含む)
- 4290溝 { 5 10YR5/2 灰黄褐色 中砂(ラミナあり)
- 6 2.5Y5/1 黄灰色 粗砂～中砂(ラミナあり)
- 第5層 7 10YR7/2 にぶい黄橙色 極細砂～10YR6/3 にぶい黄橙色 中砂 自然堆積層

4325流路 断面B-B'



- 1 7.5YR3/1 黒褐色 中砂混じりシルト (部分的に中砂のラミナあり)
- 2 10YR5/2 灰黄褐色 中砂～粗砂(黒褐色シルト層が部分的に挟在)

4325流路 断面A-A'



- 1 7.5YR3/1 黒褐色 中砂混じりシルト (部分的に中砂のラミナあり)



第141図 4286流路・4290溝・4325流路 断面図

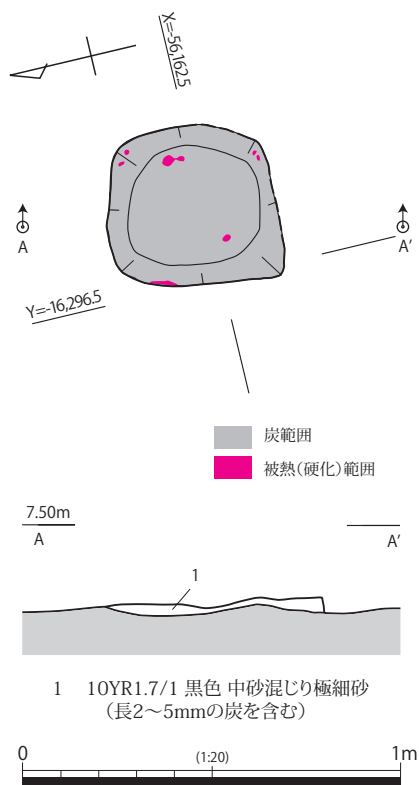
硬化した部分が認められたため炉跡と判断した。

炉跡は長軸 46 cm、短軸 44 cm の歪な隅丸正方形を呈し、検出面から底面まで深さは 3 cm である。長さ 2～5 mm の炭を含む黒色の中砂混じり極細砂が集積しており、主に炉の外縁部で黒褐色に被熱・変色、硬化した箇所が点在するが、面的ではなく焼け方も弱い。炉底面の中央には顕著な被熱痕跡は認められない。遺物は出土していない。

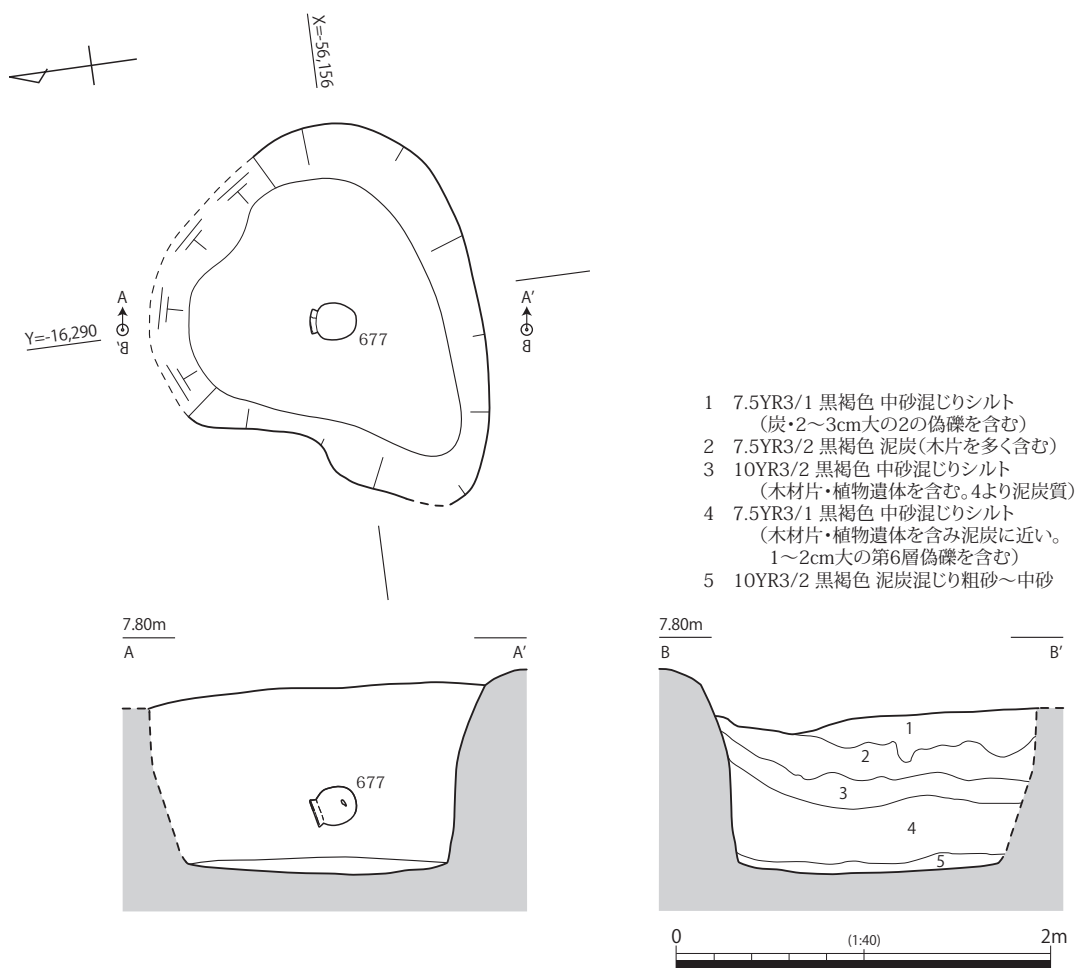
**4317 井戸 (第 127・143 図、PL.91)**

4区北端中央で検出した井戸で、長軸 2.2 m、短軸 1.8 m の歪な楕円形を呈し、検出面からの深さは 1.1 m を測る。北側の一部は調査区北壁にかかっており、安全勾配を確保したうえでの拡張、掘り下げが困難であったため検出できていない。埋土は黒褐色の中砂混じりシルトを主体とし、全体的に植物遺体を多く含む泥炭質である。

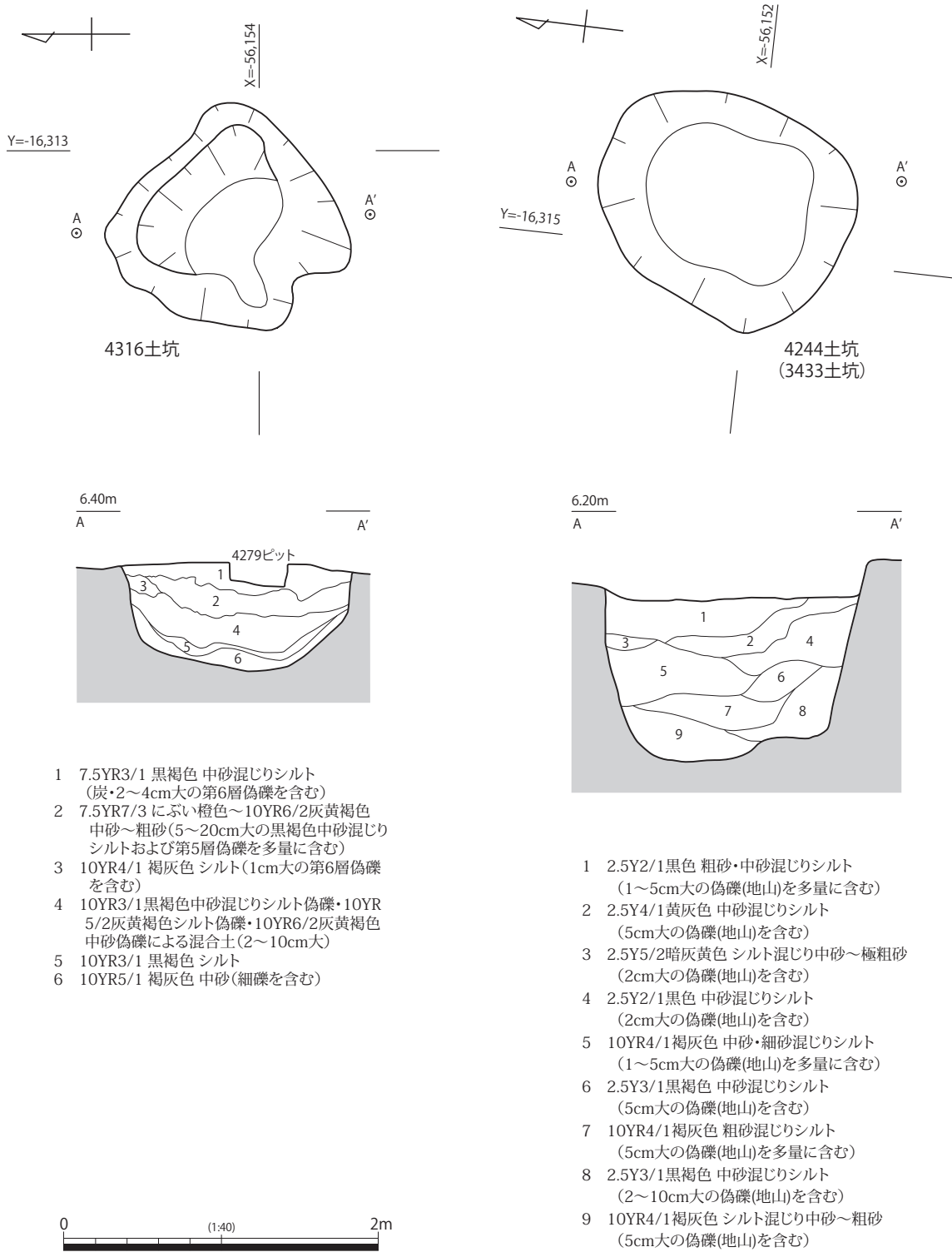
埋土中から古墳時代前期末葉の甕が出土した。口縁を打ち欠き、胴部穿孔された甕で、井戸祭祀に関わるものと考え。土師器甕 (第 201 図 679) は当遺構上部を切る 4192 溝からの混



第 142 図 4164 炉跡 平・断面図



第 143 図 4317 井戸 平・断面図



- 1 7.5YR3/1 黒褐色 中砂混じりシルト  
(炭・2~4cm大の第6層偽礫を含む)
- 2 7.5YR7/3 にぶい 褐色~10YR6/2 灰黄褐色  
中砂~粗砂(5~20cm大の黒褐色中砂混じり  
シルトおよび第5層偽礫を多量に含む)
- 3 10YR4/1 褐灰色 シルト(1cm大の第6層偽礫  
を含む)
- 4 10YR3/1 黒褐色 中砂混じりシルト偽礫・10YR  
5/2 灰黄褐色シルト偽礫・10YR6/2 灰黄褐色  
中砂偽礫による混合土(2~10cm大)
- 5 10YR3/1 黒褐色 シルト
- 6 10YR5/1 褐灰色 中砂(細礫を含む)

- 1 2.5Y2/1 黒色 粗砂・中砂混じりシルト  
(1~5cm大の偽礫(地山)を多量に含む)
- 2 2.5Y4/1 黄灰色 中砂混じりシルト  
(5cm大の偽礫(地山)を含む)
- 3 2.5Y5/2 暗灰黄色 シルト混じり中砂~極粗砂  
(2cm大の偽礫(地山)を含む)
- 4 2.5Y2/1 黒色 中砂混じりシルト  
(2cm大の偽礫(地山)を含む)
- 5 10YR4/1 褐灰色 中砂・細砂混じりシルト  
(1~5cm大の偽礫(地山)を多量に含む)
- 6 2.5Y3/1 黒褐色 中砂混じりシルト  
(5cm大の偽礫(地山)を含む)
- 7 10YR4/1 褐灰色 粗砂混じりシルト  
(5cm大の偽礫(地山)を多量に含む)
- 8 2.5Y3/1 黒褐色 中砂混じりシルト  
(2~10cm大の偽礫(地山)を含む)
- 9 10YR4/1 褐灰色 シルト混じり中砂~粗砂  
(5cm大の偽礫(地山)を含む)

第144図 4316土坑・4244(3433)土坑 平・断面図

入であろう。

#### 4316 土坑 (第 127・144 図、PL.89)

4区北西隅の第4-2層下面で検出した長軸1.6m、短軸1.3mの歪な隅丸方形を呈す土坑で、検出面からの深さは64cmを測る。

埋土は6層に分かれ、黒褐色中砂混じりシルト、にぶい橙色または灰黄褐色の中砂～粗砂を主体とする。20cm以下の第6層偽礫を多量に含むことが特徴的で、埋土4層は偽礫による混合土となっている。このことから、土坑は埋め戻されたと推測する。

埋土から古墳時代の土師器甕の小片が出土した。

#### 4244 土坑 (3443 土坑) (第 102・127・144 図、PL.90)

3区と4区の調査区境北端に位置する。3区調査時に半截して断面の観察と記録を行い、4区調査時に残りを完掘した。

長軸1.6m、短軸1.4mの不整隅丸長方形を呈し、検出面からの深さは1.36mを測る。埋土は9層に分かれ、黒色または黒褐色の中砂混じりシルトと、黄灰色または褐灰色のシルト～粗砂の単位が南北方向から互層状に堆積している。本土坑は掘方が湧水層まで達しているため井戸の可能性が高く、最終的に埋め戻されたと考える。

埋土からは古墳時代中期頃の土師器片が出土しており、その頃の土坑であろう。

#### 第4層下面検出ピット (第 125～127・145～149 図、PL.94～97)

4042ピットは第4-1層下面で検出した長軸49cm、短軸48cm、深さ28cmを測るピットで、直径18cmを測る柱根が出土した。埋土1層は偽礫を含み、下層の2層は泥炭となる。

4135ピットは第4-1層下面で検出した直径37cm、深さ43cmのピットである。埋土1層はしまりがなく柱痕跡と考えられ、上部に拳大の礫を伴うが混入であろう。

2C-6jグリッドに位置するピットの多くが第6層であるにぶい黄橙色中砂を掘り込んで構築されており、色調的にその偽礫が識別しやすく、埋土に多量の偽礫が混入している状況が看取される。よって、それらは埋め戻された土であることがわかる。

4141ピットは第4-1層下面で検出した長軸50cm、短軸46cm以上、深さ41cmのピットで、直径15cmの柱根が残っていた。柱掘方埋土は黒褐色の中砂・粗砂混じりシルトと第6層（にぶい黄橙色中砂）偽礫の集積層が互層になっている。

4146ピットは第4-1層下面で検出した長軸52cm、短軸42cm、深さ16cmを測り、柱根が残る。埋土下半の2層は第6層を主体とし第4-1層の偽礫が混じる埋め戻し土である。

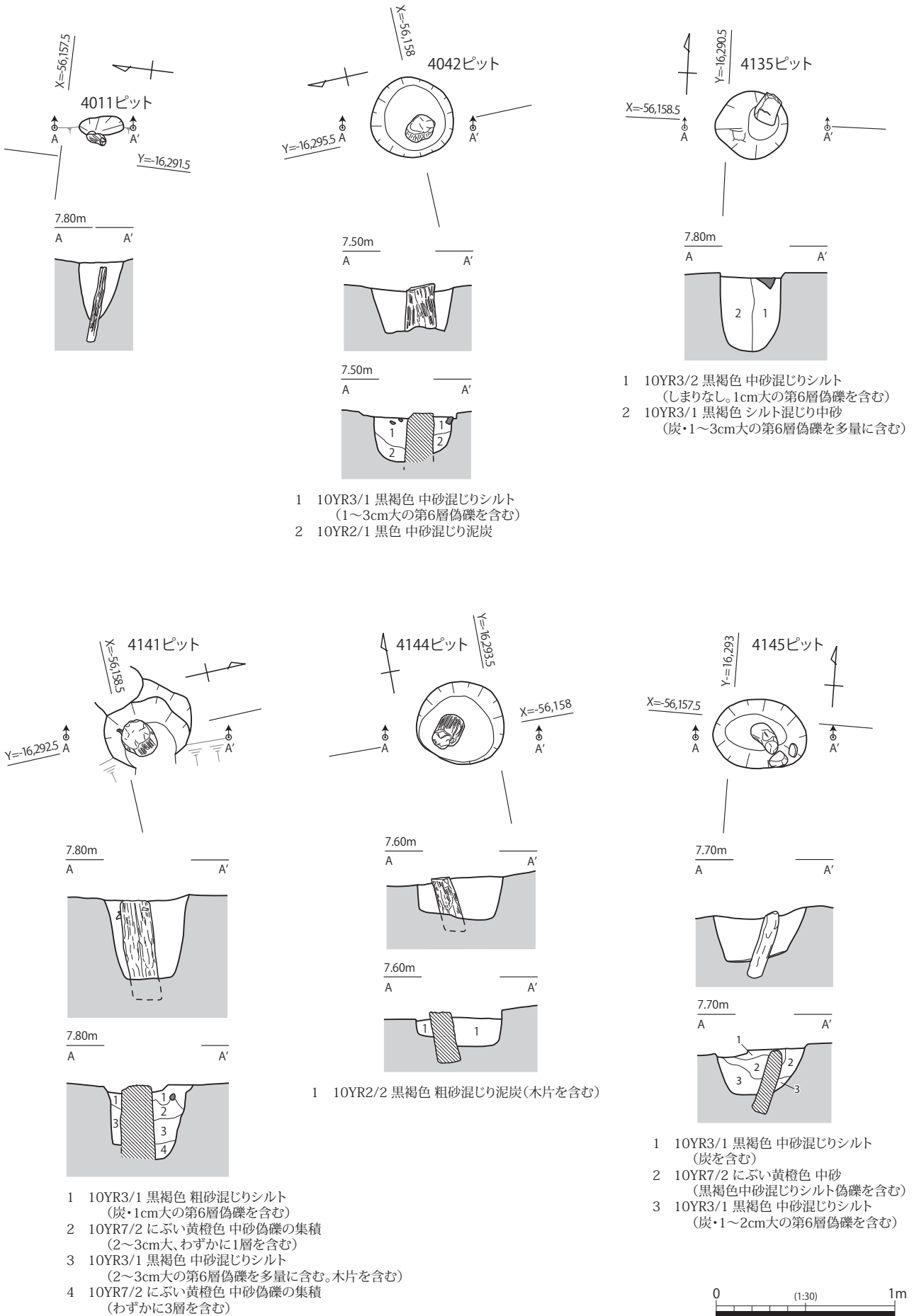
第4-1層下面で検出した4147ピット、4148ピット、4160ピット、4168ピット、4169ピット、4187ピット、4203ピットにも木材が残るが、直径10cm未満で概して細く、杭の可能性が高い。

4202ピットは第4-1層下面で検出した長軸59cm、短軸57cm、深さ32cmを測るピットで、直径15cmの柱根とその根元に礎盤石が残っていた。

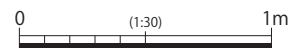
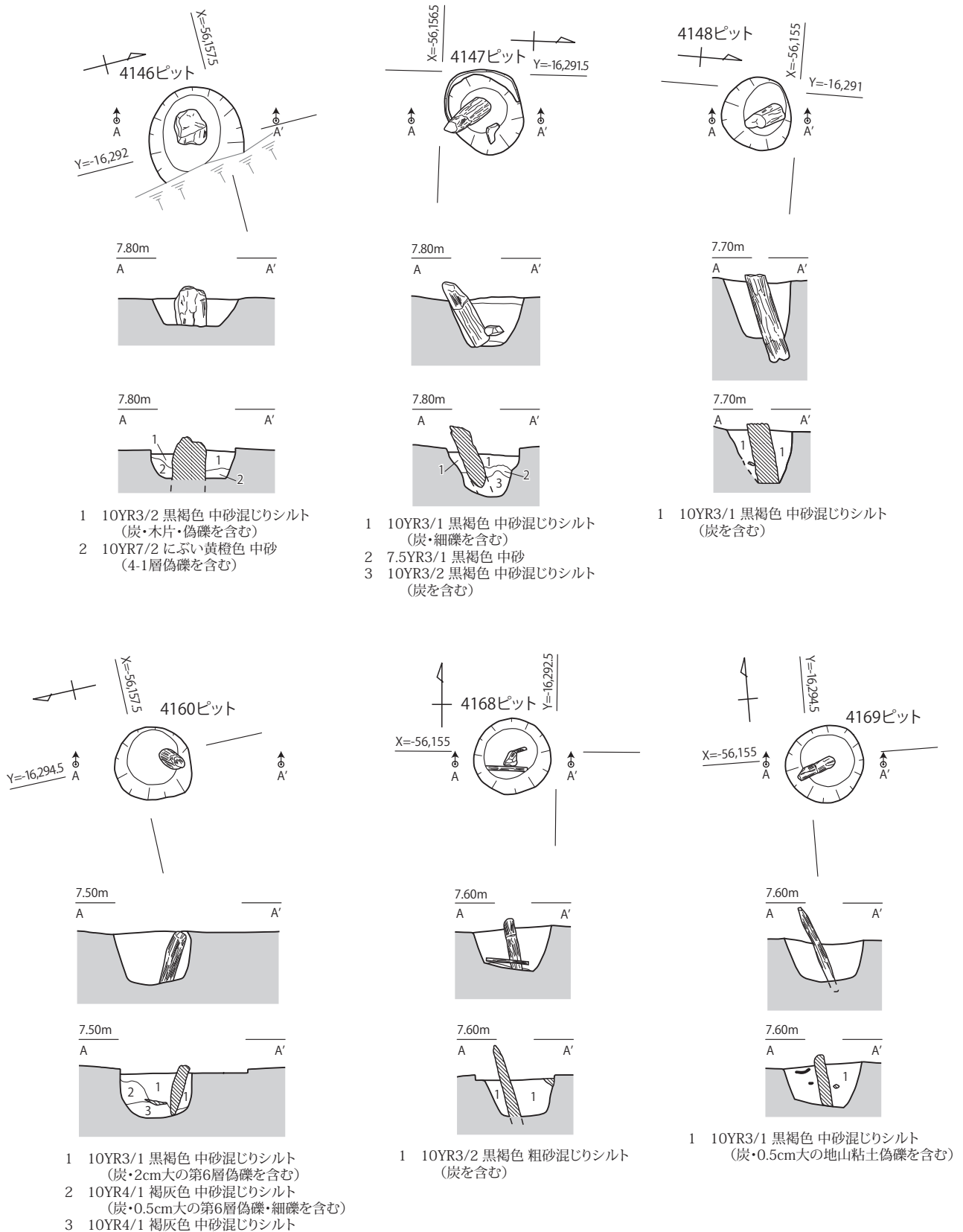
4204ピットは第4-1層下面で検出した長軸57cm、短軸49cm以上、深さ59cmを測るピットで、埋土1～4層は柱痕跡と考える。人頭大の礫が埋土中位で出土しているが、位置的に根石や礎盤石とは考えにくい。

4206ピットは第4-2層下面で検出した長軸44cm、短軸38cm、深さ31cmのピットで、直径15cmの柱根が残っており、底部は10cm程度沈下していた。

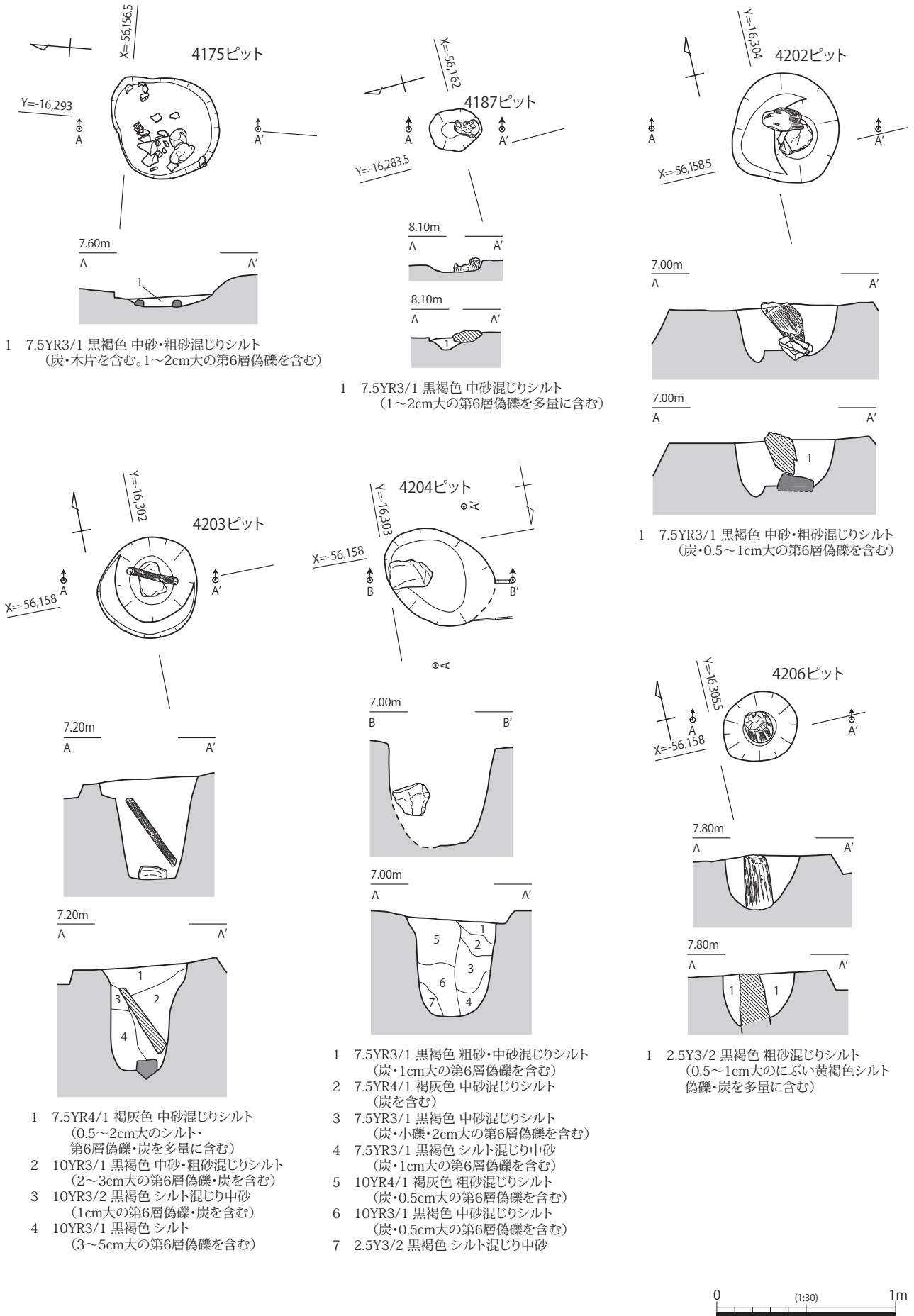
第VI章 3区・4区の調査成果



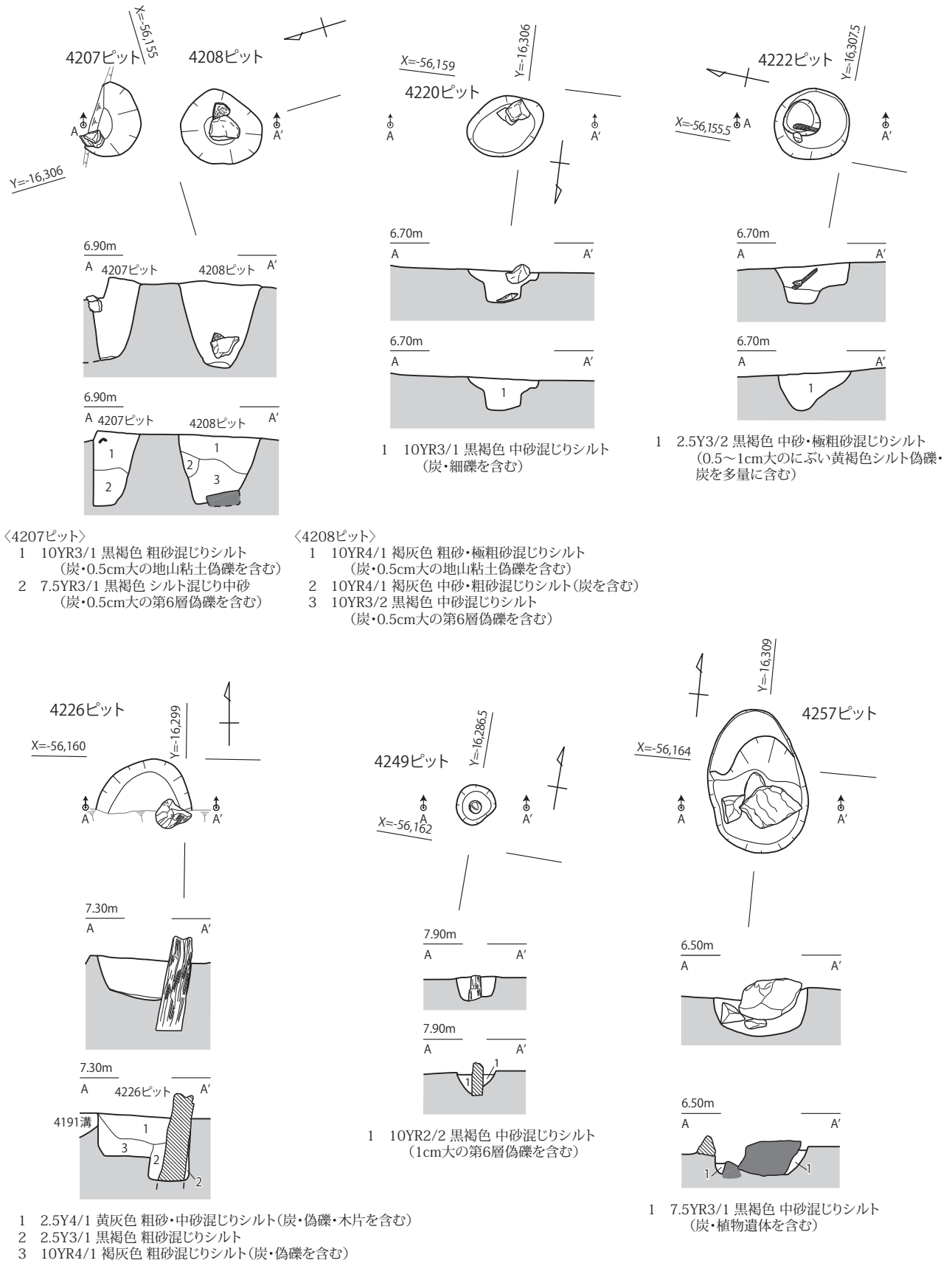
第145図 4区第4層下面ピット 平・断面図(1)



第 146 図 4区第4層下面ピット 平・断面図 (2)



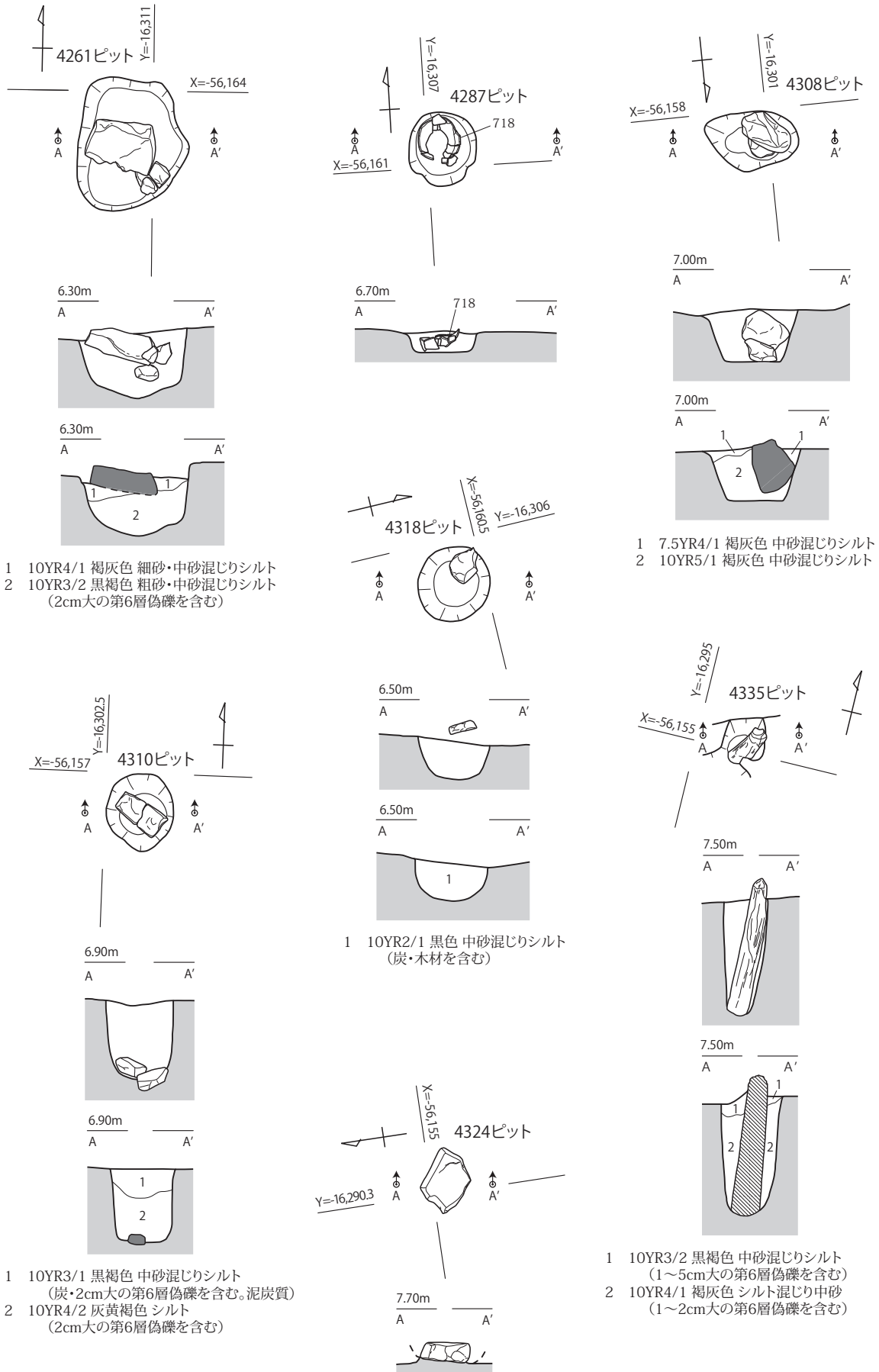
第147図 4区第4層下面ピット 平・断面図(3)



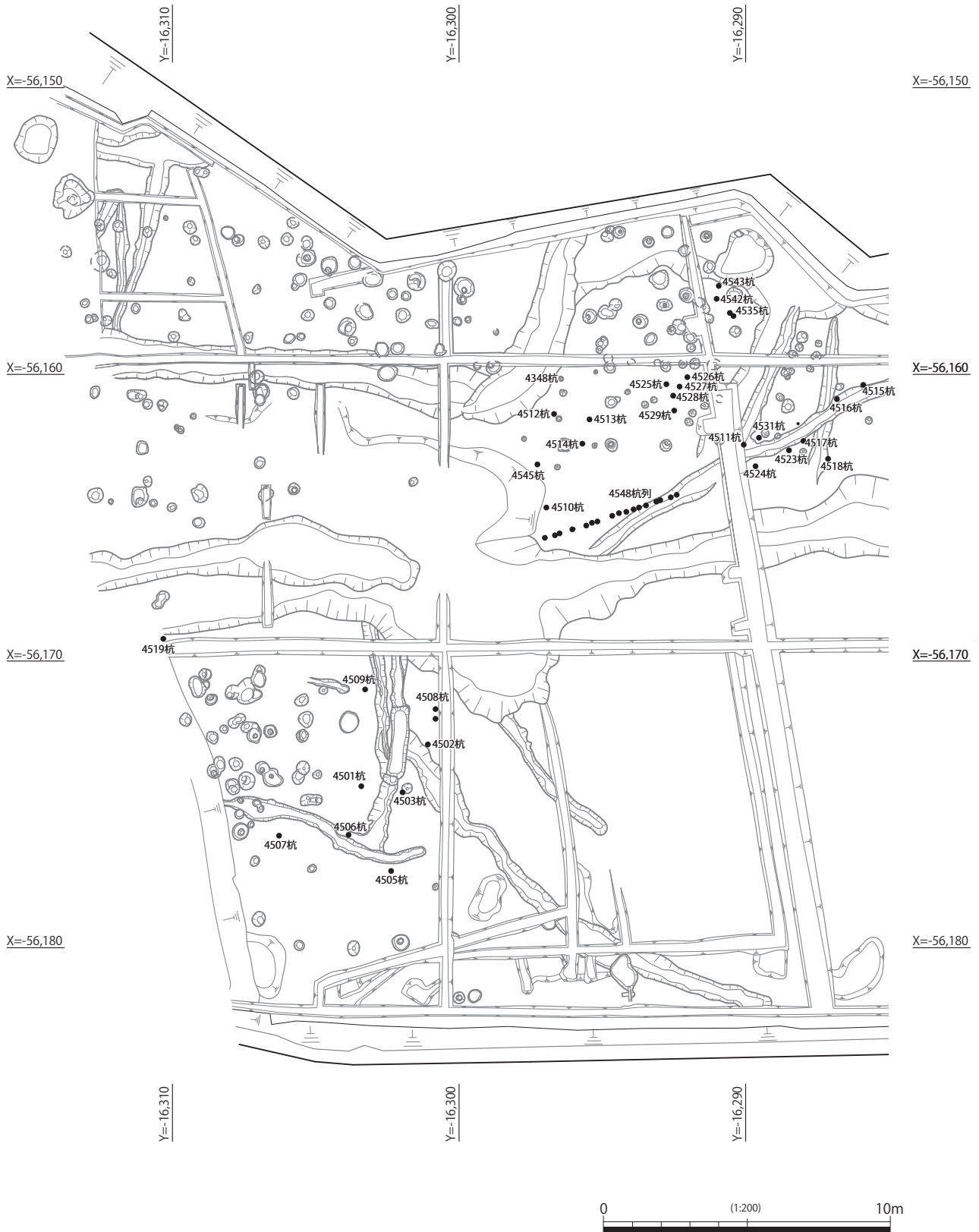
第148図 4区第4層下面ピット 平・断面図(4)



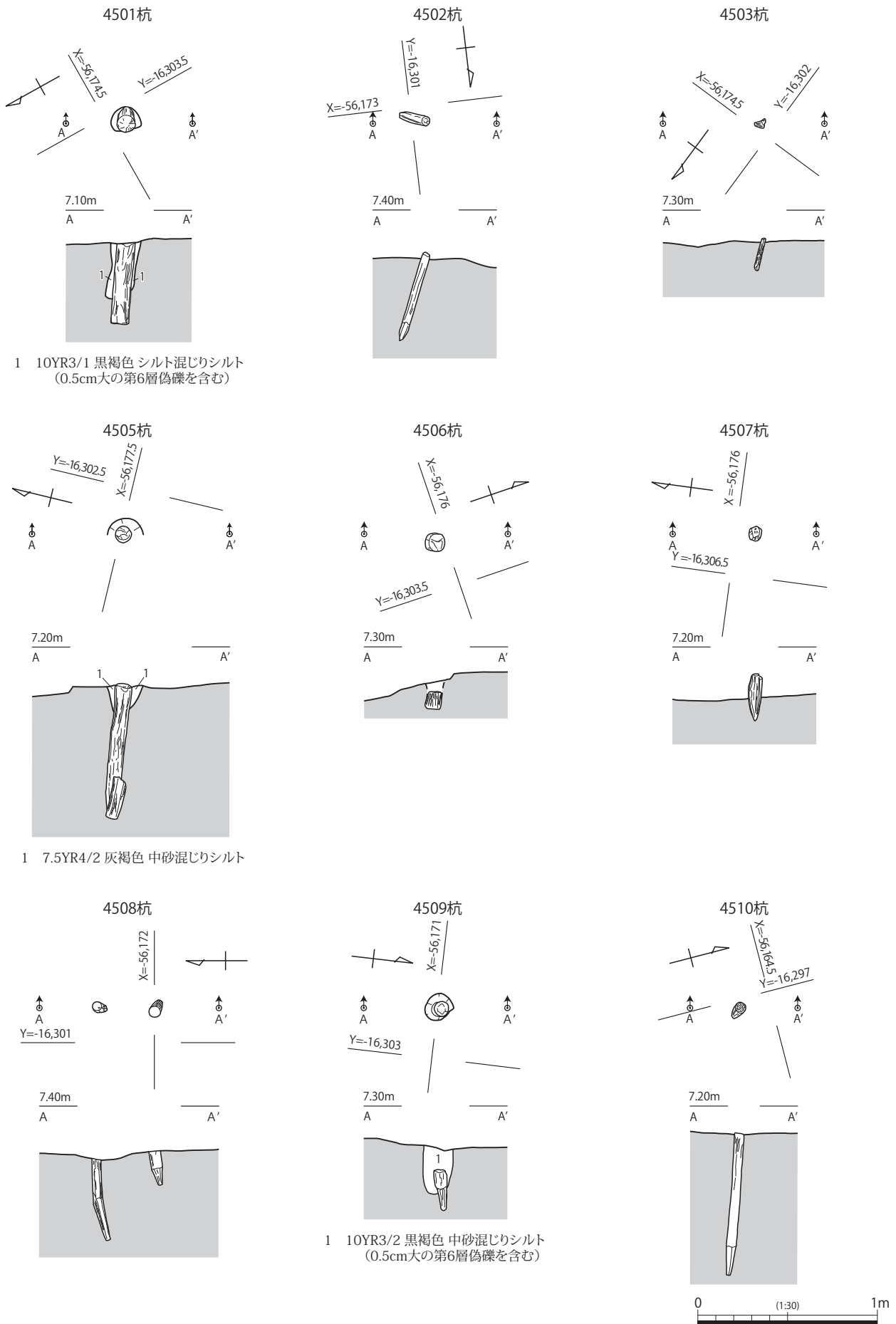
第VI章 3区・4区の調査成果



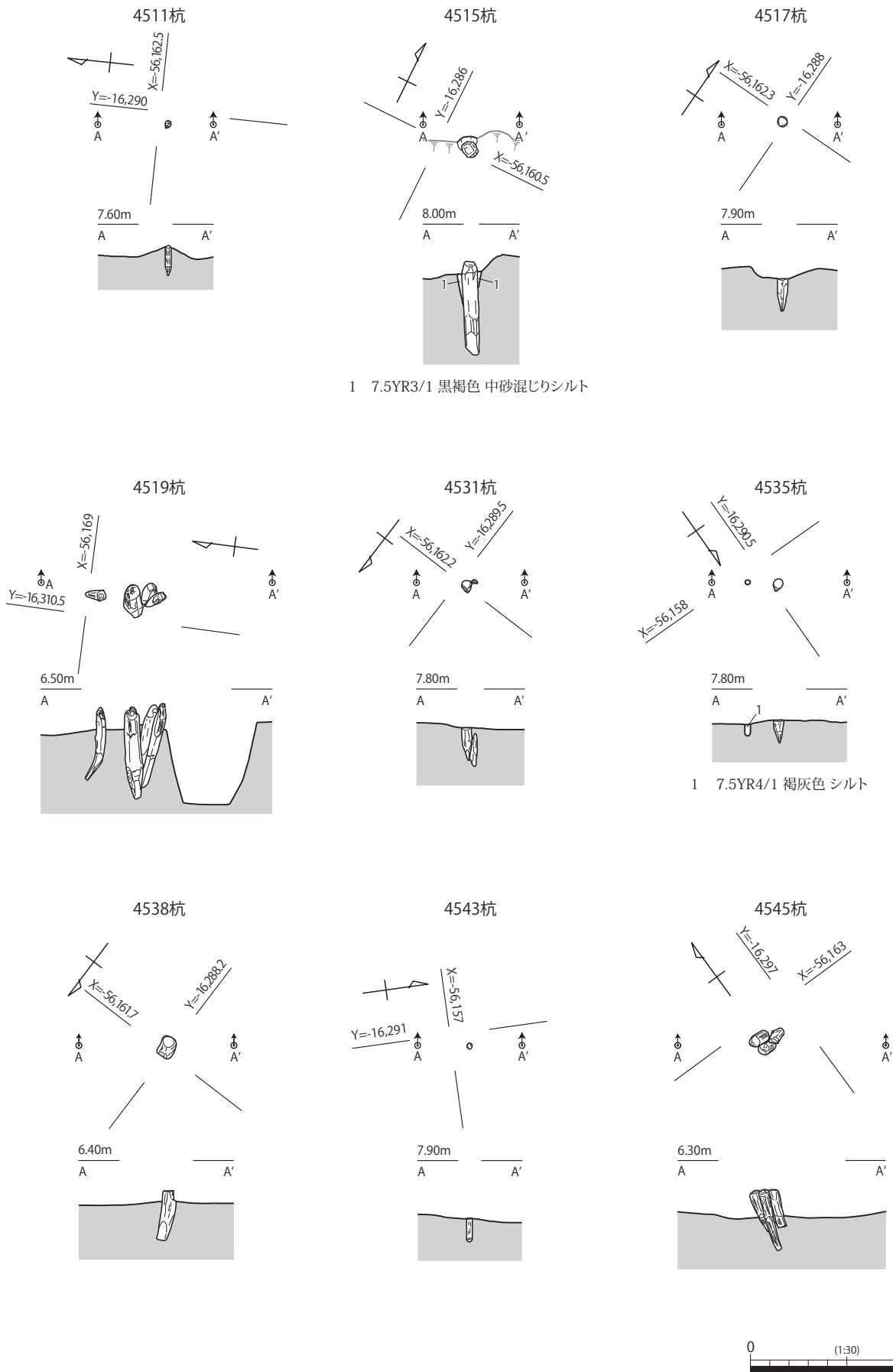
第149図 4区第4層下面ピット 平・断面図 (5)



第150図 4区第3層・第4層下面検出杭、杭列 平面図

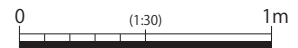
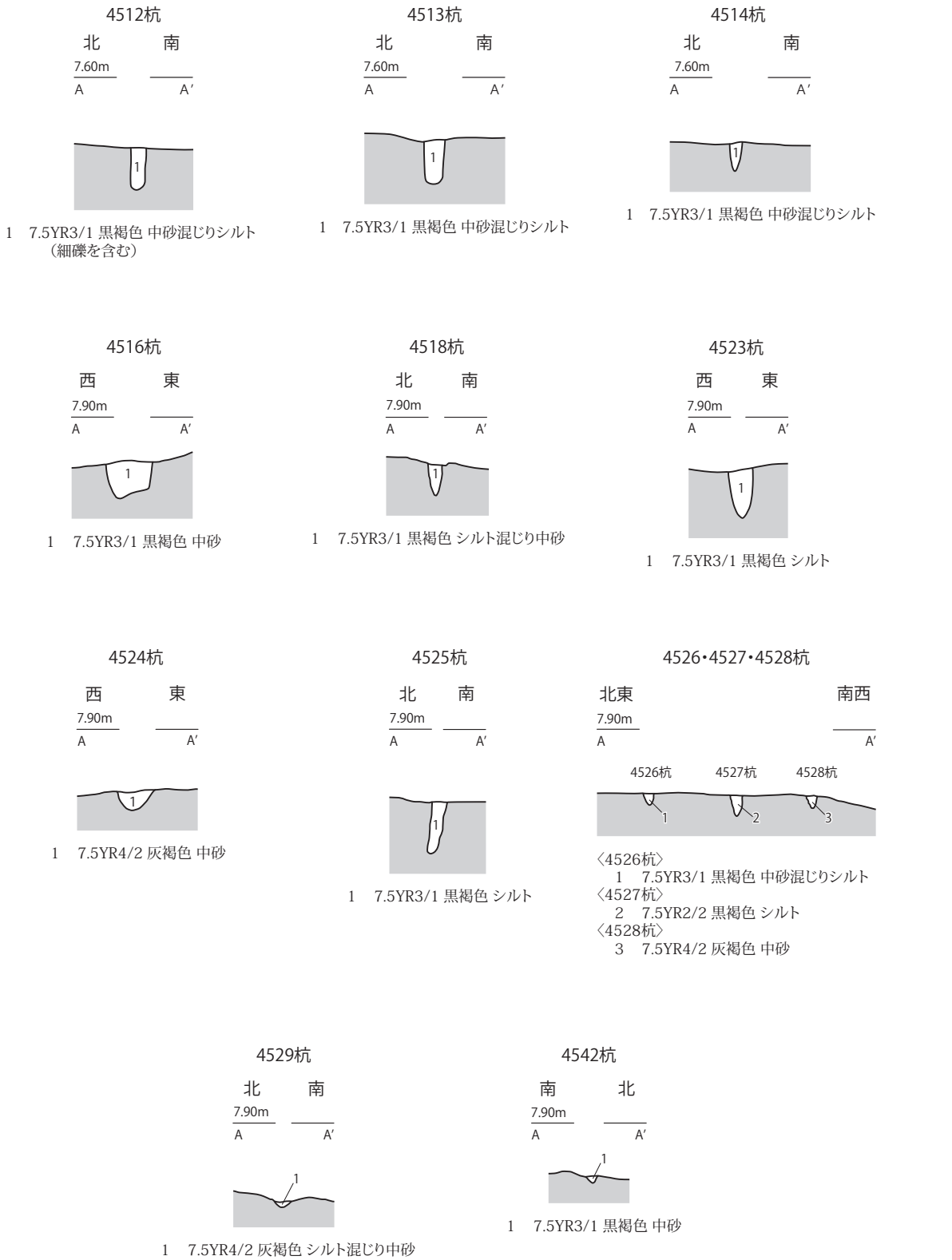


第151図 4区第3層・第4層下面 杭 平・立面図

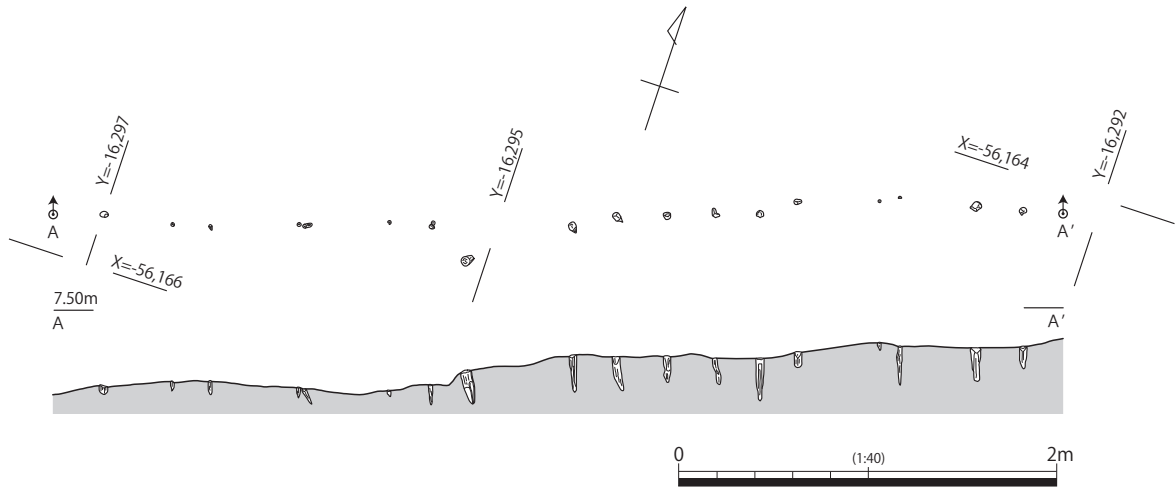


第152図 4区第4層下面 杭 平・立面図

第VI章 3区・4区の調査成果



第153図 4区第4層下面 杭 断面図



第154図 4548杭列 平・立面図

4208ピットは第4-2層下面で検出した長軸41 cm、短軸40 cm、深さ38 cmを測るピットで、底部付近から礎盤石の可能性のある拳大の扁平な礫が出土した。

4226ピットは長軸54 cm、短軸38 cm以上、深さ37 cmを測るピットで、X=-56,160ラインベルト中の第4-1層下面で検出した。4191溝を切り、直径14 cmの柱根が残っていた。

4257ピットは4038溝底面で検出したピットで、長軸63 cm、短軸55 cm、深さ16 cmを測る。人頭大の礫がピット底面直上に残っており、礎盤石と考えられる。

4287ピットは土師器甕（第204図718）胴部下半を埋め置いたもので、第4-3層中で検出した。

4308ピットは第4-3層下面で検出した長軸47 cm、短軸31 cmの不整楕円形を呈すピットで、深さ28 cmを測る。拳大～人頭大の礫を重ね置いて礎盤石としている。

4310ピットは第4-3層下面で検出した長軸37 cm、短軸35 cm、深さ39 cmを測るピットで、底面に2つ並べた拳大の礫は根石ではなく礎盤石と考える。

4324ピットは柱掘方を検出できていないが、長さ29 cm、幅24 cm、厚さ10 cmの扁平な礫が4192溝底面付近に据え置かれており、周辺のピットの底面レベルなどを考慮すれば礎盤石の可能性があると判断したものである。

なお、第4層下面検出ピットの中でも特筆すべきものとして、4228ピットが挙げられる。

4228ピットは第4-2層下面で検出しており、埋土中から1号木簡（第282図W293）が出土した。

#### 4区第3層・第4層下面検出杭、杭列（第150～154図）

主に4区第3層下面2D-8aグリッド、第4層下面2C-6j・2C-7jグリッドで、杭、杭列を検出した。いずれも打設面は不明である。規則性が認められたのは第4層下面で確認した4548杭列だけである。

4548杭列は検出長4.9 mを測る直線的な杭列で、直径5～6 cmの杭を用いている。一部4038溝と並行するが、関係するものかどうか不明である。

### （5）第5層下面の遺構

#### 3473流路・3437流路（第155～157図、PL.48～52）

3区北端で検出した流路で、3473流路が3437流路を切り、新しい。2D-5eグリッド南東部、Y=-16,340ラインに沿って下層確認のトレンチを掘削したところ、断面で2本の流路が存在すること

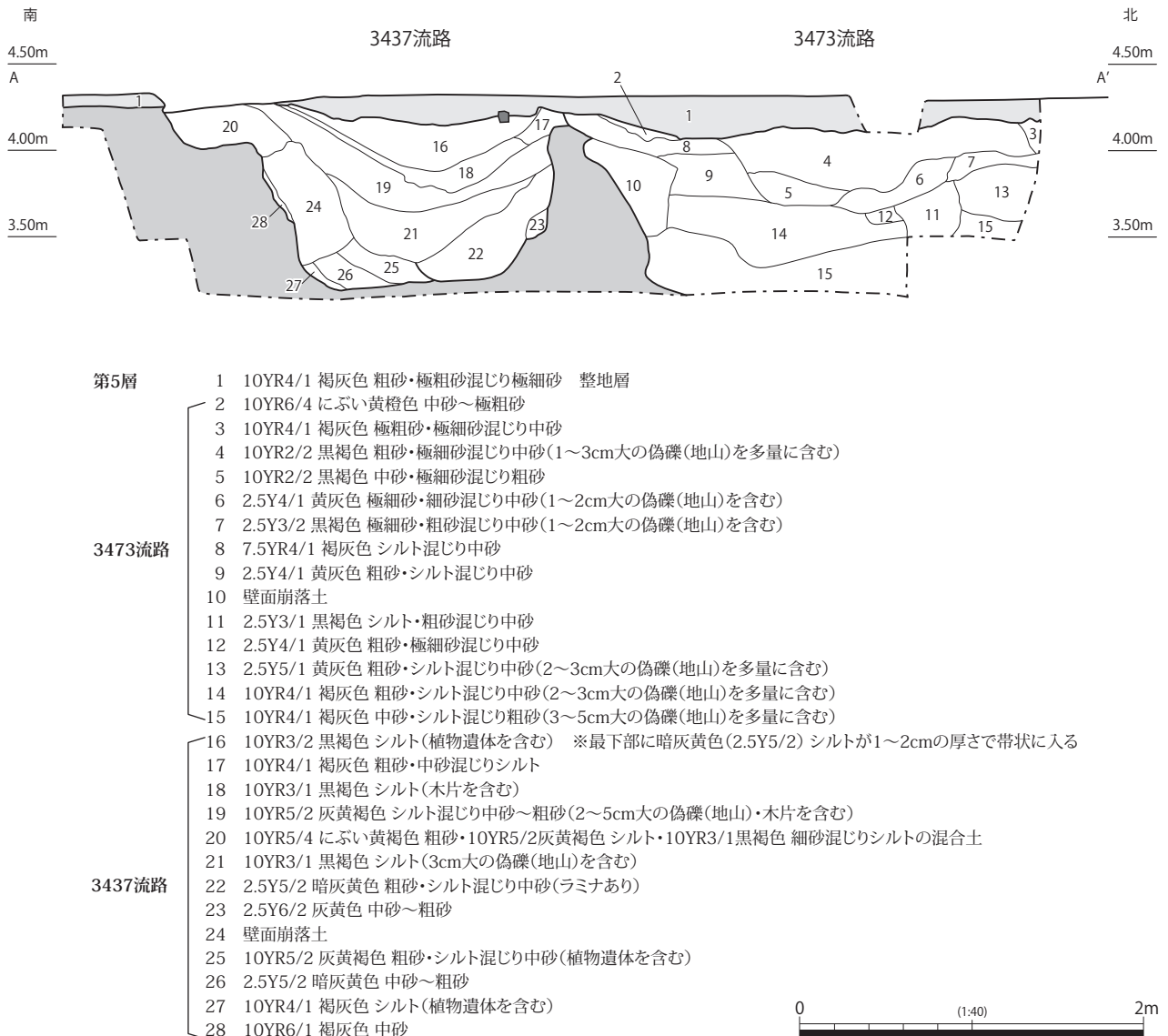
第VI章 3区・4区の調査成果

を確認した。埋積した流路の上面は第5層である褐灰色の粗砂・極粗砂混じり極細砂層が広がっており、それを除去して平面精査を行い、全体を検出した。

**3473 流路**は3区北端をやや湾曲しながら東-西北西へ流れる流路で、検出長約19m、幅3.9～7.5m、深さ1.1～1.3mを測る。底面は下流側ほど起伏があり、その幅も一定でない。埋土は概ね15層に分層でき、黒褐色粗砂～極細砂混じり中砂または褐灰色シルト混じり中砂～粗砂を主体とする。埋土上層、下層とも径1～5cmの第6層偽礫を多量に含むことが特徴として挙げられる。最終的には第5層によって被覆されているが、堆積状況からみて流路は埋め戻された可能性が高い。

埋土から古墳時代中期末葉の土師器甕（第196図629～633）、小型丸底壺（第197図641）、高坏（第196図634～637・第197図638）、鉢（642）、石鍬（第231図S8）、部材（第266図W217）が出土した。

**3437 流路**は3473流路の前身流路で、同流路の約1～3m南を流れる。3473流路に北側と東側を切られているが検出長約25m、幅は2.3～3.2m以上、深さ1.1～1.4mを測る。底面は起伏があり、南側の蛇行部分は攻撃面となるためか底面からの立ち上がりは急で、深く侵食されている。埋土は13層に分層でき、木片や植物遺体、2～5cm大の偽礫を少量含む黒褐色シルト、灰黄褐色シルト混

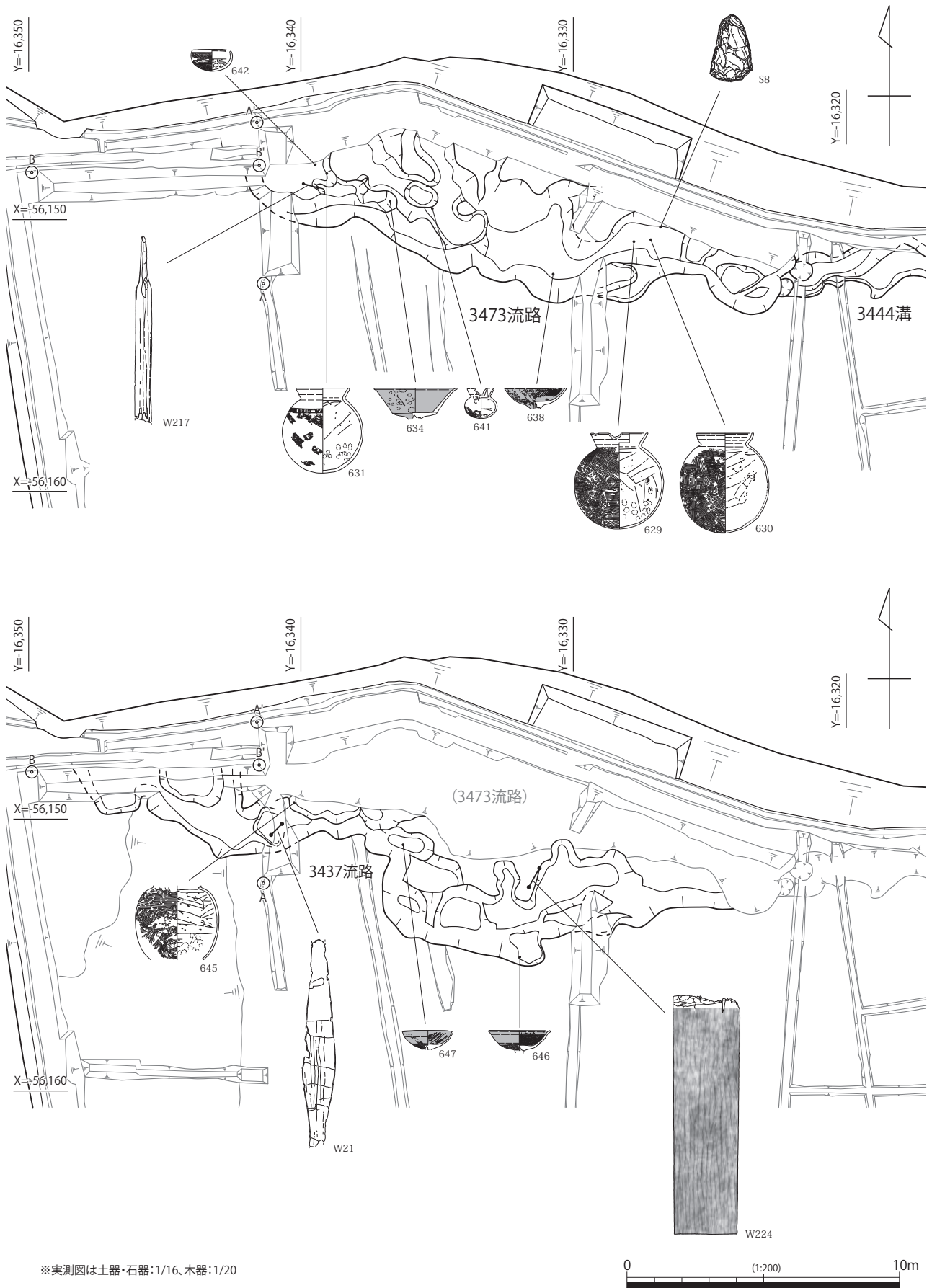


第155図 3473・3437流路 断面図



第156図 3区・4区第5層下面 全体図





※実測図は土器・石器: 1/16、木器: 1/20

第157図 3473・3437流路 平面図、遺物出土位置図

じり中砂～粗砂を主体とする。ただ、埋土下層は灰色を基調とする淘汰があまり良くない中砂～極粗砂が堆積しており、一部には葉理が認められる。

埋土から古墳時代中期末葉の土師器甕（644・645）、高坏（646・647）のほか、櫛（W 21）、床板？（W 223）が出土した。

なお、この2つの流路は2D-5eグリッドで北へ走行方向を変え、北側の丘陵先端をかすめるように伸びていくと推測する。同グリッドに設定した断面確認用トレンチで2箇所<sup>1</sup>の落込を確認しており（第45図）、東側を3473流路、西側を3437流路と考<sup>2</sup>えているが、底面付近まで偽礫を多量に含む層によって埋まっており、他地点の様相と異なる。そのため、別遺構（例えば井戸など）の可能性もある。

また、3473・3437流路断面（第155図・PL.49）では地震による断層、地割れの可能性を示す堆積状況が確認されており（第155図10層・24層など）、基盤層である第6層も塑性変形している<sup>3</sup>。

#### 3444溝（第42・155図、PL.47）

3区北東端で検出した溝で、東北東－西南西方向に走る。東側を3443土坑に切られ、西側を3473溝に切られる検出長約6.9m、幅1.5～2.1m、深さ45cmを測る。埋土は上層が黒褐色中砂混じりシルト、下層がにぶい黄橙色または灰黄褐色の中砂・粗砂混じりシルトである。埋土中から小型の壺（579）が出土した。

#### 註

パリオ・サーヴェイ株式会社の辻本裕也氏に御教示いただいた。記して感謝申し上げます。

表2 3区・4区ピット一覧表 (1)

番号	地区名	検出面	長軸	短軸	深さ	備考
3007	2D-6c	第2層下面	72+	60+	72	掘立柱建物2
3008	2D-7c	第2層下面	80	69	84	掘立柱建物2
3010	2D-6b	第2層下面	54	47	24	
3011	2D-6b	第2層下面	58	52	18	
3012	2D-6b	第2層下面	37	36	12	
3013	2D-6b	第2層下面	60+	47	18	
3015	2D-8b	第2層下面	23	23	18	
3016	2D-8b	第2層下面	32	23	18	
3017	2D-8b	第2層下面	40	33	9	
3018	2D-8b	第2層下面	52	34	20	
3019	2D-8b	第2層下面	23	23	19	
3020	2D-8b	第2層下面	33	30	13	
3021	2D-8b	第2層下面	52	46	21	
3022	2D-8b	第2層下面	49	46	46	
3023	2D-8b	第2層下面	47	34	20	
3024	2D-8c	第2層下面	34	30	17	掘立柱建物8
3025	2D-8c	第2層下面	46	41	14	
3026	2D-8c	第2層下面	47	43	32	掘立柱建物8
3027	2D-8c	第2層下面	25	25	16	
3028	2D-8c	第2層下面	35	26	10	
3029	2D-8c	第2層下面	20	19	16	
3030	2D-8c	第2層下面	25	23	19	
3031	2D-8c	第2層下面	24	20	18	
3032	2D-8c	第2層下面	26	22	20	
3033	2D-8c	第2層下面	22	21	15	
3034	2D-8c	第2層下面	53	33	22	
3035	2D-8c	第2層下面	31	28	14	
3036	2D-8c	第2層下面	32	24	10	
3037	2D-8c	第2層下面	43	33	19	
3038	2D-8c	第2層下面	31	23	11	
3039	2D-8c	第2層下面	44	38	28	
3040	2D-8c	第2層下面	20	13	11	
3041	2D-8c	第2層下面	52	43	15	
3042	2D-8c	第2層下面	41	23+	15	掘立柱建物7
3043	2D-8c	第2層下面	31	30	9	掘立柱建物8
3044	2D-8c	第2層下面	40	32+	11	
3045	2D-8c	第2層下面	39	28	23	掘立柱建物7
3046	2D-8c	第2層下面	34	30	13	
3047	2D-8c	第2層下面	33	26	14	
3048	2D-8c	第2層下面	29	26	15	
3049	2D-8c	第2層下面	36	24	38	
3050	2D-8c	第2層下面	52	26+	31	掘立柱建物7
3051	2D-8c	第2層下面	43	36+	25	掘立柱建物8
3052	2D-8c	第2層下面	27	21	22	
3053	2D-8c	第2層下面	48	46	30	
3054	2D-8c	第2層下面	48	44+	51	掘立柱建物8
3055	2D-8c	第2層下面	47	39	11	掘立柱建物7
3056	2D-8c	第2層下面	30	28	16	
3057	2D-8c	第2層下面	67	65+	25	
3058	2D-8c	第2層下面	75	66	24	
3059	2D-8c	第2層下面	40	39	33	掘立柱建物7
3060	2D-8c	第2層下面	39	25	8	
3061	2D-8c	第2層下面	56+	52	25	
3062	2D-8c	第2層下面	47	32+	26	
3063	2D-8c	第2層下面	48	45	31	
3064	2D-8c	第2層下面	20	11+	12	
3065	2D-8c	第2層下面	47	44+	12	
3067	2D-8c	第2層下面	40	39	18	掘立柱建物7
3068	2D-8c	第2層下面	42	36	29	掘立柱建物7
3069	2D-8c	第2層下面	63	52	33	掘立柱建物8
3070	2D-8c	第2層下面	59	44	19	
3071	2D-8c	第2層下面	21	16	12	
3072	2D-8c	第2層下面	44	34	13	
3073	2D-8c	第2層下面	42	41	10	
3074	2D-8c	第2層下面	28	20	7	
3075	2D-8c	第2層下面	41	33	9	
3076	2D-8c	第2層下面	30	17	6	

番号	地区名	検出面	長軸	短軸	深さ	備考
3077	2D-8c	第2層下面	26	23	5	
3078	2D-8c	第2層下面	29	27	11	
3079	2D-8c	第2層下面	36	33	14	
3080	2D-8c	第2層下面	22	19	11	
3081	2D-8c	第2層下面	43	37	9	
3082	2D-8c	第2層下面	29	25	9	
3083	2D-8c	第2層下面	21	20	9	
3084	2D-8c	第2層下面	48	42	19	
3085	2D-8c	第2層下面	42	36	15	
3087	2D-8b	第2層下面	48	31	31	
3088	2D-8c	第2層下面	46	41	13	
3089	2D-8c	第2層下面	31	14+	10	掘立柱建物7
3091	2D-8c	第2層下面	58	52	31	掘立柱建物8
3092	2D-8c	第2層下面	27	24	9	
3094	2D-8c	第2層下面	46+	35	12	掘立柱建物8
3095	2D-8b	第2層下面	56+	55	20	
3096	2D-8c	第2層下面	43	33	70	
3097	2D-8b	第2層下面	48	39	14	
3098	2D-8b	第2層下面	47	37	32	
3101	2D-6c	第2層下面	39	27	16	
3102	2D-6c	第2層下面	102	84	43	
3103	2D-6c	第2層下面	74	65	48	
3106	2D-6c	第2層下面	42	42	51	掘立柱建物3
3107	2D-6c	第2層下面	36	33	41	掘立柱建物3
3109	2D-6c	第2層下面	53	51	58	
3111	2D5c・6c	第2層下面	50	40	36	
3113	2D-6c	第2層下面	56	43	21	掘立柱建物3
3114	2D-6c	第2層下面	37	34	22	
3116	2D-6c	第2層下面	92+	71	32	
3118	2D-6c	第2層下面	75	69	52	
3119	2D-6c	第2層下面	73+	68+	46	
3120	2D-6c	第2層下面	56	52	64	
3122	2D-6c	第2層下面	78	68	53	
3124	2D-6c	第2層下面	23	21	13	
3125	2D-6c	第2層下面	42	38	47	
3126	2D-6c	第2層下面	36	33	24	掘立柱建物3
3129	2D-6c	第2層下面	31	31	12	掘立柱建物3
3130	2D-6c	第2層下面	53	45	39	掘立柱建物3
3131	2D-6c	第2層下面	50	45	21	掘立柱建物3
3132	2D-6b	第2層下面	40	33	39	
3134	2D-6b	第2層下面	49	46	26	
3135	2D-6c	第2層下面	60	53	57	掘立柱建物3
3137	2D-6c	第2層下面	81	79	57	掘立柱建物2
3138	2D-6c	第2層下面	77	76	54	掘立柱建物2
3139	2D-6c	第2層下面	88	71	54	掘立柱建物2
3140	2D-6c	第2層下面	91	63	41	掘立柱建物2
3141	2D-6c	第2層下面	88	73	75	掘立柱建物2
3142	2D-6c	第2層下面	90	77	54	掘立柱建物2
3143	2D-7c	第2層下面	65	62	66	掘立柱建物2
3144	2D-6c	第2層下面	76	55+	66	掘立柱建物2
3145	2D-5d	第2層下面	80	47+	67	掘立柱建物1
3146	2D-5d	第2層下面	120	100	49	掘立柱建物1
3147	2D-5d	第2層下面	98	70	60	掘立柱建物1
3148	2D5d・6d	第2層下面	104	88	70	掘立柱建物1
3149	2D-6c	第2層下面	98	60+	68	掘立柱建物1
3150	2D-5c	第2層下面	99	78	80	掘立柱建物1
3151	2D-5c	第2層下面	83	68	76	掘立柱建物1
3152	2D5c・5d	第2層下面	64+	60	59	掘立柱建物1
3153	2D-6c	第2層下面	48+	31+	19	
3154	2D-6c	第2層下面	46+	39	43	
3155	2D-5d	第2層下面	60	60	37	
3156	2D-5d	第2層下面	62	42	43	
3158	2D-5c	第2層下面	49	43	44	
3159	2D-6c	第2層下面	54+	48+	59	
3160	2D-6c	第2層下面	64+	64	52	
3161	2D-6c	第2層下面	22+	17+	49	
3165	2D-6d	第2層下面	52-	48+	51	

※規模の単位はcm。切り合い等により不明な部分は（現存値）+と表記した。

表3 3区・4区ピット一覧表(2)

番号	地区名	検出面	長軸	短軸	深さ	備考
3167	2D-5d	第2層下面	58	38+	40	
3169	2D-6d	第2層下面	33	28	22	
3170	2D-6d	第2層下面	56	45	44	
3171	2D-6d	第2層下面	42	36	21	
3172	2D-6d	第2層下面	34	34	21	
3173	2D-6d	第2層下面	60	52	58	掘立柱建物5
3174	2D-6d	第2層下面	87	24	18	
3175	2D-6d	第2層下面	46	36	38	
3176	2D-6d	第2層下面	66	46	42	
3177	2D-6d	第2層下面	27	14+	-	
3178	2D-6d	第2層下面	69	52	50	
3180	2D-6d	第2層下面	47	39	27	
3181	2D-6d	第2層下面	55	48	72	掘立柱建物5
3182	2D6c・6d	第2層下面	98	80	57	
3190	2D-6d	第2層下面	36	34	33	掘立柱建物5
3196	2D-6d	第2層下面	46	37	58	掘立柱建物5
3202	2D-6d	第2層下面	63	48	37	掘立柱建物5
3220	2D-6d	第2層下面	34+	34	25	掘立柱建物5
3221	2D-6d	第2層下面	32	29	21	掘立柱建物5
3226	2D-6d	第2層下面	44	41+	26	
3228	2D-6d	第2層下面	43	35	35	掘立柱建物5
3229	2D-6d	第2層下面	39	34	14	掘立柱建物5
3234	2D-6d	第2層下面	30	26	25	掘立柱建物5
3236	2D-6d	第2層下面	86	40+	18	掘立柱建物4
3242	2D-6d	第2層下面	34	32	12	
3243	2D-6d	第2層下面	36	32	14	
3244	2D-6d	第2層下面	34	28	24	
3246	2D-6d	第2層下面	68	48	27	
3247	2D-6d	第2層下面	32	28	19	
3248	2D-5d	第2層下面	58	50	25	
3249	2D-6d	第2層下面	58	42	19	
3250	2D-6d	第2層下面	47+	41+	18	
3251	2D-5d	第2層下面	56	42	34	
3254	2D-5e	第2層下面	36	32	22	
3255	2D-5e	第2層下面	34	32	35	
3256	2D-5e	第2層下面	51+	41+	20	
3259	2D-6d	第2層下面	44	42	16	
3265	2D6d・6e	第2層下面	42	30	16	
3268	2D-6d	第2層下面	75	56	16	掘立柱建物4
3269	2D-6d	第2層下面	48+	36+	19	掘立柱建物4
3273	2D-6e	第2層下面	54	52	28	掘立柱建物4
3276	2D-6e	第2層下面	66+	59+	24	掘立柱建物4
3282	2D-6c	第2層下面	99	91+	89	
3283	2D-6d	第2層下面	51	43+	33	掘立柱建物5
3285	2D-6d	第2層下面	60	50+	52	掘立柱建物5
3286	2D-8b	第2層下面	65	61	25	
3293	2D-6e	第2層下面	67	58	48	掘立柱建物4
3300	2D-6e	第2層下面	61	34+	30	掘立柱建物4
3304	2D-6d	第2層下面	55	32+	33	掘立柱建物4
3306	2D7d・7e	第2層下面	61	55	12	掘立柱建物6
3320	2D7d・7e	第2層下面	52	50	25	掘立柱建物6
3322	2D-7d	第2層下面	77+	66	25	掘立柱建物6
3330	2D-7d	第2層下面	25	22	12	
3331	2D-7d	第2層下面	45	39+	10	掘立柱建物6
3335	2D-7d	第2層下面	93	59	34	掘立柱建物6
3346	2D-7d	第2層下面	31	31	11	掘立柱建物6
3348	2D-7d	第2層下面	37	29	11	掘立柱建物6
3361	2D-6d	第2層下面	55	34+	32	掘立柱建物4
3362	2D-6d	第2層下面	89	78	61	掘立柱建物4
3365	2D-6d	第2層下面	80+	80	55	掘立柱建物4
3372	2D-6d	第2層下面	74+	53+	33	掘立柱建物4
3401	2D-7b	第2層下面	61	38+	12	
3404	2D-5d	第2層下面	45	38	27	
3410	2D-5c	第2層下面	41	17+	50	
3411	2D-6c	第2層下面	41	35	23	
3412	2D-6c	第2層下面	35	16+	24	
3415	2D-7d	第2層下面	50+	36+	26	掘立柱建物6
3416	2D-6e	第2層下面	48	39	34	掘立柱建物4
3418	2D-6d	第2層下面	53	36	21	掘立柱建物4
3425	2D-6d	第2層下面	20	6+	25	
3426	2D-6d	第2層下面	72+	60+	48	掘立柱建物4
3498	2D-8b	第2層下面	62	46+	9	
3510	2D-8d	第2層下面	31	26	14	
3511	2D-8c	第2層下面	21	11+	21	
3517	2D-6d	第2層下面	43	36	36	掘立柱建物5
3519	2D-8c	第2層下面	46	45	51	掘立柱建物8
3520	2D-8c	第2層下面	49	39	21	掘立柱建物8
3521	2D-8c	第2層下面	60+	46	14	
3522	2D-6d	第2層下面	44	21+	40	
4353	2D-8a	第2層下面	-	16	28	
4047	2D-8a	第3層下面	36	34	21	
4048	2D-8a	第3層下面	75	67	8	
4055	2D-8a	第3層下面	40+	36	14	
4056	2D-8a	第3層下面	48	32	23	
4057	2D-8a	第3層下面	41	23+	21	
4058	2D-8a	第3層下面	45	44	62	掘立柱建物20
4059	2D-8a	第3層下面	31	31	25	
4061	2D-8a	第3層下面	42	41	37	掘立柱建物20
4062	2D-8a	第3層下面	52	51	29	
4063	2D-8a	第3層下面	51	48	26	掘立柱建物21
4064	2D-8a	第3層下面	76	73	41	掘立柱建物20
4065	2D-8a	第3層下面	40	38	25	掘立柱建物20
4066	2D-8a	第3層下面	29	26	9	
4067	2D-8a	第3層下面	37	28	15	
4068	2D-8a	第3層下面	49	40	32	掘立柱建物21
4070	2D-8a	第3層下面	44	43	20	
4071	2D-8a	第3層下面	56	38	19	
4072	2D-8a	第3層下面	45	43	15	
4074	2D-8a	第3層下面	44	40+	42	掘立柱建物20
4075	2D-8a	第3層下面	64	60	36	
4076	2D-8a	第3層下面	62	57	39	掘立柱建物21
4077	2D-8a	第3層下面	44	35	17	
4078	2D-8a	第3層下面	33	33	21	
4079	2D-8a	第3層下面	24	21	17	
4080	2D-8a	第3層下面	60	57	39	掘立柱建物21
4085	2D-8a	第3層下面	37	31	12	
4087	2D-8a	第3層下面	50	44	22	
4088	2D-8a	第3層下面	36	36	11	
4091	2D-8a	第3層下面	51	41	13	
4098	2D-8a	第3層下面	57	55	30	
4099	2D-8a	第3層下面	0	0	0	
4100	2D-8a	第3層下面	31	28	40	
4101	2D-8a	第3層下面	44	37	17	掘立柱建物20
4106	2C-8j	第3層下面	49	23+	23	
4107	2D-8a	第3層下面	43	40	24	
4111	2D-9a・2C-9j	第3層下面	40	40	17	
4112	2C-9j	第3層下面	48	42	16	
4116	2D-8a	第3層下面	43	39	38	掘立柱建物21
4118	2D-8a	第3層下面	75	46	26	
4119	2D-8a	第3層下面	28	24+	13	
4120	2D-8a	第3層下面	48	46	33	掘立柱建物20
4121	2D-8a	第3層下面	46	30+	14	掘立柱建物20
4122	2D-8a	第3層下面	50	38	34	掘立柱建物20
4124	2D-8a	第3層下面	50	39+	40	掘立柱建物20
4125	2D-8a	第3層下面	64	27	29	
4127	2D-8a・2C-8j	第3層下面	25+	15+	32	
4128	2D-8a	第3層下面	40	18+	23	掘立柱建物21
4129	2D-8a	第3層下面	30+	24+	14	4067、4068ピットに切られて不明
4130	2D-8a	第3層下面	21+	-	27	4064ピットに切られて不明
3105	2D-6c	第4層下面	56	41	56	
3117	2D-6c	第4層下面	33	26+	34	
3127	2D-6c	第4層下面	36	32	40	

※規模の単位はcm。切り合い等により不明な部分は（現存値）+と表記した。

表4 3区・4区ピット一覧表 (3)

番号	地区名	検出面	長軸	短軸	深さ	備考
3128	2D-6c	第4層下面	55	41	41	
3133	2D-6c	第4層下面	65	56	16	
3157	2D-6c	第4層下面	52	51	20	
3186	2D-6d	第4層下面	55	46	46	掘立柱建物 10
3187	2D-6d	第4層下面	46	40	56	掘立柱建物 10
3188	2D-6d	第4層下面	37	23	21	
3189	2D-6d	第4層下面	51	48	21	
3191	2D-6d	第4層下面	26	25	17	
3192	2D-6d	第4層下面	36	31	25	
3193	2D-6d	第4層下面	29	18	17	
3194	2D-6d	第4層下面	40	38	15	
3197	2D-6d	第4層下面	29	25	40	
3198	2D-6d	第4層下面	33	30	11	
3199	2D-6d	第4層下面	49	43	37	
3201	2D-6d	第4層下面	60	43	36	
3203	2D-6d	第4層下面	37	31	36	
3204	2D-6d	第4層下面	46	43	56	
3205	2D-6d	第4層下面	45	39	34	
3206	2D6d・7d	第4層下面	78	49	24	掘立柱建物 12
3207	2D-7d	第4層下面	51+	49	47	
3208	2D-7d	第4層下面	91	62	57	掘立柱建物 11
3209	2D-7d	第4層下面	53	44	31	
3210	2D-7d	第4層下面	49	28+	18	
3211	2D-7d	第4層下面	39	37	20	
3212	2D-6d	第4層下面	60+	60	28	掘立柱建物 10
3213	2D-6d	第4層下面	56	50	15	
3214	2D-6d	第4層下面	20	20	12	
3215	2D-6d	第4層下面	44	28	15	
3216	2D-6d	第4層下面	26	21	10	
3217	2D-6d	第4層下面	113	60	64	掘立柱建物 11
3218	2D-6d	第4層下面	82	26+	55	
3219	2D-6d	第4層下面	54	39+	16	
3222	2D-6d	第4層下面	42	20+	17	掘立柱建物 10
3224	2D-6d	第4層下面	40+	38	27	
3225	2D-6d	第4層下面	47	42+	16	掘立柱建物 10
3227	2D-6d	第4層下面	60	33	35	
3231	2D-6d	第4層下面	56	38	33	掘立柱建物 10
3232	2D-6d	第4層下面	53	48	33	
3238	2D-6d	第4層下面	37+	34	30	
3240	2D-6d	第4層下面	60	45	15	
3245	2D-6d	第4層下面	62	44	43	
3253	2D-5d	第4層下面	53	47	34	
3257	2D-5e	第4層下面	50	45	32	
3260	2D-6e	第4層下面	37	30	20	
3262	2D-6e	第4層下面	35	35	15	
3266	2D6d・6e	第4層下面	38	27	10	
3270	2D-6d	第4層下面	58	50	40	
3271	2D-6d	第4層下面	55	41	27	掘立柱建物 10
3272	2D-6d	第4層下面	36	34	25	掘立柱建物 10
3274	2D-6e	第4層下面	74	60	27	
3277	2D-6e	第4層下面	30	30	15	
3278	2D-6e	第4層下面	32	31	11	
3279	2D-6e	第4層下面	24	22+	10	
3280	2D-6e	第4層下面	21	17	16	
3281	2D-6e	第4層下面	80	59+	30	掘立柱建物 10
3284	2D-6d	第4層下面	50+	45+	53	
3288	2D-6e	第4層下面	62	53+	34	掘立柱建物 10
3289	2D-6e	第4層下面	25	18+	17	
3292	2D-6e	第4層下面	42	18+	34	
3294	2D-6e	第4層下面	38+	33	11	
3295	2D-6e	第4層下面	61	48+	57	掘立柱建物 10
3296	2D-6e	第4層下面	30+	30	14	
3297	2D-6e	第4層下面	61	38+	27	掘立柱建物 10
3298	2D-6e	第4層下面	69	50	29	掘立柱建物 10
3301	2D-6e	第4層下面	69	62	-	掘立柱建物 10
3302	2D6d・6e	第4層下面	32	32	27	
3303	2D-6d	第4層下面	49	43	27	掘立柱建物 10
3305	2D-7e	第4層下面	36	31	27	
3307	2D7d・7e	第4層下面	41	24+	12	
3308	2D-7d	第4層下面	40	24+	10	
3309	2D-7d	第4層下面	28+	26+	29	
3310	2D-7d	第4層下面	35+	33+	13	
3311	2D-7d	第4層下面	25	21	15	
3312	2D-7d	第4層下面	47	35+	12	
3313	2D7d・7e	第4層下面	63	43	28	
3318	2D7d・7e	第4層下面	52	40	25	
3319	2D7d・7e	第4層下面	52	39	17	
3321	2D-7d	第4層下面	33	25	15	
3323	2D-7d	第4層下面	34+	30	20	
3324	2D-7d	第4層下面	47	43	20	
3325	2D-7d	第4層下面	32	30	18	
3327	2D-7d	第4層下面	46	46	21	
3332	2D-7d	第4層下面	22	19+	19	
3333	2D-7d	第4層下面	59	57	27	
3334	2D-7d	第4層下面	53	48	37	掘立柱建物 11
3336	2D-7d	第4層下面	29	26	18	
3337	2D-7d	第4層下面	31+	26+	13	
3338	2D-7d	第4層下面	42	37	31	
3339	2D-7d	第4層下面	44	34	17	
3340	2D-7d	第4層下面	31	19+	13	
3341	2D-7d	第4層下面	30	29	8	
3342	2D-7d	第4層下面	47	29+	30	掘立柱建物 11
3343	2D-7d	第4層下面	61	43	28	掘立柱建物 11
3345	2D-7d	第4層下面	24	22	12	
3349	2D-7d	第4層下面	47	39	14	
3350	2D-7d	第4層下面	37	29	25	
3351	2D-7d	第4層下面	32	30	18	
3353	2D-7d	第4層下面	31+	30	19	
3354	2D-7d	第4層下面	26	20	17	
3355	2D-7d	第4層下面	92	89	50	掘立柱建物 11
3356	2D-7d	第4層下面	27	22	13	
3357	2D6d・7d	第4層下面	57	29+	10	
3358	2D-7d	第4層下面	42	33	18	
3359	2D-6d	第4層下面	53	44	49	掘立柱建物 10
3360	2D-6d	第4層下面	73	42+	45	掘立柱建物 10
3363	2D-6d	第4層下面	44	18+	18	掘立柱建物 10
3364	2D-6d	第4層下面	33+	20+	37	
3367	2D-6d	第4層下面	70	61	54	掘立柱建物 11
3368	2D-6d	第4層下面	40+	40	-	
3369	2D-6d	第4層下面	50	43	51	
3371	2D-6d	第4層下面	65+	57	19	
3373	2D6c・7c	第4層下面	103	62	50	掘立柱建物 12
3374	2D-6c	第4層下面	53	40	38	
3375	2D-6c	第4層下面	75	55	67	掘立柱建物 9
3376	2D-6c	第4層下面	44	37	43	
3377	2D-6c	第4層下面	55	42	34	
3378	2D-6c	第4層下面	55	46	9	
3379	2D-6c	第4層下面	45	31	20	掘立柱建物 9
3382	2D-6c	第4層下面	35	29	20	
3383	2D-6c	第4層下面	71	66	43	掘立柱建物 9
3385	2D-6c	第4層下面	46	46	47	掘立柱建物 13
3386	2D-6c	第4層下面	66	36+	42	掘立柱建物 9
3387	2D-6c	第4層下面	37	36	28	
3388	2D-6c	第4層下面	34	31	25	
3391	2D-6c	第4層下面	60	38	10	掘立柱建物 9
3392	2D-6c	第4層下面	53	49	29	
3393	2D-6c	第4層下面	37	33	42	
3394	2D-6c	第4層下面	67	55	28	
3395	2D-6c	第4層下面	48	41	33	
3396	2D-6c	第4層下面	41	25+	18	
3397	2D-6c	第4層下面	60	48	50	
3398	2D-6c	第4層下面	31	16+	23	
3399	2D-6c	第4層下面	50	34	24	
3402	2D-6c	第4層下面	37	35	30	

※規模の単位はcm。切り合い等により不明な部分は（現存値）+と表記した。

第VI章 3区・4区の調査成果

表5 3区・4区ピット一覧表(4)

番号	地区名	検出面	長軸	短軸	深さ	備考
3403	2D-6c	第4層下面	51	45	10	
3406	2D-7d	第4層下面	42	32	28	掘立柱建物 12
3407	2D-7d	第4層下面	74	59	40	掘立柱建物 12
3419	2D-6d	第4層下面	45+	43	23	
3420	2D-6d	第4層下面	60	50	33	掘立柱建物 10
3421	2D-6d	第4層下面	29	25	23	
3422	2D-6d	第4層下面	41	40	22	
3423	2D-7d	第4層下面	29	23+	13	
3424	2D-7d	第4層下面	39	29	21	掘立柱建物 12
3427	2D-6c	第4層下面	36	30+	37	
3428	2D-6c	第4層下面	68	36+	26	
3429	2D-7d	第4層下面	27	25+	14	
3430	2D-6c	第4層下面	32	30+	50	
3431	2D-6c	第4層下面	80	60+	63	
3435	2D-6c	第4層下面	39	35	16	
3436	2D-7c	第4層下面	57	51	28	掘立柱建物 12
3439	2D-7c	第4層下面	47	32	42	掘立柱建物 12
3440	2D-6c	第4層下面	38+	27+	15	
3441	2D-7c	第4層下面	82	39+	44	掘立柱建物 12
3442	2D-6c	第4層下面	67	62	64	掘立柱建物 9
3445	2D-6c	第4層下面	63	42	62	掘立柱建物 13
3447	2D-7d	第4層下面	31	23	6	
3448	2D-6d	第4層下面	30	25	18	
3449	2D-7c	第4層下面	57	36+	41	掘立柱建物 12
3450	2D-7c	第4層下面	26+	23+	74	掘立柱建物 9
3451	2D-6c	第4層下面	49	29+	27	掘立柱建物 9
3452	2D-6c	第4層下面	60	53	21	掘立柱建物 9
3453	2D-6c	第4層下面	40	40	42	
3456	2D-6b	第4層下面	57	49	31	掘立柱建物 13
3457	2D-6b	第4層下面	36	34	23	
3458	2D-6b	第4層下面	49	43	36	
3459	2D-6b	第4層下面	57	43	33	
3460	2D-6b	第4層下面	49	29+	10	
3461	2D-6b	第4層下面	55	46	28	掘立柱建物 13
3462	2D-6b	第4層下面	51	49+	54	
3463	2D-6b	第4層下面	70	65+	66	掘立柱建物 13
3464	2D-6b	第4層下面	48	44	32	
3465	2D-6b	第4層下面	22	22	13	
3466	2D-6b	第4層下面	51	41+	22	
3467	2D-7b	第4層下面	52	42	20	掘立柱建物 19
3468	2D-7b	第4層下面	40	38	21	
3469	2D-7b	第4層下面	37	33	15	
3470	2D-7b	第4層下面	49	41+	36	掘立柱建物 19
3471	2D-7c	第4層下面	44	35+	33	
3472	2D-6b	第4層下面	76	62+	66	掘立柱建物 13
3475	2D-7c	第4層下面	64	37+	33	
3476	2D-6b	第4層下面	27	24+	18	
3477	2D-6b	第4層下面	41	35+	30	
3478	2D-6b	第4層下面	51	40	30	
3479	2D-7b	第4層下面	22	18+	12	
3480	2D-7b	第4層下面	66	57+	44	
3482	2D-7b	第4層下面	27	25	10	掘立柱建物 12
3483	2D-7c	第4層下面	27	25	25	
3484	2D-7b	第4層下面	50	50	56	
3485	2D-7c	第4層下面	56	53	35	掘立柱建物 12
3486	2D-5d	第4層下面	56+	48	27	
3487	2D-6d	第4層下面	133	102	16	
3488	2D-6d	第4層下面	26	26	18	
3489	2D-6d	第4層下面	51	33	13	
3490	2D-6d	第4層下面	42	36	25	
3491	2D-5d	第4層下面	48	42	26	
3492	2D-5d	第4層下面	55	53+	41	
3494	2D-5d	第4層下面	24	18+	34	
3495	2D-7d	第4層下面	47	40	40	
3496	2D-7d	第4層下面	74	67	35	
3497	2D-6c	第4層下面	45	33	13	
3499	2D-6c	第4層下面	54	51	49	掘立柱建物 13

番号	地区名	検出面	長軸	短軸	深さ	備考
3501	2D-6c	第4層下面	33	24+	16	掘立柱建物 9
3502	2D-6c	第4層下面	61	46+	60	掘立柱建物 13
3503	2D-6d	第4層下面	19	17	18	
3504	2D-6c	第4層下面	35	30	23	
3505	2D-6c	第4層下面	60	20+	32	
3506	2D-6c	第4層下面	60	45	40	
3508	2D-6c	第4層下面	36	28	14	
3509	2D-7c	第4層下面	27	18	9	
3512	2D-6d	第4層下面	70+	60	47	
3513	2D-7e	第4層下面	35	23	12	
3514	2D-7b	第4層下面	33	33	22	掘立柱建物 19
3515	2D-7b	第4層下面	42	35	29	掘立柱建物 19
3516	2D-7c	第4層下面	29	26	9	
3518	2D-7b	第4層下面	16	15+	24	
3523	2D-6d	第4層下面	64	34+	52	
4010	2C-6j	第4層下面	31+	25+	51	第4-1層下面
4011	2C-6j	第4層下面	29+	17+	50	第4-1層下面
4014	2C-7j	第4層下面	34	14+	52	第4-1層下面、掘立柱建物 14
4016	2C-6j	第4層下面	27+	22+	19	第4-1層下面
4020	2C-6j	第4層下面	35	29+	24	第4-1層下面
4034	2C-6j	第4層下面	31+	29+	30	第4-1層下面
4035	2C-6j	第4層下面	39	26+	36	第4-1層下面、掘立柱建物 14
4036	2C-6j	第4層下面	36	19+	36	第4-1層下面
4037	2C-7j	第4層下面	27+	21+	37	第4-1層下面、掘立柱建物 14
4039	2C-6j	第4層下面	20+	20	16	第4-1層下面
4040	2C-6j	第4層下面	39	26	29	第4-1層下面
4042	2C-6j	第4層下面	49	48	28	第4-1層下面
4043	2C-6j	第4層下面	61	50+	27	第4-1層下面
4132	2C-6i	第4層下面	31	17+	26	第4-1層下面
4133	2C-6j	第4層下面	46	42	37	第4-1層下面
4135	2C-6j	第4層下面	37	37	43	第4-1層下面
4137	2C-6j	第4層下面	30	28	22	第4-1層下面
4138	2C-6j	第4層下面	47	31+	50	第4-1層下面
4140	2C-6j	第4層下面	31	29	21	第4-1層下面
4141	2C-6j	第4層下面	50	46+	41	第4-1層下面
4143	2C-6j	第4層下面	47	38	24	第4-1層下面
4144	2C-6j	第4層下面	51	49	20	第4-1層下面
4145	2C-6j	第4層下面	53	41	28	第4-1層下面
4146	2C-6j	第4層下面	52	42	16	第4-1層下面
4147	2C-6j	第4層下面	44	37	25	第4-1層下面
4148	2C-6j	第4層下面	39	39	29	第4-1層下面
4149	2C-7j	第4層下面	27	23	28	第4-1層下面
4151	2C-7j	第4層下面	25	25	12	第4-1層下面
4152	2C-7j	第4層下面	30	25	11	第4-1層下面
4153	2C-7j	第4層下面	41	39	29	第4-1層下面、掘立柱建物 14
4154	2C-7j	第4層下面	22	20	25	第4-1層下面
4155	2C-7j	第4層下面	55	41	24	第4-1層下面、掘立柱建物 14
4156	2C-7j	第4層下面	47	40	29	第4-1層下面、掘立柱建物 14
4158	2C-6i	第4層下面	27	26	26	第4-1層下面
4160	2C-6j	第4層下面	43	38	27	第4-1層下面
4162	2C-6j	第4層下面	52	48	55	
4166	2C-7j	第4層下面	18	17	21	第4-1層下面
4167	2C-7j	第4層下面	18	16	12	第4-1層下面
4168	2C-6j	第4層下面	42	41	23	第4-1層下面
4169	2C-6j	第4層下面	42	42	25	第4-1層下面
4170	2C-6j	第4層下面	42	38	42	第4-1層下面
4171	2C-6j	第4層下面	40	38	18	第4-1層下面
4172	2C-6j・ 2C-6i	第4層下面	31	17+	18	第4-1層下面
4173	2C-6j・ 2C-6i	第4層下面	38	37	49	第4-1層下面
4174	2C-6j	第4層下面	-	12+	46	第4-1層下面、掘立柱建物 14
4175	2C-6j	第4層下面	67	62	16	第4-1層下面
4178	2C-6j	第4層下面	21	7+	17	第4-1層下面
4180	2C-6j	第4層下面	39	17+	13	第4-1層下面
4181	2C-7j	第4層下面	24	23	20	第4-1層下面
4182	2C-7i	第4層下面	27	25	18	第4-1層下面

※規模の単位はcm。切り合い等により不明な部分は(現存値)+と表記した。

表6 3区・4区ピット一覧表(5)

番号	地区名	検出面	長軸	短軸	深さ	備考
4183	2C-6i・2C-7i	第4層下面	29	25	18	第4-1層下面
4185	2C-7i	第4層下面	28	22	25	第4-1層下面
4186	2C-7i	第4層下面	25	23	24	第4-1層下面
4187	2C-7i	第4層下面	31	25	7	第4-1層下面
4201	2D-7a	第4層下面	33	27	21	第4-1層下面
4202	2D-6a	第4層下面	59	57	32	
4203	2D-6a	第4層下面	48	48	60	第4-1層下面
4204	2D-6a	第4層下面	57	49+	59	第4-1層下面
4206	2D-6a	第4層下面	44	38	31	第4-2層下面
4207	2D-6a	第4層下面	37	25+	41	第4-2層下面
4208	2D-6a	第4層下面	41	40	38	第4-1層下面
4209	2D-6a	第4層下面	50+	37	50	第4-1層下面
4210	2D-6a	第4層下面	65	54	39	第4-1層下面、掘立柱建物16
4211	2D-6a	第4層下面	55	55	51	第4-1層下面、掘立柱建物15
4212	2D-6a	第4層下面	62	60	43	第4-1層下面、掘立柱建物15
4216	2C-6j・2D-6a	第4層下面	71	61+	30	第4-2層下面、掘立柱建物15
4219	2D-6a	第4層下面	28	25	10	第4-2層下面
4220	2D-6a	第4層下面	41	31	18	第4-2層下面
4222	2D-6a	第4層下面	42	39	21	第4-2層下面
4224	2D-6a	第4層下面	45	39	21	第4-2層下面
4225	2C-6j	第4層下面	26	14+	29	第4-1層下面
4226	2C-6j	第4層下面	54	38+	37	第4-1層下面
4227	2D-6a	第4層下面	48	45+	34	第4-2層下面
4228	2D-6b	第4層下面	75	30+	44	第4-2層下面、1号木簡出土
4231	2D-6a	第4層下面	45	42	32	第4-2層下面
4232	2D-6a	第4層下面	25	23	10	第4-2層下面
4236	2D-6a	第4層下面	73	62	50	第4-3層下面、掘立柱建物16
4240	2D-6b	第4層下面	30	25+	9	
4241	2D-6b	第4層下面	27	20	8	
4242	2D-6b	第4層下面	32	28	30	第4-3層下面、掘立柱建物18
4243	2D-6b	第4層下面	36+	36+	16	
4245	2C-6j・2D-6a	第4層下面	33	32	31	第4-2層下面
4247	2C-6j	第4層下面	23	21	16	第4-2層下面
4248	2C-6j	第4層下面	30	16+	32	第4-1層下面
4249	2C-7i	第4層下面	23	23	11	第4-1層下面
4250	2C-7i	第4層下面	22	21	15	第4-1層下面
4251	2C-7i	第4層下面	21	20	21	第4-1層下面
4252	2C-6i	第4層下面	35	13+	64	第4-1層下面
4253	2D-6a・2D-7a	第4層下面	43	31+	35	第4-2層下面
4254	2C-6i	第4層下面	21	21	23	第4-1層下面
4255	2D-7a	第4層下面	41	40	33	
4257	2D-7a	第4層下面	63	55	16	
4258	2D-7a	第4層下面	42	36	43	
4259	2D-7a・2D-7b	第4層下面	30	29	40	
4260	2D-7b	第4層下面	28	26	16	
4261	2D-7b	第4層下面	69	57	39	掘立柱建物19
4262	2D-7b	第4層下面	35	29	29	
4263	2D-7b	第4層下面	46	44	38	掘立柱建物19
4264	2D-7b	第4層下面	19	17	12	
4268	2D-7b	第4層下面	53	49	37	
4269	2D-6a	第4層下面	65	20+	28	第4-2層下面、掘立柱建物15
4270	2D-6a	第4層下面	41	39	26	第4-3層下面、掘立柱建物18
4271	2D-6b	第4層下面	36	30	35	第4-3層下面、掘立柱建物18
4272	2D-6b	第4層下面	37	31	25	第4-3層下面、掘立柱建物18
4273	2D-6b	第4層下面	40	37	52	第4-3層下面、掘立柱建物17
4274	2D-6b	第4層下面	41	32	56	第4-3層下面、掘立柱建物18
4275	2D-6b	第4層下面	16	14	8	
4276	2D-6a	第4層下面	33	32	44	第4-3層下面、掘立柱建物18
4277	2D-7b	第4層下面	70	38	16	
4280	2D-6b	第4層下面	40	19+	35	
4283	2D-7b	第4層下面	35	33	30	
4284	2D-7b	第4層下面	68	41	46	掘立柱建物19
4285	2D-7b	第4層下面	44	31	39	掘立柱建物19

番号	地区名	検出面	長軸	短軸	深さ	備考
4287	2D-7a	第4層下面	39	37	13	
4288	2C-6j	第4層下面	35	25+	32	第4-1層下面、掘立柱建物14
4289	2C-7i	第4層下面	20	18	19	第4-1層下面
4291	2D-6b	第4層下面	36	26	39	第4-3層下面、掘立柱建物17
4292	2D-6b	第4層下面	33	30+	47	第4-2層下面、掘立柱建物17
4293	2D-6a・2D-6b	第4層下面	39	36	39	第4-3層下面、掘立柱建物17
4294	2D-6a	第4層下面	29	24	15	第4-3層下面、掘立柱建物17
4295	2D-6a	第4層下面	47	41	48	第4-3層下面、掘立柱建物17
4297	2D-6a	第4層下面	33	22	28	
4298	2D-6a	第4層下面	32	23+	21	
4299	2D-6a	第4層下面	49	45	11	第4-3層下面
4300	2D-6a	第4層下面	32	25	40	第4-3層下面、掘立柱建物17
4301	2D-6a	第4層下面	45	36	43	第4-3層下面、掘立柱建物17
4302	2D-6a	第4層下面	34	32	45	第4-3層下面、掘立柱建物17
4303	2D-6a・2D-7a	第4層下面	71	55	15	
4304	2D-6a	第4層下面	42	41	16	
4306	2D-6a・2D-6j	第4層下面	33	31	17	
4308	2D-6a	第4層下面	47	31	28	
4309	2D-6a	第4層下面	32	31	8	
4310	2D-6a	第4層下面	37	35	39	
4311	2D-6a	第4層下面	32	30	24	第4-3層下面
4313	2D-6a	第4層下面	42+	42	25	第4-3層下面、掘立柱建物16
4315	2D-7a	第4層下面	56	53	46	
4318	2D-7a	第4層下面	41	40	24	
4319	2D-7b	第4層下面	39	36	9	
4320	2D-7a	第4層下面	18	15+	9	
4321	2D-7a	第4層下面	25	23	18	
4322	2D-7a	第4層下面	21	19	12	
4323	2D-7a	第4層下面	40	38	17	
4324	2C-6j	第4層下面	-	-	-	第4-1層下面、礎盤石のみ
4326	2C-6i	第4層下面	25	18+	36	第4-1層下面
4327	2C-6i	第4層下面	28	22	31	第4-1層下面
4328	2C-6i	第4層下面	26	26	27	第4-1層下面
4329	2C-6i	第4層下面	18	18	32	第4-1層下面
4333	2D-7a	第4層下面	53	38	28	
4334	2D-6a	第4層下面	39	39	36	
4335	2C-6j	第4層下面	31	23	65	第4-1層下面
4336	2C-6j	第4層下面	39	23	18	第4-1層下面
4337	2C-6j	第4層下面	-	26+	48	調査区にかかっているため半截土層写真のみ
4340	2D-8a	第4層下面	32	26	13	補足調査
4341	2D-8a	第4層下面	23	21	11	補足調査/旧4105
4342	2D-8a	第4層下面	27	19	21	補足調査/旧4104
4343	2D-8a	第4層下面	24	20	26	補足調査
4344	2D-8a	第4層下面	20	19	15	補足調査
4346	2C-7j	第4層下面	13	12	13	第4-1層下面
4347	2C-7j	第4層下面	0	0	0	第4-1層下面
4348	2C-7j	第4層下面	16	15	11	第4-1層下面
4349	2C-7j	第4層下面	24	21	11	第4-1層下面
4350	2C-7j	第4層下面	19	18	13	第4-1層下面
4351	2C-7j	第4層下面	16	16	9	第4-1層下面
4352	2C-7j	第4層下面	19	17	14	4164 → 4352へ変更

※規模の単位はcm。切り合い等により不明な部分は(現存値)+と表記した。